

飯 塚 病 院 年 報

Annual Report of ASO IIZUKA HOSPITAL
2 0 2 2

第35号 (令和4年)

WE DELIVER THE BEST

～まごころ医療、まごころサービス

それが私たちの目標です～



飯塚病院



「サイバーナイフ」と放射線治療科スタッフ



臨床検査技師による抗原定量検査



2022 年度デミング賞を受賞（前列右から2番目が増本院長）

序

飯塚病院院長 増本陽秀



飯塚病院の2022年の活動を記録した飯塚病院年報第35号をお届けします。

この年は、国内外で日本の若者が大活躍しました。プロ野球ヤクルトの村上宗隆選手は、56号本塁打を放って王貞治氏の日本選手最多本塁打記録を更新し、最年少22歳でセ・リーグ三冠王に輝きました。ロッテの佐々木朗希投手は、28年ぶりの完全試合を史上最年少20歳5ヵ月で達成しました。ゴルフ全米女子アマチュア選手権では、17歳の馬場咲希選手が優勝し、日本人史上2人目37年ぶりの快挙を遂げました。米大リーグではエンゼルスの大谷翔平選手が、バーブ・ルース以来104年ぶりに1シーズン2桁勝利2桁本塁打を達成し、二刀流の活躍は選手の人柄と礼儀正しさとともに世界の注目を浴びました。また、将棋の藤井聡太棋士が10代初の五冠を達成するなど、10代、20代の活躍がひときわ光った年でした。

飯塚病院は、放射線治療装置として従来のリニアックに加え、新たにサイバーナイフを導入しました（前頁中段左の写真）。より低侵襲で高精度の定位放射線治療が実施できるようになり、今後のがん治療に威力を発揮することが期待されます（詳細は6～7頁）。

新型コロナウイルス感染症は、オミクロン株が猛威をふるい、第6波、第7波、第8波が立て続けに到来して当院も対応に追われました。職員の安全を守り、地域における使命を果たす基本方針と、重症例や血液透析・妊産婦などの特殊例に対応する診療方針を継続しつつ、一般医療における手術や救急車の受け入れ制限を余儀なくされた時期もあり、域内外の皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。検査態勢強化のため、複数のPCR検査装置に加えて抗原定量検査装置を導入し（前頁中段右の写真）、24時間体制で対応にあたっています（詳細は3～5頁）。

このような中、飯塚病院は2022年度デミング賞を受賞しました（前頁下段の写真）。デミング賞はTQM（総合的品質管理）に関する世界最高ランクの賞と位置づけられ、故William Edwards Deming博士の業績を記念して1951年に創設されました。これまで製造業界の一流企業が受賞してきた中で、病医院など医療機関の受賞は初めてでした。首脳部のリーダーシップに基づく方針管理、日常管理、改善活動などのTQMの仕組みと、セル看護提供方式の開発、医療安全、人材育成、情報システム活用、地域連携などの取り組み、2025年度ビジョン設定と中長期計画の実行、健全経営の実現などが評価され受賞に至ったものです（詳細は2頁）。今後さらにTQMを推進して組織力の向上を図り、理念に謳う「まごころ医療」の実現を目指してまいります。何卒引き続きご支援の程お願い申し上げます。

最後に、本誌の編纂にあたり多大な労力を惜しまず、「日本一のまごころ病院」を目指す飯塚病院のこの1年の歩みを形にいただいた、広報課の皆さんに深甚なる謝意を表します。

目 次

〔I〕 院内の動き

2022年 この1年の歩み	1
デミング賞受賞について	2
COVID-19：対策本部としての対応について	3
COVID-19：医療技術部門の対応について	5
定位照射専用装置「サイバーナイフ」について	6
放射線科統括部長兼放射線治療科主任部長就任にあたって	7
外科統括部長就任にあたって	8
乳腺外科部長就任にあたって	9
小児外科部長就任にあたって	10
皮膚科部長就任にあたって	11
耳鼻咽喉科部長代行就任にあたって	12
歯科口腔外科部長就任にあたって	13
形成外科部長就任にあたって	14

〔II〕 各部門業績

1. 肝臓内科	15
2. 呼吸器病センター呼吸器内科	16
3. 呼吸器病センター呼吸器外科	18
4. 心療内科	19
5. 内分泌・糖尿病内科	20
6. 消化器内科	21
7. 血液内科	23
8. 総合診療科	24
9. 膠原病・リウマチ内科	25
10. 連携医療・緩和ケア科	26
11. 放射線科	28
12. 画像診療科	29
13. 放射線治療科	30
14. リエゾン精神科	31
15. 小児科	33
16. 腎臓内科	34
17. 循環器内科	36
18. 心不全ケア科	38
19. 外科	39
20. 消化管・内視鏡外科	45
21. 乳腺外科	47
22. 小児外科	48
23. 整形外科	49
24. 皮膚科	50
25. 泌尿器科	51
26. 産婦人科	52
27. 眼科	54

28. 耳鼻咽喉科	55
29. 脳神経外科	56
30. 歯科口腔外科	57
31. 心臓血管外科	58
32. 血管外科	59
33. 脳神経内科	60
34. 漢方診療科	61
35. 救急科	62
36. 集中治療科	63
37. 形成外科	64
38. リハビリテーション科	65
39. 麻酔科	66
40. 病理科	68
41. 感染症科	69
42. 予防医学センター	70
43. 看護部門	71
44. 医療技術部門	73
45. 経営管理部門	75

〔III〕 診療統計

1. 退院患者統計	77
2. 科別統計表	78
3. 最近5年間の患者数推移	79
4. 最近5年間の救命救急センター利用状況の推移	79
5. 最近5年間の年間手術件数の推移	79
6. 科別・年齢別・性別 退院患者数	80
7. 地域別・年齢別・性別 退院患者数	82
8. 市町村別診療科別紹介件数	84
9. 病理解剖件数内訳	85
10. 手術に関する施設基準および手術件数	86

〔IV〕 学術業績

1. 発表論文・著書	87
2. 学会発表	97
3. 講演	118

〔V〕 院内研修会・勉強会

1. 院内臨床病理検討会（CPC）記録	139
2. 看護部	140
3. 医療安全研修	143
4. 改善勉強会	144
5. 学会を除く学術研修会・勉強会	145

〔VI〕委員会活動報告	
業務安全ブロック	
1. 医療ガス安全管理委員会……………	151
2. 放射線安全委員会・特定放射性同位元素防護委員会 ……	152
3. 感染管理委員会……………	153
4. 労働安全衛生委員会……………	155
5. 医師の負担軽減・処遇改善委員会……………	156
物品購入ブロック	
6. 薬事委員会……………	157
7. 資材委員会……………	158
医療の質のモニターブロック	
8. ISO 委員会……………	159
9. TQM 活動推進委員会 ……	160
10. クリニカルパス委員会 ……	161
11. QI 委員会 ……	162
12. 患者経験価値向上委員会 ……	163
医療の安全管理ブロック	
13. 急変対応委員会 ……	164
14. MRM 委員会……………	165
15. 透析機器安全管理委員会 ……	166
16. 病院食サービス委員会 ……	167
情報管理ブロック	
17. 情報システム委員会 ……	168
18. 診療情報管理委員会 ……	169
教育・研修ブロック	
19. 研修管理委員会 ……	170
20. 図書委員会 ……	171
21. クレデンシャル委員会 ……	172
22. 手術室業務改善委員会 ……	173
23. 地域医療支援病院研修委員会 ……	174
倫理ブロック	
24. 倫理委員会 ……	175
25. 臨床研究管理委員会 ……	176
26. 治験審査委員会 ……	177
27. 脳死判定委員会 ……	178
28. 小児虐待防止委員会 ……	179
29. 患者行動制限最小化委員会 ……	180
30. 個人情報保護委員会 ……	181
診療の適正化ブロック	
31. 呼吸管理委員会 ……	182
32. 褥瘡管理委員会 ……	183
33. 栄養管理委員会 ……	184
34. 輸血療法委員会 ……	185
35. 診療報酬適正管理委員会 ……	186
36. 臨床検査適正化委員会 ……	187
37. がん診療連携委員会 ……	188
38. がん集学治療委員会 ……	189
39. 緩和ケア委員会 ……	190
〔VII〕院内報告	
1. 飯塚病院住民医療協議会活動報告……………	191
2. 飯塚病院地域医療支援病院運営委員会活動報告 ……	192
3. VHJ (Voluntary Hospitals of Japan) 活動報告 ……	193
4. 改善活動報告……………	194
5. ISO9001 品質マネジメントシステム (QMS) 活動報告 ……	196
6. イノベーション活動報告……………	197
7. 地域包括ケア推進本部活動報告……………	199
8. 医学研究推進本部活動報告……………	201
9. 治験推進本部活動報告……………	203
10. 当院における分離菌と薬剤感受性 ……	206
11. 研修スケジュール ……	211
12. 研修医募集の記録 ……	212
13. ファシリティ本部活動報告 ……	214
〔VIII〕医師部門および主要職員名簿	
1. 医師名簿……………	215
2. 看護師長・主任名簿……………	228
3. 医療技術部門役職者名簿……………	229
4. 経営管理部門等役職者名簿……………	230
5. 主要委員会……………	231
①常設委員会……………	231
②看護部常設委員会……………	232
③医局会 (医局会役員) ……	232
〔IX〕飯塚病院概況 他	
1. 飯塚病院組織図……………	233
2. 概要……………	238
3. 各学会の認定状況一覧……………	242
4. 私たちの理念・方針……………	243
編集後記	
※2022年年報に掲載中の組織・役職名等については、 2022年12月31日時点のものです。	

〔 I 〕 院 内 の 動 き

2022年 この1年の歩み

- 1月12日 院内成人式
- 2月25日 第8回 Conference for Health Care 開催 (Web形式) (~ 26日)
- 3月11日 2021年度初期研修医修了式
- 3月18日 2021年度専攻医専門研修修了式
- 4月1日 麻生グループ入社式
統括部長就任：佐々木智成 (放射線科)
部長就任：井野 康 (形成外科)
部長就任：竜田恭介 (小児外科)
部長就任：井手豪俊 (皮膚科)
看護師特定行為研修 開講
- 4月25日 第30回TQM活動キックオフ大会
- 4月28日 患者経験価値向上委員会 新設
- 5月1日 統括部長就任：山下洋市 (外科)
- 5月12日 Nurse of the Year 2021表彰式
- 6月1日 麻生グループ社員表彰式
- 6月6日 東第五病棟準救急病床 運用開始
- 6月13日 定位放射線治療装置 (サイバーナイフ) 運用開始
- 6月29日 学術奨励賞授賞式
- 7月1日 部長就任：岡本正博 (乳腺外科)
第33回住民医療協議会
- 8月2日 デミング賞審査 (~ 4日)
- 9月3日 第40回福岡救急医学会 開催 (Web形式)
- 10月1日 部長就任：石井広太郎 (歯科口腔外科)
- 10月4日 デミング賞授賞
- 10月15日 第30回飯塚病院TQM発表大会 開催
- 10月22日 第4回セル看護推進研究会 開催
- 10月29日 大規模災害訓練ファーストステージ
- 11月14日 第31回飯塚病院慰霊祭
- 11月16日 部長就任：深堀光緒子 (耳鼻咽喉科)
西病棟避難訓練
- 11月19日 大規模災害訓練セカンドステージ
- 12月8日 経皮的僧帽弁接合不全修復術 (MitraClip) 開始



デミング賞受賞について

改善推進本部 デミング賞準備室
室長 福村 文雄

この度、飯塚病院はTQM（総合的品質管理）に関する世界最高ランクの賞であるデミング賞（日科技連HPより）を受賞いたしました。

デミング賞とは、リーダーシップの下、組織が一丸となりTQMの構成要素を柱に品質の維持・向上に取り組み、その効果を評価し、次の取り組みに繋げる“仕組み”が構築できている組織に授与

される賞です。評価されるTQMの活動要素は大まかに図1のように示されます。1951年の創設から続くデミング賞ですが、今回の当院が医療機関による受賞第一号です。

2017年、麻生会長とトヨタ自動車九州（2016年デミング賞受賞）の二橋会長（当時）が『筑豊を品質管理先進地域にしよう、飯塚病院もデミング賞に挑戦してみては』というお話をされたことから始まりました。そして2018年3月のキックオフ以降、アドバイザーの先生方（早大棟近教授一門）の力をお借りして、実情説明書の準備を通して多くの部署でTQMの理解としくみの整備を進めました。2021年にはTQM診断（プレ審査）を受審し、多くの改善点の提案を受け、さらに1年間、重点指向や標準化などに関して活動をすすめました。そして昨年8月ようやく本審査にこぎつけました。本審査は、1日目：院長以下首脳部による当院の方針とその展開、特徴的活動の発表、2日目は：6診療科チームと19部署の個別面談、3日目：総合質疑と首脳部面談という内容で、6名の審査員による2.5日の審査でした。

この度の受賞は、1992年導入のQCサークル活動（現TQM活動）をはじめ、クリニカルパス、事業計画制度、ISO9001、数多くの委員会活動など諸先輩方が取り組まれてきた品質管理と改善文化をベースに、ビジョンからの中長期計画実行制度の整備、セル看護・ナビコンテンツ、救急医療や地域連携への取り組み、医療安全の推進、幅広い改善活動と人材育成、積極的な情報システムの活用、健全経営への取り組みを評価いただきました。そして何よりすべての部署で日常管理、改善活動、人材育成といったことがしっかりと行われていることが伝わったおかげです。この4年の取り組みにご協力いただいた皆様に感謝いたします。

最後に、デミング賞挑戦の目的は、当初より受賞がゴールではなく、一つのマイルストーンとして、TQMを用いた様々な社会環境変化に対応できる組織能力向上にあります。そのためにも、TQMの考え方の浸透も含めて、TQM推進の活動は続けてまいりますので、今後もよろしく願います。

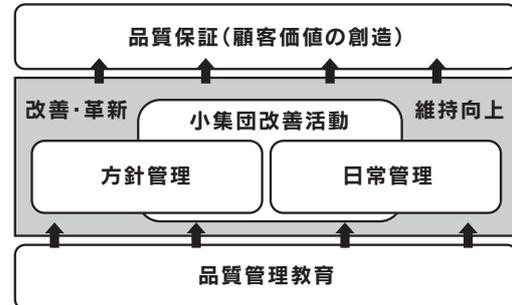
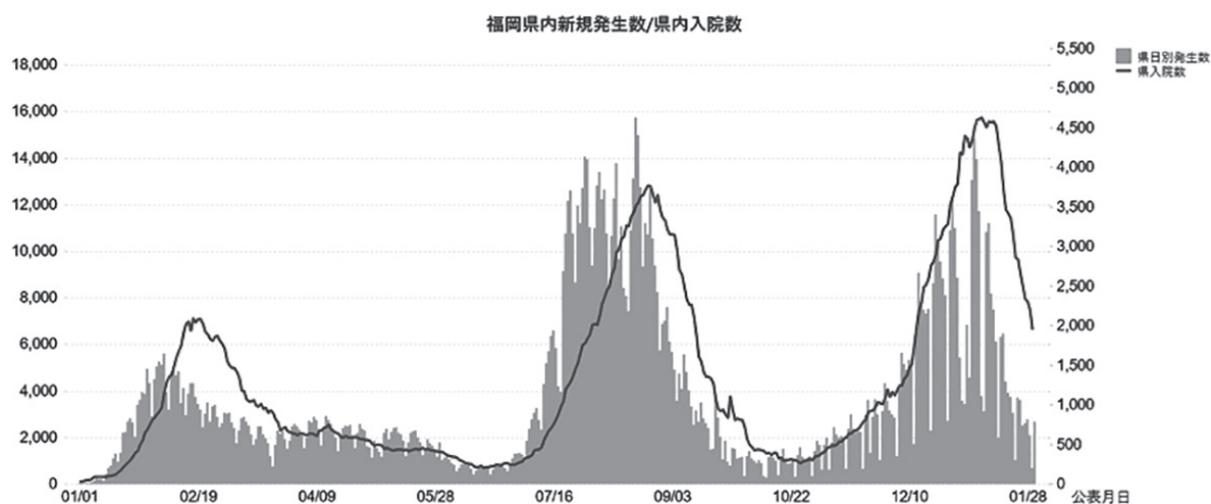


図1

COVID-19 ～対策本部としての対応について～

新型コロナウイルス感染症対策本部 本部長 福村文雄

2022年は、オミクロン株による第6波、第7波、第8波に伴う陽性患者受入と、その都度の院内クラスター発生、そして診療制限を繰り返すというめまぐるしい1年でした。そのため、ほとんどの病棟で陽性もしくは濃厚接触の患者さんの対応を余儀なくされました。患者さん・ご家族への説明や病床移動、予定変更、濃厚接触者の調査も含めて、診療・ケアに当たっていただいている職員の皆さんありがとうございました。また間接的にご支援していただいた皆さんにも感謝いたします。2022年の県内発生数・入院数と波ごとの当院受入れ患者数（院内発生を含む）を下表に示します。



	陽性患者 受入総数	重症度内訳			うち特殊疾患			
		重症 (人工呼吸)	中等症 (酸素)	軽症	透析	妊産	小児	精神
第1波（4月～5月）	2	1	0	1	0	0	0	0
第2波（7月～9月）	10	4	2	4	0	1	1	0
第3波（12月～3月）	40	18	20	2	4	0	0	2
第4波（4月～7月）	36	29	4	3	0	3	0	1
第5波（7月～10月）	25	13	9	3	0	4	0	0
第6波（12月～6月）	160	8	40	112	14	12	4	1
第7波（7月～10月）	258	10	43	203	17	17	16	1
第8波（11月～2/1現在）	442	9	78	355	21	10	23	0
計	973	92	194	328	56	47	44	5

第6波（1月～5月）

2021年末より広がってきたオミクロン株は、デルタ株と比較し重症化率は低い（ワクチン接種の影響もあり）反面、伝搬力が強く、県内感染者数は第5波の約5倍でした。そのため、2月に入り初めての院内クラスター（6病棟）が発生し、職員の出勤停止も相次ぎました。このため、予定入院をはじめ、時間外ウォークイン、新規患者紹介、そして救急車受入も段階的に制限することとなりましたが、1ヶ月で終息させることができました。3月に入り県から要請を受け、北第七病棟に新型コロナウイルス感染症陽性対応病床16床を確保し38床まで拡張し対応しました。重症陽性患者はそれまで通り呼吸器内科・集中治療科が担当、新たに中等症・軽症陽性患者を総合診療科に引き受けて頂き、感染症科には診療アドバイスを担って頂くこととしました。

第7波（6月～10月）

7月からの第7波は、ピーク時の発生数が第6波の約3倍、県内入院数も約2倍となりました。そして8月には5病棟での院内クラスターの発生と多数の職員出勤停止によって、再び予定入院の停止が必要となりましたが、重症の救急搬送の受入は維持することができました。9月には診療体制は通常通りとしましたが、その後も入院患者の新型コロナウイルス感染症陽性の散発が続きました。10月には中央検査部の協力のおかげで抗原定量検査が導入となり、新型コロナウイルス感染症検査体制が拡充されました。また、4回目以降の職員ワクチン接種業務を医務室に引き受けていただきました。

第8波（11月～）

第7波が完全に収まることなく第8波が始まりました。11月下旬から院内発生も頻発し、年始には地域からの受入れを含めた陽性患者数が過去最多の90名を超えることもあり、多くの一般病棟で陽性・濃厚接触患者を診ていただくこととなりました。また、県内の入院数も第7波を大きく上回り、年末年始には県全域で新型コロナウイルス感染症以外の救急搬送も困難な状況となっていました。当院でも同様に、地域の重症救急は堅持しましたが、予約入院の延期、時間外ウォークインの休止を余儀なくされました。

2023年春には5類への移行が決定されたようです。隔離についてもこれまでの対応に変化もあると思われませんが、さりとて新型コロナウイルス感染症の波は、性質を変えながら続いていきそうです。対策本部としても臨機応変に活動を続けて参ります。

COVID-19 ～医療技術部門の対応について～

医療技術部門長 金 澤 康 範

2022年は、2021年と同様、新型コロナウイルス感染症拡大への対応に追われた1年だった。主な対応に関しては、医療技術部門全体として、専門職としてスタッフの感染等により業務に支障が出ないように、まずは、感染対策に関する教育を行い、食事時間の分散化・間隔をあけての黙食の徹底や手指消毒の頻回の励行、また、使用する機器類の定期的な消毒などの感染対策を徹底した。その結果、年間通して各職場におけるクラスターの発生はなかった。

その他各部署の対応などについては以下の通りである。

薬剤部では、2022年も新型コロナウイルス感染症対策本部と連携し、職員用のワクチン調製を行った。また、飯塚市各所の接種会場等でもワクチン調製を実施した。そして、各種COVID-19治療薬についても、感染症科等と連携し診療状況を確認しつつ、在庫確保とオーダ方法の院内周知などを行った。

栄養部では、新型コロナ陽性患者の食事は、消毒の手間を省くため、下膳しやすいように使い捨て食器とトレイを使用した。また、特にリハビリテーション部や歯科衛生士等は、直接患者さんに接する場合は、N-95マスク、アイガード・ガウン（もしくはエプロン）装着し、徹底した感染対策を実施した。

臨床工学部では、2022年は新型コロナウイルス感染症に感染した透析患者が急増したため、医師・看護師と協力しハイケア棟2F救急病棟（レットゾーン）での血液透析治療（31名119件実施）に対応した。

中央放射線部では、救命救急センターでの陽性・疑い患者への感染対策のため、スタッフへPPEの装着、ゾーニングによる感染予防の教育訓練を実施し、一般撮影・ポータブルX線撮影・CT検査のフローチャートを作成した。その後、他の検査に関しても同様にフローチャートを作成し対応を開始した。

中央検査部では、ウイルス検出検査がクローズアップされ、一度に94件測定可能なPCR装置を導入、この装置を導入して間もなく、地域の病院で外部の検査センターに委託しているPCR検査の結果が遅いため困っているとの情報があり、PCR検査受託を開始した。感染爆発の時期には、院内、院外合わせて日に400件を超すPCR検査を行った。第7波では新型コロナウイルス既感染者の増加が著しく、PCR検査には劣るものの患者ケアにあたる職員の安全と院内へのウイルス持ち込みを防ぐために抗原定量検査を導入した。検査技師も検体採取業務を拡大し、8:00～15:00まで救命救急センターで鼻咽頭ぬぐい液を採取、即検査を実施した。今回の経験で未知の感染源による感染拡大が起きた場合、遺伝子プライマーがあれば検出できる能力を得たことは大きな財産となった。

今後も医療技術部門は、検査や投薬などの治療に支障が出ないように職員一人一人が感染対策を徹底していく。

定位照射専用装置「サイバーナイフ」について

放射線科統括部長 兼 放射線治療科主任部長 佐々木 智 成

2022年4月当院にサイバーナイフが設置され、6月から診療を開始しました。サイバーナイフは産業用ロボットアームの先に超小型のリニアックが搭載された定位照射専用装置です。国内においては1990年にガンマナイフによる頭部の定位照射が開始され、1996年には汎用リニアックによる体幹部への定位照射が開始されました。そして2004年には体幹部定位放射線治療が保険収載となり、今では国内の多くの施設で頭部・体幹部に対する定位照射が行われています。2022年現在で保険診療の対象となるのは頭部・頭頸部腫瘍、三叉神経痛、肺・肝の転移性・原発性腫瘍（個数・サイズの制限あり）、転移のない腎癌・膵癌・前立腺癌、脊椎転移、オリゴ転移・オリゴ再発などです。

サイバーナイフは上記すべての疾患に対応することが可能です。治療は通常1回につき20～30分程度で、1日1回の治療を1回～5回程度で行います。他の治療装置と異なり、治療中も室内に配置された透視装置で対象となる患者さんの透視画像を元にリアルタイムに位置を補正・追尾しながら1ミリ以下の誤差で照射を行います。また、肺や肝臓などの腫瘍は呼吸による動きが問題になりますが、サイバーナイフでは金属マーカーを腫瘍近傍に留置することにより、自動的に腫瘍の移動を追尾して照射を行います。

稼働開始後、約半年で脳転移11例、髄膜腫4例、AVF 1例、肺がん6例、肝がん1例、オリゴ転移（骨）1例、脊椎転移1例に対して定位照射を行いました。2023年1月からは前立腺癌に対する体幹部定位放射線治療を開始します。この場合、2週間で5回の通院で治療実施が可能です。従来の治療法では8週程度を要していた治療期間を劇的に短縮することで、多くの患者さんにとってメリットがあると考えています。これ以外にも適応が考えられる患者さんがいらっしゃる場合には該当科を通じてご相談ください。

放射線科統括部長 兼 放射線治療科主任部長就任にあたって

放射線科統括部長 兼 放射線治療科主任部長 佐々木 智 成

2022年4月より、放射線科統括部長兼放射線治療科主任部長として参りました。私は1992年に九州大学臨床放射線科入局後、九州がんセンター・九州大学病院などで放射線治療医として研鑽を積んできました。また、2016年からの6年間は九州大学医学部保健学科でコメディカルの学生を相手に教鞭をとっておりました。これまで九州大学放射線科医局は、画像診療科のみをサポートしてきましたが、この度、放射線治療科もサポートすることとなり、放射線科統括部長として画像診療科と放射線治療科を統括する役割も担っております。これにより、当院においてさらに充実した放射線診療を実践できると私自身が期待しています。

私のモットーは“より良い治療をより多くの方に提供すること”です。したがって、これからは筑豊地域において放射線治療を必要としている患者さんたちに、より良い放射線治療を提供していきたいと考えております。就任後から、それまで行われていなかった連携医療緩和ケア科・耳鼻咽喉科・脳神経外科・泌尿器科・婦人科とのカンファランスを開始し、多くの患者さんをご紹介いただけるようになりました。院外からも少しずつ患者さんを受け入れできるよう体制を整えつつありますが、当分の間は該当各科へご紹介いただけますようお願いいたします。

放射線治療はここ30年の間に大きく変貌し、テレコバルトによる緩和照射主体の時代から、リニアックによる根治照射が主体の時代となりました。定位放射線治療、強度変調放射線治療、画像誘導放射線治療などの高精度放射線治療技術・機器が開発され、低侵襲で高精度な治療が短期間に実施可能になっています。当院ではこれまで汎用リニアックによる3次元原体照射が主に行われてきましたが、4月以降は積極的に体幹部定位放射線治療を開始しました。さらに6月からは定位照射専用装置のサイバーナイフが稼働開始しました。これによりさらに多くの患者さんに低侵襲で効果の高い治療が提供できるようになります。脳腫瘍・肺がん・肝がんなどにくわえて、今後は前立腺がんなどに対しても定位放射線治療を開始予定です。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

外科統括部長就任にあたって

外科統括部長 山下 洋市

2022年5月1日に外科統括部長として赴任いたしました。私は熊本県立玉名高校の出身で熊本が故郷なのですが、熊本大学消化器外科で6年を過ごし、熊本大学外科100周年の2022年4月に消化器外科教室が主催した第122回日本外科学会定期学術集会を事務局として無事に終え、新たな気持ちでここ飯塚病院に参りました。

私は平成8年に九州大学を卒業して同年に九州大学第2外科（消化器・総合外科）に入局しました。九州大学病院で10年、熊本大学病院で6年、大分赤十字病院で4年、広島赤十字・原爆病院で3年、九州がんセンターで2年などと西日本の様々な施設で外科修練を積みました。主に肝胆膵外科を生業にして参りましたが、広島赤十字・原爆病院、九州がんセンター、熊本大学病院では肝胆膵外科の責任者を務め、これまで、肝切除1,200例、膵切除300例を経験しております。

昨今の医療は高度に細分化されており、我々外科も通常は消化管・内視鏡外科、肝胆膵外科、乳腺外科に分かれて専門性を生かして診療しています。その一方で、がんや腹部救急疾患など、臓器横断的な診断・治療が必要となる患者さんも増加しており、そのような場合は「外科」として力を合わせています。

外科は年間1,000例を越える手術を行っている筑豊地区の外科の要です。栄えある飯塚病院外科の歴史と伝統を継承し、血管合併切除・再建などの拡大手術から腹腔鏡やロボット手術などの低侵襲手術も取り入れ、安全・確実な手術を提供したいと思います。

肝胆膵外科は高難度の手術も多く、日々緊張の連続です。常に良い結果が得られるとは限りませんが、他院で手術不能と診断された患者さんに拡大手術を行い、長期生存している方もいらっしゃいます。内科・放射線科・麻酔科の先生方のご指導を仰ぎながら、手術室・外来・病棟など多くのメディカルスタッフの方々にご協力頂き、筑豊地区の外科の要として、「全ては患者さんのために」頑張ります。どうぞ宜しく御願います。

乳腺外科部長就任にあたって

乳腺外科部長 岡本 正博

2022年7月より乳腺外科の新設に伴い乳腺外科部長に就任しました岡本正博です。北九州市出身で、1996年に九州大学医学部を卒業後、九州大学第2外科に入局し、外科医として研鑽を積んでまいりました。

10年ほど前から乳癌診療を行なうことが多くなり、前任地である九州がんセンターでは乳腺専門医として乳癌診療の世界の潮流、とくに薬物療法における新しいエビデンスが次々と創出されていくダイナミズムを目の当たりにしてきました。一方で、がんの診療に長く携わっている中で、患者さんのトータルペインと向き合い、支えていくことは、私のライフワークの一つと考えられるようになりました。乳癌診療には、私が医師として取り組みたいことの全てがあります。

筑豊地区の乳癌診療を考える際に、地域に乳腺専門医が少ないことが問題になっています。専門医の不足は、実はこの地域だけの問題ではなく、全国的に問題になっているようで、学会でも対策を進めているようです。さらに、例えば、術後ホルモン療法は5年から10年に延長され、再発リスクに応じた追加治療も開発されるなど、治療はますます長期化、複雑化しています。このような時代の中ではありますが、飯塚病院には地域の基幹病院、地域がん診療拠点病院として、困難なケースも含めて多くの乳癌患者さんに医療を提供する責務があると考えています。

幸いなことに、飯塚病院ではホスピタリストの育成が盛んであり、診療のベースの部分を支えていただける体制がありますし、各専門領域の診療科もアクセス良く対応していただける状況があります。地域の先生との連携も安定しており、患者さんのご紹介はもとより、ホルモン療法などの薬物療法にもご協力いただき大変ありがたく感じています。私個人のパワー不足を、システム整備や多職種チーム医療で工夫して対応すること、院内や地域の先生の力をお借りしながら、できるだけ患者さんをお待たせすることなく検査や治療が行える体制をさらに整備していきたいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。

小児外科部長就任にあたって

小児外科部長 竜田 恭介

2022年4月より小児外科部長に就任しました竜田恭介と申します。福岡県の小倉高校出身で、2001年に長崎大学を卒業し、九州大学医学部小児外科学教室に入局しました。入局後は福岡県、佐賀県、大分県、愛媛県など様々な病院で勤務し、飯塚病院には2007年から2年ほど外科に勤務しました。ちょうど腹腔鏡への転換期で、腹腔鏡手術、開腹手術ともに経験することができました。また緊急手術も大変多く、外科医として大変貴重な経験をすることができました。今は小児においても腹腔鏡手術の対象疾患が拡大しており、先天性食道閉鎖症や胆道閉鎖症に対しても腹腔鏡手術が行われています。当科でも高位鎖肛、ヒルシュスプルング病などに対して腹腔鏡手術を導入しており、今後も患者さんへの負担の少ない手術を心がけたいと思います。

4月より当科の診療体制が一人体制となり、近隣の先生方にはご不安やご不便をおかけしていると思います。しかし、小児科、外科の先生方のサポートもあり、従来と変わらない医療の質を提供できていると自負しております。今後も筑豊地域の小児医療発展のために精一杯尽力していく所存ですので、皆様方の御指導御鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

皮膚科部長就任にあたって

皮膚科部長代行 井手 豪 俊

2022年度より飯塚病院皮膚科部長（代行）を拝命致しました井手豪俊（いでたけとし）と申します。九州大学皮膚科学教室からの出向です。2014年の九州大学皮膚科学教室への入局後より複数の病院で皮膚科・形成外科学の研鑽を積み、昨年度は九州大学病院で病棟医長として主に病棟管理・手術業務に携わっておりました。

代行とはいえ初めての部長職ということで、いささか肩に力が入っての就任となりました。飯塚病院は筑豊地域の基幹病院ですので、歴任された部長の先生方も多種多様な疾患に対応できるよう努めてこられたことと思います。その伝統を受け継ぎながら、一方で変化を恐れずに診療体制の改善・拡充に努め、それを患者さんに還元していくことが私に課せられた使命であると確信し、日々の診療に勤しんでおります。

他の領域と同じく、皮膚科疾患もそのメカニズムの解明や新たな治療薬の近年の躍進は目覚ましいものがあります。難治性の炎症性疾患に対する生物学的製剤や分子標的薬、進行期の皮膚癌に対する免疫チェックポイント阻害薬などにより、手も足も出なかった時代から完全寛解を目指す時代へとシフトして参りました。当科では、積極的にこのような最新の治療を取り入れていく方針としております。また、手術に多く携わってきたこれまでの経験を活かし、当院で可能か否か十分に吟味しながら、より多くの手術症例に対応して参りたいと思います。当該患者さんがいらっしゃれば、是非御紹介頂ければ幸いです。

私が診療と同程度に重要視しているのが、後進の育成です。1人でできる仕事量には限りがあります。しかし、後進が成長して独り立ちできれば、倍以上の仕事ができるようになるでしょう。この医師がさらに後輩の医師を指導していけば、まさに樹形図のように多くの洗練された医師が完成し、より多くの患者さんを救うことができるようになります。私自身がまだまだ未熟ですので前述の論理はあくまで理想に過ぎませんが、できうる限りのことを惜しみなく伝えていくことも私の責務であると考えております。

5→4人への定員削減に伴い、勤務する医師の負担はあっという間に増加しました。地域の診療を地域で完結させるという、筑豊地域の基幹病院としての役割をなんとか果たすべく精進して参りますので、皆様には何卒厳しくも温かい御指導・御鞭撻を賜りますよう、御願い申し上げます。結びの挨拶に代えさせていただきます。

耳鼻咽喉科部長就任にあたって

耳鼻咽喉科部長 深堀 光緒子

2022年11月16日付で飯塚病院耳鼻咽喉科部長を拝命致しました深堀光緒子と申します。皆様には日頃からご協力を賜り誠にありがとうございます。

私は地元である島根県での初期臨床研修を経て、2008年に久留米大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座へ入局いたしました。入局後は、久留米大学病院をはじめ、聖マリア病院、八女公立総合病院、大牟田市立病院などで診療を行ってきました。今回初めて筑豊地域での勤務となり、これまで以上に緊張してやって参りましたが、皆様にご協力を頂き日々診療に邁進することができております。

耳鼻咽喉科は、常勤医3名に加え中島 格久留米大学名誉教授にご協力いただき診療にあたっています。外来診療は平日午前、手術は月、水、金曜日の終日に行っています。急性扁桃炎、扁桃周囲膿瘍、急性喉頭蓋炎、頸部膿瘍などの急性炎症性疾患、急性感音性難聴やめまいなど緊急入院を必要とする症例をはじめ、耳、鼻・副鼻腔、口腔・咽頭・喉頭、頸部疾患に対する手術など扱う領域は多岐にわたります。耳鼻咽喉科・頭頸部外科医として、適応症例に対しては積極的に手術を主軸とした治療を行っています。特に、音声・嚥下障害に対する機能改善手術、鏡視下咽喉頭腫瘍手術、頭頸部癌に対する広範囲切除・再建手術などに力を入れています。また、悪性腫瘍に対する化学療法、放射線療法、免疫療法などの各種レジメンを導入し、地元で治療を受けたいと思われている患者さんの希望にお答えできるよう治療法の充実を図っています。耳鼻咽喉科は、生命維持に不可欠な呼吸（気道）をはじめ、音声、嚥下、聴覚、嗅覚、味覚などQOLに大きく影響する機能を扱っています。責任感をもち患者さんにとって最善の医療が提供できるよう努力して参りたいと思っております。

入院、手術を担う耳鼻咽喉科として少しでも地域の皆様のお役に立てるよう皆で力を合わせ診療に励んで参りますが、日々の診療において地域の先生方や院内各科の先生方のご協力なしでは成り立ちません。ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、今後ともご協力ならびにご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

歯科口腔外科部長就任にあたって

歯科口腔外科部長 石 井 広太郎

2012年から2年間九州大学病院から出向で飯塚病院に勤務させていただき、2021年に再赴任後、2022年10月に歯科口腔外科 部長を拝命致しました。

これまで大学では顎関節疾患と顎変形症を専門として診療してまいりました。特に顎関節症について、消炎鎮痛剤やスプリント治療などの保存療法で効果が得られない症例に対し、最も低侵襲な外科療法として関節腔洗浄療法を積極的に行い、概ね良好な結果を得てきました。しかし、中には著効しない症例も存在します。次の治療として顎関節鏡視下剥離授動術が適応となりますが、九州一円に内視鏡手術が行える施設はなく、希望される患者さんには関西地方の施設を受診していただかねばならず、多大な負担をおかけしていました。顎関節外科の担い手が減少していると危惧される中、九州の現状を打開しなければならないという信念を持って赴任致しました。そして、中松前部長および病院のご賛同を賜り内視鏡を導入することができ、整形外科および手術室のご協力をいただき円滑に手術着手できたことに感謝申し上げます。鏡視下では肉眼では見ることが不可能な病態を観察・診断することが可能であり、的確な治療を施すことができると確信しており、今後、鏡視下剥離授動術のみならず、さらに複雑な病態に対する内視鏡支援下開放手術により、顎関節症で悩まれている多くの患者さんのお役に立てればと思っております。

骨格性下顎前突症などの顎変形症患者は、コロナ禍のマスク着用が影響したためか、ここ数年で全国的に増加したと言われていています。患者さんは審美的改善を求める傾向にありますが、本質は骨格的な咬合・咀嚼・構音障害にあり、機能改善を目指した治療という点で美容形成とは異なり、術前の歯列矯正を含めて保険適応となります。手術は顎骨を顔面から離断することとなるため、ややダイナミックなものになりますが、超音波切削器具の進歩により比較的安全に行えるようになりました。これまで筑豊地域の患者さんは福岡や北九州の施設で手術を受けられていますが、今後は近隣の矯正医と連携し、地域完結型診療を提供できるよう整備を進めていきたいと考えています。

最後に、高齢化社会が到来し、習慣性顎関節脱臼や薬剤関連顎骨壊死などでは超高齢患者も多く受診するようになり、歯科医師では周術期管理が困難な症例も多くなりました。総合診療科をはじめ他科との連携を強化して安全な医療を第一に、口腔外科専門機関として筑豊地域の皆様に高度な医療を提供できるよう尽力して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

形成外科部長就任にあたって

形成外科部長 井 野 康

この度、橋口晋一郎部長の退職に伴い、2022年4月より形成外科部長を拝命致しました。久留米大学医療センターより参りました。

平成11年に久留米大学を卒業し、久留米大学形成外科・顎顔面外科に入局しました。その後福岡県内の複数の関連施設で研修を積んで参りました。多くの指導医に恵まれ、これまで再建外科から小児先天異常まで、数多くの患者さんの治療に携わらせていただきました。2015年からは、久留米大学医療センターにて、足病変・皮膚潰瘍治療外来という標榜科名でフットケア、壊疽などを中心とした診療を致しておりました。今回、飯塚病院へ赴任し、外傷や再建などの診療に携われることになり再チャレンジの心境です。前任の先生方の尽力と他診療科の皆様のご協力のおかげで、多くのご相談・ご紹介を頂けるようになってまいりましたので、今後は更に扱う疾患の幅を増やし、筑豊地域の基幹病院に所属する一員として、より一層充実した医療を地域の皆様にご提供できればと考えております。皆様のご指導、ご協力の程、何卒宜しくお願いいたします。

〔Ⅱ〕各部門業績

1. 肝臓内科

肝臓内科部長 本村健太

2022年は、2021年と比較すると、新型コロナウイルス感染症の影響を直接的にも間接的にも被った1年となりました。肝予備能不良の非代償性肝硬変の患者さん方が、新型コロナウイルス感染症を契機に不幸な転帰となる例が目立っていました。外来では再来の診療は維持できていましたが、紹介受診の制限や入院を制限した期間の影響があり年間の入院患者数は大幅に減少していました。

そのような中で、肝細胞癌に対する経皮的ラジオ波焼灼療法の治療件数自体は昨年とほぼ同等でした。今年の新しいトピックとしては、エコーの最新鋭機「ARIETTA850」(FUJIFILM社)を導入しました。当科では、経皮的ラジオ波焼灼療法をCT撮影ができる血管造影室で行っていますが、この機種を導入によって、さらなる治療の精度向上をもたらすと考えています。

1) 疾患別内訳 (重複あり)

病名	件数	男	女	平均年齢
肝細胞癌	264	179	85	75.3
肝硬変	331	223	108	70.2
アルコール性肝障害	15	14	1	56.4
胆管癌	65	41	24	78.6
胆嚢癌	12	10	2	77.3
膵臓癌	1	1	0	73.0
胆管細胞癌 (肝内胆管癌)	13	9	4	74.2
急性胆嚢炎・胆管炎	192	116	76	74.5
肝膿瘍	10	10	0	81.4
消化管出血	12	8	4	64.4

2) 検査・治療件数

処置	患者数
経皮的ラジオ波焼灼療法	88
肝動注塞栓術	71
分子標的薬新規導入	30
インターフェロンフリー治療新規導入	50
PTGBD、PTCD	59
腹水濃縮再静注法 (CART)	34
ERCP・IDUS・胆道内視鏡	59
放射線治療	12

3) 死亡例内訳

死因	患者数
原発性肝癌	18
(肝細胞癌 17)	
(肝内胆管癌 1)	
肝硬変	8
胆管癌	2
胆嚢癌	2
その他	7
計	37

その他の内訳：急性呼吸不全、悪性リンパ腫、急性膵炎、消化管出血、肺炎、卵巣癌、肝腎症候群

総退院患者数	656 人
男	401 人
女	255 人
緊急入院患者数	295 人
(内救急車数)	90 人
予約入院	361 人
平均在科日数	13.3 日
平均年齢	72.1 歳

2. 呼吸器病センター 呼吸器内科

呼吸器内科部長 飛野和則

2022年は、12名のスタッフと5名の専攻医で診療にあたりました。

2022年もCOVID-19の対応に追われつつもワクチンの普及により重症症例が減少したことから、肺癌、間質性肺炎、喘息、COPDを中心に専門診療を通常に戻していく作業を行うことができました。

入院を要した疾患の最多は2021年と変わらず肺癌で、2番目は2021年と引き続き間質性肺疾患でした。肺癌については新薬や新たな治療レジメンが毎年臨床使用可能となっており、悪性腫瘍の中で最も進歩が著しい分野と言っても過言ではありません。我々は積極的に勉強会の開催や学会参加を行い新たな知見を吸収しながら、呼吸器腫瘍内科・呼吸器外科・呼吸器腫瘍外科・放射線治療科・画像診療科とともに週に2回カンファレンスを行い、患者さんに最適な診断法や治療法を協議し決定しております。間質性肺疾患については、他施設との共同研究を行いつつ、新薬の治験の準備を進めてまいりました。この治験薬は海外では非常に良い結果を出しており、筑豊地区の患者さんに一足先に素晴らしい薬剤をお届けできるものと考えております。2023年1月には当科で開始する予定となっており、是非ご紹介をお願いできれば幸いです。喘息については慢性呼吸器疾患看護認定看護師とともに生物学的製剤導入を積極的に進め、さらに喘息に対する研究も開始いたしました。生物学的製剤については、本邦で5番目となる製剤も上市され、当科で使用可能となっております。

我々は常に知識と技術のアップデートを行い、最新の診療を提供できるよう努力してまいり所存です。学会発表、論文発表のアクティビティも保っており、2022年も9本の原著論文・症例報告を英文で発表することができました。残念ながら2022年もコロナ禍のため、「筑豊呼吸器RENKEIの会」を現地開催することができませんでした。落ち着き次第開催を行いたいと考えておりますので、その際にご連絡差し上げます。

今後もこれらの活動を通じ、新型コロナウイルス感染症診療を含めた診療の質の向上、地域医療の発展、飯塚発のエビデンス構築につなげてまいります。

1) 入院患者疾患別内訳 (2022年)

疾患	延べ症例数	疾患	延べ症例数
総数	1,316	間質性肺疾患	136
腫瘍性疾患 (内訳)	744	(内訳) 特発性・膠原病関連・薬剤性	126
		放射線肺炎	0
		その他	10
		気道疾患	81
		(内訳)	喘息
感染症 (内訳)	207	COPD	58
		気管支拡張症	3
		気胸	46
		胸水	19
		喀血・血痰	11
		睡眠時無呼吸	13
		その他	59
		肺炎／肺化膿症	132
胸膜炎／膿胸	18		
気管支炎	2		
結核	2		
COVID-19	41		
その他の感染症	12		

内視鏡検査（気管支鏡、胸腔鏡）実績表				
	2019年	2020年	2021年	2022年
総件数	454	334	366	368
観察、痰吸引、気管洗浄	434	321	350	351
直視下生検	27	17	7	17
末梢擦過及び生検	317	219	183	142
BAL	70	46	53	81
胸腔鏡	9	9	40	10
EBUS-TBNA	23	31	24	40
EBUS-GS	38	45	53	58
EWS 充鎮	2	2	17	3
マイクロ波凝固術	0	0	0	0
サーモプラスティ	1	0	0	0
クライオバイオプシー	24	24	36	51
バルーン拡張術/ ステント留置	0	1	0	0
悪性腫瘍に対する 気管支鏡での診断率	84.6% (187/221)	85.6% (185/216)	87.8% (195/222)	92.0% (207/225)

3. 呼吸器病センター 呼吸器外科

呼吸器外科部長 安田 学

「呼吸器外科この一年」

2022年は安田 学、篠原伸二および呼吸器腫瘍外科の近石泰弘の3名のスタッフで診療を開始しました。4月に産業医科大学外科専門研修プログラムから武 伸行先生が赴任（産業医科大学病院から）、さらに飯塚病院外科専門研修プログラムから新井貴大先生（4月）、川下知英先生（10月）、九州大学外科専門研修プログラムから権藤雄三先生（12月）が加わり診療を行いました。2022年の外来新患総数は304例、入院患者総数は311例、手術数は301例、うち肺癌手術は164例でした。研究業績は論文発表1題、学会・研究会発表8題でした。

本年も新型コロナウイルス感染拡大に伴う制約下の1年でしたが、呼吸器内科先生方をはじめ各科先生方や各部署の皆さんに支えて頂き、過去最高の肺癌手術件数を行うことができました。また1月から開始したロボット支援手術も順調に48例を行うことができました。有り難うございました。2023年も手術患者さん全員が元気で退院できるように頑張っていきたいと思っております。

手術数（2022年1-12月）

疾患名		術式（カッコ内は胸腔鏡手術件数）	
原発性肺癌	164	肺部分切除術	44 (42)
		肺区域切除術	12 (11)
		肺葉切除術（二葉切除も含む）	105 (83)
		気管支形成を伴う肺葉切除	1 (0)
		肺全摘術	0
		審査開胸など	2 (2)
転移性肺腫瘍	18		
縦隔腫瘍	24		
気胸	32		
膿胸	21		
その他	42		
総数	301		

ロボット支援手術件数（2022年1-12月）

疾患名		術式	
原発性肺癌	29	肺区域切除術	4
		肺葉切除術（二葉切除も含む）	25
転移性肺腫瘍	1	肺区域切除術	0
		肺葉切除術（二葉切除も含む）	1
縦隔腫瘍	18	腫瘍摘出	16
		拡大胸腺摘出	2
総数	48		

4. 心療内科

心療内科部長 木附 康

2022年も常勤医は1名体制のままでしたが、橋口医師には非常勤医師として引き続き週2回の外来をご担当いただき、大学医局から須藤教授と吉原医師にも引き続き月1回ずつ来ていただきました。新患数は、2021年が187名でしたが、2022年は162名と減少しました。新型コロナウイルス感染症のため診療制限（新患制限）を2回行ったためと思われます。疾患（第一病名のみ）の内訳は、狭義の心身症の割合が13%とここ数年は低めで推移しています。心身症であっても有効な薬が開発され、専門科において各々心身症を診る傾向があるためと思われます。うつ病・うつ状態の割合が40%とここ数年は増加傾向です。不安に伴う疾患の割合は15%と2021年の20%から減少しています。今後も引き続きチーム医療・最適医療を推進し、診療の質の向上に努めたいと思います。

外来新患内訳 (2022年1月～2022年12月)

病名	計	男性	女性
心身症	21	6	15
循環器心身症	0	0	0
呼吸器心身症	1	0	1
消化器心身症	3	2	1
内分泌系心身症	0	0	0
その他心身症	17	4	13
自律神経失調症	12	3	9
摂食障害	4	0	4
頭痛	1	1	0
その他	0	0	0
うつ病・うつ状態	64	22	42
不安に伴う疾患	25	9	16
パニック障害	10	4	6
不安障害	14	4	10
社交不安障害	1	1	0
強迫性障害	0	0	0
疼痛性障害	1	1	0
不眠症	11	3	8
その他	40	14	26
更年期症候群	0	0	0
適応障害	15	3	12
身体表現性障害	9	5	4
その他の精神疾患	9	4	5
その他の身体疾患	7	2	5
総計	162	55	107

5. 内分泌・糖尿病内科

内分泌・糖尿病内科部長 井上智彰

2022年度は常勤医師5名に非常勤医師1名が加わり6人体制で糖尿病及び内分泌疾患の診療にあたりました。当科は糖尿病学会および内分泌学会認定教育施設として、最先端の内分泌・糖尿病医療を提供できるよう、日々の診療に邁進しています。

糖尿病の分野では治療薬や検査機器の進歩に対応すべく積極的に新薬・新検査機器の導入を図っております。2022年6月から当院でもDexcom G6 CGM システムが使用可能となりました。この機器は、リアルタイムの血糖値を知ることができるだけでなく、低/高値アラート・緊急低値リスクアラートがあり、低血糖や著明な高血糖を来す前に患者さんが血糖の変動を知ることができ、糖尿病治療に有用なツールとなっております。

今後も医師、看護師、管理栄養士、薬剤師によるチーム医療を充実させ、総合病院の特性を活かした他科との連携を継続し、筑豊の地域医療に貢献してまいりたいと思います。

入院患者疾患別内訳（2022年）

病名	総計	急患	性別		年齢 (平均値)	在科日数 (平均値)
			男	女		
糖尿病	205	19	124	81	64.8	10.4
2型糖尿病	160	7	101	59	66.5	10.4
1型糖尿病	37	11	19	18	57.1	10.5
膵性糖尿病	5	0	2	3	66.0	11.2
その他の糖尿病	3	1	2	1	64.7	9.3
内分泌疾患	26	4	12	14	56.4	7.5
副腎皮質機能低下症	8	1	2	6	60.4	7.0
下垂体機能低下症	5	1	5	0	61.4	7.4
バセドウ病	5	2	3	2	41.4	9.0
副甲状腺機能亢進症	2	0	2	0	73.0	4.0
副腎腫瘍	3	0	0	3	61.7	5.3
原発性アルドステロン症	2	0	0	2	45.0	4.0
中枢性尿崩症	1	0	0	1	48.0	24.0
その他	16	13	6	10	65.0	11.1
その他	16	13	6	10	65.0	11.1
総計	247	36	142	105	63.9	10.1

6. 消化器内科

消化器内科部長 久保川 賢

2019年より断続的に続くコロナ禍の中、外来・病棟・内視鏡センターいずれにおいても、嚴重な感染対策の下、診療を行ってまいりました。コロナ禍の中での内視鏡診療にも徐々に慣れてきたこともあり、内視鏡検査を介した感染の波及などもなく、比較的安定した診療を行うことが出来ています。早期消化管癌に対する内視鏡手術（切開剥離術：ESD）、高度な手技を要する胆膵内視鏡治療、専門医による静脈瘤治療といった各種内視鏡治療に加え、近年増加傾向にある潰瘍性大腸炎やクローン病といった炎症性腸疾患の診療では、新規治験にも参加しながら、日々診療を行っています。2023年度も、引き続き徹底した感染対策の下、安全でより充実した消化器診療を患者さんに提供できるよう消化器内科全員で尽力してまいります。

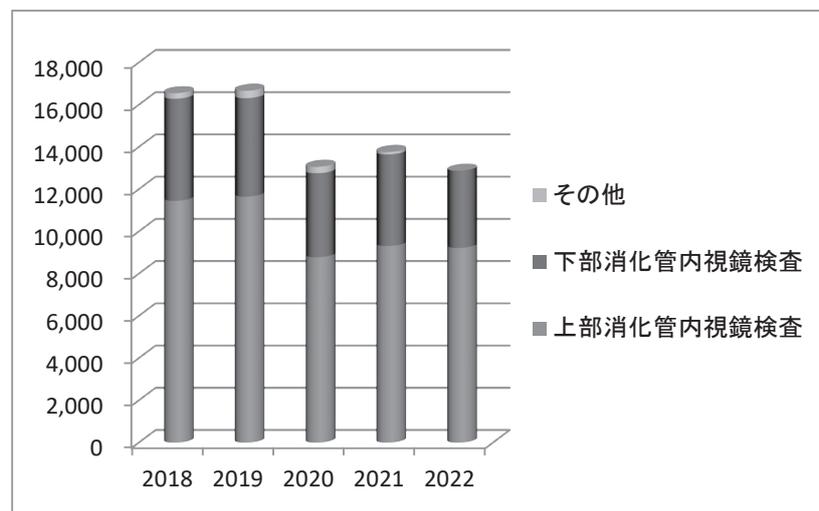
入院患者疾患別内訳（2022年）

病名	計	病名	計
悪性腫瘍	397	良性腫瘍・ポリープ	455
肝・胆・膵悪性腫瘍	163	大腸良性腫瘍（ポリープを含む）	421
胃悪性腫瘍	96	胃良性腫瘍（ポリープを含む）	17
大腸悪性腫瘍	86	小腸良性腫瘍	9
食道悪性腫瘍	35	その他の部位	6
その他の部位	9	膵臓良性腫瘍	2
悪性リンパ腫	6	その他	517
小腸悪性腫瘍	2	胆嚢・胆管結石	186
静脈瘤	58	腸のその他の疾患	126
食道静脈瘤	50	胆嚢・胆管炎	76
胃静脈瘤	8	膵炎	33
腸炎	37	肝・胆・膵その他の疾患	9
潰瘍性大腸炎	17	痔核	8
クローン病	15	逆流性食道炎	7
感染性腸炎	4	消化器系のその他の疾患	6
その他の非感染性腸炎	1	胃・十二指腸その他の疾患	5
潰瘍	64	食道のその他の疾患	5
胃潰瘍	41	貧血	3
十二指腸潰瘍	18	マロリー・ワイス症候群	3
腸のその他の疾患	4	炎症性肝疾患	3
その他	1	カンジダ症	1
良悪不詳の腫瘍	23	その他	46
胃腫瘍	9	総計	1,551
肝・胆・膵腫瘍	9		
小腸腫瘍	2		
大腸腫瘍	2		
食道腫瘍	1		

最近5年間の消化器内視鏡検査件数

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
上部消化管内視鏡検査	11,458	11,658	8,780	9,525	9,223
下部消化管内視鏡検査	4,831	4,656	3,983	4,335	3,656
その他	262	358	304	122	1
総件数	16,658	16,767	13,140	13,672	12,655

最近5年間の内視鏡検査件数の推移



2022年消化器内視鏡検査数(内訳)

診療内容	件数
総数	12,655
上部内視鏡検査(総数)	9,223
下部内視鏡検査(総数)	3,656
EUS(上部)	1,208
EUS(下部)	262
EUS-FNA	108
EMR(上部)	6
EMR(下部)	365
ESD(上部)	121
ESD(下部)	40
ポリペクトミー(上部)	1
ポリペクトミー(下部)	435
緊急内視鏡検査	354
内視鏡的食道静脈瘤治療	125
内視鏡的止血術	208
内視鏡的異物摘出術	38
内視鏡的消化管狭窄拡張術	103
経皮内視鏡的胃瘻造設術	10
経皮内視鏡的胃瘻交換(抜去)	28
ERCP・EST	584
小腸内視鏡	26
カプセル内視鏡	37
経鼻内視鏡検査	236
その他の内視鏡	1

7. 血液内科

血液内科部長 白土基明

2022年は新型コロナウイルス感染症の院内クラスターも発生し、制約が多い中での診療となりました。感染症科よりスタッフとして加わった帆足公佑医師が専門スキルを活かして血液診療の中でのコロナ対応を主導してくれています。また、外来にも非常勤医師を配置することができ、4月より常勤医7名（時短勤務、専攻医含む）、非常勤医3名と厚みを増し、コロナで自宅待機となる医師が出て診療内容をほぼ変えることなく対応することができました。血液診療はあらゆる疾患で新規治療薬が登場し、めざましい進歩を遂げています。院外とも連携をはかりながら最新の知識を得て診療レベルの向上に努めております。

総退院患者数：476件

外来新患数：615件

診断名	新患入院数	退院患者数	平均在院日数	平均年齢	男	女
急性骨髄性白血病	22	85	36.5	66.8	51	34
急性リンパ性白血病	2	14	33.1	37.9	7	7
骨髄異形成症候群（経過中に化学療法あり）	4	29	21.2	72.8	18	11
骨髄異形成症候群（経過中に化学療法なし）	3	4	30.8	78.5	2	2
慢性骨髄性白血病	8	9	14.9	64.9	7	2
その他の骨髄増殖性疾患	1	1	12.0	73.0	1	0
非ホジキンリンパ腫	70	189	27.3	71.3	110	79
ホジキンリンパ腫	4	11	35.1	71.4	3	8
多発性骨髄腫	16	57	27.6	70.5	29	28
成人T細胞性白血病・リンパ腫	6	23	32.7	74.5	9	14
その他のリンパ増殖性疾患（CLLなど）	2	8	26.4	72.8	5	3
再生不良性貧血	1	10	39.9	61.1	6	4
溶血性貧血	2	4	35.0	73.8	3	1
特発性血小板減少性紫斑病	14	18	41.4	72.7	9	9
その他	11	14	22.5	68.3	6	8
合計	166	476	29.7	69.4	266	210

骨髄穿刺件数（2022年）：565件

8. 総合診療科

総合診療科部長 井村 洋

1. コロナ禍にありながら例年よりも入院数を増やし、新入患者数は平均213名／日（最大248名）であり、入院患者数は平均で115名／日（最大123名）であった。
2. 2020年1月～2022年10月末までの間、166名のCOVID-19入院患者を対応した。
3. 病院総合医コースに12名、家庭医コースに4名の新規専攻医・後期研修医が加わった。
4. 連携医療・緩和ケア科との連携の結果、平均在院日数は、18.5日であった。
5. カンファレンスやレクチャーなどの教育的取り組みを全てリモートに移行し継続している。
6. 6名のスタッフ・専攻医が、育児休暇を取得した。

2022年1月～12月

外来初診における頻度の高い主訴

順位	コード	件数	
1	A03	発熱	441
2	B29	血液と免疫機能の症状 / 愁訴	245
3	L14	下腿 / 大腿部の症状 / 愁訴	202
4	D06	その他の限局性腹痛	197
5	N17	めまい / めまい感	182
6	A04	全身脱力 / 倦怠感	179
7	N01	頭痛	175
8	T03	食欲不振	140
9	N06	その他の知覚障害	129
10	D09	嘔気	117
11	D10	嘔吐	102
12	D02	心窩部痛	95
13	A29	全身症状 / 愁訴、その他	92
14	D01	腹部全体の疼痛 / 激痛	87
15	N29	その他の神経の症状 / 愁訴	86
16	R21	咽頭の症状 / 愁訴	86
17	L03	腰部の症状 / 愁訴	85
18	D29	消化器のその他の症状 / 愁訴	81
19	R05	咳	77
20	R02	息切れ / 呼吸困難	76

外来初診患者数 延べ人数 3,038人

入院・最終診断名

順位	疾患名	合計
1	本態性高血圧症	374
2	インスリン非依存型糖尿病 (合併症を伴わない)	339
3	誤嚥性肺炎	212
4	尿路感染症, 部位不明	206
5	慢性心不全・詳細不明	186
6	腎障害, 詳細不明	163
7	心房細動	153
8	COVID-19	147
9	慢性腎不全 (非透析状態)	137
10	敗血症性ショック	118
11	低ナトリウム血症	116
11	脳梗塞後遺症・陳旧性脳梗塞	116
13	低カリウム血症	115
14	詳細不明の認知症	105
15	慢性腎不全 (透析状態)	98
16	索状物, 癒着性イレウス・腸閉塞	97
17	大腿骨頸部骨折 (閉鎖性)	96
18	肺炎, 病原体不明, 詳細不明	90
19	食思不振・食欲不振	81
20	急性腎盂腎炎	79
20	アルコール依存, 神経症	79

入院患者 延べ患者数 2,778人

9. 膠原病・リウマチ内科

膠原病・リウマチ内科部長 内野愛弓

当科では、今年度、スタッフ2名・専攻医2名の4名体制で診療にあたっています。専攻医1名の増員となったものの、慢性的な人員不足を解消するには至っていないことを痛感する毎日、増加する地域の需要に十分お応えできていないことを心苦しく存じます。

リウマチ専門医・専門施設の不足は、筑豊医療圏全体における問題点ですが、実は来年度、状況は更に厳しくなる見込みであることが判明しております。現在進めている連携診療・逆紹介の取り組みが不可欠と考えており、地域の先生方におかれましては、今後も変わらぬお力添えを賜りたくお願い申し上げます。高度な専門的治療までを、時機を失することなく提供するとともに、地域で完結させることを目標として、診療科一同取り組んで参ります。

入院患者疾患別内訳（2022年）

疾患名	外来		入院			
	総数	うち新患	総数	急患	性別	
					男	女
関節リウマチ	1173	114	41	5	14	27
全身性エリテマトーデス	131	13	23	1	15	8
結節性多発性動脈炎	7	0	17	3	7	10
多発性筋炎 / 皮膚筋炎	62	15	15	0	2	13
全身性硬化症	117	5	11	0	3	8
成人発症スチル病	19	2	11	1	7	4
ANCA関連血管炎	60	7	10	1	4	6
乾癬性関節炎	42	5	6	1	6	0
巨細胞動脈炎	22	3	3	0	2	1
シェーグレン症候群	229	27	1	0	0	1
リウマチ性多発筋痛症	82	8	1	0	0	1
混合性結合組織病	26	0	0	0	0	0
ベーチェット病	35	1	0	0	0	0
関節炎	17	7	0	0	0	0
その他	456	197	35	18	11	24
総計	2478	404	174	30	71	103

10. 連携医療・緩和ケア科

連携医療・緩和ケア科部長 柏木秀行

2022年度も新たなメンバーを迎え、これまで以上に多様な疾患を有する患者さんの移行期ケア、そして終末期ケアに取り組みました。事業規模の拡大に伴い、院内外から期待される役割も変化しています。今後も「病気になっても過ごしたい過ごし方を、過ごしたい場所でできる地域づくりに貢献する」というミッションを常に忘れず、院内外の関係各所と連携して取り組んでまいります。

< 2022年1月～12月 依頼状況 >

診療科	疾患	症例数	診療科	疾患	症例数		
総合診療科	心不全	16	外科	胃癌	32		
	肺癌	15		食道癌	31		
	肝癌	12		直腸癌	8		
	胃癌	9		下行結腸癌	5		
	肝癌	8		胆管癌	5		
	胆管癌	7		乳癌	5		
	乳癌	6		食道胃接合部癌	4		
	上行結腸癌	5		上行結腸癌	3		
	原発不明癌	5		S状結腸癌	2		
	卵巣癌	5		横行結腸癌	2		
	前立腺癌	4		肝癌	2		
	直腸癌	4		十二指腸癌	1		
	悪性リンパ腫	3		小腸癌	1		
	白血病	3		大腸癌	1		
	食道癌	3		胆のう癌	1		
	膀胱癌	3		その他	2		
	S状結腸癌	2		合計	106		
	咽頭癌	2		救急外来	肝癌	13	
	口腔癌	1			心不全	12	
	甲状腺癌	1			直腸癌	11	
	子宮頸癌	1			胃癌	7	
	子宮体癌	1			乳癌	5	
	歯肉癌	1			肺癌	5	
	十二指腸癌	1			咽頭癌	3	
	腎癌	1			前立腺癌	3	
	髄膜腫	1			胆管癌	3	
	多発性骨髄腫	1			肝癌	3	
	大腸癌	1			甲状腺癌	2	
	尿管癌	1			原発不明癌	2	
	その他	1			十二指腸乳頭部癌	2	
	合計	29			食道癌	2	
	消化器内科	肝癌			36	大腸癌	2
		胆管癌			6	卵巣癌	2
十二指腸乳頭部癌		5	膀胱癌		2		
胃癌		4	S状結腸癌		1		
直腸癌		3	横行結腸癌		1		
頬粘膜癌		3	下行結腸癌		1		
S状結腸癌		2	顎下腺癌	1			
横行結腸癌		2	子宮頸癌	1			
大腸癌		1	縦隔悪性腫瘍	1			
胆のう癌		1	食道胃接合部癌	1			
胆嚢癌		1	腎癌	1			
乳癌		1	多発性骨髄腫	1			
盲腸癌		1	虫垂癌	1			
その他		1	その他	3			
合計		67	合計	92			
婦人科		卵巣癌	42	形成外科	非癌	1	
		子宮頸癌	21		合計	1	
	子宮体癌	17	小児科	非癌	1		
	子宮肉腫	2		合計	1		
	原発不明癌	1		心臓血管外科	食道癌	1	
陰癌	1	骨髄異形成症候群	1				
合計	84	合計	2				

< 2022年1月～12月 依頼状況 >

診療科	疾患	症例数	診療科	疾患	症例数	
血液内科	悪性リンパ腫	46	肝臓内科	肝癌	9	
	急性骨髄性白血病	28		胆管癌	3	
	白血病	15		胆嚢癌	3	
	多発性骨髄腫	5		原発不明癌	1	
	急性リンパ性白血病	3		肺癌	1	
	骨髄異形成症候群	2		有棘細胞癌	1	
	成人T細胞性白血病	1		その他	2	
	組織球肉腫	1		合計	20	
	膀胱癌	1		耳鼻科	咽頭癌	7
	その他	1			甲状腺癌	3
合計	103	胃癌	1			
呼吸器内科	肺癌	33	下顎歯肉癌		1	
	卵巣癌	5	口腔癌		1	
	心不全	3	食道癌		1	
	上行結腸癌	2	声門癌		1	
	メラノーマ	1	合計		15	
	胃癌	1	腎臓内科		非癌	4
	骨髄異形成症候群	1			合計	4
	食道癌	1	連携医療・緩和ケア科	食道癌	20	
	胆管癌	1		肺癌	20	
	その他	3		乳癌	15	
合計	51	直腸癌		12		
呼吸器外科	肺癌	4		胃癌	11	
	合計	4		肺癌	10	
脳神経外科	脳腫瘍	3		子宮体癌	9	
	膠芽腫	3		前立腺癌	9	
	肺癌	1		子宮頸癌	7	
	膀胱癌	1		咽頭癌	6	
	その他	2	S状結腸癌	5		
合計	10	肝癌	5			
脳神経内科	膀胱癌	3	心不全	5		
	直腸癌	1	膀胱癌	5		
	その他	1	悪性リンパ腫	4		
合計	5	横行結腸癌	4			
整形外科	心不全	1	口腔癌	4		
	合計	1	卵巣癌	4		
循環器内科	心不全	37	食道胃接合部癌	3		
	横行結腸癌	1	腎癌	3		
	肺癌	1	胆のう癌	3		
	下行結腸癌	1	胆管癌	3		
	子宮体癌	1	下行結腸癌	2		
	多発性骨髄腫	1	上行結腸癌	2		
	直腸癌	1	白血病	2		
	膀胱癌	1	腹膜癌	1		
	その他	18	骨髄異形成症候群	1		
	合計	62	十二指腸乳頭部癌	1		
泌尿器科	膀胱癌	23	精巣癌	1		
	腎癌	20	多発性骨髄腫	1		
	前立腺癌	2	大腸癌	1		
	尿管癌	2	虫垂癌	1		
	子宮頸癌	1	副鼻腔軟骨肉腫	1		
合計	48	その他	3			
膠原病・ リウマチ内科	非癌	1	合計	184		
合計	1					

★病棟

入棟患者数 286人 (新規: 254人)

< 平均在院日数 >

死亡	全体
13.8	15.7

< 転帰 >

死亡	在宅	転院	継続
131	104	42	9

< 在宅後転帰 >

死亡	再入院	療養中
39	36	29

★チーム

介入患者数 994人 (新規: 628人)

< 平均在院日数 >

死亡	全体
19.2	17.6

< 転帰 >

死亡	自宅退院	継続	転院	緩和ケア病棟	施設入所	介入終了
166	545	36	69	131	43	4

< 在宅診療導入数 >

120

11. 放射線科

放射線科統括部長 佐々木智成

2022年度より画像診療科に加えて、放射線治療科も九州大学放射線科がサポートする事となり、佐々木が放射線科統括部長兼放射線治療科主任部長として赴任しました。今後は画像診療科と放射線治療科が一体となって当院における放射線診療（画像診断・IVR・放射線治療）を担っていきます。それにともなって、これまで以上に各科との関係をより深めて情報共有を可能にするべく、従来の消化器内科・肝臓内科・外科・呼吸器内科・呼吸器外科とのカンファランスに加えて、脳神経外科・耳鼻咽喉科・連携医療緩和ケア科・泌尿器科・婦人科の先生方とも定期的カンファランスを実施しています。

12. 画像診療科

画像診療科部長 三浦亘智

新型コロナウイルス感染症の流行も3年目に入りました。2021年後半以降緊急事態宣言は出ていませんが、感染者数に一喜一憂する状況に変化ありません。

2020年にCTを増設し、CT、MRIがそれぞれ4台体制になり検査の精度、件数は増加しましたが、PET-CTやAngio CT等の古い機器の更新が課題です。

また画像診断検査機器が広範囲に分散していることが原因で、検査の導線が長くなり、病院スタッフや外来患者さんに迷惑がかかっている状態を改善するため新外来棟建設構想がスタートした事は嬉しい限りです。八木山バイパス4車線化とどちらの完成が先になるのかは予想困難ですが、私自身は完成前に退任しているのは確実なので、後を継ぐ者たちに有益な遺産が残せるよう努力したいと思います。

筑豊40万医療圏の中心に位置する飯塚病院の中で画像診断科の果たすべき役割は大きいです。検査機器、スタッフのいずれもが最高の検査を提供できるよう今後も努力していきたいと考えています。

2022年診療実績

1) 診療実績（画像診療科で検査、報告書作成、及び治療を施行した件数・症例数）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
CT	45,038	43,932	40,744	41,151	38,811
MR	11,105	10,907	9,835	10,690	10,656
マンモグラフィ総検査件数	3,658	3,811	3,353	3,731	3,617
マンモグラフィ検査件数（ドック以外）	1,343	1,443	1,300	1,225	1,118
当科医師によるマンモグラフィ読影件数	62	37	10	0	0
尿路造影検査	44	172	178	151	159
PET-CT	1,037	1,054	980	953	804
核医学検査（PET-CT以外）	1,351	1,387	1,188	1,142	935
IVR・血管造影	499	487	402	374	339

2) IVR・血管造影の内訳

	2022年
肝細胞癌の肝動脈化学塞栓術	71
出血性病変の止血術	44
気管支動脈塞栓術（BAE）	5
リンパ管造影	0
CTガイド下生検・ドレナージ	14
頭部血管造影 ^{※1}	105
肝ラジオ波焼灼術（RFA） ^{※2}	88
その他	12
合計	339
緊急血管造影 ^{※3}	43(12.7%)

※1 脳神経外科施行

※2 肝臓内科施行

※3 当科施行分

13. 放射線治療科

放射線治療科主任部長 佐々木智成

放射線治療科では新部長の就任に伴い、より多くの患者さんに放射線治療を提供できるよう診療内容・体制を見直しました。現状では他施設からのご紹介については制限を設けているものの、院内からの紹介については1週間以内の初診を目標に対応するようにしています。6月には定位照射専用装置“サイバーナイフ”が稼働開始し、脳腫瘍（脳転移・髄膜腫など）や早期肺がん、肝がんに対する定位照射を行っています。2023年1月からは前立腺がんに対する体幹部定位放射線治療を開始しました。

以上、診療体制の見直しおよびサイバーナイフ導入によって、新規患者さんの受入を増やしつつ、より多くの患者さんに高精度な放射線治療を提供していく所存です。

診療実績

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
放射線治療件数（照射件数）	9,085	8,801	9,697	7,908	8,330
放射線治療					
新規患者数（新患実人数）	336	329	350	295	359
患者実人数（新患＋再患）	392	361	375	336	408
高精度放射線治療					
定位放射線治療患者数（頭頸部に対する）	1	0	0	0	16
（体幹部に対する）	1	0	2	2	20
原発巣別新規患者数（新患実人数）					
脳・脊髄	9	4	5	11	4
頭頸部（甲状腺を含む）	15	21	26	27	28
食道	15	15	12	20	19
肺・気管・縦隔	84	72	88	74	92
（うち肺）	81	72	81	74	91
乳腺	67	57	76	43	55
肝・胆・膵	26	32	31	28	31
胃・小腸・結腸・大腸	16	31	32	14	30
婦人科	29	33	24	22	32
泌尿器系	53	42	33	36	37
（うち前立腺）	37	27	24	21	17
造血器リンパ系	14	12	16	15	22
皮膚・骨・軟骨	4	1	0	2	0
その他（悪性）	2	3	1	3	4
良性	2	6	4	0	5
（15歳以下の小児例）	0	0	0	0	0

14. リエゾン精神科

リエゾン精神科部長 猪狩圭介

精神科リエゾンチームは、せん妄、認知症（BPSD）、うつ、不眠、精神病症状、自殺未遂などの患者さんや、身体疾患治療で入院された精神疾患患者さんへの精神科的介入をしております。木曜日午後リエゾンチーム回診、金曜日にチーム・カンファレンスを実施しています。

外来診療：新患は院内他科からの紹介（予約制〔火・木〕）で診療しています。

入院診療：精神科閉鎖病棟（西1階）の入院診療は、当科外来の患者さんのみならず、リエゾンで対応している患者さんも受け入れを増やしています。

デイケア・センター「エスポワール」ではCOVID-19感染対策として、午前のみでデイケアを継続しています。通常プログラム活動とは別に、「マインドフルネス・プログラム」を実施しております。

引き続き、2023年度も精神疾患のある患者さんの診療に取り組んでいきたいと存じます。

（1）2022年1月～12月のリエゾン紹介新患数

1) 精神医学的診断別

ICD Fコード	件数
F 0 器質性	366
F 1 精神作用物質	14
F 2 統合失調症	44
F 3 気分障害	48
F 4 神経症性障害	53
F 5 生理的障害	40
F 6 パーソナリティ障害	4
F 7 知的障害	10
F 8 心理的発達障害	1
F 9 注意欠陥多動障害	0
G 2 アカシジア、レストレスレッグス症候群	0
G 3 レビー小体型認知症	1
G 4 睡眠障害	1
R 4 意識障害、精神運動興奮、昏迷状態	5
なし	3
総計	590

2) 依頼診療科別

診療科	件数
総合診療科	194
整形外科	25
外科	40
呼吸器内科	26
循環器内科	46
腎臓内科	24
連携医療・緩和ケア科	65
脳神経内科	18
呼吸器外科	12
脳神経外科	10
消化器内科	19
血液内科	26
心臓血管外科	24
皮膚科	3
内分泌・糖尿病内科	5
産科	5
肝臓内科	11
膠原病・リウマチ内科	12
婦人科	1
集中治療科	7
泌尿器科	2
小児科	1
眼科	0
漢方診療科	1
歯科口腔外科	3
耳鼻咽喉科	7
形成外科	1
感染症科	2
救急科	0
総計	590

（2）2022年1月～12月外来新患数内訳

ICD Fコード	件数
F0 器質性	8
F1 精神作用物質	1
F2 統合失調症	6
F3 気分障害	8
F4 神経症性障害	16
F5 生理的傷害	2
F6 パーソナリティ障害	0
F7 知的障害	4
F8 心理的発達障害	2
F9 注意欠陥多動障害	2
G4 睡眠障害	0
F99 他に特定できないもの	0
総計	49

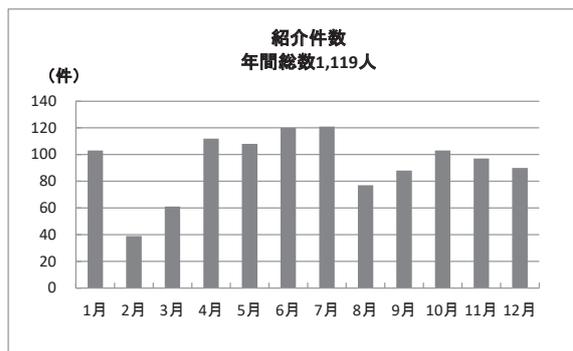
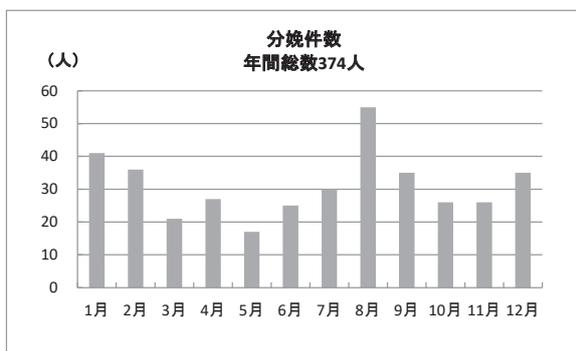
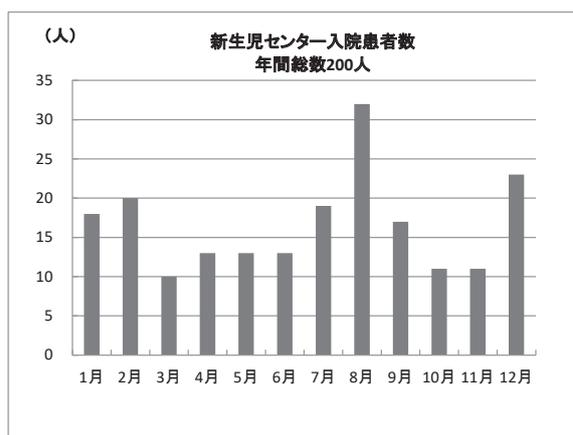
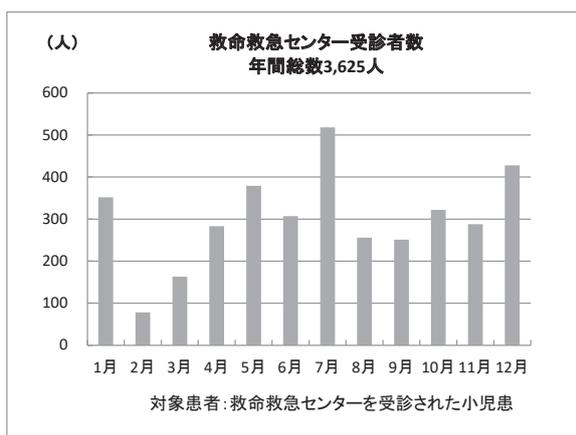
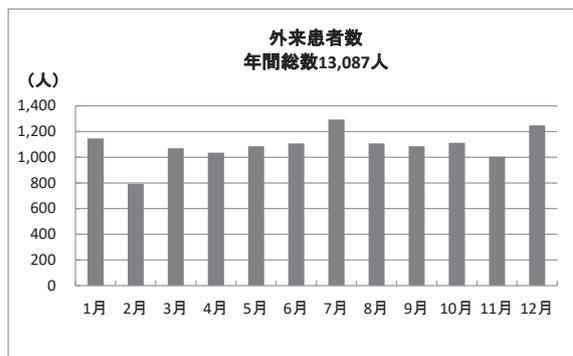
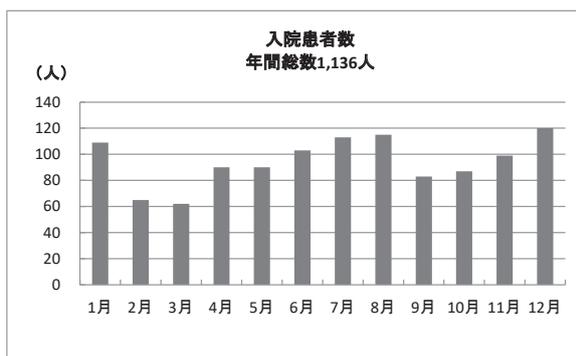
(3) 西 1 階病棟入院患者疾患別内訳

病 名	統計	急患	性別		年齢 (平均)	在科日数 (平均)
			男	女		
F0 症状性を含む器質性精神障害	7	3	1	6	74.7	186.1
アルツハイマー病の認知症	2	2	1	1	72.5	86.5
レビー小体型認知症	2	0	0	2	81.5	449.0
詳細不明の認知症	2	1	0	2	83.0	76.0
詳細不明の器質性 または症状性精神障害	1	0	0	1	49.0	80.0
F1 精神作用物質使用による 精神および行動の障害	1	1	1	0	56.0	218.0
アルコール依存, 神経症	1	1	1	0	56.0	218.0
F2 統合失調症、統合失調型障害 および妄想性障害	16	5	5	11	60.5	85.2
妄想性障害	7	2	1	6	70.4	87.3
統合失調症, 詳細不明	7	3	2	5	51.0	90.7
統合失調症	1	0	1	0	49.0	106.0
急性統合失調症様精神病性障害	1	0	1	0	69.0	11.0
F3 気分障害	18	10	8	10	64.2	61.7
うつ病エピソード, 詳細不明	9	6	4	5	60.1	45.0
双極性感状障害・躁うつ病・詳細不明	6	3	4	2	68.7	50.2
抑うつ状態, 詳細不明	2	1	0	2	64.0	157.5
抑うつ性神経症	1	0	0	1	75.0	89.0
F4 神経症性障害、ストレス関連障害 および身体表現性障害	8	5	2	6	29.1	32.9
適応障害	3	2	2	1	32.7	14.7
解離性障害, 詳細不明	2	0	0	2	15.5	47.0
強迫性障害<神経症>	2	2	0	2	21.0	56.5
全般性不安神経症	1	1	0	1	62.0	12.0
総計	50	24	17	33	58.7	85.1

15. 小児科

小児科部長 岡松由記

小児混合病床と母子総合医療センターの新生児部門を、北第五病棟ワンフロアに併設しています。病棟には保育士を配置し入院生活のサポート向上を図っております。小児科・小児外科外来を統合した小児センターでは、一般診療とともに、神経、内分泌、アレルギー、循環器、腎臓、新生児の専門外来を設置しております。出生時から成人するまで、切れ目のない医療を提供いたします。小児医療の課題である在宅医療、虐待予防のために、拠点病院として多職種・多機関と連携して取り組んでおります。これからも筑豊地域のすべての子どもたちと、かかりつけ医療機関のご要望に応じていきます。



16. 腎臓内科

腎臓内科部長 藤崎毅一郎

2022年3月末に佐々木医師が退職し、4月に牟田医師が加わりました。近年、新患紹介患者数が漸増していましたが、本年もその傾向は持続しております。しかしながら、院内外での新型コロナウイルス感染症によるクラスター発生等で入院制限を余儀なくされ、入院患者数、手術件数、透析導入数、腎生検件数は軒並み減少しました。2022年のPTA件数は過去最高数となっており、筑豊地域からのシャントトラブルのご紹介が増加していることが要因の一つと考えております。今後も近隣施設との連携をより一層深める診療を進める方針です。日本全体に言えることではありますが、透析導入原疾患は糖尿病性腎症が依然として4割を超える状況です。このことは当院含め筑豊地域も同様であります。これまで通り糖尿病からの透析導入を抑止することが喫緊の課題と考えております。

新型コロナウイルス感染症の蔓延で中断しておりましたCKD患者紹介の地域連携システムの整備・拡充を2023年から再度推進する予定としております。行政機関・地域医療施設の皆様と協力して、慢性腎臓病増悪、末期腎不全を抑制すべく、日々の診療連携に力を注ぐ所存です。

◆腎臓内科 診療実績データ（2022年1～12月）

項 目	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
1 外来実患者数	12,806	13,149	12,842	12,580	13,058	11,316	10,941	10,794
2 入院患者数	555	565	600	639	609	713	826	815
3 新患紹介数	185	231	200	249	262	220	237	253
4 入院透析実患者数（腎臓内科）	182	180	165	219	195	229	250	228
”（他科依頼）	242	253	288	318	314	335	377	360
5 入院透析延べ件数（腎臓内科）	2,090	1,594	1,257	1,672	2,227	2,227	2,460	2,096
”（他科依頼）	2,339	2,564	3,189	3,284	3,278	3,787	3,919	3,397
6 院内新患紹介数（紹介状があるもの）	335	250	255	263	273	280	292	254
7 内シャント術、PDカテーテル留置術	93	111	123	175	142	151	146	95
8 PTA（血管内形成術）	123	106	109	159	191	233	368	418
9 年間死亡患者数	17	18	6	15	12	23	15	10
10 腎生検	34	34	50	43	39	41	49	33

◆新規透析導入患者数推移

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
腹膜透析	8	7	6	7	12	14	12	9	10	7	11	9
血液透析	77	70	75	62	65	58	67	98	85	102	106	79
合 計	85	77	81	69	77	72	79	107	95	109	117	88

◆専門医、認定の修得件数

1 日本内科学会認定内科医	3
2 日本内科学会総合内科専門医	3
3 日本透析医学会専門医	2
4 日本透析医学会指導医	1
5 日本腎臓学会腎臓専門医	2
6 日本腎臓学会指導医	1

◆新規透析導入患者 原疾患、平均年齢推移

		2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
導入患者 主要 原疾患	糖尿病性腎症	47.7%	41.1%	47.7%	55.6%	46.5%
	慢性糸球体腎炎	14.7%	26.3%	21.1%	13.7%	22.7%
	腎硬化症	11.0%	24.2%	21.1%	14.5%	21.5%
	多発性嚢胞腎	0.9%	1.1%	0.9%	1.7%	0.1%
	慢性腎盂腎炎・間質性腎炎	0.0%	2.1%	0.0%	1.7%	0.2%
	急速進行性糸球体腎炎	1.8%	1.1%	3.7%	3.4%	0.3%
	自己免疫性疾患に伴う腎炎	0.0%	0.0%	0.9%	1.7%	0.0%
	不明	15.6%	3.2%	1.8%	0.9%	0.2%
全体	導入時年齢平均値	70.8	69.8	72.9	70.3	70.4
	最高齢（歳）	91	93	94	93	92
	最年少（歳）	39	35	34	41	20
男性	年間導入患者数	67	58	68	75	53
	導入時年齢平均値	69.4	69.1	72.9	68.7	69.4
	最高齢（歳）	91	92	94	93	92
	最年少（歳）	39	35	34	41	38
女性	年間導入患者数	40	37	41	42	35
	導入時年齢平均値	73.2	71	73	73	71.8
	最高齢（歳）	90	93	91	92	90
	最年少（歳）	45	39	37	50	20

◆腎生検症例の診断疾患

原疾患名		2019年	2020年	2021年	2022年
1	IgA 腎症	9	11	13	10
2	ANCA 関連血管炎				
	MPO-ANCA 型	3	9	7	5
	PR3-ANCA 型	0	0	0	2
3	抗 GBM 型糸球体腎炎	0	1	1	0
4	微小変化型ネフローゼ症候群 (MCNS)	7	9	7	1
5	特発性膜性腎症 (MN)	6	5	7	5
6	巣状分節性糸球硬化症 (FSGS)	6	0	2	0
7	膜性増殖性糸球体腎炎 (MPGN) (C3 腎症含む)	1	0	1	0
8	紫斑病性腎炎	1	0	0	1
9	その他				
	糖尿病性腎症	2	1	4	1
	腎硬化症	0	0	2	2
	尿細管間質性腎炎	1	1	3	3
	ループス腎炎	1	2	1	0
	アミロイドーシス	0	1	1	1
	非ネフローゼの一次性 MPGN (C3 腎症含む)	0	0	0	0
	その他	0	4	1	1
	腎生検合計数	39	44	49	33

17. 循環器内科

循環器内科部長 井上修二郎

2022年も外来・病棟とも新型コロナウイルス感染症により時期によっては診療制限が強いられましたが、循環器疾患の急性期診療を止めないよう心がけ診療にあたりました。診療の最前線で支えてくれた診療チームやコメディカルスタッフに感謝しています。2022年も疾患内訳は例年とほぼ同様、心不全・虚血性心疾患・不整脈の3大疾患をはじめとして下記のような疾患診療をチームで行いました。病棟での診療管理もチームで充実し、予期出来た急変や病状悪化を減らし安定した診療が出来つつあることを実感しています。2022年には僧帽弁膜症のカテーテル治療を導入出来、初回症例を無事に成功することが出来ました。2023年もより高い目標を持ちこの地域のために当センターの発展に努めたいと思います。

2022年入院主病名（循環器主要疾患）

総入院患者数：1,699人 平均年齢：72.6歳 急患数：773人（45%）
死亡：49人（3.0%） 平均在院日数：10.6日

<疾患内訳（重複なし）>

心不全・肺水腫：357	心房細動：196
心臓弁膜症：47	心房粗動・心房頻拍：21
肥大型心筋症：10	洞不全症候群：46
心筋症・拡張型心筋症：9	房室ブロック：72
心アミロイドーシス：5	QT延長：3
心サルコイドーシス：4	薬剤性徐脈：3
たこつぼ心筋症：8	WPW症候群：1
先天性心臓病：1	発作性上室頻拍：15
急性心筋梗塞：211	心室性期外収縮：3
陳旧性心筋梗塞・虚血性心筋症：20	心室頻拍・心室細動：20
不安定狭心症：24	ブルガダ症候群：1
安定労作性狭心症：64	失神発作：8
冠攣縮性狭心症：29	心筋炎：3
無症候性心筋虚血：118	心膜炎・心外膜炎：1
特発性冠動脈解離：2	収縮性心膜炎：0
その他の虚血性心疾患：17	感染性心内膜炎：3
急性大動脈・動脈解離：18	心タンポナーデ・心のう液貯留：3
胸痛症候群：10	睡眠時無呼吸症候群：3
動脈瘤・大動脈瘤：0	腎不全：3
閉塞性動脈硬化症：56	脳血管障害：0
急性動脈閉塞：1	心原性ショック：2
鎖骨下動脈閉塞：1	心臓腫瘍：2
肺動脈血栓塞栓症：22	敗血症性ショック：2
深部静脈血栓症：5	心停止・蘇生に成功した心停止：10
肺高血圧：7	下血：2
高血圧性心疾患：1	デバイス関連事象：11
肺炎・気管支炎：1	筋肉内血腫・皮下血腫：2
COVID-19感染症：2	貧血：2
	その他：14

心臓カテーテル検査・治療、デバイス治療総数：1705

- 冠動脈インターベンション (PCI)：445 (緊急 PCI：208 (46.7%))
 - バルーン拡張術 (POBA) のみ：31
 - ステント：387
 - ダイヤモンドバック：28
 - ロータブレード：21
 - (プレッシャーワイヤー：77、血管内超音波 (IVUS)：487、OCT：23)
- 末梢血管インターベンション (EVT)：112
- カテーテルアブレーション：253
 - 心室頻拍 7
 - 心室細動 1
 - 心室期外収縮 3
 - 心房細動 207 (発作性 101、持続性 79、長期持続性 27)
 - 発作性上室性頻拍 11
 - 心房粗動・心房頻拍 24
- デバイス埋め込み術
 - 永久ペースメーカー埋め込み術： 122
 - 埋め込み型除細動器埋め込み術： 8
 - 両心室ペースメーカー埋め込み術： 9
 - 除細動機能付き両親室ペースメーカー埋め込み術： 8
- 構造的疾患インターベンション
 - 経皮的中隔心筋焼灼術 (PTSMA)：1
 - 経皮的経静脈的僧帽弁交連裂開術 (PTMC)：2
 - 経皮的大動脈弁形成術 (PTAV)：0
 - 経カテーテル的大動脈弁置換術 (TAVI)：18 (*循環器病センター成績)
 - 経皮的僧帽弁接合不全修復術 (MitraClip)：1 (*循環器病センター成績)
- 心筋生検：43
- その他
 - 下大静脈フィルター：5

18. 心不全ケア科

心不全ケア科部長 井上修二郎

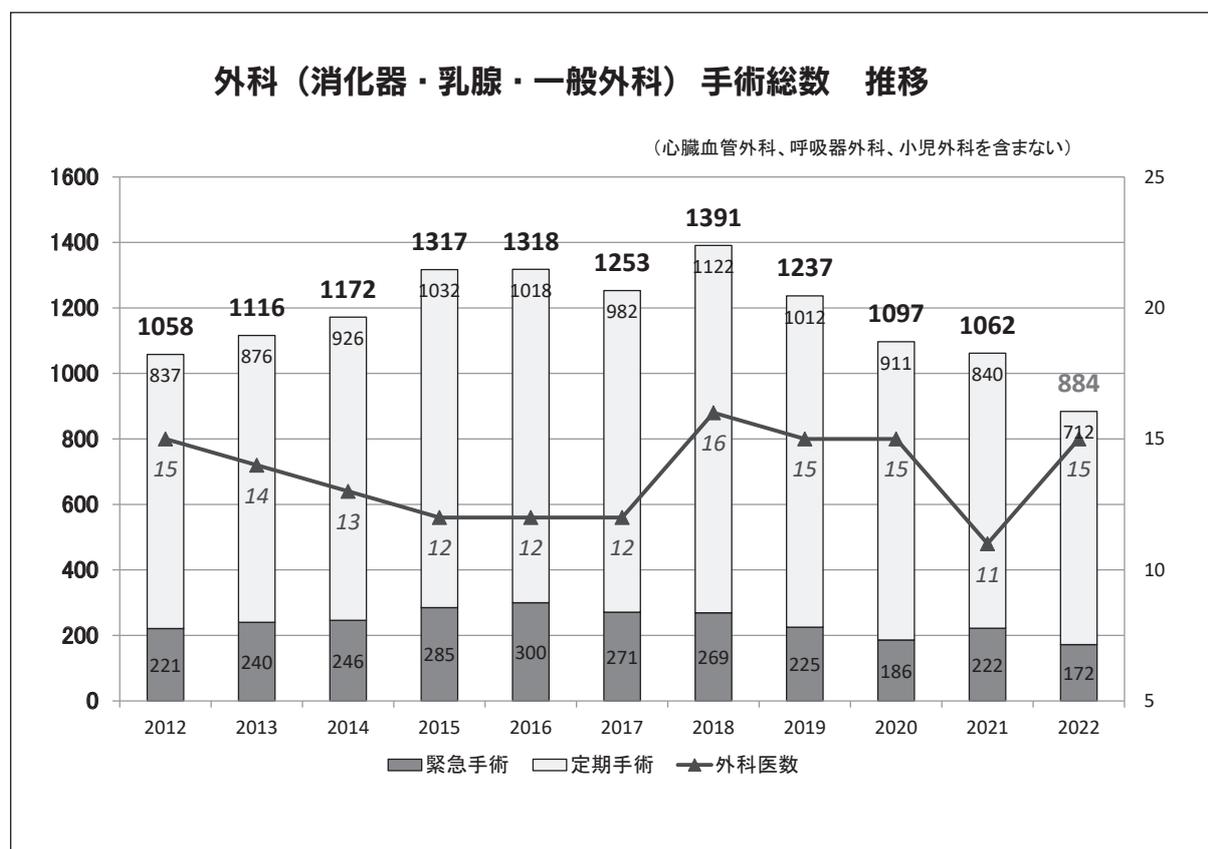
高齢化率の高い筑豊地域において、医学的・社会的問題を複数抱え併存疾患の多い高齢心不全患者がますます増加しています。急性期病院として疾患急性期の管理を行った後は、今後の再入院予防のための治療の最適化、教育、環境調整、アドバンストケアプランニング(ACP)など多面的なアプローチが必要になります。心不全ケア科は、慢性心不全認定看護師を筆頭に多職種よりなるチームによってこれらの問題に取り組み、総合診療科や連携・緩和ケア科と連携し心不全患者診療の仕組み作りを進めます。2023年には院内の心不全連携および院外地域連携への課題を洗い出し、回復期・慢性期へ繋げる取り組みを行っていきます。

19. 外科

外科統括部長 山下洋市

2022年はコロナ禍による複数回の診療・手術制限があり、『患者さんへかける迷惑を最低限に』と心を砕いた1年でした。外科の年間手術数はここ10年で初めて1,000例を下回り884例でした。消化器がんの手術、緊急手術ともに減少しています。これは一重に統括部長としての私の力不足によるものです。学会発表・論文発表等もまだ不十分です。スタッフ・専攻医で15名とマンパワーも増えております。新たな年に気を引き締めてメンバー一丸となって取り組みたいと思います。

6月に当科初めてのロボット胃手術を行い、確実に症例を積み重ねています。肝胆膵外科でも高難度腹腔鏡手術を開始しました。今後は、腹腔鏡下膵頭十二指腸切除の導入やロボット手術の適応拡大に尽力したいと思います。皆様には、温かいご声援とご協力をよろしくお願いいたします。



2022年 消化器・乳腺・一般外科 手術内容 (抜粋)

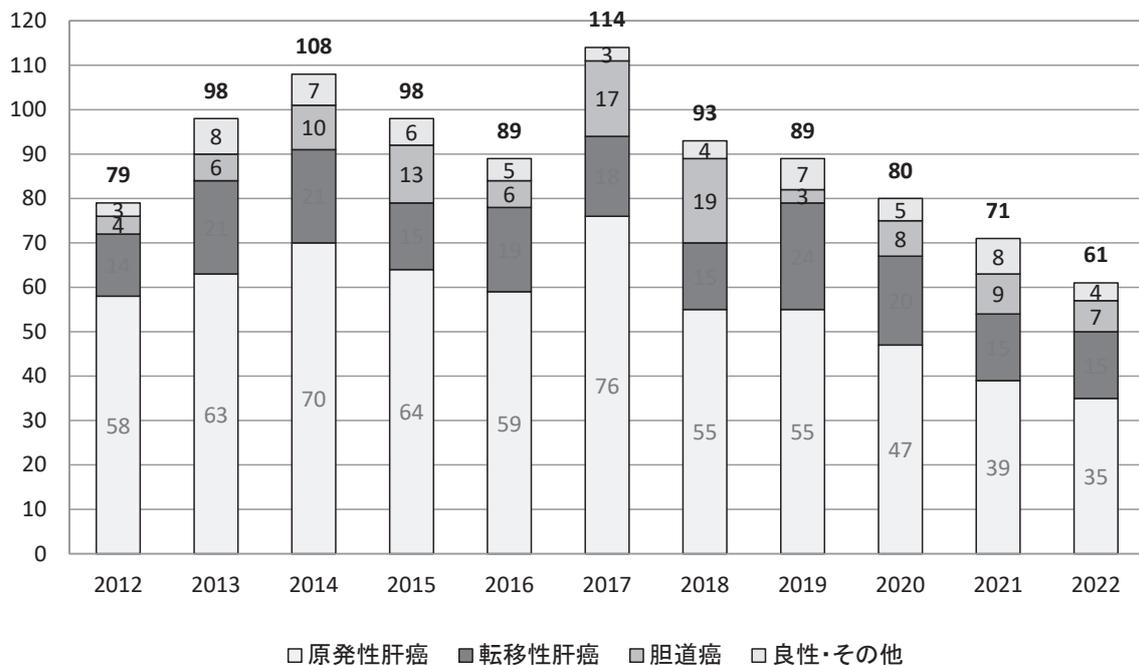
(呼吸器外科、小児外科、心臓血管外科症例は含まない)

総手術数(手術室内施行) 884例 ↓ うち急患手術 172例 ↓ (19.4%)

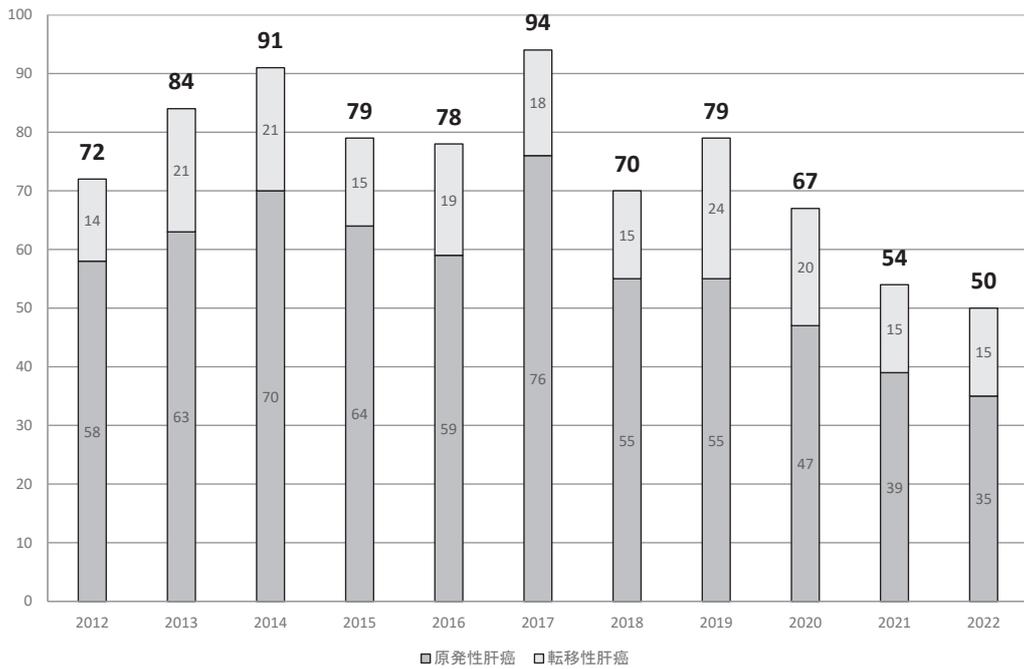
手術術式	症例数	疾患	症例数	術式	症例数	[鏡視下]
乳腺手術	123	乳がん	104	乳房切除	96	
食道手術	9	食道がん	8	食道切除	7	[7]
胃十二指腸手術	103	胃がん	85	胃全摘	22	[8]
				胃部分切除	62	[50]
				その他	19	
小腸・大腸・直腸手術	318	結腸がん 直腸がん	134	結腸切除術	144	[104]
				直腸切除術	18	[18]
				腹会陰式切断術	10	[10]
				虫垂切除術	40	[40]
肝臓手術	54	原発性肝がん 転移性肝がん	36	肝切除術	59	[26]
				拡大胆嚢摘出術	4	
胆道手術	101	胆道腫瘍 胆嚢結石症	18	膵切除	41	[5]
				PD	31	
膵切除	41	膵がん	38	体尾部切除	10	[5]
脾	2			胆嚢摘出術	86	[77]
				脾臓摘出術	3	[2]
ヘルニア手術	74	鼠径ヘルニア	54	鼠径ヘルニア根治術	54	[9]

(疾患数、手術術式数に重複あり)

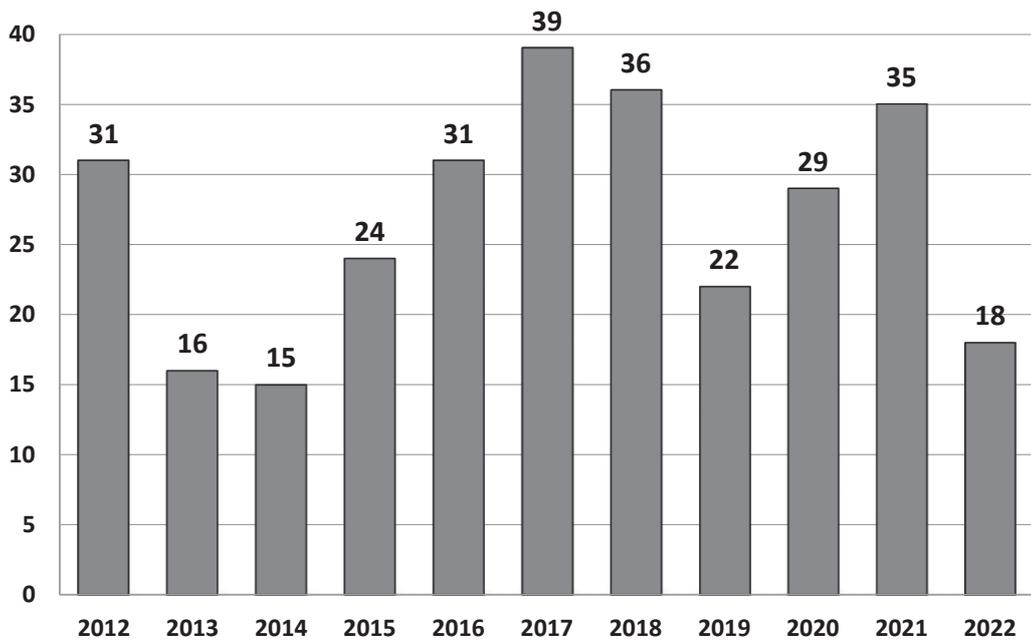
肝切除術数 推移 (疾患別)



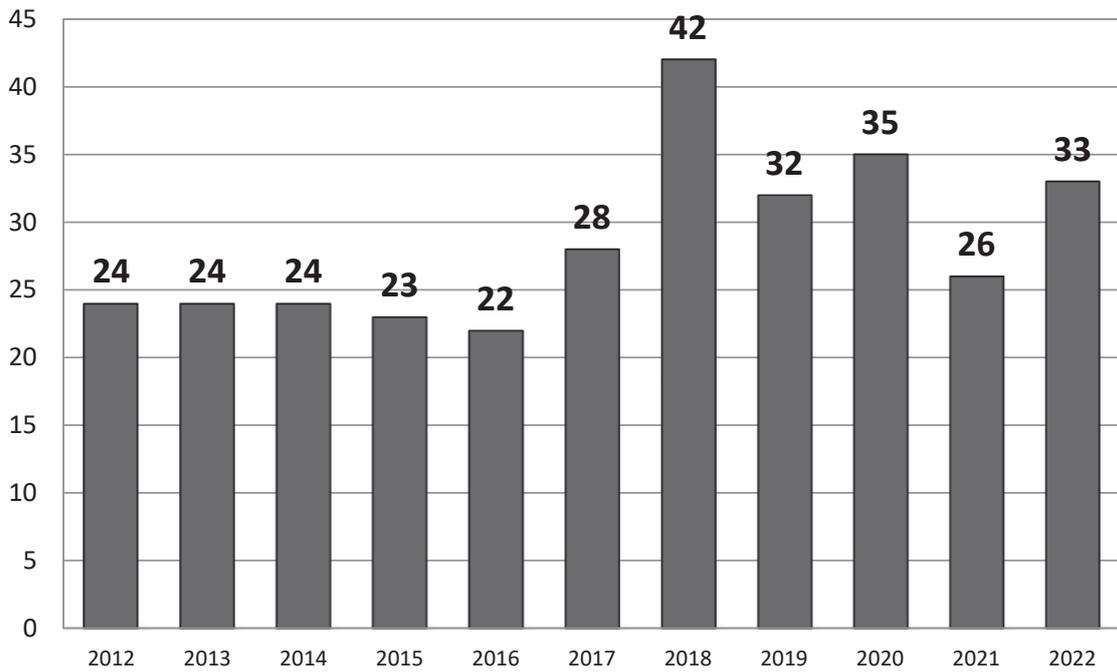
肝がん切除数 推移



胆道腫瘍手術 推移

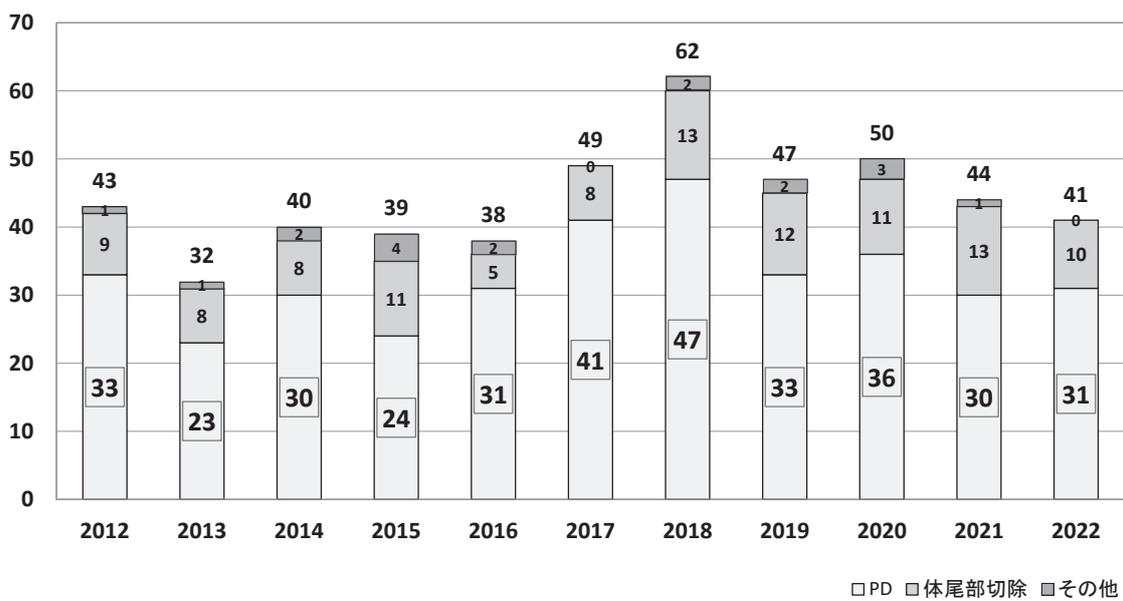


膵臓がん切除症例数 推移

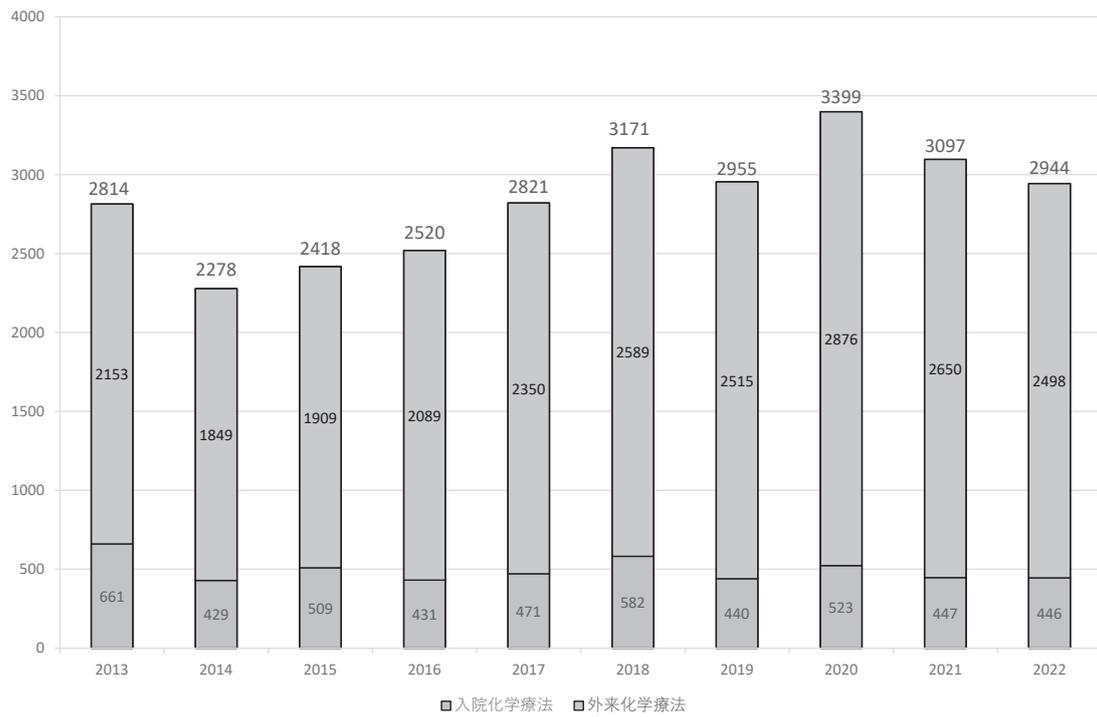


膵切除症例 推移 (術式別)

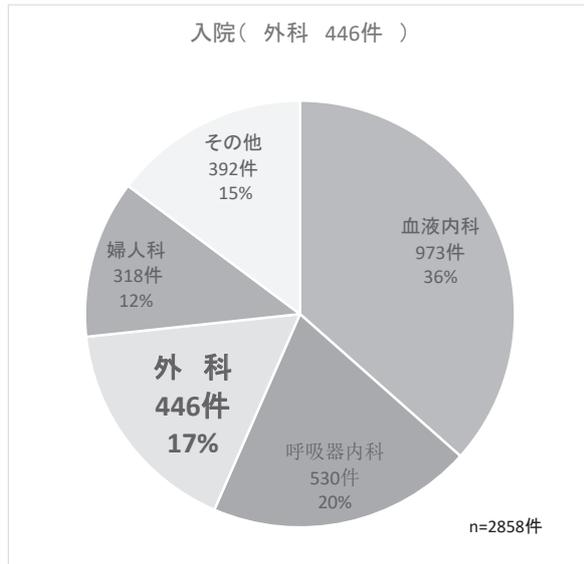
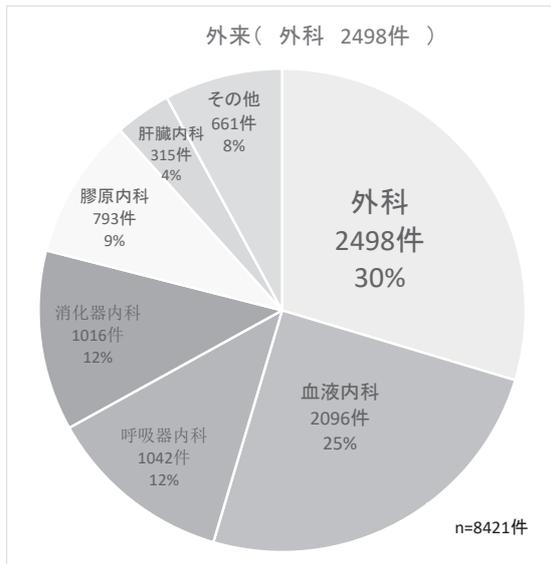
(膵腫瘍、胆道腫瘍などが対象)



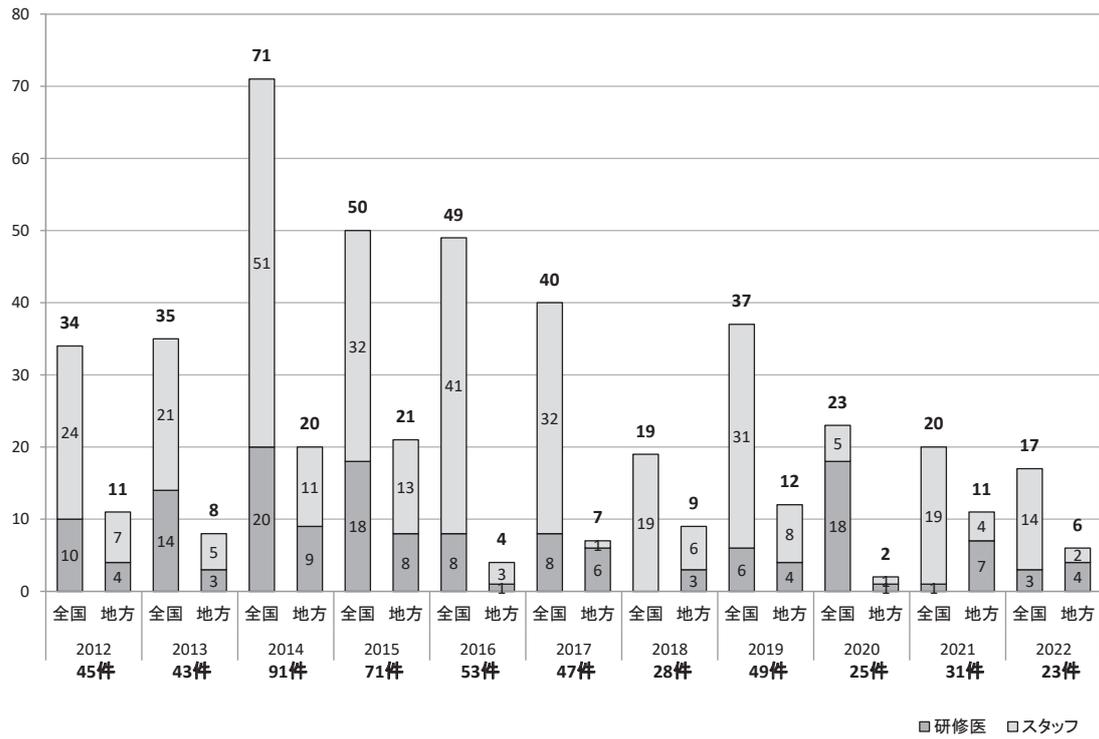
化学療法件数 推移



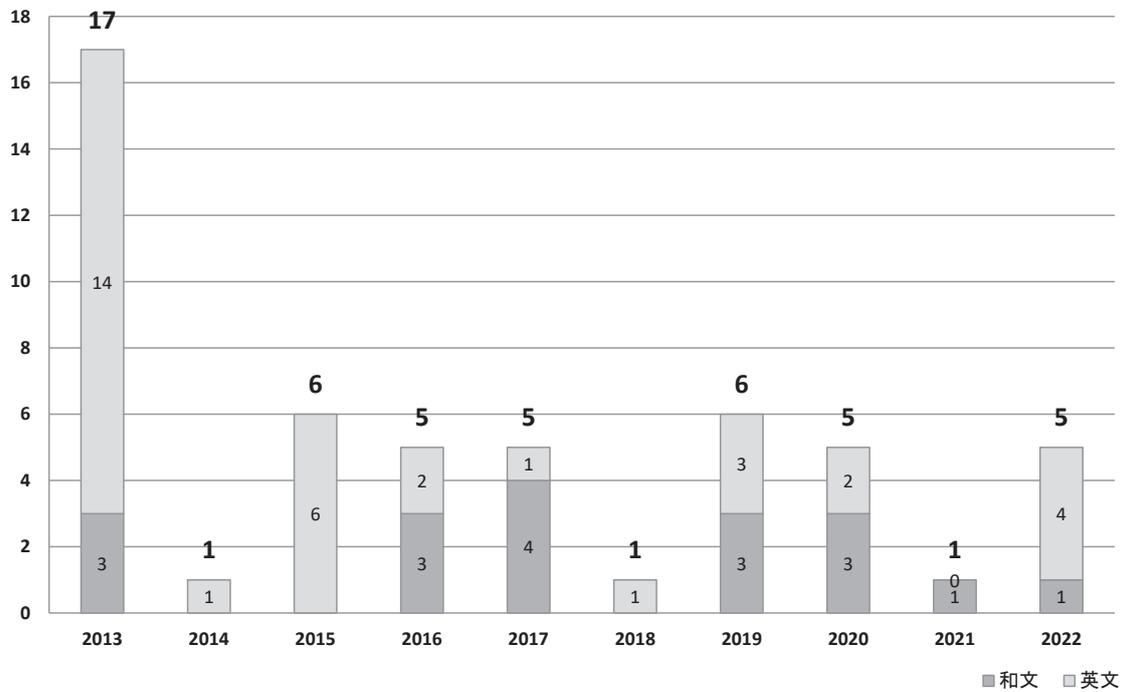
2022年 化学療法（院内比率）



学会発表



論文

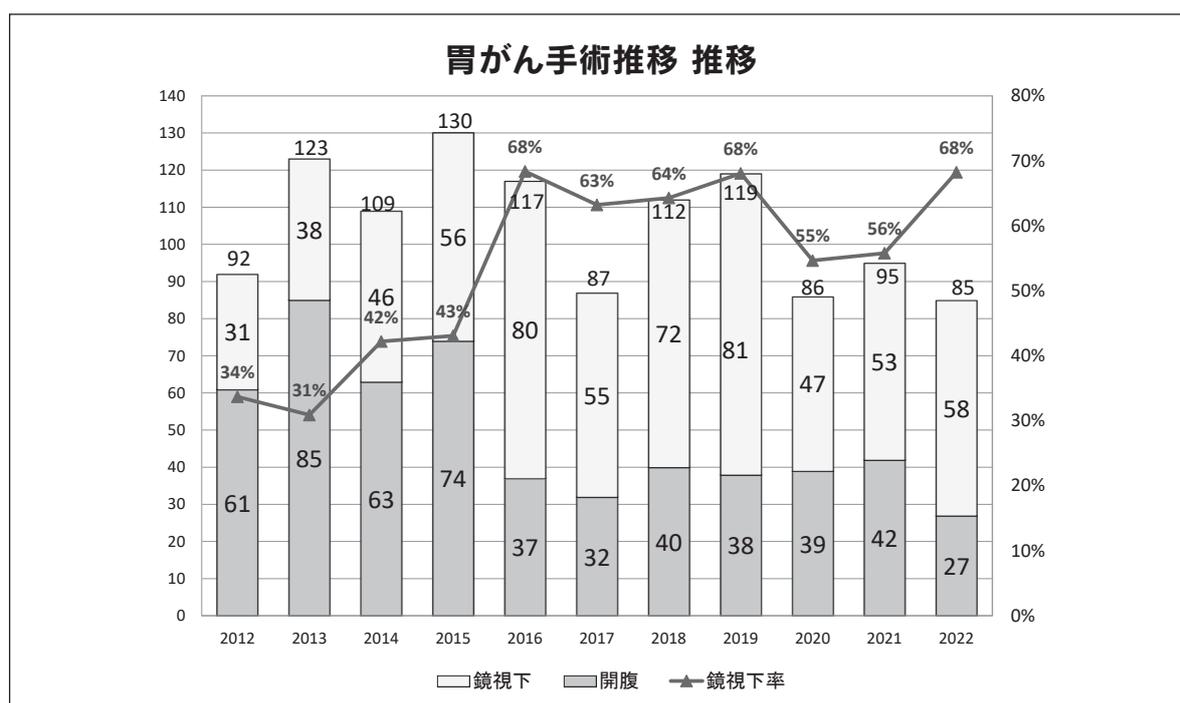


20. 消化管・内視鏡外科

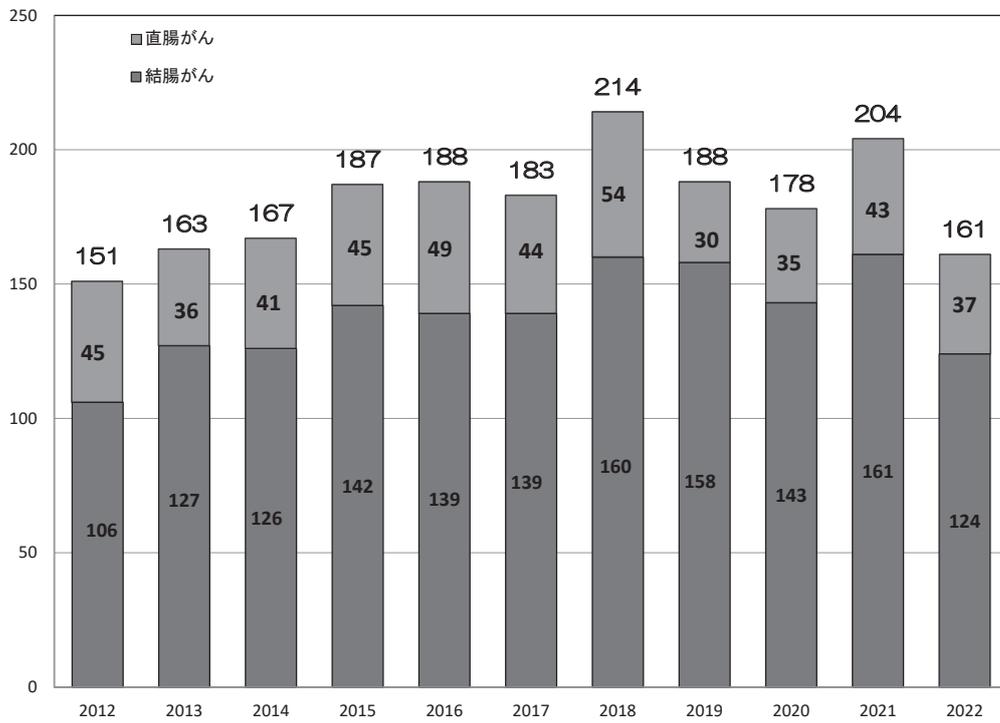
消化管・内視鏡外科部長 古賀 聡

2021年の外科人事の大幅減少のまま2022年が始まりましたが、4月5月7月と医師増加となり、元の体制に戻ることができました。特に外科統括部長の就任、消化管外科スタッフの増員、外科専攻医の増加は期待を上回りました。一方で、コロナ禍の影響や昨年的人员減の影響が続き、その回復のための工夫が必要です。さて、食道手術は大学からの専門医応援継続で9例と維持、胃癌手術数は85例で10例減、結腸/直腸手術は161例と43例減でした。しかし、2022年4月には当院でも胃癌手術のロボット手術支援装置の導入を認められ、6月には第一例目を行いました。以後、安全にロボット手術が施行できており、全例(18例)が術後大きな合併症なく退院できています。今後も安定した技術で患者さんへのより高度な医療提供を実現し続けていきたいと存じます。

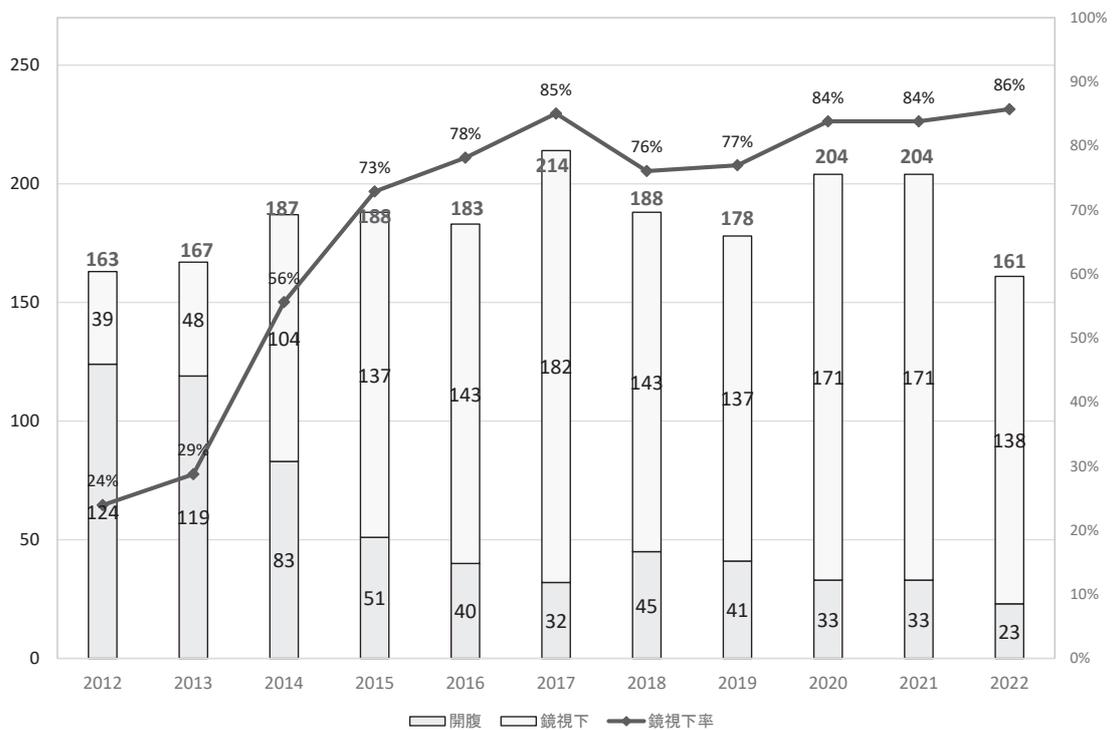
今後とも関係各機関の皆様には、温かいご声援とご協力をよろしくお願いいたします。



大腸がん切除数 推移



直腸・結腸がん切除 推移



21. 乳腺外科

乳腺外科部長 岡本正博

2022年3月まで外科の武谷医師が乳腺診療を担当しました。長期に渡り、地域の乳腺診療に尽力し、病院での診療実績もかなり伸ばしてくれました。

4月からは岡本に担当が交代し、7月からは乳腺外科が新設されました。

多くの患者さんにより丁寧に対応できるように、診察日を週4日に増やしました。ご紹介にもすぐに対応できる体制を作りたいと思っています。

また、週1回、多職種カンファレンスを開催し、情報共有を行うようにしました。コミュニケーション促進、医療安全や、診療レベルの向上に寄与すると期待しています。

乳癌の診療においては、周術期の薬物療法にアベマシクリブ、オラパリブ、S1、ペンブロリズマブなどの薬剤が適応追加されました。再発リスクや疾患の特徴に合わせて、最適化された治療を行うようにしています。



22. 小児外科

小児外科部長 竜田恭介

2022年の手術数、入院数はともに減少しており、手術数は100例に届きませんでした。2016年の184例より手術症例は年々減少している状況ですが、飯塚市の小児人口は2010年16856人、2022年は16079人と減少しているものの左程ではなく、小児人口減少のみでは説明できないと考えています。日本小児外科学会認定の教育関連施設を維持するためには手術症例が100例（3年平均）必要であるため、症例数増加に努めたいと思います。また飯塚市の小児救急の体制が変わるかもしれませんが、これに積極的に参加し、筑豊地域の小児医療に貢献しつつ、症例数増加に繋げたいと考えています。

入院・手術症例の年齢・性別内訳

	男			女			計		
	入院	手術	(緊急)	入院	手術	(緊急)	入院	手術	(緊急)
新生児 (0-30 生日)	0	1	(1)	0	1	(1)	0	2	(2)
乳児 (1-11 生月)	11	10	(0)	2	3	(1)	13	13	(1)
幼児 (1-5 歳)	32	34	(3)	9	9	(1)	41	43	(4)
学童 (6-12 歳)	17	18	(10)	12	11	(9)	29	29	(19)
思春期 (13-15 歳)	8	7	(6)	9	4	(3)	17	11	(9)
成人 (16 歳-)	0	0	(0)	0	1	(0)	0	1	(0)
計	68	70	(20)	32	29	(15)	100	99	(35)

主要手術症例

症例	疾患	手術
1	1 生日 男児 低位鎖肛	会陰式肛門形成術
2	1 生月 女児 肥厚性幽門狭窄症	Ramstedt 手術
3	4 歳 男児 経口摂取困難	腹腔鏡補助下胃瘻造設術
4	7 歳 女児 卵巢奇形腫茎捻転	卵巢奇形腫核出術
5	12 歳 男児 精索静脈瘤	腹腔鏡下精索静脈結紮術
6	12 歳 男児 精巣捻転	精巣摘出、対側精巣固定
7	14 歳 女児 頸部腫瘍	頸部腫瘍摘出術
	Vascular transformation of lymph node sinuses	

23. 整形外科

整形外科部長 原 俊彦

2023年度も筑豊地域の整形外科的な急性疾患・慢性疾患に対応すべく、万全の体制で臨みたいと考えております。2022年度は、2020年2021年度に引き続き新型コロナウイルス感染症流行とその混乱により振り回された一年でした。病棟内でのクラスター発生により急患患者を除く手術は延期した時期もありました。その様な中で当院整形外科では2022年度1009件の手術が行われ、その内255件が急患手術でした。2020年夏から始まった大腿骨近位部骨折症例への総合診療科の介入は様々な効果を生んでいます。2022年は4月から整形病棟に専属の総合診療医が入り内科的管理をして頂けるようになりました。整形外科では手術に向けた準備により時間を割ける体制となり、カンファレンスでの手術症例毎の充実した検討がなされています。また、病棟でも急変した患者さんに対して迅速で専門的な対応ができる体制になっています。合併症を抱える高齢者の骨折治療において本邦でも先進的なシステムであり、全国の病院に先駆けたモデルになればと考えております。秋に行われた西日本整形災害外科学会ではその成果を発表し高い評価を得ました。

飯塚病院では慢性疾患も多数治療しています。人工股関節、人工膝関節、股関節関節温存術、膝関節関節温存術で症例数を伸ばしております。脊椎外科疾患・手外科疾患についても、現在では総合脊損センター・溝口外科整形外科病院の協力により週一回の専門外来を行っております。筑豊地区の整形外科医療の発展のために今後とも連携構築・システムの拡充を図って参りたいと存じます。

【手術実績】

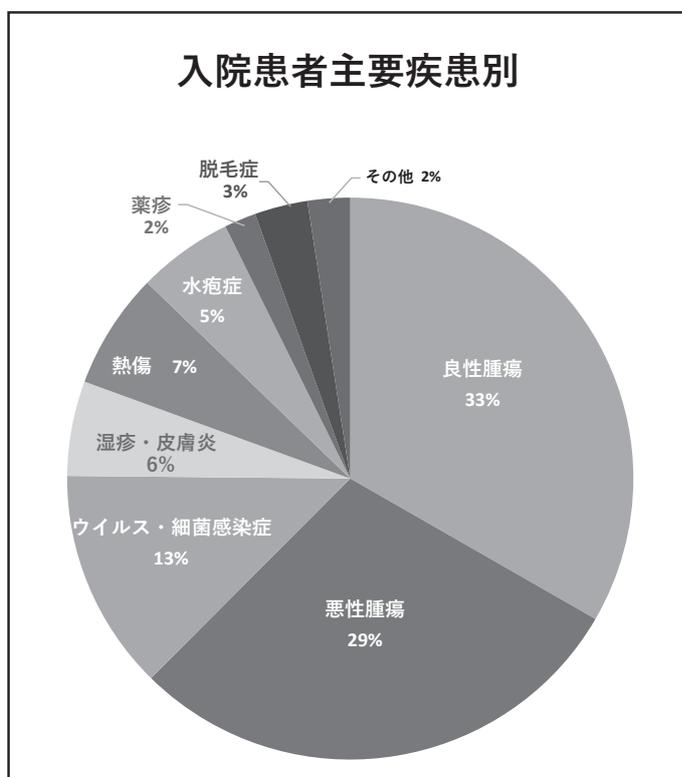
	当科分類	2022年	2021年	2020年	2019年
1	頰部骨折 - 骨接合	99	137	131	144
2	人工骨頭	35	57	52	64
3	人工膝関節置換術	69	69	47	53
4	人工股関節 / その他の人工関節	134	152	138	117
5	関節鏡視下手術	33	34	43	47
6	脊椎手術	6	2	11	3
7	手の外科（頰部以下の骨折含む）	313	381	446	523
8	骨折・脱臼	139	157	162	179
9	抜釘	73	77	70	105
10	関節形成術（骨切り他）	33	26	25	35
11	切断	12	9	10	11
12	骨・軟部腫瘍	6	11	13	17
13	外傷（その他）アキレス腱含む	7	6	30	17
14	関節外科（その他）	20	21	10	15
15	神経・骨軟部組織	0	0	2	2
16	その他	30	27	28	18
	合計	1009	1,166	1,218	1,350
	内急患手術	255	320	341	375

24. 皮膚科

皮膚科部長 井手豪俊

2022年も新型コロナウイルス感染症の猛威は相変わらずでしたが、積極的に生物学的製剤や分子標的薬の導入、また手術・入院治療を行うことで、コロナ禍にありながら比較的良好な業績を保持できました。皮膚科学の進歩は著しく、診療技術は飛躍的に向上しております。一方で、自己研鑽を怠ると取り残される時代です。常に知識を更新し、それを広く発信していくことは医師の使命と考えますので、本年も学会や講演会に演者や座長として積極的に参加致しました。また、医療を取り巻く環境が急激に厳しく変化していく中で、基幹病院としての役割を考え直し、時代に即した対応を取れるよう努めることも私の役割であると考え、当科の診療体制の見直しも積極的に行い、また継続していく所存です。

これからも診療や学術に慢心なく取り組む姿勢を忘れずに、スタッフ一同精進して参りますので、どうぞ宜しくお願い致します。



外来手術件数

1月	43	7月	87
2月	24	8月	55
3月	33	9月	55
4月	87	10月	76
5月	66	11月	77
6月	108	12月	46

計 757 件

うち、バイオプシー件数

1月	18	7月	43
2月	6	8月	26
3月	23	9月	26
4月	59	10月	40
5月	35	11月	35
6月	70	12月	22

計 403 件

手術室手術件数

1月	9	7月	21
2月	2	8月	17
3月	2	9月	7
4月	12	10月	17
5月	21	11月	18
6月	23	12月	11

計 160 件

うち

外来日帰り OP	42
OP 室 OP	118

うち、悪性腫瘍手術

基底細胞癌	25
有棘細胞癌	15
汗孔癌	1
脂腺癌	1
基底扁平上皮癌	1
ポーエン病	2
日光角化症	1

計 46 件

25. 泌尿器科

泌尿器科部長 中島雄一

2022年は常勤は1名増加し、5名となりました。非常勤は火曜・木曜に各1名（結石破碎）、金曜に排尿障害外来1名のままです。外来・入院数ともにCOVID-19の影響を受けかなり減少しています。また受診控えによるものか比較的重症 of の患者さんが増加した傾向にありました。昨年導入したダビンチ手術は比較的良好で、金曜の手術枠で施行しておりますが、予約が入りにくくなる状況になっています。また腹腔鏡手術やHoLEPの増加が見られています。薬物治療では免疫チェックポイント阻害薬と分子標的薬の併用などが出てきて治療法の幅がひろがってきています。2023年は新たな検査手技の導入などを検討しており、さらに連携パスの利用などを開始し地域連携を更にすすめ、手術例数の増加を目標としてゆきたいと考えています。

総手術件数 328 例

尿路腫瘍	(開放手術)	15 例	(内視鏡手術他)	313 例	
副腎			腹腔鏡下副腎摘除術	4	
上部尿路	根治的腎摘除術	1	ロボット支援腎部分切除術	16	
	開腹後腹膜腫瘍切除	1	腹腔鏡下腎摘除術	11	
			HAL s 腎摘	2	
	尿管尿管吻合術	1	腹腔鏡下腎摘→試験開腹	1	
			後腹膜鏡下腎摘除術	3	
				後腹膜鏡下腎尿管全摘	11
				後腹膜鏡下リンパ節生検	1
				尿管拡張術	1
				尿管異物摘除	1
	下部尿路	膀胱部分切除	1	腹腔鏡下尿管管切除術	1
ロボット支援前立腺全摘除術				27	
TURBT (経尿道的膀胱腫瘍切除術)				106	
TU 凝固術 (血腫除去、止血)				2	
経尿道的膀胱異物除去				1	
HoLEP				7	
経尿道的嚢胞切除				1	
Deflux 注入				1	
膀胱異物摘除				1	
泌尿生殖器	高位精巣摘除術	3			
尿路結石			TUL (経尿道的尿管結石碎石術)	57	
			膀胱碎石術	11	
その他	精索捻転手術	6	尿管鏡検査	8	
	陰嚢修復	1	腎膿瘍穿刺	1	
			後腹膜ドレナージ	1	
	真性包茎手術 (環状切除)	1	腎瘻造設	4	
			膀胱瘻造設	1	
			尿管ステント留置	23	
				SpaceOAR 挿入	6
				尿道拡張	2
				尿道外傷検査カテーテル留置	1

ESWL (体外衝撃波結石破碎術) : 施行件数	66 件	入院患者中パス適応者	304 件
前立腺生検	113 例	前立腺生検	113
		TURBT	103
		TUL	63
		GC 療法	22
		TURP (HoLEP に代用)	3

26. 産婦人科

産婦人科部長 辻岡 寛

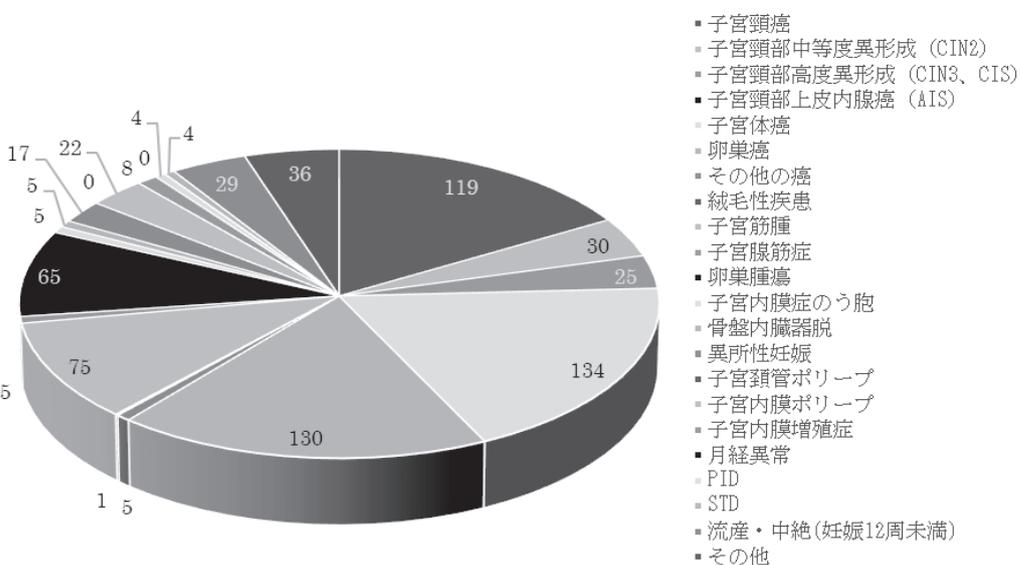
産婦人科領域において筑豊医療圏唯一の高次機能施設である当院は、ハイリスク周産期症例や、緊急性の高い婦人科症例、悪性疾患などを地域全体から受け入れる必要があります。これに加えて、新型コロナウイルス感染症の蔓延が妊産婦にまで波及したことにより、本来であれば一般の分娩施設での対応が可能であった症例も当院での分娩対応が要求される状況となりました。この一年は筑豊医療圏で発生したコロナ感染妊婦について地域全体で情報を共有し、周産期医療の提供が必要となった場合は全例を当院で受け入れるためのシステム構築を行いました。

また、助産師の主導の下、産後二週間健診の導入を中心とした産後ケア事業の拡充に取り組みました。今後はこれらの医療の公費負担を目指して行政と協議していくこととなりますが、地域の産後ケア事業の普及のための重要な一歩となったと自負しています。

婦人科入院統計

疾患	数
子宮頸癌	119
子宮頸部中等度異形成 (CIN2)	30
子宮頸部高度異形成 (CIN3、CIS)	25
子宮頸部上皮内腺癌 (AIS)	0
子宮体癌	134
卵巣癌	130
その他の癌	5
絨毛性疾患	1
子宮筋腫	75
子宮腺筋症	5
卵巣腫瘍	65
子宮内膜症のう胞	5
骨盤内臓器脱	5
異所性妊娠	17
子宮頸管ポリープ	0
子宮内膜ポリープ	22
子宮内膜増殖症	8
月経異常	0
PID	4
STD	4
流産・中絶(妊娠12周末満)	29
その他	36
計	719

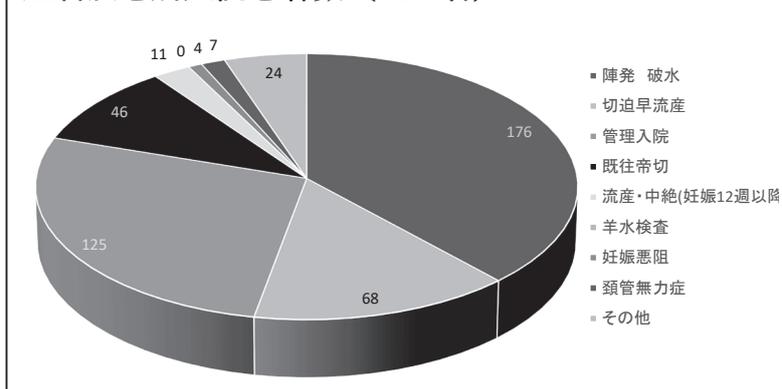
婦人科疾患別入院患者数 (719名)



産科入院統計

疾患	数
陣痛発来 破水	176
切迫早産	68
管理入院	125
既往帝切後妊娠	46
流産・中絶(妊娠12週以降)	11
羊水検査	0
妊娠悪阻	4
頸管無力症	7
その他	24
計	461

産科疾患別入院患者数 (461名)



産科統計

疾患	数
総分娩数	366
経膈分娩	191
帝王切開	175(47.8%)
多胎妊娠	11
中期分娩	12
早産症例	67(18.3%)
NICU入院	121(33.1%)
母体搬送受け入れ	128
母体搬送依頼	2

産婦人科手術統計

疾患	数
子宮頸癌(広汎子宮全摘術)	10
子宮体癌根治術(開腹)	20
子宮体癌根治術(腹腔鏡)	4
卵巢癌根治術	13
試験開腹	0
腹式単純子宮全摘術(ATH)	48(49%)
全腹腔鏡下子宮全摘術(TLH)	44(45%)
腔式子宮全摘術(VTH)	1(1%)
腹腔鏡補助下腔式子宮全摘術(LAVH)	4(4%)
腹式子宮筋腫核出術	3(50%)
腹腔鏡下子宮筋腫核出術(LM)	3(50%)
腹式付属器手術(付切、核出術含む)	20(33%)
腹腔鏡下付属器手術(付切、核出術含む)	41(67%)
腔閉鎖術	3
異所性妊娠(開腹)	0
異所性妊娠(腹腔鏡)	14(100%)
帝王切開術	175
子宮鏡下切除(子宮筋腫)	5
子宮鏡下切除(子宮内膜ポリープ)	20
子宮鏡下切除(子宮頸管ポリープ)	3
子宮鏡下子宮内膜焼灼術	0
子宮鏡検査	12
LASER蒸散術	17
子宮頸部円錐切除術	44
子宮内容除去術	32
子宮頸管縫縮術	11
その他	16
計	563(月平均46.9)

婦人科悪性腫瘍統計

疾患	数
子宮頸癌	24
子宮頸部上皮内腫瘍(CIN3・CIS)	33
子宮頸部上皮内腺癌(AIS)	4
子宮体癌(子宮癌肉腫含む)	28
子宮内膜異型増殖症	1
子宮肉腫	1
卵巢癌・腹膜癌・卵管癌	12
卵巢境界悪性腫瘍	5
腹膜癌肉腫	0
腔癌	1
高度腔上皮内腫瘍	1
外陰癌	0
胞状奇胎	0
臨床的侵入奇胎	0
原発不明癌	0
転移性子宮体癌	0
転移性子宮卵巢癌	5
計	115

27. 眼科

眼科部長 中間崇仁

2022年は引き続きコロナ禍の影響がある中での診療となりましたが、4月の異動により常勤医が4名から5名へと増員となり、2020年と同様のマンパワーに戻りました。その結果、年間手術件数は2021年以上とすることが出来ました。特に、手術までの時間を急ぐ網膜剥離などの眼科救急疾患の受け入れ能力が高まり、対応が迅速化したと感じています。その一方で、予定手術の待機期間長期化は未だに解消されておらず、引き続き課題として取り組んで参ります。

コロナ禍の影響で当院への紹介を制限させていただくなどご迷惑をおかけすることもあります。筑豊地区の眼科診療レベルを高めるために各課題に対して対策を講じていく所存です。引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

入院患者疾患別内訳（2022年）

病名	総数	急患	性別		年齢 (平均)	在科日数 (平均)
			男	女		
白内障	331	1	139	192	75	3.4
網脈絡膜疾患	136	30	87	49	63.6	6.9
緑内障	53	6	24	29	75.3	6.3
硝子体疾患	23	2	16	7	67.7	6.6
眼内レンズトラブル	13	0	7	6	78.7	5.2
水晶体疾患	12	1	5	7	67.1	5.2
角膜疾患	8	7	3	5	67.3	20
翼状片	6	0	5	1	72.2	2
眼瞼のその他の障害	6	0	1	5	46.8	2.5
虹彩及び毛様体疾患	1	0	1	0	58	7
視神経炎	1	1	1	0	35	12
その他	10	4	4	6	67.8	6.9
総計	600	52	293	307	71.5	4.9

手術室での総手術件数 [984件]

手術（内訳）	件数
水晶体再建術	658
緑内障手術	80
硝子体手術（網膜剥離）	212（48）
その他	34

（重複を含む）

28. 耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科部長 深堀光緒子

2022年度も新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い複数回の診療制限があり、飛沫を伴う良性疾患に対する手術制限を行うこととなりました。その影響をうけ咽頭・喉頭の良性疾患に対する予定手術数が減少しました。しかし急性炎症性疾患、気道緊急、急性難聴などの緊急入院をはじめ、悪性疾患の入院数は例年と比べ大きな変化はありませんでした。手術適応症例に対し積極的に手術を行うことになりましたが、化学放射線療法や免疫療法などの治療選択が拡大したこともあり、生命予後に加え機能温存の面でも患者さんにとって最善の医療が提供できるよう努めて参りたいと思います。

入院患者疾患別内訳（2022年）

病名	総数	急患	手術件数	性別	
				男	女
悪性腫瘍	123	8	59	92	31
中咽頭	31	1	5	25	6
喉頭	22	2	7	22	0
悪性リンパ腫	16	0	16	8	8
下咽頭	15	1	6	12	3
甲状腺	10	1	8	4	6
耳下腺	10	1	7	6	4
口腔	6	1	2	6	0
上咽頭	4	1	0	4	0
舌	3	0	3	3	0
転移性リンパ節	2	0	2	1	1
原発不明	1	0	1	0	1
食道	1	0	0	1	0
悪性軟部腫瘍	1	0	1	0	1
皮膚（顔面）	1	0	1	0	1
咽頭・扁桃・喉頭疾患	90	31	55	60	30
慢性扁桃炎	30	0	27	18	12
扁桃肥大	21	0	20	10	11
扁桃周囲膿瘍	18	18	1	13	5
急性咽頭炎	6	5	0	6	0
急性喉頭蓋炎	4	4	0	3	1
急性扁桃炎	2	1	1	1	1
声帯ポリープ	2	0	2	2	0
声帯白斑症	2	0	2	2	0
嚢胞	2	0	2	2	0
慢性咽喉頭炎	1	1	0	1	0
その他	2	2	0	2	0
外耳・中耳・内耳疾患	21	0	20	14	7
中耳真珠腫	11	0	11	9	2
中耳炎	5	0	5	4	1
外耳炎	4	0	3	1	3
その他	1	0	1	0	1
口腔・唾液腺・顎	10	4	4	4	6
膿瘍	4	2	1	2	2
唾石症	2	0	2	0	2
その他	4	2	1	2	2
神経麻痺	5	4	0	1	4
顔面神経麻痺	5	4	0	1	4
鼻・副鼻腔疾患	42	1	41	24	18
慢性副鼻腔炎	24	0	24	13	11
肥厚性鼻炎	5	0	5	3	2
嚢胞	4	0	4	3	1
急性副鼻腔炎	3	1	2	1	2
アレルギー性鼻炎	2	0	2	2	0
鼻中隔彎曲症	2	0	2	2	0
副鼻腔真菌症	2	0	2	0	2
良性腫瘍	28	0	27	13	15
耳下腺・顎下腺	12	0	12	6	6
甲状腺	6	0	6	3	3
鼻腔・副鼻腔	4	0	4	2	2
その他	3	0	3	0	3
咽頭・喉頭	3	0	2	2	1
その他	44	16	22	25	19
突発性難聴	10	2	0	6	4
結核性リンパ節炎	2	0	2	0	2
その他	32	14	20	19	13
総計	363	64	228	233	130

29. 脳神経外科

脳神経外科部長 名取良弘

2022年も新型コロナウイルス感染症の対応抜きには診療は出来ない年となりました。しかしながら、2021年と比較して、入院数などをまとめると、脳神経系専門病床で院内クラスター発生の影響を受け5%程度減少したものの、年間手術総数は、10%増加し、304件と300台に復帰しました。

ウィズ・コロナになって、高齢者を中心として頭部外傷疾患が減少しているのは、本年も同様でしたが、昨年まで減少していた破裂脳動脈瘤症例は、2021年25件から2022年は38件とコロナ前に戻りました。変化したことは破裂脳動脈瘤の対応でした。今までは、開頭クリッピング術と、脳血管内手術としての脳動脈瘤塞栓術の割合が、2:1で開頭クリッピング術が優位でした。しかし、本年はその割合が逆転し、13例:25例で、脳血管内手術優位となりました。引き続き、虚血性脳卒中への急性期の脳血栓回収術は増加しております。これは関連各部署（特に脳神経内科）との連携の賜と思われれます。

人事では、3月末に雨宮健生先生が九州医療センターへ、林大輔先生が浜の町病院へ異動され、4月1日より迎伸孝先生と要名本あゆみ先生が九州大学病院から赴任されました。

現在当院は、脳神経外科専門医7名、血管内治療専門医2名を擁する体制となり、病床が許す限り24時間365日対応することが盤石となりました。今後とも、地域に貢献する脳神経外科医療の実践に励む所存です。

総退院患者数 523 名 急患者数 313 名

1. 日本脳神経外科学会 研修施設
2. 脳神経外科の病床数：30～60床
3. 年間入院症例数：561名
4. 専従脳神経外科医数：専門医6名 専修医1名
5. 年間手術総数：304件

脳腫瘍	a. 脳腫瘍摘出術	17	
	b. 脳腫瘍生検術	9	
	c. 経蝶形骨洞手術	2	
脳血管障害	a. 破裂動脈瘤	13	
	b. 未破裂動脈瘤	3	
	c. 脳動静脈瘤奇形	2	
	d. 血管吻合術	1	
	e. CEA	5	
	f. 高血圧性脳出血 開頭血腫除去術	10	
	定位(穿頭・内視鏡)手術	4	
	穿頭ドレナージ術	15	
	その他	0	
外傷	a. 急性硬膜外血腫	4	
	b. 急性硬膜下血腫	4	
	c. 減圧開頭術	4	
	d. 慢性硬膜下血腫	89	
	e. その他	3	
水頭症	a. 脳室シャント術	7	
	b. 内視鏡手術	1	
	c. その他	6	
奇形	a. 頭蓋・脳	0	
機能的手術	a. 脳神経血管減圧術	0	
血管内手術	a. 動脈瘤塞栓術 (破裂動脈瘤)	25	
		(未破裂動脈瘤)	5
	b. 動脈奇形 (脳)	2	
		(脊髄)	
	c. 閉塞性脳血管障害の総数	34	
		(上記の内ステント使用例)	14
	d. その他	5	
その他		20	

30. 歯科口腔外科

歯科口腔外科部長 石井広太郎

2022年は歯科口腔外科にとって躍進の1年であった。特に顎関節疾患への治療体制の充実、2021年目標にしていた以上の成果となった。1月に顎関節学会研修施設の認定を取得し、2月に顎関節内視鏡導入、3月には実際に手術を着手し、飛躍的に拡充することができた。その後は毎月のように顎関節疾患で悩む患者のニーズに答えている。顎関節内視鏡視下手術は全国でも50施設程度でしか行われていない手技であり、今後は九州一円からの患者受け入れへ邁進していく所存である。これに加え8月には人工顎関節全置換術施設認定取得、10月には日本口腔外科学会研修施設認定を取得し、これまで以上に筑豊地域の口腔外科専門医療機関としての責務を全うしていかなければならず、7名に増員となった歯科衛生士と協力し、コロナに負けず賑やかに、また精力的にOneTeamで診療にあたっていきたい。

2022年 診療実績

手術症例	件数
抜歯（正中埋伏過剰歯、埋伏智歯等）	135
嚢胞（含歯性嚢胞、歯根嚢胞等）	26
外傷	9
良性腫瘍	10
悪性腫瘍	11
炎症（顎骨周囲炎、下顎骨骨髓炎等）	24
骨整形・サイナスリフト	18
インプラント埋入	18
全麻/静脈鎮静下歯科治療	22
唾液腺	6
顎関節疾患	22
その他	14
計	315

31. 心臓血管外科

心臓血管外科部長 内田孝之

2022年は持続するコロナ禍で一時手術停止などもありながらも、手術件数は、経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）19件を含め人工心肺、心臓手術が156件、非開心術、大動脈ステントグラフトまで含めた心臓大血管手術が246件と2021年以上の症例をご紹介いただき感謝しております。

新型コロナウイルス感染症の5類変更が現実となりつつあり、その後再燃するであろう病院機能の適正化、振り分けの波、そしてそれがwithコロナの中で進みゆく時代の到来を考えると、いろいろな点での技術革新の継続、構造改革がより求められるように感じています。まさに選ばれる急性期病院への道として正念場とも思われます。

当科、当院循環器病センターとしてのwithコロナの日常化への取り組みとしては弁膜症疾患、大動脈疾患の早期発見のためのあらたな仕組みの確立、地域の先生方とのオンライン症例相談などができるコミュニケーションシステム開発があり、後者はコンピュータウイルス対策で少し遅れたものの、2023年3月よりまずは限定的ながら運用開始にこぎ着けたところです。

手術技能については、MitraClip導入サポートに加え、低侵襲心臓手術として大動脈弁置換術への適応拡大も行いました。右側胸部の小さな創から手術を行うMICS（低侵襲小切開）のことですが、これまでの僧帽弁手術、心房中隔欠損症、三尖弁手術に加え、徐々に対象症例を増やしています。MICS実施医の資格も取得、今後はダビンチなどのロボット心臓手術も視野に入れてより技術研鑽を重ねたいと考えています。TAVI、MitraClip、もちろん従来からの標準弁膜症手術とあわせて個々の患者さんに最適な治療法を提供できるよう努力する所存です。

最後に、我々の常に変わらぬ大きな目標は、よりよい手術、治療の提供、その質の向上です。今後はこれに最新の仕組みでの治療提供が出来るような診療スタイルへの構造改革も含め、進化していきたいと思えます。

2022年 診療実績

手術症例数

- CABG：44 (OPCAB:1)
- VHD：67 (+CABG:15、MICS:7、TAVI:19)
- TAA：72 (+VHD:5、+CABG:5、TEVAR:31)
- その他の開心術：4

心臓+胸部大動脈手術：187

- AAA：57 (EVAR:42)、追加治療：12
- ペースメーカー 新規：124、交換：47、リード：10
- ICD 新規：15 (s-ICD 6例含む) 交換：7
- CRTD 新規：7、CRTP 新規：10、CRT 交換：3
- その他：65

※下肢血管手術は血管外科に記載

32. 血管外科

血管外科部長 松元 崇

2022年の飯塚病院血管外科ですが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う第6・7・8波に伴う診療制限の影響を受けたものの、最終的には例年と同程度の手術件数を維持することができました。

末梢動脈疾患においては、いわゆる重症虚血肢（包括的下肢慢性虚血）に対する血行再建（バイパス手術・EVT・ハイブリッド）を中心に診療を行っております。

下肢静脈瘤については、血管内レーザー焼灼術およびグルー治療のいずれの治療法も選択可能となっております。さらなる低侵襲化の試みとして、これまで小切開を要していた側枝静脈瘤に対する瘤焼灼術を始めました。穿刺のみで治療が完遂でき、皮膚切開が不要なため術後の傷が目立たず、抗凝固薬を服用されている方でも出血などのトラブルが少ない治療となっております。

今後も一層のご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしく願いいたします。

2022 年診療実績

手術症例数

末梢動脈疾患

バイパス移植術：24（下腿・足部動脈：12、膝下膝窩動脈7、その他5）

EVT：26（含むハイブリッド治療7）

動脈血栓内膜摘出術：11、動脈塞栓除去：4

末梢動脈瘤手術：4、血管吻合術：27

静脈疾患

下肢静脈瘤血管内焼灼術：66

腹部大動脈瘤・腸骨動脈瘤（心臓血管外科と重複あり）

人工血管置換：15、EVAR：40

その他：5

総手術数 224 例

33. 脳神経内科

脳神経内科部長 高瀬敬一郎

飯塚病院脳神経内科は例年脳神経救急疾患が診療の主軸であり、この1年もその傾向は同様です。脳神経内科では入院患者の8割が急患入院です。なかでも最も多いのが脳梗塞で、年間380人前後が脳梗塞で入院されます。2022年は2021年に比べ80人程度減少していますが、これはコロナ過のため軽症の脳梗塞の患者が減少したためと考えています。超急性期血栓溶解療法（t-PA療法）は積極的に行っています。2022年には計23人に行い、患者数は例年並でした。また脳神経外科の協力の下、カテーテルを用いた超急性期血栓回収療法も計24人に行いました。また脳梗塞、てんかん重積状態、髄膜炎・脳炎などの救急神経疾患以外にも、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、パーキンソン病などの神経変性疾患や、多発性硬化症、重症筋無力症などの神経免疫疾患なども、筑豊地域唯一の神経難病専門病院として、引き続き数多く診療しております。認知症は外来で「物忘れ外来」として診断を中心とした診療をしています。てんかん専門外来や片側顔面けいれん等へのボトックス治療も行っております。

2022年 入院患者内訳

総退院患者数	601件
急患数	483件
死亡数	23件
剖検数	1件

疾患名	件数	疾患名	件数
脳血管障害	373	多発性硬化症／急性散在性脳脊髄	0
脳梗塞	358	重症筋無力症	21
脳出血	0	筋疾患	6
TIA	15	脊髄疾患	1
意識障害	2	脊髄炎	1
脳症	0	頸椎症・腰椎症	0
感染症・炎症	5	脊髄血管障害	0
髄膜炎	2	痙性脊髄麻痺	0
脳炎	3	その他の脊髄症	0
クロイツフェルト・ヤコブ病	0	末梢神経障害	36
神経梅毒	0	てんかん／けいれん	73
変性疾患	48	認知症／健忘症	3
パーキンソン病	11	中毒	0
パーキンソン症候群	5	代謝性疾患	0
脊髄小脳変性症	5	腫瘍性疾患	1
筋萎縮性側索硬化症	22	心因性疾患	1
その他の変性疾患	5	その他	28

34. 漢方診療科

漢方診療科部長 田原英一

2022年の漢方診療科は新型コロナウイルス感染症の影響で受診患者数は減少しましたが、外来ではやはり新型コロナウイルス感染症の後遺症およびワクチン接種後の不調を訴える患者さんが増加し、漢方医学的に気うつ、水毒、冷えなどに相当する病態が多い様です。漢方薬による新型コロナウイルス感染症の治療効果に関する学会主導研究も公開されました。学生および研修医等の実習も減少しましたが、実習内容の見直しを行っています。対外的に行ってきた様々な勉強会、研究会はWebでの開催に切り替えが進み、以前と同じように定期的に開催するとともに、これまで近隣地域が対象であったものが全国からアクセスをいただいております。また一般啓蒙向けのYoutubeも続々公開しております。

2022年診療実績

入院患者疾患別内訳

病名	総数	急患	性別		年齢 (中央値)	在科日数 (中央値)
			男	女		
その他	10	3	2	8	33.5	16
倦怠感	2	1	1	1	31	16.5
COVID-19	1	0	0	1	33	14
COVID-19後遺症・詳細不明	1	1	0	1	34	22
下肢単純性血管腫	1	0	0	1	49	16
その他の明示された全身症状及び徴候	1	0	0	1	52	16
腰椎圧迫骨折	1	0	0	1	85	34
他に分類されないその他の慢性疼痛	1	1	0	1	31	29
頭痛	1	0	1	0	16	10
腹痛	1	0	0	1	16	16
筋骨格・結合組織疾患	1	0	0	1	60	15
混合性結合組織病(MCTD)	1	0	0	1	60	15
呼吸器疾患	1	1	0	1	81	1
肺炎, 病原体不明, 詳細不明	1	1	0	1	81	1
循環器疾患	6	0	1	5	13.5	16
起立性調節障害	6	0	1	5	13.5	16
消化器疾患	2	2	0	2	47	17.5
過敏性腸症候群(下痢を伴う)	1	1	0	1	38	18
非感染性胃腸炎および非感染性大腸炎, 詳細不明	1	1	0	1	56	17
神経系疾患	1	0	0	1	23	15
自律神経障害, 詳細不明	1	0	0	1	23	15
精神疾患	3	1	1	2	37	28
うつ病エピソード, 詳細不明	1	0	0	1	30	32
心因性食欲不振・摂食障害	1	0	1	0	37	5
疲労症候群	1	1	0	1	55	28
尿路性器系疾患	1	1	0	1	39	15
月経前緊張症	1	1	0	1	39	15
皮膚疾患	3	0	1	2	31	28
アトピー性皮膚炎, 詳細不明	3	0	1	2	31	28
総計	28	8	5	23	32	16

35. 救急科

救急科部長 山田哲久

当院は、人口およそ40万人の筑豊地域唯一の三次救急施設です。筑豊地域最後の砦としての役割を担うために、救急科医師（スタッフ・後期研修医・専攻医）が365日24時間救急患者に対応しています。従って、一次二次症例は積極的に受け入れをお断りしています。一次二次医療機関からの紹介や救急隊からの受け入れも、三次症例でなければ基本にお断りしています。当院でなければ受け入れが困難な症例を厳選して受け入れることを目指しています。

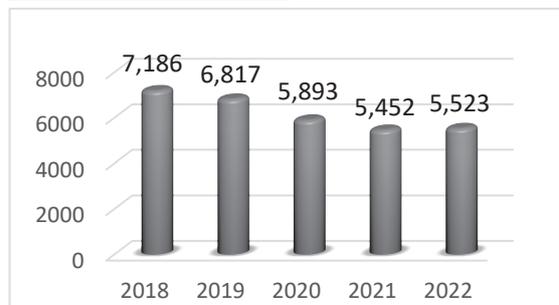
救急科医師は搬送患者の状態を迅速に安定化させ、各専門科医師に引き継ぐ役割を担っております。当科の特色の一つに、病院車運用方式でラピッドレスポンスカーによるドクターカーの運用があります。現場から傷病者に対する診断、処置を開始します。本事業は筑豊地域の救命体制の中心的役割を果たしていると考えています。

教育面では、当院は臨床研修指定病院であり、初期研修医および院外からの後期研修医・専攻医は救急科をローテーションすることを必須としています。救命救急センターでは、救急科医師（スタッフ・後期研修医・専攻医）のバックアップのもと、研修医が初期診療を行います。当院の救命救急センターは、症例数が豊富であり、研修医にとって修練の場として最適な環境となっています。従って初期診療は専門科ではなく研修医が行います。

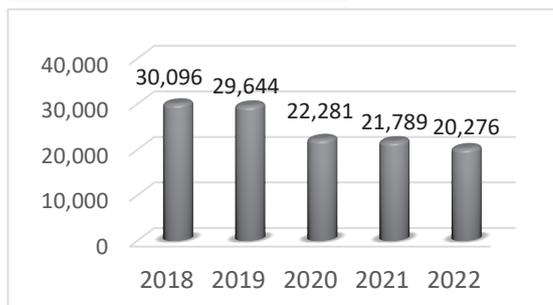
以上、今後も筑豊地域の救急医療に貢献させていただくことが出来たら幸いです。

1) 救命救急センター統計

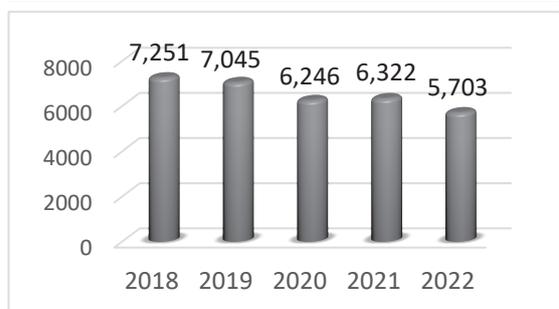
①救急車受入件数推移



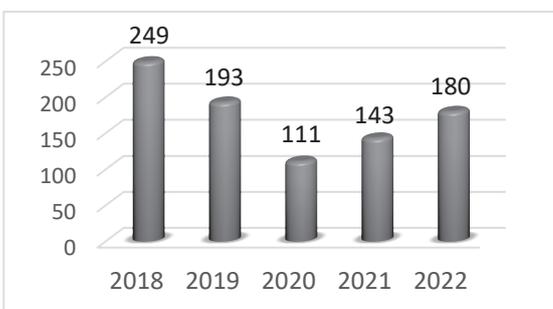
②センター受診患者数推移



③センター経由入院患者数推移（全診療科）



④ドクターカー出動件数



2) 主な症例別件数

・外傷	253例	・脳卒中	497例
AIS ≥ 3	192例	脳梗塞	254例
ISS ≥ 16	88例	くも膜下出血	58例
・CPA	296例	脳出血	185例
救外死亡	227例	・急性冠症候群	229例
入院	67例	心筋梗塞	196例
転医	2例	狭心症	33例
帰宅	0例	・急性大動脈解離	78例
（入院後転帰）		・敗血症	159例
死亡	45例		
帰宅	8例		
転医	10例		
入院中	4例		

36. 集中治療科

集中治療科部長 吉野俊平

12床で構成される集中治療室（以下、ICU）は、集中治療を専門とするスタッフにより院内急変や救急搬送された重症患者に対する集中治療管理、および外科系患者の周術期管理などを行っています。現在、集中治療専門医3名と集中ケア認定看護師1名を含む多職種が、主科と密に連携を取りながらクローズドICU（すべてのICU患者に対して集中治療医が診療に携わり、他の主治医がいたとしてもその主治医とともに患者さんに対しての責任を共有しているICU）として運営しています。

2022年の入院患者数は586名、疾患別順位は心血管疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、代謝性疾患で、同年の生命維持装置の装着患者は人工呼吸器393名、血液浄化療法149名、経皮的心補助装置29名でした。人事関連では専攻医18名、初期研修医6名がローテイトしてくれました。今後とも診療の質や安全性の更なる向上を目指して努力して参ります。

2022年 ICU入室患者

全入室患者数	586名
平均年齢	69.7 (0～97) 歳

入院経路	
緊急	441名 (75.3%)
予定	145名 (24.7%)

性 別	
男性	367名 (62.6%)
女性	219名 (37.4%)

平均在室日数	4.6日
ICU内死亡	38名 (6.4%)

疾患別		
心血管	計	316
	手術後	190
	心停止	54
	急性心筋梗塞	31
	その他	41
呼吸器	計	94
	手術後	20
	誤嚥性肺炎	19
	ウイルス性肺炎	13
	その他	42
消化器	計	62
	手術後	30
	消化管出血	13
	消化器の炎症 / 感染	12
	その他	7
代謝性	計	48
	薬物中毒	8
	糖尿病性ケトアシドーシス	7
	その他	33
敗血症	計	27
	敗血症性ショック *臓器分類不明	16
	尿路感染症による敗血症性ショック	11

外傷	計	13
	手術後	6
	頭部を含まない外傷	5
	頭部を含む外傷	1
神経系	熱傷	1
	計	10
	てんかん / 痙攣	7
泌尿生殖器	その他	3
	計	4
	泌尿器疾患	3
	手術後	1
産婦人科	計	4
	妊娠関連疾患	3
	手術後	1
筋骨皮膚	計	6
	蜂窩織炎 / 軟部組織感染症	3
	手術後	3
血液疾患	計	2
	血液関連疾患	2

37. 形成外科

形成外科部長 井野 康

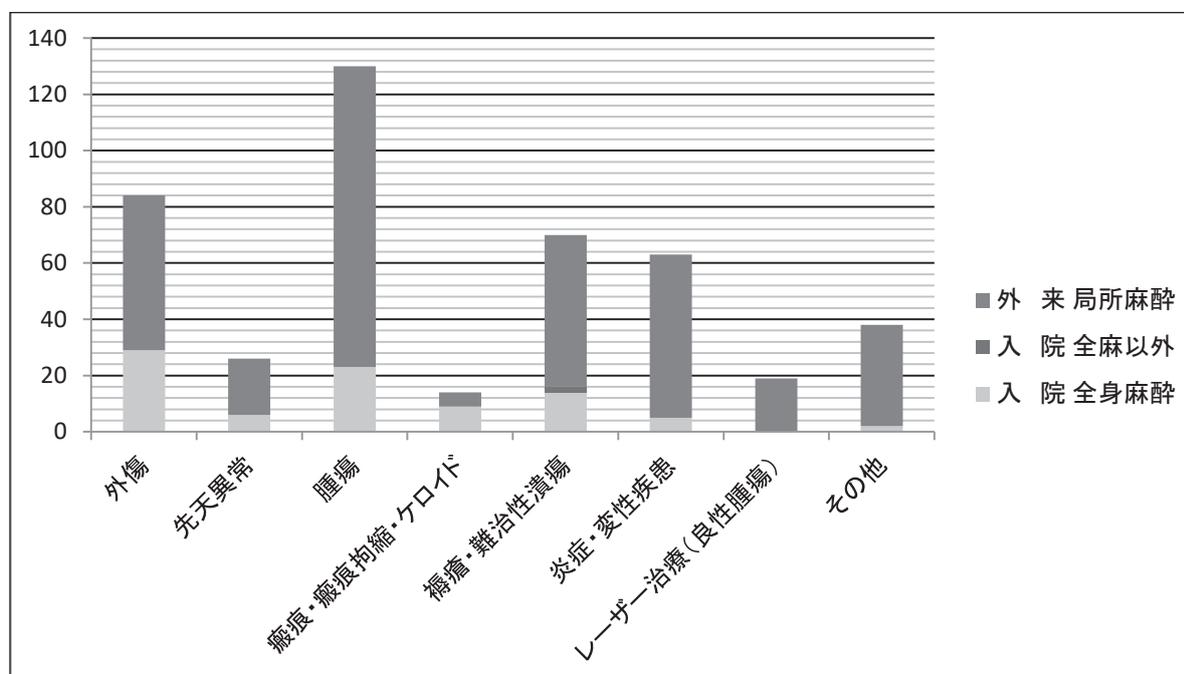
現在、飯塚病院形成外科は井野康、中村薫乃の常勤2名と、非常勤として、清川兼輔（久留米大学形成外科・顎顔面外科学講座 主任教授）の、常勤2名・非常勤1名体制で診療を行っています。

顔面骨折や皮膚腫瘍、難治性潰瘍などを主体に診療を行っています。また、眼瞼下垂症の患者さんなどの日帰り手術も増加しています。近年増加傾向にある糖尿病足病変を始めとして、重症下肢虚血に対しては、総合診療科、血管外科や循環器内科、内分泌・糖尿病内科、腎臓内科、リハビリテーション科と連携した診療を行い、頭頸部腫瘍では、耳鼻咽喉科と連携した頭頸部再建手術などのチーム医療を積極的に行っています。

今後も筑豊地区の基幹病院に所属する一員として、より一層充実した医療を地域の皆様に、ご提供できればと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

手術件数内訳

区 分	入院		外来		計
	全身麻酔	全麻以外	全身麻酔	局所麻酔	
外傷	29		0	55	84
先天異常	6		0	20	26
腫瘍	23		0	107	130
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	9		0	5	14
褥瘡・難治性潰瘍	14	2	0	54	70
炎症・変性疾患	5			58	63
レーザー治療（良性腫瘍）	0		0	19	19
その他	2		0	36	38
合計	88	2	0	354	444



38. リハビリテーション科

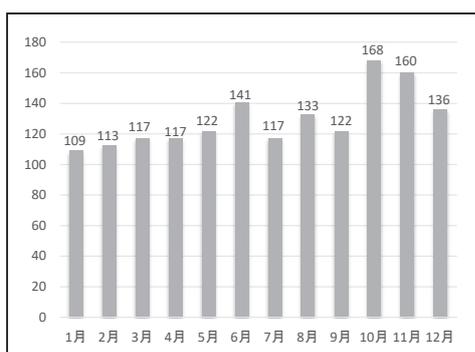
リハビリテーション科部長 山下智弘

新型コロナウイルス感染症の流行から3年目の2022年は第6波、7波により入院、外来患者を制限せざるを得なくなりました。リハビリテーション科もこの影響を受けましたが、幸いにも脳卒中後遺症による上下肢痙縮患者に対するボツリヌス療法+集中的リハビリテーション治療は、入院予定患者を外来リハビリテーションへ移行する事で、この影響を最小限に抑えることが出来ました。これら取り組みで、治療効果、患者満足度を上げることが出来ました。

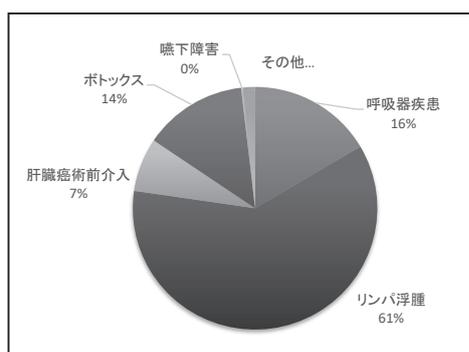
従来から取り組んでいる、呼吸器外科、乳腺外科、肝臓外科の周術期リハビリテーションは継続して行う事ができました。特に乳腺外科では、続発性リンパ浮腫に対し早期発見・早期ドレーナージ指導・治療により、患者さんの仕事復帰の一助となりました。また、呼吸器外科ではロボット支援手術が導入され、患者さんへの手術侵襲の低減により術後の早期離床が全ての患者さんで均一となりました。侵襲の低減によりリハビリテーションも順調に進み、入院期間の短縮に繋がっています。

2023年はこれまでの取り組みの継続、コロナ禍で希薄化している地域連携を強化することに重点を置くこととします。

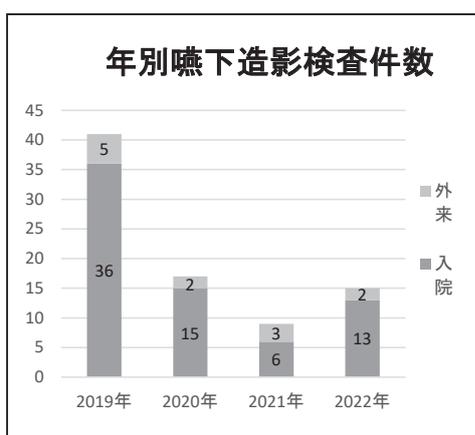
1) 月別延べ患者数



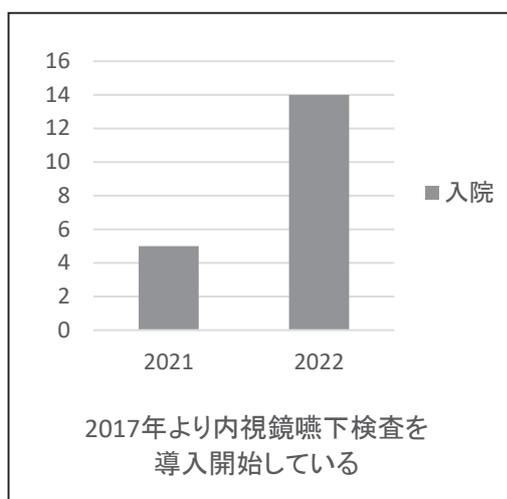
2) 年間外来患者疾患別内訳



3) VF 実施件数 (リハ医担当分のみ)



4) VE 実施件数



39. 麻酔科

麻酔科部長 尾崎実展

2022年度は麻酔科常勤医は専門医5名と麻酔科専攻医/後期研修医2名の7名体制でのスタートとなりました。COVID-19陽性者への麻酔経験が積み重なり、概ね問題無く対応できるようになりました。麻酔導入・挿管・抜管時のN95マスクとアイシールド装着義務と、非装着者のこの間の手術室待避義務は継続しています。9月に麻酔科専門医1名が退職し専門医は4名となりました。COVID-19蔓延で麻酔管理症例数が減少したため、スタッフの献身的な働きと、非常勤応援医師・集中治療部応援医師や研修医の力を借りてかろうじて日勤帯予定手術症例には対応出来ていますが、院内待機業務や準夜帯の対応は限界を超えており、常勤麻酔科医の確保と麻酔科外来業務のさらなる効率化が最重要課題と思われまます。

1) 麻酔方法

2022年度の麻酔科管理症例数は4,035例で、2021年の4,467例と比べ432例の減少となりました。日本麻酔科学会の分類法に基づく麻酔方法の内訳は次の通りです。

麻酔法	2022年	2021年	2020年
全身麻酔（吸入麻酔）	1,887例（46.8%）	（42.2%）	（41.6%）
全身麻酔（静脈麻酔）	400例（9.9%）	（9%）	（9.3%）
全身麻酔（吸入＋硬膜・脊椎・伝達）	1,115例（27.6%）	（32.2%）	（30.2%）
全身麻酔（静脈＋硬膜・脊椎・伝達）	76例（1.9%）	（2.1%）	（1.9%）
脊椎＋硬膜外	434例（10.7%）	（10.6%）	（12.8%）
硬膜外麻酔	2例（0.05%）	（0.1%）	（0.1%）
脊椎麻酔	74例（1.8%）	（2.1%）	（2.5%）
伝達麻酔	14例（0.3%）	（0.5%）	（0.8%）
その他	33例（0.8%）	（0.9%）	（0.7%）

2022年の例数と（ ）内に比率を示します。2021、2020年分は比率だけ示します。全身麻酔単独での麻酔管理が増加しています。腹腔鏡や胸腔鏡を用いた手術の低侵襲化の進行と周術期抗凝固療法の普及に伴うものと思われまます。

2) 手術症例の年齢分布

年齢分布（学会による分類法に基づく）は次のようになっています。

年齢区分	2022年	2021年	2020年
～1ヶ月	1例（0.02%）	（0.02%）	（0.07%）
～12ヶ月	16例（0.39%）	（0.49%）	（0.8%）
～5歳	80例（2.0%）	（2.5%）	（3.1%）
～18歳	229例（5.6%）	（5.2%）	（5.2%）
～65歳	1,609例（39.8%）	（40.7%）	（41%）
～85歳	1,827例（45.3%）	（44.3%）	（43.5%）
86歳以上	273例（6.8%）	（6.9%）	（6.7%）

2020年度に65歳以上の高齢患者さんが全体の50%を超えましたが、この傾向はさらに進行し2022年度は52.2%となりました。

3) 偶発症

麻酔学会の定義する偶発症とは、原因（麻酔、手術、患者さんの病態による理由）の如何を問わず、手術中に起きた危機的状態とされます。偶発症は1. 危機的偶発症 2. 神経系偶発症 3. その他の神経系偶発症 4. その他と4つに分類されています。

2022年に当院で報告した偶発症は 10例です。その内訳は

分類	2022年	2021年	2020年
1. 危機的偶発症			
心停止	3例 (7.4)	(0)	(4.5)
高度低血圧	3例 (7.4)	(2.2)	(4.5)
高度低酸素血症	1例 (2.4)	(6.7)	(2.3)
高度不整脈	0例 (0)	(2.2)	(0)
その他	0例 (0)	(0)	(0)
2. 神経学的偶発症	1例 (2.4)	(2.2)	(0)
3. その他の神経学的偶発症	2例 (4.9)	(0)	(0)
4. その他	0例 (0)	(0)	(2.3)
合計	10例 (24.5)	(13.3)	(13.6)

() は1万人当たりの発生人数を示しています。つまり、偶発症発合計は1万人あたり24.8人となります。

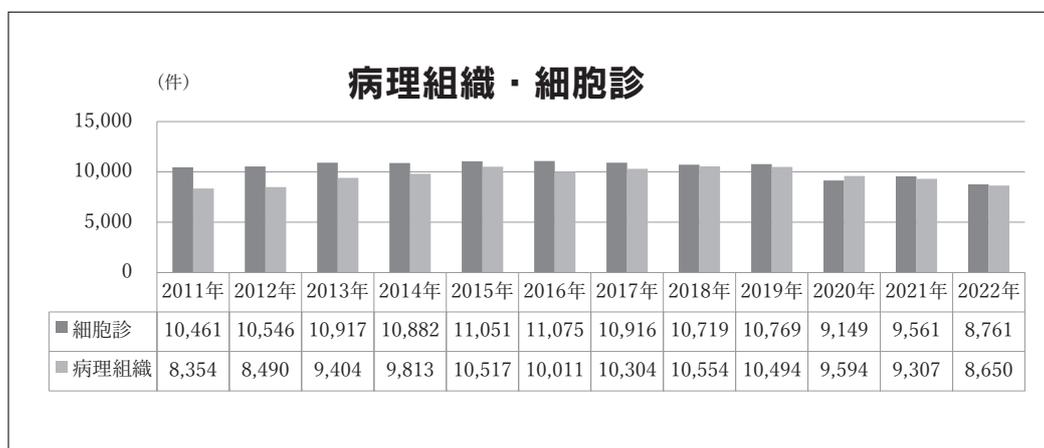
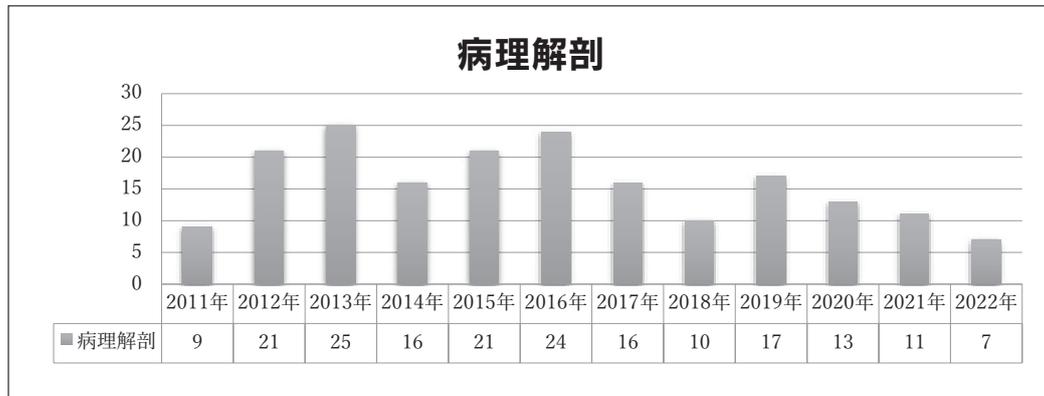
40. 病理科

病理科部長 大石善丈

大石善丈、平木由佳医師、立石悠希医師、宮崎佳子医師の4人体制で生検、組織診、術中迅速診断、細胞診、病理解剖、CPC等のカンファランスに対応した。九州大学病理学教室員や、福岡山王病院の大屋前部長に週1回ずつ診断応援をいただいた。血液疾患はこれまで同様、久留米大学病理学教室の大島教授に御高診いただいた。病理組織診、細胞診の総数は9,000件弱に達した。

< 2022年中央検査部病理 診療業績 >

1. 病理組織診断 8,650件 (特染 2,346件、免疫染色 1,581件)
(癌 1,763件 悪性疑い 802件 肉腫 3件
リンパ腫 174件 黒色腫 5件)
2. 術中迅速診断 337件
3. 細胞診 8,761件
4. 遺伝子診断 17件
ISH法によるEBER-1の解析
(検体は胃切除標本など)
5. 血球細胞機能検査 456件
(フローサイトメトリーによる造血器腫瘍の診断など)
検体は末梢血、骨髄、リンパ節等の新鮮材料
6. 腎生検 32件
7. 蛍光抗体検査 70件
8. 剖検 7件



41. 感染症科

感染症科部長 的野多加志

感染症科は2019年4月に新設され、病棟業務として主に①感染症コンサルテーション、②血液培養陽性患者のフォローアップ、③抗菌薬適正使用支援を行っています。さらに、2019年7月からワクチン・トラベル外来を開設し、完全予約制の専門外来を提供しています。2022年も引き続き、新型コロナウイルス感染症に関する院内の診療・感染対策を行うとともに、筑豊地域を含む県内の医療機関や介護・福祉施設への支援を行いました。また、専門家として、治験の実施や県内医療体制体勢に係わる助言ならびにマスコミを通じた情報発信などを行っています。

外来延べ患者数：2,393名

自由診療	1,652	保険診療	305	針刺し	40
新規	910	新規	101	新規	26
再診	742	再診	204	再診	14

治験	396
新規	117
再診	279

抗菌薬適正使用支援	181	血液培養	1,021
-----------	-----	------	-------

1) 入院患者疾患別内訳

病名	計
呼吸器感染症	7
抗酸菌感染症	2
性器・性感染症	1
総計	10

2) 新規外来患者（保険診療）疾患別内訳

病名	計
ワクチン接種（保険適応）	35
その他（非感染症）	20
性器・性感染症	14
骨・関節感染症	8
皮膚軟部組織感染症	5
呼吸器感染症	5
その他感染症	5
抗酸菌感染症	4
腸管感染症	3
耳鼻科感染症	1
尿路感染症	1
総計	101

3) 感染症コンサルト疾患別内訳

病名	計
呼吸器感染症	292
肝・胆道系感染症	98
敗血症	61
骨・関節感染症	51
皮膚軟部組織感染症	48
その他（非感染症）	46
その他感染症	28
腹腔内感染症	25
尿路感染症	23
感染性心内膜炎	18
腸管感染症	18
中枢神経系感染症	6
性器・性感染症	3
耳鼻科感染症	1
総計	718

42. 予防医学センター

予防医学センター長 矢野博美

2022年は、予防医学本部長 本村健太医師（副院長、肝臓内科部長）、予防医学センター長 矢野博美（漢方診療科診療部長）、保健師3名、看護師6名、事務4名、パート1名、DS2名の体制（2022年12月現在）でした。他に看護師1名、育休を取得しています。

2022年は、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、受診環境の確保に努め、健診を休止せずに運用した結果、受診者数（前年より229人増）、売上（前年より1,300万円増）はともに前年より増加しました。関係診療科、部署より多大なるご協力をいただいた結果です。大変感謝しております。

2021年よりメニューに追加した膵臓がんドックは、2022年は64件でした。

2021年12月8日、人間ドック健診施設機能評価更新のため書面・訪問審査を受け、2022年2月26日付で認定承認をいただきました。

今後も地域の皆様や受診者の方々の健康管理の一翼を担えますよう、スタッフ一同これからも努力して参ります。

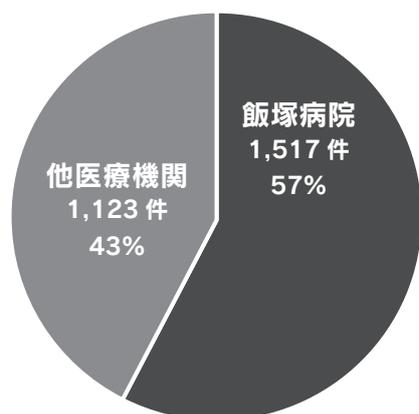
1) 受診者数（人）

健診区分	受診者数
日帰りドック	2,690
全国健康保険協会	1,636
健診（企業）	1,620
特定健診	457
レディースドック	400
乳がんドック	396
脳ドック	217
婦人検診	210
健診（個人）	127
消化器がんドック	78
膵臓がんドック	64
がんPET検診	56
婦人検診（協会けんぽ）	41
心臓・肺がんドック	15
大腸がんドック	9
漢方いきいきドック	5
被爆検診	5
胃検診	3
計	8,029

2) 紹介状発行件数（件）

紹介目的	総件数
上部消化管内視鏡	489
上部消化管X線	237
心電図	233
婦人科	226
眼科疾患	194
便潜血	175
乳腺	149
脂質異常	104
肝機能異常	103
腹部超音波検査	92
糖尿病	84
胸部X線	79
高血圧	69
尿検査	62
診察異常所見	55
貧血	50
ピロリ・除菌治療	27
MR検査（脳ドック）	23
耳鼻咽喉疾患	22
腎機能異常	18
腫瘍マーカー	16
PET-CT検査	9
高尿酸血症	7
漢方適応症状	6
動脈硬化	4
睡眠時無呼吸	1
下部内視鏡	1
その他	105
計	2,640

3) 紹介状依頼先



43. 看護部門

看護部門長 森山由香

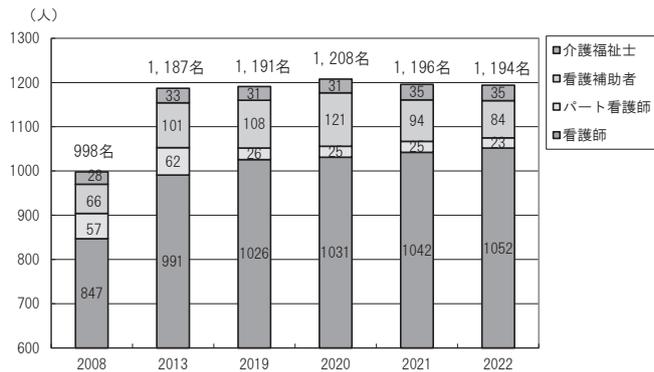
2022年も、新型コロナウイルス感染症の第1波から第8波まで、予測しにくい事態が次々と押し寄せ、収まったと思ったら次の波が押し寄せてくる状況が続いています。看護管理者として、自身の経験知での対処が困難な状況下でどう行動するかを、常に問い続けられた一年でした。3年以上にわたり、このような事態の最前線に立ち続けることの、現場スタッフたちの緊張と心労はいかばかりかと思えます。現場では、多重課題に対応することが日常である看護管理者や看護スタッフたちであっても、新型コロナウイルス感染症により突きつけられた管理者（看護師）としての力量の試され方は、尋常ではなかったことでしょう。この熾烈な経験は、単なる思い出話にするには釣り合いません。私たちは、今回の経験から何を学んだのでしょうか。今後の糧とし、個々の成長につなげていきたいと考えています。

個人の成長には、経験からの学びが強く影響します。経験から学ぶためには、振り返りを行い教訓を活かすことが必要とされています。COVID-19患者受け入れ病棟に関係なく、すべての看護師たちは、感染拡大の中で、飯塚病院らしい看護を提供すべく新たな看護の形を構築し続けてきました。コロナ禍だからこそやれる看護を実践し続けている姿には感心すると同時に、「大丈夫。乗り越えられない困難なんてない。」と不思議な確信を持つことができる一年でもありました。

2月には、2年に1度、看護のトップリーダーが集結する「日本看護サミット2021」において「効率的で働きがいのある看護サービス提供体制変革への取り組み」と題してシンポジストとして講演する機会を与えていただきました。看護職の労働環境の改善の取り組みのひとつとして、セル看護の成果と今後の展望について全国に発信できる貴重な機会となりました。5月には、「Nurse of the Year2021」表彰式を開催しました。「コロナ禍の中で多職種と共に活躍したナース」をテーマに全看護師が投票し、10名の看護師たちが受賞者として表彰されました。6月には、2021年度麻生グループ社員表彰式において、COVID-19対応に尽力した感染管理認定看護師たちが経営功労賞をいただきました。看護管理者たちは、師長会議などを活用して、自分の想いをシェアし、励まし合い、感謝し合う承認する場を設けてきました。これまでも、マスク生活で雑談の機会も失われ、つぶやきたいことは山ほどあれど、グッと堪えてきた管理者（看護師）がほとんどではないでしょうか。今こそ、つぶやくチャンスです。朝の朝礼、会議や委員会のアイスブレイクとして、仲間同士でつぶやき、何とか乗り越えてきたこの道のりから教訓を引き出し、次につないでいきたいと思えます。

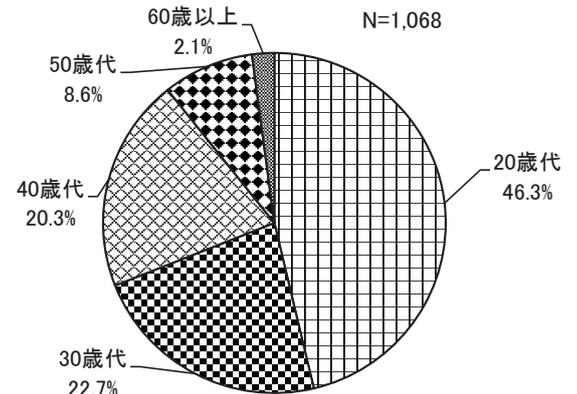
また、特定行為研修指定研修機関として3月には認定を受け、4月1日開講式典開催、第1期生4名の研修生を迎え入れました。研修区分は術中麻酔管理領域パッケージです。特定行為研修推進担当の百瀬マネージャーを中心にすすめていただき、共通科目のスタートから気づけば既に10ヶ月が経過。研修生の皆さん同様、運営に携わるメンバーも右往左往の中、あっという間の時の流れの日々でした。2015年、国は今後の在宅医療等を支えていく看護師を計画的に養成していくことを目的としてこの研修制度を施行しました。その中で改めて、当院における役割を鑑みましたが、まずは院内での機能・役割拡大、それを司るスキームの構築について検討する必要性を感じた次第です。その行く先が次なる区分の開講にも言及すると思えます。加えて特定行為研修からその先にある研修を修了した『特定行為看護師』の教育内容・評価の構築など着手すべき案件が山積みです。皆で力を合わせ、実践評価の連続性の中で今後とも教育の質・看護の質向上にむけて邁進していきたいと思えます。

看護スタッフ数 (2022年4月30日現在)



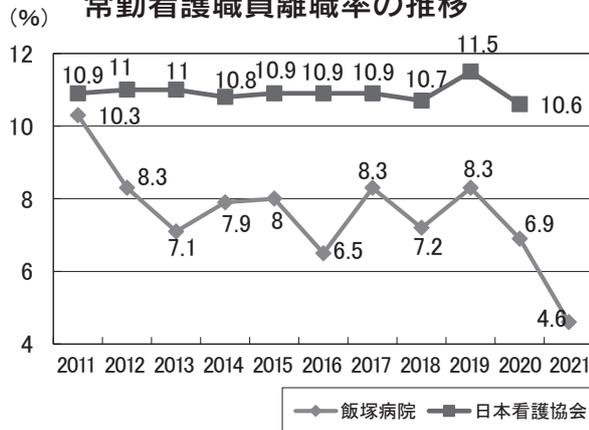
* データ：看護部長室「月間看護職員動向」より
産休育休者含む、退職者・出向者除く
2021年より中央材料室除く

看護師の年齢構成 (2022年4月30日現在)



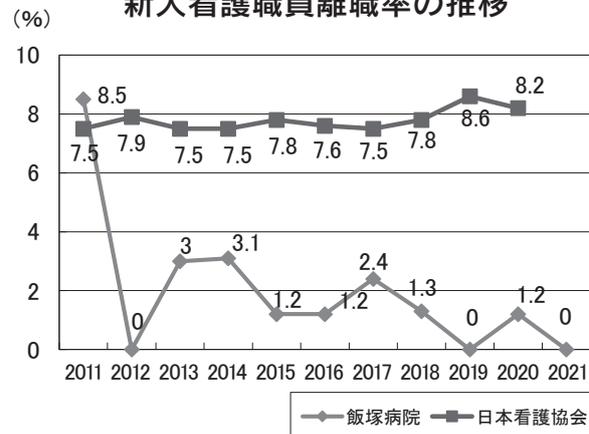
* 産休・育休：常に60名前後
* 看護師平均年齢：33.9才
* 勤続年数：9.9年

常勤看護職員離職率の推移



※定年退職含む (パートを除く)

新人看護職員離職率の推移



専門・特定認定・認定・特定行為看護師 資格取得者数 (2022年12月31日現在)

【認定看護管理者】 5名

専門分野	人数
認定看護管理者	5

【専門看護師】 3名

専門分野	人数
慢性疾患看護専門看護師	1
精神看護専門看護師	1
急性・重症患者看護専門看護師	1

【特定認定看護師】 1名

専門分野	人数
脳卒中看護特定認定看護師	1

【特定行為看護師】 3名

特定行為区分	人数
術中麻酔管理領域 (6区分8行為)	1
集中治療領域 (5区分14行為)	1
救急領域 (5区分9行為)	1

【認定看護師】 22名

専門分野	人数
集中ケア認定看護師	2
感染管理認定看護師	2
皮膚・排泄ケア認定看護師	2
糖尿病看護認定看護師	1
救急看護認定看護師	1
乳がん看護認定看護師	1
摂食・嚥下障害看護認定看護師	1
緩和ケア認定看護師	4
慢性呼吸器疾患看護認定看護師	1
小児救急看護認定看護師	1
がん化学療法看護認定看護師	2
慢性心不全看護認定看護師	1
認知症看護認定看護師	1
透析看護認定看護師	1
手術看護認定看護師	1

【WOCN】 1名 (海外で取得)

専門分野	人数
WOCN	1

44. 医療技術部門

医療技術部門長 金澤康範

医療技術部門は、中央放射線部、臨床工学部、リハビリテーション部、栄養部、薬剤部、中央検査部、医療福祉室、歯科衛生室、臨床心理室の9部署で構成され、所属するスタッフ数は550名以上となっている。

事業目標としては、各部署共通目標として重点項目の中から①重点項目V：選ばれる病院としての医療の質の向上、②重点項目I：新棟建設実現のための損益の抜本的改革、またはIV：医師の働き方改革に向けた対策実施、③EK活動の推進の3項目について取り組んだ。

新型コロナウイルス感染症拡大のため、医療技術部門合同勉強会は2022年も実施することができなかった。また、各部署の人材交流の場として例年6月に開催している「合同懇親会」も3年連続で中止となった。2022年も継続して感染対策として、業務中のマスクの着用、手指消毒、休憩時間の分散化、食事中の会話禁止などの徹底した感染対策を行った。

なお、各部署の活動については概略を下記に示す。

【中央放射線部】 2022年は2021年4月1日より施行された医療法および労働安全衛生法（電離放射線障害防止規則）改正により、放射線業務従事者の水晶体の被ばく限度が引下げられ水晶体等価線量限度：50mSv/年かつ100mSv/5年（※これまでは150mSv/年）となった。IVRを中心に術者の水晶体の被ばく線量が高い部署に、リアルタイム被ばく測定システムのデモ・講習会を実施、より鉛当量の高い防護メガネへの変更、水晶体専用線量計の装着（9名）を行い被ばく低減に努めた。放射線機器では遠隔操作密封小線源治療（RALS）装置の更新、線源の交換を実施し3月より稼働、より短時間での治療が可能となった。また、サイバーナイフを導入し6月より稼働、より精度が高く・短期間での治療を患者さんに提供できるようになった。知識・技術向上を目指し、日本乳がん検診精度管理中央機構技術試験A認定（長岡結花）・X線CT認定技師2名（本田智恵・今村夏美）・画像等手術支援認定診療放射線技師2名（鳥江功二・堀尾浩一）が認定資格を取得し実業務へと反映した。

【臨床工学部】 2022年は2月に呼吸器外科、6月に外科と2診療科がロボット（ダビンチ）手術を開始した。それに伴い新たな術式への対応が必要となりスタッフ育成に注力した。ロボット手術件数は12月末までに108件を数え、ロボット手術を導入する診療科も今後増加すると思われる。また、昨年に続き、「医師の働き方改革の推進」を事業目標に挙げ、腎臓内科医師が行っている「PTA前シャント血流量測定」を一部技師が実施した。技師による実施件数は全測定件数412件中147件（35.6%）であった。昨年の実績（368件中51件 13.8%）から件数、割合ともに大幅に増加し医師の負担軽減に繋がった。

医療機器に係わる安全管理に関しては、新規導入機器や高度管理医療機器など安全に使用してもらうための研修会を院内スタッフ対象に積極的に実施した。

【リハビリテーション部】 2022年度は診療報酬の改定により新設された二次性骨折予防継続管理料算定にも繋がる、転倒リスクや認知機能評価などを大腿骨近位部骨折患者全例に拡大し実施した。また作業療法士が術後早期より移乗動作練習を強化し、看護師と連携してトイレ動作の早期獲得に繋がった。その他の取り組みとしては言語聴覚士の活動範囲を拡大し、当院入院歴のある患者で、退院後継続的な失語症・構音障害に対するリハビリが必要な患者に対して外来で訓練を開始した。また小児の言語発達遅滞に対するリハビリが提供できる病院が近隣に少なく、昨年までは小児の吃音・構音障害に対してのみリハビリを実施していたが、今年度から言語発達遅滞児に対してもリハビリの提供を開始した。

【栄養部】 2022年は、栄養情報提供加算の対象とならないが、転院先で食物アレルギーに関する情報提供が必要な患者さんへ栄養情報提供書を発行する仕組みづくりを行った。また、昨年からの継続事案である栄養スクリーニングの自動化について、システムの稼働が一部の病棟で開始され、今後

全病棟に水平展開を予定している。給食部門では、臨床部門と合同で「栄養部働き方改革」をテーマに、日勤帯の業務を増やすTQM活動を行い、早出勤務者の一部を日勤帯へ変更する事が可能となり、結果として残業の削減にも繋がった。給食部門は、もともと人員不足なところに新型コロナウイルス感染症感染拡大により、スタッフの休みが重なり人員不足が深刻化時期もあったが、臨床部門の管理栄養士の協力のもと滞りなく食事の提供が可能であった。

【薬剤部】 4月から薬剤長および副薬剤長の管理職3人全員が新任となった。調剤室の業務改善を進めつつ、経営貢献および夜間休日の対応強化を目的として、「薬剤管理指導料の算定金額増加」、「抗菌薬TDMの実践経験者育成」を目標として取り組んだ。また、持参薬チェック業務において、データの入力作業をテクニカルアシスタントができるように教育し、10月から全診療科に拡大された入院前持参薬チェックに対応した。一方、2021年から続く後発医薬品の供給不安の影響で、後発医薬品使用率が低下し、6月には加算の施設基準を辞退することになった。コロナ禍においては、ワクチン調製などに協力しつつ、COVID-19治療薬の在庫確保にも奔走する年となった。

【中央検査部】 2022年もまた年間を通して新型コロナウイルス感染症関連検査を中心とした運営となってしまう。第7波では、爆発的に感染者が増加し、当然市中には既感染者(感染後回復した患者)が増加した。この感染症の研究もすすみ、抗原定量検査の精度はPCR検査にやや劣るもののスクリーニング検査としては有効であると考え導入した。と同時に入院前患者の検体採取を臨床検査技師が担うこととなった。採血以外の検体採取はこれが初めてのケースである。現在、どの分野でもタスクシフトの検討が始まっている。中央検査部は行動計画の一つとして病理医の組織切り出し業務の一部を検査技師が行うことを掲げ、目標を達成しつつある。今後も現状維持ではなく、医師・看護師他、検査技師にシフトできる業務について検討していきたい。TQM活動では、耳鼻咽喉科における迅速細胞診ならびに液体細胞診の活用を報告、最優秀賞をいただいた。デミング賞審査にてISO15189をベースにした継続的改善の一環であるリスクマネジメントが評価されたことは今後の改善活動への更なる動力となった。

【医療福祉室】 2022年は事業目標として、行政や患者会・NPO団体などとのネットワーク構築、診療報酬改定で要件が緩和された退院時共同指導料2並びに介護連携等指導料の総数増加、『地域情報共有システムこまめる』を活用した地域連携の強化、DPC II期間超えの超過の要因分析・対策の立案・実施の4項目に取り組んだ。捨てられるはずだった食品を困っている人に届ける活動(NPO法人フードバンク飯塚)へスタッフを派遣し、社会貢献活動へ取り組んだ。『地域情報共有システムこまめる』は、主に転院相談で活用し、8医療機関と運用した。第58回九州医療ソーシャルワーカー研修会ふくおか大会では、大会長や実行委員として大会運営に協力した。実りの多い1年であった。

【歯科衛生室】 2022年は人材育成として、専門性の強化のため認定歯科衛生士の取得、学会発表、上顎関節腔内洗浄療法導入に向けたスペシャリストの教育に取り組んだ。認定取得は摂食嚥下リハビリテーション認定歯科衛生士を1名が取得し、現在糖尿病予防指導に向けた認定取得を目指して1名が専門研修を受講中である。学会発表では日本口腔ケア学会総会・学術大会にて、「人工関節置換術患者に対する周術期口腔管理の有効性」に関して報告を行った。上顎関節腔内洗浄療法は顎関節症の治療法の1つであるが、歯科衛生士が担う領域を明確にし、教育を行うことで歯科医師とタスクシェア、タスクシフトが可能となった。

【臨床心理室】 2022年は、臨床心理室として初のTQM活動を行い、テーマを「外来心理面接の日程調整の効率化を図る」とし、予約調整の時間短縮に成功、目標達成した(10分以上要するケースの割合を0%に減少)。学術活動では、日本子ども虐待防止学会で2題、日本総合病院精神医学会、福岡救急医学会で発表を行い、臨床心理士・公認心理師として専門性の向上に努めた。人材育成として、九州大学、筑紫女学園大学から実習生を受け入れ、両大学院及び福岡県立大学で講義を行うなど、大学との連携や後進の育成に注力した。福岡県内では初となる「がん・生殖医療専門心理士」の資格取得者も輩出、がん診療を支える取り組みにつなげていく。

45. 経営管理部門

経営管理部門 特任副院長 岩佐紀輝

2022年は、将来、振り返ることがあれば、かなりエポックメイキングな一年と言えるのではないのでしょうか。テレビやSNSからは目を疑うような映像がいくつも流れてきました。2月、ロシア軍がウクライナに侵攻しました。市街地や住宅地を戦車が行き交い、駅やショッピングセンターが破壊され、ロシア軍に占領された地域では、一般市民に対する大量虐殺さえ疑われています。数百の川が交差するデルタ国家のバングラデシュは、今年、とりわけ大きな洪水に見舞われ、国土の3分の1が水没する事態となりました。7月8日、参議院議員選挙の応援のため、街頭演説中であった安倍元総理大臣が銃撃され死亡するという痛ましい事件が発生しました。10月には、ソウルの繁華街イテウォン（梨泰院）で、ハロウィーンで賑わう29日夜、繁華街の狭い通りに人が集中し、多くの若者らが折り重なって倒れる雑踏事故が起き、日本人2人を含む158人が死亡しました。

話を本題である当院に戻すと、2022年も、2020年、2021年に続き、新型コロナウイルス感染拡大の中で過ごす1年となりました。福岡県の病床確保計画におけるフェーズ3以下の時期は少なく、ほぼフェーズ5もしくはフェーズ4のもとでの運営を余儀なくされました（365日のうち、実に87%がフェーズ4以上に該当します）。

	(2021年12月2日) ~ 1月11日	フェーズ1	Covid-19 即応病床5床
	1月12日 ~ 1月19日	フェーズ3	同上 8床
	1月20日 ~ 1月26日	フェーズ4	同上 20床
第6波	1月27日 ~ 4月21日	フェーズ5	同上 20床 (4月15日付38床に変更)
	4月22日 ~ 6月28日	フェーズ4	同上 20床
	6月29日 ~ 7月5日	フェーズ3	同上 8床
	7月6日 ~ 7月18日	フェーズ4	同上 20床
第7波	7月19日 ~ 10月10日	フェーズ5	同上 38床
	10月11日 ~ 10月25日	フェーズ4	同上 20床
	10月26日 ~ 11月14日	フェーズ3	同上 8床
	11月15日 ~ 12月4日	フェーズ4	同上 20床
第8波	12月5日 ~	フェーズ5	同上 38床

オミクロン株の流行による第6波、第7波、第8波では、入院患者からの陽性者発生、また、職員の感染、濃厚接触による出勤停止の増加により、新患受け入れの延期、救命救急センターのウォークイン外来停止などを地域にお願いせざるを得ない状況となりました。入院患者数は大きく落ち込み、営業損益は前年度よりさらに悪化しました。病床確保料がなければ損益は成立せず、病床確保料を含むコロナ関連補助金の申請が重要な業務となりました。しかし、一部の病院で過大な病床確保料を受給していたことが報道されました。社会が医療機関を見る目に厳しさが加わるのが予想されるため、申請業務にあたっては正確、誠実を期することが求められています。

ウィズコロナの中でも、当院の健全経営が維持されるべく、経営管理部としては取り組みを進めました。前年12月、経営会議に提出、承認された「新棟建設に向けたアフターコロナの経営戦略」に関して、12月の経営会議にて進捗報告を行い、重点項目を絞るバージョンアップを行いました。また、2024年4月から実施される医師の働き方改革への取り組みもスピードアップしました。このテーマを実現するためには、医師だけではなく、あらゆる職種が働き方改革を進めていくことが重要と考え、経営管理部の各課でも事業計画の中で取り組みました。

職員は、Privateの時間にも一定の行動制限を受けながら、従来の業務プラス、新型コロナウイルス感染症患者への対応にあたっています。職員が疲弊しないような職場環境への配慮が今まで以上に必要です。多職種との連携を強化しつつ、飯塚病院の明るい医療現場づくり、健全経営に貢献できるよう引き続き努めていきたいと思っております。

〔Ⅲ〕 診 療 統 計

1. 退院患者統計

退院患者数	性別		入院年齢(平均値)			在科日数(平均値)		入院手順		入院経路			(患者数)	主病名転帰						死亡状況		紹介患者数	救外CPA患者数			
	男	女	全体	男	女	急患	予約	外来	救命	転科	検査終了	死亡		治癒	増悪	中止	不変	術後30日以内の死亡:A	術後46日以内の死亡:B	AかつB						
全診療科 総数	20,095	10,451	9,644	65.5	65.3	65.8	14.1	9,380	10,715	12,268	5,979	1,848	3,732	5,051	13,835	923	1,131	756	247	15	3,188	20	393	4	7,314	229
肝臓内科	675	415	260	72.1	70.9	74.1	14.1	310	365	466	185	24	92	3	462	57	37	4	20	0	95	0	3	0	153	0
呼吸器内科	1,349	875	474	70.9	71.1	70.6	16.5	533	816	1,039	266	44	164	18	479	214	124	21	22	3	486	0	6	0	372	0
内分泌・糖尿病内科	247	142	105	63.9	64.4	63.2	10.1	36	211	216	16	15	10	1	171	8	0	4	0	1	63	0	0	0	108	0
消化器内科	1,552	904	648	71.0	69.7	72.8	7.7	566	986	1,123	387	42	168	50	1,101	105	0	165	18	0	163	0	0	0	623	0
血液内科	476	266	210	69.3	69.0	69.7	29.7	112	364	418	32	26	10	2	263	5	25	1	13	1	168	0	0	0	76	0
総合診療科	2,778	1,334	1,444	73.5	71.3	75.5	15.3	2,365	413	591	1,845	342	1,067	101	2,074	4	119	203	53	0	325	1	20	0	899	1
膠原病・リウマチ内科	174	71	103	67.6	69.0	66.6	18.3	30	144	152	11	11	4	0	133	2	3	4	0	0	32	0	0	0	28	0
連携医療・緩和ケア科	1,430	759	671	77.9	75.9	80.1	22.7	450	980	313	254	863	188	17	558	1	419	45	64	0	343	1	92	0	138	1
リエゾン精神科	50	17	33	58.7	60.2	58.0	85.1	24	26	28	1	21	1	0	38	0	0	1	0	0	11	0	0	0	4	0
小児科	931	527	404	4.1	4.3	3.8	8.9	750	181	550	378	3	164	5	696	104	4	27	2	1	97	0	4	0	340	3
腎臓内科	813	445	368	72.6	71.9	73.4	13.8	558	255	722	70	21	39	134	585	30	10	16	4	0	168	0	0	0	490	0
循環器内科	1,695	1,045	650	72.8	70.4	76.5	10.7	829	866	1,030	606	59	475	160	1,379	186	45	0	0	1	84	3	10	0	708	1
外科	1,441	728	713	66.5	67.0	66.0	11.0	315	1,126	1,166	182	93	90	802	929	11	9	43	6	4	439	4	0	0	463	0
整形外科	782	306	476	62.0	51.8	68.6	18.4	342	440	574	181	27	75	721	748	0	0	2	0	0	32	0	0	0	380	0
皮膚科	176	91	85	61.5	58.0	65.1	9.9	32	144	163	7	6	3	112	135	3	0	10	0	0	28	0	0	0	119	0
泌尿器科	566	442	124	70.8	69.8	74.5	7.6	45	521	523	21	22	4	296	297	124	1	42	2	1	99	0	0	0	226	0
婦人科	728	0	728	52.8	0.0	52.8	6.5	100	628	681	37	10	13	361	435	4	2	55	8	0	224	0	0	0	250	0
産科	464	0	464	31.6	0.0	31.6	11.0	356	108	212	252	0	106	188	347	0	0	82	2	0	33	0	0	0	317	0
眼科	600	293	307	71.5	68.8	74.0	4.9	51	549	588	2	10	0	585	550	0	0	13	0	0	37	0	0	0	413	0
耳鼻咽喉科	363	233	130	54.7	55.7	52.9	13.5	64	299	335	15	13	3	228	275	17	1	2	4	1	63	0	0	0	203	0
小児外科	91	66	25	5.1	4.7	6.4	4.4	21	70	78	7	6	1	84	83	1	0	0	0	1	6	0	0	0	64	0
脳神経外科	561	293	268	69.7	67.7	71.8	23.2	456	105	166	383	12	338	223	446	27	53	0	1	0	34	4	21	1	193	0
歯科口腔外科	226	100	126	41.4	35.2	46.3	4.7	19	207	224	2	0	1	200	212	0	0	4	0	0	10	0	0	0	176	0
呼吸器外科	310	190	120	67.9	67.4	68.6	10.5	35	275	260	16	34	12	262	276	5	2	0	1	0	26	0	0	0	113	0
心臓血管外科	470	260	210	75.1	72.4	78.4	19.7	114	356	336	67	67	58	406	436	7	13	0	2	1	11	5	3	3	156	0
脳神経内科	598	331	267	73.3	70.4	76.9	30.3	458	140	165	392	41	301	3	450	8	23	8	22	0	87	2	1	0	164	0
漢方診療科	28	5	23	34.8	22.8	37.4	18.3	8	20	28	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	3	0	0	0	14	0
感染症科	10	8	2	74.0	70.9	86.5	15.1	9	1	2	7	1	6	0	6	0	1	1	0	0	2	0	1	0	3	0
救急科	228	138	90	77.5	75.6	80.5	1.0	228	0	0	228	0	225	2	3	0	225	0	0	0	0	0	0	0	225	0
形成外科	125	65	60	52.6	47.6	58.1	10.6	8	117	117	1	7	0	73	121	0	0	0	0	0	4	0	0	0	70	0
集中治療科	158	102	56	68.7	67.6	70.8	4.5	156	2	2	128	28	114	14	122	0	15	3	3	0	15	0	7	0	43	0

2. 科別統計表

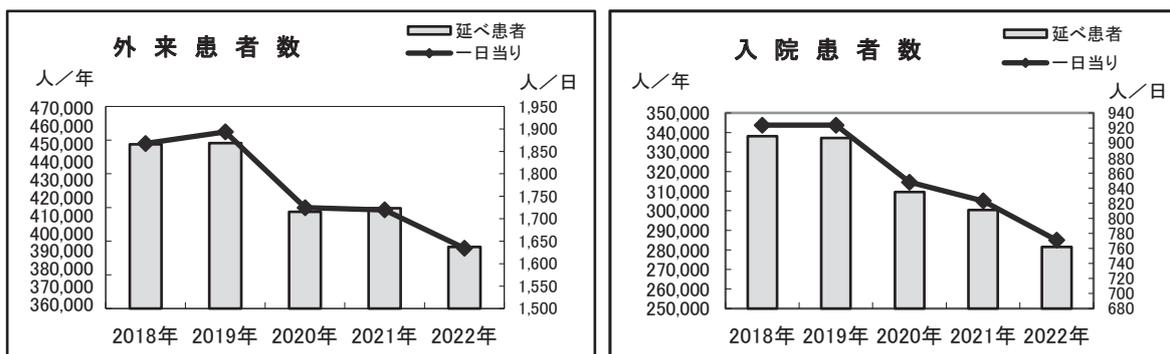
2022年1月～12月

診療科	外来患者		入院患者		新入患者数(入院経路別)				手術件数 (件/年) ※2	紹介率	平均在院日数 (日) ※3
	延べ患者数※1	実患者数	延べ患者数※1	実患者数	予約	救急外来	外来緊急	合計			
肝臓内科	16,106 66.3	4,107	9,490 26.0	455	306	188	149	643	/	90.8%	13.7
呼吸器内科	21,302 87.7	4,044	22,512 61.7	850	687	274	346	1,307	/	88.1%	16.4
心療内科	6,482 26.7	730	/	/	/	/	/	/	/	95.6%	/
内分泌・糖尿病内科	18,458 76.0	3,343	2,426 6.6	240	173	15	45	233	/	92.8%	11.2
消化器内科	20,266 83.4	5,390	11,931 32.7	1,338	872	393	243	1,508	53	93.7%	9.1
血液内科	11,971 49.3	1,783	14,029 38.4	283	317	37	99	453	/	92.3%	30.0
総合診療科	12,509 51.5	4,087	40,977 112.3	2,536	53	1,877	472	2,402	/	70.2%	18.0
膠原病・リウマチ内科	16,273 67.0	2,343	3,116 8.5	95	122	10	30	162	/	95.8%	17.7
連携医療・緩和ケア科	2,998 12.3	592	32,714 89.6	1,303	84	254	222	560	9	73.9%	32.8
救急科	24 0.1	23	234 0.6	228	0	228	0	228	/	/	1.0
循環器内科	18,645 76.7	5,488	17,905 49.1	1,446	781	613	241	1,635	/	92.4%	10.3
脳神経内科	9,515 39.2	2,287	15,963 43.7	562	100	391	63	554	/	94.5%	23.1
腎臓内科	25,604 105.4	2,347	10,750 29.5	477	461	75	253	789	133	90.8%	22.0
漢方診療科	17,589 72.4	1,961	511 1.4	26	19	0	8	27	/	53.5%	17.9
画像診療科	1,238 5.1	1,038	/	/	/	/	/	/	0	98.9%	/
放射線治療科	7,718 31.8	444	/	/	/	/	/	/	/	54.5%	/
小児科	16,106 66.3	5,288	8,331 22.8	802	168	370	395	933	/	72.8%	5.8
リエゾン精神科	6,464 26.6	878	6,773 18.6	58	1	1	25	27	/	22.7%	185.1
外科	19,471 80.1	4,160	15,628 42.8	1,071	1,016	206	125	1,347	860	90.7%	10.6
呼吸器外科	4,613 19.0	1,169	3,317 9.1	293	226	19	34	279	290	79.4%	10.5
小児外科	1,289 5.3	437	413 1.1	88	63	10	13	86	89	95.0%	4.2
産婦人科	19,719 81.1	4,682	9,790 26.8	857	674	268	239	1,181	561	62.2%	7.8
整形外科	19,782 81.4	4,642	14,391 39.4	768	372	192	171	735	934	88.7%	20.8
リハビリテーション科	1,416 5.8	406	/	/	/	/	/	/	/	25.0%	/
脳神経外科	5,566 22.9	2,042	13,576 37.2	553	100	387	60	547	258	78.0%	23.7
心臓血管外科	8,528 35.1	4,128	9,318 25.5	447	294	69	36	399	645	23.4%	23.7
皮膚科	15,367 63.2	3,895	1,876 5.1	169	126	8	38	172	160	87.3%	8.9
形成外科	4,419 18.2	961	1,178 3.2	117	104	2	9	115	103	91.7%	11.1
泌尿器科	15,708 64.6	3,477	4,374 12.0	435	487	21	33	541	328	97.0%	8.7
眼科	13,020 53.6	3,190	2,936 8.0	524	521	4	60	585	804	93.6%	6.3
耳鼻咽喉科	10,363 42.6	2,477	5,148 14.1	322	269	15	69	353	281	92.8%	13.7
ペインクリニック科	0 0.0	0	/	/	/	/	/	/	1	/	/
集中治療科	2 0.0	3	588 1.6	155	0	134	3	137	/	/	7.5
救急外来	10,923 45.0	9,311	/	/	/	/	/	/	/	18.6%	/
感染症科	2,653 10.9	1,549	162 0.4	10	0	7	2	9	/	1.2%	24.3
歯科口腔外科	14,580 60.0	3,855	1,083 3.0	212	199	3	26	228	251	42.8%	4.0
診療科合計	396,687 1,632.5	96,557	281,440 771.1	16,720	8,595	6,071	3,509	18,175	5,760	68.8%	14.7

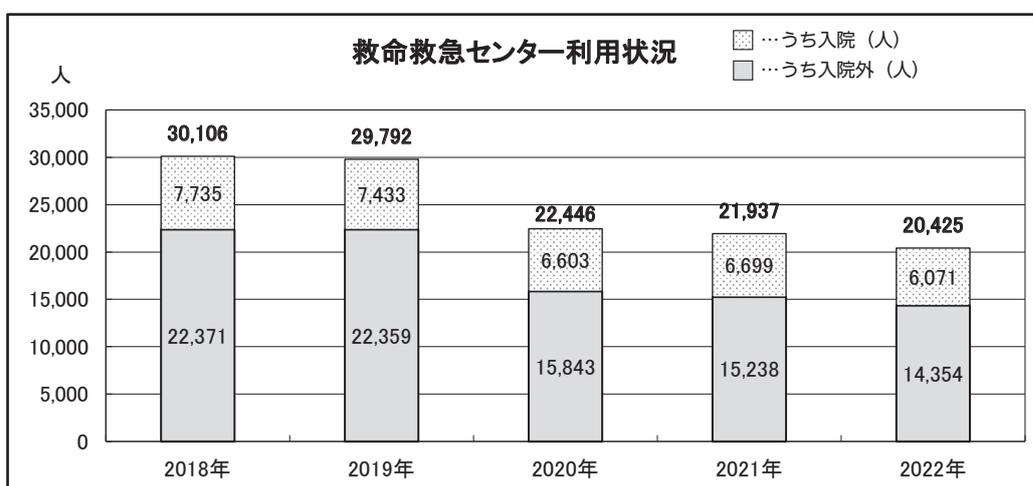
予防医学センター	8,414			2022年
従業員健診	35			78.1%
	3,620	病床稼働率	全体	80.6%
			精神科除く	

※1 患者数：上段は年間延べ患者数、下段は1日当たり患者数。 ※2 手術件数：手術室で行われた件数。
 ※3 医科点数表の解釈の施設基準に沿って計算した社会保険事務局への届出ベース。診療科合計はリエゾン精神科を含まない。

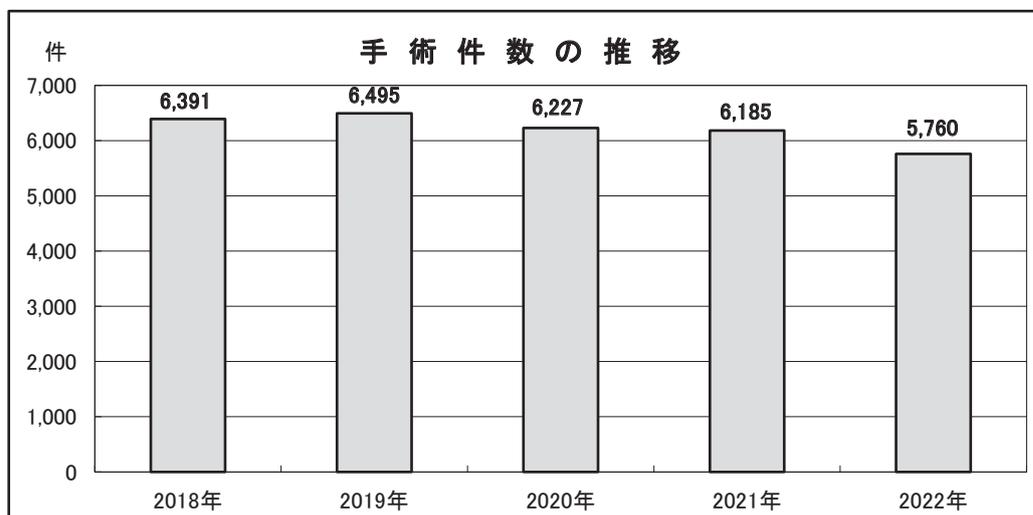
3. 最近5年間の患者数推移



4. 最近5年間の救命救急センター利用状況の推移



5. 最近5年間の年間手術件数の推移



6. 科別・年齢別・性別 退院患者数

退院科	性別	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90歳	合計	75歳以上 (再掲)
		～9	～19	～29	～39	～49	～59	～69	～79	～89	～		
		971	415	498	729	1,050	1,525	3,480	6,010	4,213	1,204	20,095	8,020
肝臓内科	男	0	0	3	2	23	35	92	170	78	12	415	162
	女	0	0	3	7	3	16	44	97	56	34	260	135
呼吸器内科	男	0	8	2	6	30	50	205	396	163	15	875	339
	女	0	2	3	3	10	57	119	175	89	16	474	184
内分泌・ 糖尿病内科	男	0	1	2	9	15	21	25	46	22	1	142	45
	女	0	1	5	5	11	14	21	28	20	0	105	31
消化器内科	男	0	6	2	10	45	99	209	364	147	22	904	330
	女	0	3	4	3	23	49	129	230	173	34	648	296
血液内科	男	0	1	6	3	5	26	67	111	43	4	266	82
	女	0	0	1	10	11	13	44	91	36	4	210	88
総合診療科	男	0	5	33	43	76	104	210	372	387	104	1,334	670
	女	0	18	35	48	49	78	156	316	441	303	1,444	925
膠原病・ リウマチ内科	男	0	0	1	0	6	0	22	34	7	1	71	24
	女	0	1	3	0	13	15	16	30	22	3	103	47
連携医療・ 緩和ケア科	男	0	0	4	2	11	49	119	247	243	84	759	435
	女	0	1	2	5	13	18	86	131	268	147	671	488
リエゾン精神科	男	0	0	1	0	4	2	4	6	0	0	17	3
	女	0	3	2	0	5	3	9	4	7	0	33	9
小児科	男	436	86	5	0	0	0	0	0	0	0	527	0
	女	346	58	0	0	0	0	0	0	0	0	404	0
腎臓内科	男	0	0	3	8	23	38	80	144	130	19	445	201
	女	0	1	4	3	13	14	63	149	109	12	368	184
循環器内科	男	0	1	8	10	58	90	255	389	208	26	1,045	416
	女	0	1	2	4	18	30	86	203	243	63	650	408
外科	男	0	8	11	25	29	72	197	294	89	3	728	183
	女	0	5	11	22	73	89	157	232	114	10	713	204
整形外科	男	17	35	19	26	36	34	41	52	40	6	306	69
	女	12	16	4	12	29	24	89	137	118	35	476	214
皮膚科	男	1	6	4	9	9	13	16	19	10	4	91	19
	女	1	7	1	4	6	8	9	23	17	9	85	38
泌尿器科	男	1	7	3	7	7	22	127	189	73	6	442	141
	女	0	1	0	2	2	2	23	46	41	7	124	60
婦人科	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	0	7	51	106	168	135	113	121	26	1	728	62
産科	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	0	13	176	228	47	0	0	0	0	0	464	0

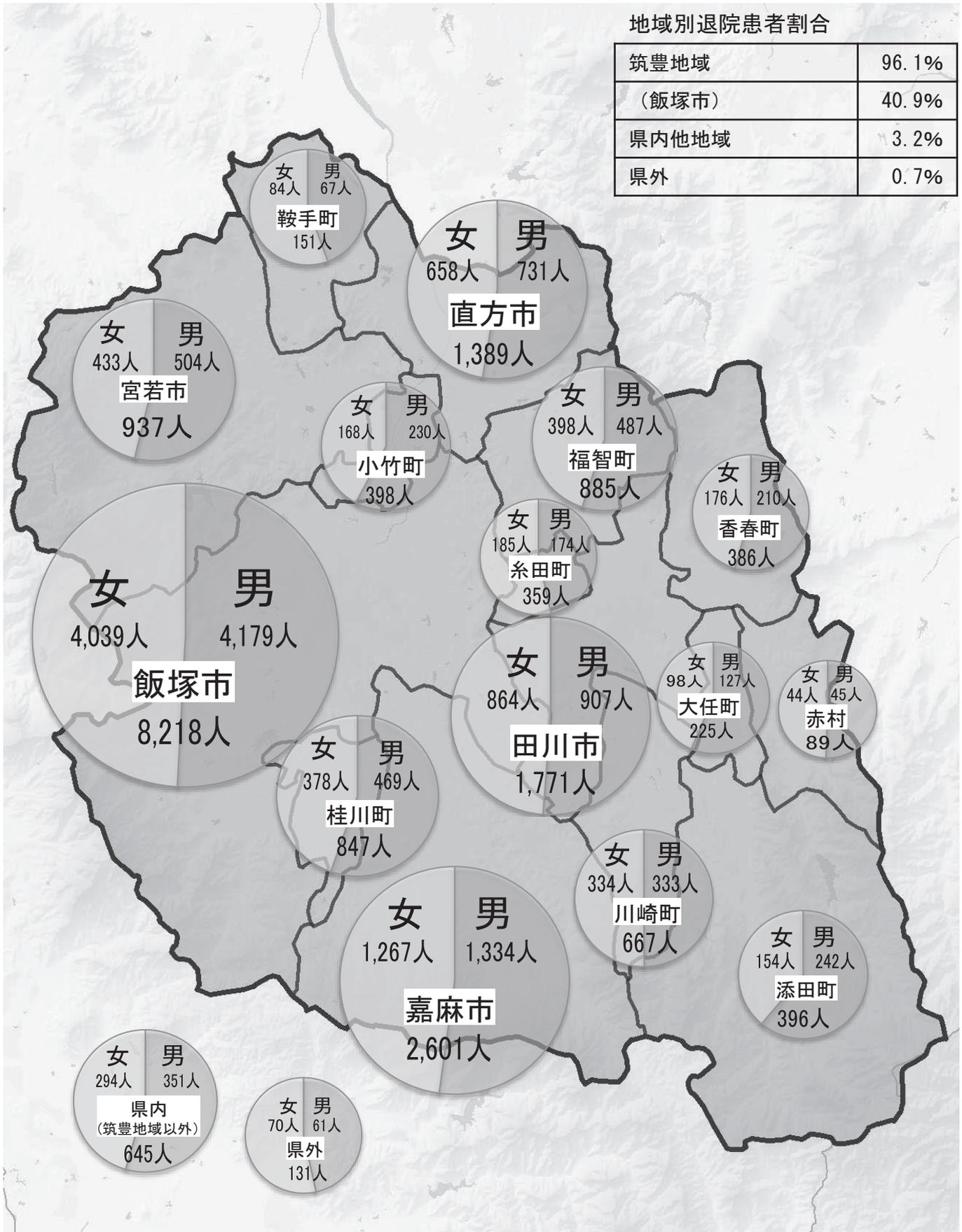
退院科	性別	0 ~ 9	10 ~ 19	20 ~ 29	30 ~ 39	40 ~ 49	50 ~ 59	60 ~ 69	70 ~ 79	80 ~ 89	90歳 ~	合計	75歳以上 (再掲)
眼科	男	1	4	1	4	15	38	56	116	49	9	293	102
	女	1	2	1	4	3	17	54	110	103	12	307	175
耳鼻咽喉科	男	14	12	12	18	19	32	34	68	23	1	233	38
	女	13	7	8	10	8	13	29	23	17	2	130	26
小児外科	男	55	11	0	0	0	0	0	0	0	0	66	0
	女	20	5	0	0	0	0	0	0	0	0	25	0
脳神経外科	男	4	7	2	3	25	26	60	98	52	16	293	103
	女	1	1	4	5	13	24	47	81	67	25	268	126
歯科口腔外科	男	25	11	9	12	13	7	7	12	3	1	100	4
	女	11	9	21	13	17	11	14	18	10	2	126	20
呼吸器外科	男	0	8	1	2	7	18	40	91	22	1	190	63
	女	0	6	0	3	4	4	27	53	21	2	120	49
心臓血管外科	男	0	0	0	2	8	21	67	91	64	7	260	113
	女	0	0	1	0	2	5	21	78	81	22	210	147
脳神経内科	男	0	2	7	3	15	29	73	121	65	16	331	135
	女	0	2	1	0	6	14	51	69	77	47	267	164
漢方診療科	男	0	3	0	2	0	0	0	0	0	0	5	0
	女	0	6	2	7	2	3	1	0	2	0	23	2
感染症科	男	0	0	0	0	1	2	0	1	4	0	8	4
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2
救急科	男	0	1	3	1	2	8	19	41	46	17	138	81
	女	0	0	2	4	2	2	3	16	28	33	90	68
形成外科	男	8	9	1	7	4	9	6	17	4	0	65	12
	女	4	6	0	4	4	3	13	18	5	3	60	19
集中治療科	男	0	1	5	2	5	14	19	28	27	1	102	43
	女	0	0	3	1	4	5	6	14	22	1	56	32

7. 地域別・年齢別・性別 退院患者数

住 所	性別	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90歳	合計	75歳以上 (再掲)
		～9	～19	～29	～39	～49	～59	～69	～79	～89	～		
		971	415	498	729	1,050	1,525	3,480	6,010	4,213	1,204	20,095	8,020
飯塚市	男	239	106	69	85	184	335	779	1,304	873	205	4,179	1,602
	女	190	56	157	258	241	274	512	951	970	430	4,039	1,846
嘉麻市	男	51	29	11	28	51	118	270	498	234	44	1,334	472
	女	32	25	17	53	65	76	186	390	319	104	1,267	587
田川郡 福智町	男	43	7	4	12	30	43	118	153	73	4	487	152
	女	15	5	13	12	26	32	82	84	104	25	398	169
川崎町	男	15	10	2	8	13	30	75	115	61	4	333	109
	女	10	3	15	10	19	16	76	105	70	10	334	133
糸田町	男	7	0	4	0	11	8	34	80	24	6	174	56
	女	8	3	8	8	10	12	15	56	47	18	185	88
香春町	男	11	2	2	6	6	14	45	75	40	9	210	88
	女	4	4	5	5	4	10	18	58	50	18	176	120
添田町	男	4	6	8	2	7	12	63	101	29	10	242	82
	女	4	2	3	2	3	12	31	40	47	10	154	73
大任町	男	10	0	0	0	1	10	36	41	26	3	127	48
	女	12	4	0	5	4	0	24	16	26	7	98	40
赤村	男	2	0	2	0	0	0	5	21	13	2	45	25
	女	2	1	3	3	0	1	10	14	7	3	44	15
田川市	男	74	20	9	17	50	68	166	294	182	27	907	337
	女	59	22	31	25	64	74	132	243	156	58	864	331
直方市	男	25	16	7	21	30	64	119	262	166	21	731	292
	女	19	21	26	32	36	64	102	177	142	39	658	276
宮若市	男	20	7	3	9	25	49	113	173	90	15	504	178
	女	13	11	23	21	24	33	64	111	99	34	433	169
嘉穂郡 桂川町	男	22	10	3	11	26	26	87	201	71	12	469	156
	女	17	13	10	17	16	20	62	90	87	46	378	170
鞍手郡 小竹町	男	6	3	0	1	16	13	43	73	70	5	230	100
	女	1	4	0	5	8	15	26	62	34	13	168	77
鞍手町	男	3	4	0	0	0	11	14	23	9	3	67	26
	女	2	0	1	5	3	4	27	26	14	2	84	29
福岡県 (筑豊以外)	男	21	10	17	14	37	47	73	91	35	6	351	90
	女	16	7	28	34	26	21	57	59	36	10	294	70
福岡県外	男	9	3	7	2	4	11	10	12	3	0	61	4
	女	5	1	10	18	10	2	6	11	6	1	70	10

地域別退院患者割合

筑豊地域	96.1%
(飯塚市)	40.9%
県内他地域	3.2%
県外	0.7%



9. 病理解剖件数内訳

	死亡数	解剖数	剖検率
肝 臓 内 科	37	0	0,0%
呼 吸 器 内 科	124	1	0,8%
血 液 内 科	25	0	0,0%
総 合 診 療 科	119	1	0,8%
膠原病・リウマチ内科	3	0	0,0%
緩 和 ケ ア 科	418	1	0,2%
腎 臓 内 科	10	0	0,0%
循 環 器 内 科	45	1	2,2%
小 児 科	4	0	0,0%
外 科	9	1	11,1%
呼 吸 器 外 科	2	0	0,0%
婦 人 科	2	0	0,0%
脳 神 経 外 科	53	0	0,0%
脳 神 経 内 科	23	1	4,3%
泌 尿 器 科	1	0	0,0%
耳 鼻 咽 喉 科	1	0	0,0%
心 臓 血 管 外 科	13	0	0,0%
救 急 部	225	0	0,0%
集 中 治 療 部	15	1	6,7%
感 染 症 科	1	0	0,0%
合 計	1130	7	0,6%
院 外	0	0	0,0%

※合計の剖検率には院外症例および死後の針組織検査症例は含まれていません。

10. 手術に関する施設基準および手術件数

医科点数表第2章第10部手術通則5号及び6号並びに歯科点数表第2章第9部通則第4号に掲げる手術の術式別手術件数（2022年1月～12月）

区分・手術名称	手術件数
(1) 区分1に分類される手術	
ア 頭蓋内腫瘍摘出術等	34
イ 黄斑下手術等	161
ウ 鼓室形成手術等	12
エ 肺悪性腫瘍手術等	174
オ 経皮的カテーテル心筋焼灼術	253
(2) 区分2に分類される手術	
ア 靭帯断裂形成手術等	10
イ 水頭症手術等	47
ウ 鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	0
エ 尿道形成手術等	0
オ 角膜移植術	0
カ 肝切除術等	81
キ 子宮附属器悪性腫瘍手術等	20
(3) 区分3に分類される手術	
ア 上顎骨形成術等	2
イ 上顎骨悪性腫瘍手術等	16
ウ バセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）	1
エ 母指化手術等	0
オ 内反足等	0
カ 食道切除再建術等	0
キ 同種腎移植術等	0
(4) 区分4に分類される手術	663
(5) その他の区分	
ア 人工関節置換術に関する手術	191
イ 乳児外科施設基準対象手術	1
ウ ペースメーカー移植術およびペースメーカー交換術に関する手術	172
エ 冠動脈、大動脈バイパス移植術（人工心肺を使用しないものを含む） および体外循環を要する手術	215
オ 経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈粥腫切除術 および経皮的冠動脈ステント留置術	397

〔Ⅳ〕学 術 業 績

【学術業績掲載ルール】

1. 対象期間は1月1日～12月31日とする。
 2. 掲載対象は以下の通りである。
 - 飯塚病院で行われた学術業績
 - 当院研究業績システムに登録された学術業績
(論文については、PubMed・医中誌に施設名が飯塚病院で登録されたものを含む)
 - 著者名・発表者名の上位3人以内に、対象期間内に当院に在籍した職員がいる
-

1. 発表論文・著書

肝臓内科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2022-1	Kuwano A, Yada M, Nagasawa S et al.	Serum α -fetoprotein level at treatment completion is a useful predictor of hepatocellular carcinoma occurrence more than one year after hepatitis C virus eradication by direct-acting antiviral treatment	Journal of Viral Hepatitis 29(1):35-42
2022-1	Fukuya H, Kuwano A, Nagasawa S et al.	Multicentric recurrence of intraductal papillary neoplasm of bile duct after spontaneous detachment of primary tumor: A case report	World Journal of Clinical Cases 10(3):1000-1007
2022-5	Kuwano A, Yada M, Nagasawa S et al.	Hepatitis C virus eradication ameliorates the prognosis of advanced hepatocellular carcinoma treated with sorafenib	Journal of Viral Hepatitis 29(7):543-550
2022-5	Kuwano A, Yada M, Narutomi F et al.	Therapeutic efficacy of atezolizumab plus bevacizumab for hepatocellular carcinoma with WNT/ β -catenin signal activation	Oncology Letters 24(1):216
2022-7	栗野哲史、田中紘介、長澤滋裕、他	切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法によって免疫性血小板減少性紫斑病を生じた1例	肝臓 63 (7) :335-341
2022-7	森田祐輔、栗野哲史、長澤滋裕、他	慢性膵炎急性増悪に続発し、保存的治療で軽快した多発性骨壊死の1例	日本消化器病学会雑誌 119:761-767
2022-11	Sugimoto R, Motomura K, Ooho A et al.	Factors Contributing to the Prognosis after Second-line Therapy with Ramucirumab in Advanced Hepatocellular Carcinoma.	Internal Medicine 61(21):3157-3164

呼吸器内科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2022-3	Sueyasu T, Tobino K, Murakami Y et al.	The Japanese Respiratory Society guidelines may reduce unnecessary chest computed tomography in patients with pneumonia requiring hospitalization: A retrospective study	Respiratory Investigation 60:264-270
2022-7	山元隆太、大井隆之介、飛野和則、他	A case of ruptured ovarian metastasis of small cell lung cancer	Respiratory Medicine Case Reports :101717
2022-9	Sakabe M, Tobino K, Uchida K et al.	Isolated Congenital Interruption of the Right Interlobar Pulmonary Artery with Unilateral Interstitial Lung Abnormality	Respir Med Case Rep 39:101734

総合診療科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2022-1	Kudou M	Concerns about the applicability of the Canadian Syncope Risk Score	Annals of Internal Medicine 175:783-794
2022-1	清田雅智	Challenger- 挑戦者 -	DOCTOR'S MAGAZINE :14-17
2022-2	工藤仁隆	読む価値の高い論文の見つけ方：二次資料を活用しよう！いきなりPubMed検索は危険！！	レジデントノート 23 (16) :2641-2648
2022-2	長谷部圭亮、工藤仁隆	Review article の読み方② Systematic review コクランレビューを読もう	レジデントノート 23 (16) :2684-2693
2022-2	小杉俊介	論文の探し方・選び方・読み方を身につける	レジデントノート 23 (16) :2701-2706

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2022-2	Koito S, Unoki Y, Yoshida K et al.	Importance of early diagnosis and surgical treatment of calcified amorphous tumor-related native valve endocarditis caused by Escherichia coli: a case report	BMC Infectious Diseases 22:226:1-6
2022-3	金 弘子	性的少数者の通院困難に挑むプロジェクトが 学術大会長賞受賞 - 金弘子・総合診療科医師 に聞く◆Vol.1	医療維新 (WEB) :1-5
2022-3	鈴木祥太郎	麻疹:風疹:水痘:流行性耳下腺炎:手足口病: :パルボウイルス B19 感染症:帯状疱疹 :海外帰りの慢性皮疹	流れがわかる!感染症診療の 歩きかた :81-87:88-92 :149-153:154-157 :158-161:162-165 :286-292:293-303
2022-3	小糸 秀	カテーテル関連血流感染症	流れがわかる!感染症診療の 歩きかた :104-111
2022-3	岩佐和樹	偽膜性腸炎	流れがわかる!感染症診療の 歩きかた :112-116
2022-3	大西崇平	急性副鼻腔炎	流れがわかる!感染症診療の 歩きかた :337-340
2022-3	金 弘子	性的少数者の対応例まとめた「実装支援ツ ール」作成、医療機関への導入支援も - 金弘子・ 総合診療科医師に聞く◆Vol.1	医療維新 (WEB) :1-4
2022-7	金 弘子	だれもが安心して過ごせる医療機関—多様な 性のあり方を支持する取り組みから考える—	ジェネラリスト教育コンソー シアム Vol.17 :123
2022-8	小杉俊介	(書評) チーフレジデント直伝!デキる指導 医になる 70 の方法 研修医教育・マネジメ ント・リーダーシップ・評価法の極意	医学界新聞 :3480(6)
2022-8	金 弘子	LGBTQ 病院で苦悩	夕刊読売新聞 7:7
2022-8	金 弘子	セクシュアリティの新概念「SOGI」多様性 が尊重される医療機関を目指す	Medical Tribune 5:5
2022-8	小杉俊介	チーフレジデントと探るデキる若手指導医に 必須の視点	医学界新聞 :3481(1-3)
2022-8	小杉俊介	医学教育×エコー	総合診療 :990-993
2022-9	井上三四郎	何が大腿骨近位部骨折患者の入院期間を長期 化させているのか—101 例のロジスティック 回帰分析	整形外科 73(10):1040-1042
2022-9	清田雅智	現代では知られなくなった気胸の身体所見 「コインテスト」:画像検査優位の時代, 身体 診察は不要な技術なのか?	Hospitalist 10 (1) :172-178
2022-10	高井咲弥、清田雅智	高血圧治療の診療評価指標	medicina 59 (11):1856-1860
2022-10	高井咲弥、清田雅智	高血圧の栄養療法による評価指標とその実装 方法	medicina 59 (11):1862-1865
2022-10	清田雅智	遺伝子検査による稀少疾患の診断	Precision Medicine 5(11):1-4
2022-11	井上三四郎	大腿骨近位部骨折患者の入院時内服薬—地方 急性期病院における 2012 年と 2020 年の上半 期の比較	整形外科 73(12):1240-1243
2022-11	ShibataM	Ecology of medical care	Journal of General Internal Medicine 37:4011
2022-12	赤岩 喬	医療機関における取り組み — 額田病院にお ける運転支援	治療; 2022 vol.104:vol.104
2022-12	井上三四郎、井村洋、清田雅智、 他	飯塚病院式大腿骨近位部骨折手術翌日転科シ ステムに関する整形外科医を対象としたアン ケート調査	日病総誌 18(6):438-441

連携医療・緩和ケア科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2022-1	石上雄一郎	集中治療における緩和ケア	INTENSIVIST 14:92-97
2022-2	石上雄一郎	非がん患者の緩和ケア	月刊薬事 :293-295
2022-11	大森崇史、柏木秀行、井上修二郎、他	急性期病院における心不全緩和ケア提供体制の構築	Palliative Care Research :165-170

循環器内科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2022-2	川上将司、Tahara Y、古賀秀信、他	The association between time to extracorporeal cardiopulmonary resuscitation and outcome in patients with out-of-hospital cardiac arrest	European Heart Journal: Acute Cardiovascular Care :online publish
2022-3	川上将司	4 ショック	循環器診療エッセンシャル :29-34
2022-3	川上将司	1 心停止	循環器診療エッセンシャル :74-80
2022-5	川上将司	条件付き MR 対応の植込み型心臓電気デバイス (CIEDs)	Hospitalist vol. 9 (No. 4):860-865
2022-5	川上将司	急性冠症候群 / 大動脈解離	総合診療 :557-561
2022-5	川上将司	心室細動・無脈性心室頻拍に対する蘇生	Cardiology Mania VT/VF の制圧 :20-26
2022-5	川上将司	急性冠症候群と心室不整脈	Cardiology Mania VT/VF の制圧 :172-179
2022-9	片迫彩、川上将司、古賀秀信、他	The Association Between the Duration of Chest Compression and Thoracic Injuries in Patients With Non-Traumatic Out-of-Hospital Cardiac Arrest	Circulation Journal 86(10):1572-1578
2022-10	川上将司	循環動態モニタリング	循環器ジャーナル 70(4):573-579
2022-11	川上将司	心不全治療の次の一手：心臓再同期療法、経皮的僧帽弁接合不全修復システムについて教えてください	medicina 59(12):2211-2215
2022-11	溝上功明、川上将司、井上修二郎	Occlusion of a Persistent Sciatic Artery With an Aneurysm	Circulation Journal 86:1785
2022-11	本田修浩、高原勇介、大賀泰寛、他	Late reversible complete atrioventricular block and PR interval normalization after antegrade slow pathway ablation for atrioventricular nodal re-entrant tachycardia with pre-existing PR prolongation	Journal of Cardiology Cases 26:348-352

脳神経内科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2022-1	進村光規	Clinical utility of serum prolactin and lactate concentrations to differentiate epileptic seizures from non-epileptic attacks in the emergency room	Seizure: European Journal of Epilepsy 95:75-80

腎臓内科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2022-5	Sakamoto S, Fujisaki K	Pulmonary embolism after relief of urinary obstruction.	Internal medicine :1625
2022-7	Sakamoto S, Fujisaki K	Acute kidney injury in a CKD patient with a prolapsed uterus	Kidney 360 :1289-1290

漢方診療科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2022-1	吉永 亮	プライマリ・ケアにこそ漢方！冷えのミカタ⑦－外来が楽しくなる冷えの診療－	プライマリ・ケア 7 (1) :31-37
2022-1	田原英一、原田直之、牧俊允、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 120] 『最近の治験・知見・事件!?!』パート II 105 頭汗に茵陳蒿湯が奏効した 2 例	漢方の臨床 69 (1) :109-114
2022-2	吉永 亮、原田直之、牧俊允、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 121] 『最近の治験・知見・事件!?!』パート II 106 痔核を伴う肛門部の激しい疼痛に芍薬甘草湯の溶解液が奏効した 1 例	漢方の臨床 69 (2) :219-225
2022-2	吉永 亮	よく使う漢方製剤「芍薬甘草湯」	月刊薬事 64 (3) :193-196
2022-3	田原英一	日本東洋医学会医療安全委員会の考え方と活動	薬理と治療 50 (3) :345-346
2022-3	矢野博美、原田直之、吉永 亮、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 122] 『最近の治験・知見・事件!?!』パート II 107 小柴胡湯と小柴胡湯加桔梗石膏の症例	漢方の臨床 69 (3) :337-343
2022-4	吉永 亮	プライマリ・ケアにこそ漢方！家族をみるための Family Kampo ①－当帰芍薬散－	プライマリ・ケア 7 (2) :31-37
2022-4	井上博喜、原田直之、吉永 亮、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 123] 『最近の治験・知見・事件!?!』パート II 108 ジストニアに漢方治療が奏効した 2 症例	漢方の臨床 69 (4) :395-400
2022-5	原田直之、中尾桂子、吉永 亮、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 124] 『最近の治験・知見・事件!?!』パート II 109 高齢者施設で続けて発症した大腿骨頸部骨折と脳梗塞の症例	漢方の臨床 69 (5) :539-545
2022-6	吉永 亮、原田直之、井上博喜、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 125] 『最近の治験・知見・事件!?!』パート II 110 母・長女・次女に漢方治療が有効であった 3 症例	漢方の臨床 69 (6) :625-630
2022-7	吉永 亮	プライマリ・ケアにこそ漢方！家族をみるための Family Kampo ②－加味逍遙散－	プライマリ・ケア 7 (3) :25-31
2022-7	吉永 亮	新型コロナウイルス感染症罹患後の著明な全身倦怠感やブレインフォグなどの諸症状に対して漢方治療を行って職場復帰できた 1 例	日本東洋医学雑誌 73:335-341
2022-7	田原英一	Letter「日本で傷寒論の順が太陽、少陽、陽明となった理由の一考察」の問題点	日本東洋医学雑誌 73:347-348
2022-7	矢野博美、中尾桂子、原田直之、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 126] 『最近の治験・知見・事件!?!』パート II 111 コロナ禍における院内職員に対する漢方外来受診の勧めの試み	漢方の臨床 69 (7) :727-734
2022-8	Yoshinaga R	Role of Kampo medicine and integrative medicine in general internal medicine"1st International Symposium on Kampo Medicine"	Traditional & Kampo Medicine 9(2):121-122

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2022-8	井上博喜、中尾桂子、原田直之、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 127] 『最近の治験・知見・事件!』パートII 112 腹中の寒気雷鳴切痛を伴う下痢型過敏性腸症候群に麦門冬湯エキスとブシ末の併用投与が奏功した3症例	漢方の臨床 69 (8) :823-830
2022-9	田原英一	巻頭言 /COVID-19 の時代と Web 講演会のあゆみ～東洋医学会福岡県部会の闘争	漢方の臨床 69 (9) :907-908
2022-9	田原英一	高齢者での治療	消化器・肝臓内科 12 (3) :277-281
2022-10	吉永 亮	プライマリ・ケアにこそ漢方! 家族をみるための Family Kampo ③- 芍婦調血飲-	プライマリ・ケア 7 (4) :30-35
2022-11	田原英一、中尾桂子、原田直之、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 130] 『最近の治験・知見・事件!』パートII 115 後世方ばかり3例: 梨状筋症候群に疎経活血湯、再発性副鼻腔炎に人參養栄湯 (聖済総録)、婦人科の下腹部痛に通導散	漢方の臨床 69 (11) :1157-1162
2022-12	吉永 亮	「かぜ?」と思ったときに有用な処方	レジデントノート 24 (13) :2256-2264

小児科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2022-4	田中友規、嘉村拓朗、近藤里香子、他	メチルフェニデート過量内服5時間後に活性炭を投与した13歳男児	日本救急医学会雑誌 Volume33,Number4:173-177
2022-10	穂吉秀隆、田中祥一朗、大矢崇志、他	コロナウイルス感染症 2019 流行下の学校、園が求めたものと学校医、園医の在り方	日本小児科学会雑誌 126 巻 10 号 :1390(34)-1397(41)
2022-10	Horikawa Y, Yatsuga S, Ohya T et al.	Laryngotracheal separation surgery in patient with severe Angelman syndrome involving a 19.3 Mb deletion on 15q11.2-q14	Clinical Case Reports 2022;10:e06545

外科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2022-7	豊永敬之、古賀 聡	NBI 併用拡大内視鏡が有用であった肛門管扁平上皮癌の2例	日本大腸肛門病学会 第75巻7号 :353-359

呼吸器外科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2022-7	Yasuda M, Take N, Shinohara S et al.	Serum immunoglobulins might be useful predictors of immune-related adverse events after immune checkpoint inhibitor usage in lung cancer.	Thoracic Cancer.13(17) :2536-2538

産婦人科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2022-8	西山 哲、林宗太郎、安部直希、他	Bilateral ovarian endometriomas after laparoscopic hysterectomy following adjuvant tamoxifen therapy for breast cancer: A case report	Case Report in Women's Health :36

整形外科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2022-4	Ushijima T, Arai K	Use of a Box-cut Osteotomy Preserving Collateral Ligaments in Costal Osteochondral Graft Reconstruction of Proximal Interphalangeal Joint Cartilage Defects.	Journal of Hand Surgery Asian-Pacific Volume :389-393
2022-9	Hara T, Sonoda K	Spherical Periacetabular Osteotomy	JBJS EST :12(3):p e21.00048
2022-9	原 俊彦、園田和彦	Surgical Technique of SPO (Spherical Periacetabular Osteotomy)	JBJS EST :12(3):p e21.00048
2022-9	Natori T, Komiyama K, Sonoda K et al.	Prevalence Of Idiopathic Normal Pressure Hydrocephalus Inpatients With Hip Fractures: A Propensity-Matched Cohortstudy	Journal of the American Geriatrics Society :1-3
2022-9	菅野真未、園田和彦、原 俊彦	当院におけるセメントレスシステムを用いたTHA のステム設置精度に関する検討	整形外科と災害外科 71 (3) :463-467
2022-9	陣林秀紀、園田和彦、原 俊彦、他	骨盤座標系における冠状面の基準軸に関する検討：寛骨臼形成不全症例での検討	整形外科と災害外科 71 (3) :474-477
2022-9	宇都宮健、園田和彦、小宮山敬祐、他	大腿骨近位部骨折症例における準緊急手術までの所要時間に与える影響因子に関する検討	整形外科と災害外科 71(4) :838-841
2022-9	樺山寛光、宇都宮健、小宮山敬祐、他	大腿骨近位部骨折術後 1 年経過した患者の日常生活動作についての調査	整形外科と災害外科 71(4) :845-848
2022-9	藤村謙次郎、原 俊彦、原口明久、他	非定型大腿骨不全骨折に対する予防的骨接合術後の骨癒合率について	整形外科と災害外科 71(4) :853-857
2022-12	原 俊彦	Periacetabular Osteotomy の歴史と変遷	整形・災害外科 :1609-1615

脳神経外科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2022-6	山田哲久、名取良弘	当初迷走神経反射による転倒で脳振盪と診断したが小脳梗塞であった 1 例	Journal of Japan Society of Neurological Emergencies & Critical Care 34:75-79
2022-9	山田哲久、名取良弘、甲斐康稔、他	器質化慢性硬膜下血腫に対する治打撲一方の効果の検討	脳神経外科と漢方 7 :14-18

心臓血管外科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2022-6	Sakai H, Uchida T, Matsumoto T	Treatment strategies for thromboembolism-in-transit with pulmonary embolism	Interactive CardioVascular and Thoracic Surgery 35:ivac 183

感染症科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2022-1	Ohashi Y, Koito S, Matono T	Pubic bacterial osteomyelitis in a soccer player: a diagnostic pitfall	BMJ Case reports 15:e246480
2022-1	的野多加志	動物により伝播される感染症 (特にイヌ、ネコ、ウサギ、ネズミに咬まれたとき)	今日の治療指針 233-234
2022-2	Matono T, Fujii N, Teshima Y	Genomic insights into virulence factors affecting tissue-invasive Klebsiella pneumoniae infection	Annals of Clinical Microbiology and Antimicrobials 21(1):2
2022-3	的野多加志	感染症の基礎知識～感染症を理解しよう～	介護現場のための感染症対策ガイドブック :5-18
2022-3	的野多加志	感染症診療とは：患者背景の把握 ：感染臓器の特定：治療期間の決定 ：外科的ドレナージの勧め ：ワクチン～備えあれば患いなし～ ：ERでの発熱の見方：インフルエンザ ：予防内服の効果は懐疑的、インフルエンザ ワクチンのQ&A、出勤停止期間の真実 ：見過ごし厳禁！菌血症とマラリア	飯塚イズムで学ぶ 流れがわかる！感染症診療の歩きかた :2-3:4-7:8-11 :24-30:31:41-48 :61-65:66-69 :93-94
2022-3	長谷川雄一	感染性腸炎：肺炎：肺膿瘍・膿胸：脳膿瘍 ：細菌性髄膜炎 / 院内：蜂窩織炎：急性中耳炎	飯塚イズムで学ぶ 流れがわかる！感染症診療の歩きかた :70-75:168-179 :180-185:270-273 :274-277:278-285 :341-345
2022-3	帆足公佑	免疫不全と感染症：好中球減少性発熱 ：尿道炎 / 淋菌、クラミジア：梅毒 ：認知症と思ったら・・・神経梅毒 ：骨盤内炎症性疾患 ：非淋菌性、非クラミジア性尿道炎	飯塚イズムで学ぶ 流れがわかる！感染症診療の歩きかた :238-242:243-250 :251-254:255-258 :259-262:358-363 :364-371
2022-3	土方貴道	細菌性眼内炎 ：心臓血管外科術後に出現する発熱を伴う非 感染性の心嚢水・胸水貯留の正体とは！？ ：血液透析患者と MRSA 感染症：骨髄炎 ：化膿性脊椎炎：化膿性関節炎 ：感染性心内膜炎：深頸部感染症	飯塚イズムで学ぶ 流れがわかる！感染症診療の歩きかた :191-201:202-203 :236-237:313-317 :318-324:325-330 :346-351:352-357
2022-3	山手亮佑	術後の発熱の見方：急性虫垂炎：胆嚢炎・胆 管炎 ：真菌感染症を疑うポイント～侵襲性カンジ ダ症～：大腸憩室炎：肝膿瘍 ：壊死性軟部組織感染症：化膿性筋炎 ：人工関節感染症	飯塚イズムで学ぶ 流れがわかる！感染症診療の歩きかた :117-122:123-126 :127-130:131-137 :204-208:209-213 :304-309:310-312 :331-336
2022-3	大橋祐介	HIV 感染症：結核：腎盂腎炎：前立腺炎 ：無症候性細菌尿の治療適応 ：細菌性髄膜炎 / 市中 ：精神疾患や急性薬物中毒と間違えるヘルペ ス脳炎	飯塚イズムで学ぶ 流れがわかる！感染症診療の歩きかた :76-80:186-190 :214-221:222-224 :225-226:263-267 :268-269
2022-7	Matono T, Yoshida M, Koga H et al.	Diagnostic accuracy of quick SOFA score and inflammatory biomarkers for predicting community-onset bacteremia	Scientific Reports 12(1):11121
2022-10	Matono T, Izumiya H, Koga H et al.	Epidemiologic and genomic investigations of an unusual increase in Salmonella enterica serovar Paratyphi A infection among travelers returning from Myanmar in 2015	International Journal of Infectious Diseases 125:170-176

救急科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2022-2	有吉 慧、石上雄一郎	自殺企図のリスク	レジデントノート増刊 :2964 - 2967
2022-8	片桐 欧、吉野俊平	動・静脈留置カテーテル挿入×エコー	総合診療 第 32 巻 第 8 号 :959-963

集中治療科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2022-1	川上大裕	リベラルアーツのすゝめ.	週刊日本医事新報【炉辺閑話 2022】 :58-9
2022-2	桑野公輔、川上大裕	集中治療領域の緩和ケアニーズにはどのようなものがあるか？	月間 薬事 :97(289)-99(291)
2022-3	Hiramatsu T, Tobino K	Necrotizing pneumonia caused by methicillin-resistant <i>Staphylococcus aureus</i>	Clinical Case Reports :wileyonlinelibrar
2022-3	Kawakami D, Yoshino S, Kawakami S et al.	Fat embolism syndrome	Intensive Care Medicine :748-749
2022-8	片桐 欧、吉野俊平	動・静脈留置 カテーテル挿入×エコー	総合診療 :959
2022-9	吉野俊平	身体診察総論：第一印象の把握～疾患ゲシュタルトに一致するかが診断の鍵～	Hospitalist「身体診察」 第 35 号 Vol.10 No.1:16-19
2022-10	川上大裕	多職種による病棟回診・外来フォロー	症例から学ぶ PICS の予防と早期介入 :153-162
2022-10	川上大裕、桑野公輔	ICU 頻用薬 使い方のリアル	ICU 頻用薬 使い方のリアル :1-304
2022-11	鈴木祥太郎、川上大裕	救急・集中治療での予後予測の難しさ；救命率・後遺症	ICU と CCU 第 46 巻 11 号 :707-713
2022-12	平松俊紀、小糸理紗、幸田 太	複視を伴うニホンマムシ咬症受傷から約 30 時間経過した後乾燥まむしウマ抗毒素を投与した 1 例	中毒研究 :307-312

中央検査部

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2022-1	手島裕治、秋永理恵、古野貴未、他	特発性細菌性腹膜炎における腹水培養および血液培養検査の評価と有効性の検討	医学検査 :106-111
2022-3	山中宏晃、秋永理恵、古賀秀信	高齢者における入院時アルブミンと転倒転落インシデントの関連	日本臨床検査医学会誌 第 70 巻 第 3 号 :195-199
2022-9	手島裕治、秋永理恵、古野貴未、他	<i>Candida</i> 血症における <i>C. glabrata</i> と non- <i>C. glabrata</i> の血液培養ボトル発育特性の検討	日本臨床微生物学会雑誌 :32-4
2022-12	川嶋大輔	細胞診ガイドライン 5 消化器	細胞診ガイドライン 5 消化器 :1-11

リハビリセンター

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2022-6	横手翼、西村天利、中村裕輔、他	ドブタミン塩酸塩投与下で外来心臓リハビリテーションを実施した末期高齢心不全の一例	心臓リハビリテーション :205-208
2022-10	西田英生、寺下晶一郎、横手翼、他	Association between the Ability to Turn Over on Admission and Bedridden State at Discharge for Stroke	International Journal of Physical Medicine and Rehabilitation 10:1-6
2022-10	大西悠太郎、白土健吾、横手翼、他	大動脈弁狭窄症手術待機患者に対して運動・栄養療法を実践した一例 術前の身体機能改善を目指して	理学療法ジャーナル :Vol.56 No.10.1239

薬剤科

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2022-10	進 健司	特に注意が必要な患者へのケア・・・どうする？「5 精神疾患をもつ患者」	病院薬剤師になったら学ぶこと 入院患者マネジメントの1冊目 :257-266
2022-12	皆元文恵、梅田勇一、富永麻衣子、他	処方適正化に向けたポリファーマシーチームの取り組み	日本老年薬学会雑誌 5巻4号 :33-40

予防医学センター

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2022-5	赤星和也、大石善丈、赤星和明、	人間ドックの上部消化管 X 線検査を契機に診断された 1cm の胃消化管間質腫瘍の 1 例	Journal of Gastrointestinal Cancer Screening 60(3) :375-383
2022-9	赤星和也、大石善丈、上村健斗、田村慎一	胃癌に対する EUS 診断－ EUS の適応検討を中心に－	消化器内視鏡 34(9) :1484-1490

看護部

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2022-1	岡 佳子	エンド・オブ・ライフケアの臨床倫理【事例：非がん性疾患患者編】慢性疾患患者における治療方針の意思決定	エンド・オブ・ライフケア, 6(1),21-25, 日総研出版, 2022. :21-25
2022-3	長嶋ひとみ	私の分野の看護で大切なこと 2. 呼吸器看護	エキスパートナース :34-40
2022-5	岡 佳子	ケースで学ぶ！非がん患者の緩和ケア実践と意思決定支援	エンド・オブ・ライフケア, 4-6, 日総研出版, 2022. :4-6
2022-5	岡 佳子	入退院を繰り返す非がん患者への緩和ケア実践と意思決定支援	エンド・オブ・ライフケア, 1-3, 2022. :1-3
2022-8	岡 佳子	スペシャリストの実践事例① 糖尿病と心不全のセルフケアを両立するための支援 糖尿病専門の立場から	月刊ナーシング, 42(10), p25-31, 2022. :95-101
2022-8	岡 佳子	経験から学ぶ教育の上手な進め方 飯塚病院におけるリフレクション研修の取り組み～あなたらしく輝く看護を目指して～	看護人材育成, 19(3), p69-74 :69-74
2022-9	下見美智子、宮崎万友子、原田恵美、他	急性期病院における心不全緩和ケア提供体制の構築	Palliative Care Research, 17(4) :1-6

事務

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2022-10	濱田祐子	請求履歴ファイルの管理による新たな取り組み～業務の可視化でばらつきのない適正請求へ～	全日本病院協会雑誌第 33 巻第 1 号 :60-62

イノベーション推進本部

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2022-3	井桁洋貴	民間病院における医療イノベーション	ほすびたる 759:9-11

内視鏡センター

発行年月	著者名	表題名	掲載誌名
2022-4	赤星和也、大石善丈、古賀 聡、他	消化管間質腫瘍 (GIST)	消化器内視鏡 34(4) :757-761
2022-10	赤星和明、赤星和也、青見賢明	胃顆粒細胞腫	消化器内視鏡 34:108-109

2. 学会発表

肝臓内科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-1-8	栗野哲史、長澤滋裕、森田祐輔、他	Wnt/ β -catenin変異を有する切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ/ペバシズマブ療法とレンバチニブ療法の治療効果の検討	第25回日本肝がん分子標的治療研究会
2022-3-16	長澤滋裕	症例報告	消化器内科クリニカルカンファレンス
2022-3-18	栗野哲史、長澤滋裕、森田祐輔、他	飯塚病院における進行肝細胞癌に対するアテゾリズマブ・ペバシズマブ併用療法の免疫関連有害事象	irAE management seminar
2022-5-12 ~ 2022-5-13	田中紘介、黒坂一輝、栗野哲史、他	2cm以上3cm未満の肝細胞癌に対するモノポーラ型VSマルチポーラ型RFAの比較検討	第58回日本肝癌研究会
2022-6-2 ~ 2022-6-3	栗野哲史、黒坂一輝、田中紘介、他	C型肝炎ウイルス排除はソラフェニブ治療を行った進行肝細胞癌患者の予後を改善する	第58回日本肝臓学会総会
2022-6-25	栗野哲史、長澤滋裕、森田祐輔、他	切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ、ペバシズマブ併用療法におけるWnt/ β -catenin変異と免疫学的検討	第26回日本肝がん分子標的治療研究会
2022-7-21	栗野哲史、黒坂一輝、田中紘介、他	当院における進行肝細胞癌に対する全身化学療法の使用経験からの考察	HCC Conversion therapy Conference
2022-10-27 ~ 2022-10-28	矢田雅佳、栗野哲史、長澤滋裕、他	核酸アナログ開始前後のFIB-4 Indexから高危険群を抽出する	第26回日本肝臓学会大会
	田中紘介、長澤滋裕、森田祐輔、他	2cm以上3cm未満の肝細胞癌に対するMonopolar型 vs Multipolar型RFAの比較検討	
	杉本理恵、本村健太、國府島庸之	Etiology別の薬物療法中の肝予備能の変化 - NASH / 非NASH, ICI / 非ICI -	
	矢田雅佳	肝臓病診療のこれからを探る	
	栗野哲史、田中紘介、本村健太	切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ、ペバシズマブ併用療法におけるWnt/ β -catenin変異と免疫学的検討	
2022-11-25 ~ 2022-11-26	栗野哲史、黒坂一輝、田中紘介、他	C型肝炎DAA治療後の発癌リスク因子と通院中断のリスク因子	第44回日本肝臓学会東部会
2022-12-2 ~ 2022-12-3	若杉晃伸、栗野哲史、田中紘介、他	原発病変は小さいが、血行性転移や全身転移を来し腫瘍死に至った胃肝様腺癌（AFP産生胃癌）の1例	第120回日本消化器病学会九州支部例会
	黒坂一輝、栗野哲史、本村健太	切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ、ペバシズマブ併用療法におけるWnt/ β -catenin変異と免疫学的検討	

呼吸器内科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-2-4 ~ 2022-2-5	飛野和則	飯塚病院におけるクライオバイオプシーの現状	第62回日本肺癌学会九州支部 学術集会 第45回日本呼吸器内 視鏡学会九州支部総会
2022-2-17 ~ 2022-2-19	吉峯晃平、飛野和則、靄野広介	当院における carboplatin-related hypersensitivity reactions の検討	第19回日本臨床腫瘍学会学術 集会
2022-3-19	内田和紀、飛野和則	閉経後に診断され、腹部腫瘍が増大した孤 発性LAMの一例	第88回日本呼吸器学会・日本 結核非結核性抗酸菌症学会 九 州支部 春季学術講演会
2022-4-22 ~ 2022-4-24	西澤早織、飛野和則、内田和紀、 他	オシメルチニブによる下血と薬剤性腸炎を 発症した1例	第62回日本呼吸器学会学術講 演会
	末安巧人、飛野和則、内田和紀、 他	関節リウマチ関連間質性肺疾患における牽 引性気管支拡張と予後の検討 アンコール 演題	
2022-6-12	飛野和則	呼吸機能検査の見かた	臨床呼吸器教育研究会 CREATE サマーセミナー 2022
2022-9-2 ~ 2022-9-3	大井隆之介、飛野和則、内田和紀、 他	自然気胸に対する気漏・胸腔内圧測定の意 義に関する検討	第26回日本気胸・嚢胞性肺疾患 学会総会
2022-10-1 ~ 2022-10-2	末安巧人	関節リウマチ関連間質性肺疾患における牽 引性気管支拡張所見と予後の検討	第2回日本びまん性肺疾患研究 会
2022-10-14 ~ 2022-10-15	大井隆之介	自然気胸に対する気漏・胸腔内圧測定の意 義に関する検討	第89回日本呼吸器学会 日本結 核 非結核性抗酸菌症学会 日本 サルコイドーシス/肉芽腫性疾 患学会 九州支部秋季学術講演 会
	吉峯晃平	当院における EGFR 陽性非小細胞肺癌患者 の免疫療法の検討	
2022-12-1 ~ 2022-12-3	吉峯晃平	肺腺癌の TTF-1 発現と治療効果、予後に関 する検討	第63回日本肺癌学会学術集会

内分泌・糖尿病内科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-10-7 ~ 2022-10-8	落合弘貴、井上智彰、嶋田伸吾、 他	ステロイド糖尿病に対してミグリトール内 服中、腸管気腫・縦隔気腫を発症した一例	第60回日本糖尿病学会九州地 方会
	伊藤 淳、井上智彰、嶋田伸吾、他	当院での経口 GLP-1 受容体作動薬の効果に ついての検討	
2022-12-7	伊藤 淳	糖尿病診療において薬物療法に期待すること	第311回福岡県病院薬剤師会筑 豊支部学術研修会

消化器内科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-3-23	大崎智絵	胃の1例	第405回筑豊消化器病研究会
	濱崎慎平	粘膜下腫瘍様隆起を呈したEBウイルス関 連胃癌の一例	
2022-5-13 ~ 2022-5-15	久保川賢、淀江賢太郎、竹島 翼、 他	当院における年代別にみた小児内視鏡診療 の現状	第103回日本消化器内視鏡学会 総会
2022-6-15	吉武千香子	胃癌が疑われた GIST の1例	第406回筑豊消化器病研究会
2022-6-24 ~ 2022-6-25	竹島 翼、小森圭司、小副川敬、他	当院での悪性大腸狭窄に対する Comvi ステ ント (covered type) の使用経験	第113回日本消化器内視鏡学会 九州支部例会

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-6-24 ~ 2022-6-25	松林江里子、鈴木祐輔、大崎智絵、他	ポリステレンスルホン酸Ca内服下で消化管粘膜傷害を生じた2症例	第119回日本消化器病学会九州支部例会
	濱崎慎平、小森圭司、淀江賢太郎、他	粘膜下腫瘍の形態を呈しボーリング生検が診断に有用であったEpstein-Barr(EB) ウィルス関連胃癌の1例	
	糸永周一、淀江賢太郎、鈴木祐輔、他	H.pylori除菌後胃癌の1例	
2022-6-24 ~ 2022-6-25	鈴木祐輔、小副川敬、久保川賢、他	当院での胃腫瘍性病変に対するClutch Cutter ESD及びPDS縫合糸付きPGAシート・フィブリン糊併用法を用いた後出血対策について	第113回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
2022-9-8 ~ 2022-9-9	竹島 翼、長田繁樹、大崎智絵、他	食道静脈瘤の内視鏡的硬化療法時におけるブスコパン持続静脈内投与による食道蠕動抑制効果についての検討	第29回日本門脈圧亢進症学会総会
	大崎智絵、竹島 翼、長田繁樹、他	当院における左側門脈圧亢進症症例の臨床像の検討	
2022-10-27 ~ 2022-10-30	鈴木祐輔、小副川敬、久保川賢、他	胃腫瘍性病変に対するClutch Cutter ESD及びPGAシート・フィブリン糊併用法を用いた後出血対策の有効性の検討	第104回日本消化器内視鏡学会総会
	小森圭司、小副川敬、淀江賢太郎、他	当院での悪性大腸狭窄に対するComViステントの治療成績	
2022-10-27 ~ 2022-10-30	久保川賢、長田繁樹、竹島 翼、他	直腸静脈瘤に対する内視鏡的硬化療法(EIS)の有用性	JDDW 2022
2022-12-2 ~ 2022-12-3	末永颯彦、野崎哲史、宜保淳也、他	乳癌による転移性胆管腫瘍の一例	第114回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
	金城留嘉、小森圭司、濱崎慎平、他	術後合併症により生じた短腸症候群に対してテデュグルチドが奏効した1例	
2022-12-2 ~ 2022-12-3	神矢真由、竹島 翼、小森圭司、他	梅干しの種子による小腸食蝕性腸閉塞の1例	第120回日本消化器病学会九州支部例会
	竹島 翼、吉武千香子、内之倉弘和、	単4乾電池を複数誤飲しダブルバルーン小腸内視鏡で摘出可能であった1例	
	濱崎慎平、小森圭司、小副川敬、他	PDGFRA 遺伝子変異(D842V)を認め、嚢胞状の形態を呈した胃GISTの一例	
	吉武千香子、小森圭司、小副川敬、他	遡及的な検索により数年で急速に進行したと考えられた高齢者の盲腸癌の2例	

血液内科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-7-14	帆足公佑	CyBorD療法後に肝再発し daratumumab を追加したALアミロイドーシスの一例	MM Interactive meeting 2022
2022-7-26	大山 真	移植非適応再発/難治症例に対する治療選択	MM Interactive meeting 2022
2022-10-14 ~ 2022-10-16	藤岡絵里子、喜安純一、崔日承、他	再発難治性B細胞リンパ腫に対するR-mEPOCH療法の有効性と安全性について	第84回日本血液学会学術集会
	牟田宏樹、喜安純一、吉玉健人、他	慢性骨髄性白血病患者でダサチニブ中止により自然退縮した炎症性ポリポイド病変	

心療内科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-11-19～ 2022-11-20	木附 康、仲吉美沙子	腸管ガスに関連する症状を主訴とする下痢型過敏性腸症候群の症例	第26回日本心療内科学会総会・学術大会

総合診療科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-1-29	吉野俊平、片桐 欧、桑野公輔	急性期医療における緩和ケア「蘇生中止のエビデンス、治療目的の設定について」	第336回九州地方会
2022-2-12～ 2022-2-13	金 弘子	KOPe企画 KOPeの活動、ご紹介いたします！～ポートフォリオもキャリア・カフェも～	第16回九州支部総会・学術大会
	藤村和弥、薄竜太郎、猪狩圭介、他	悪性症候群と鑑別を要した悪性カタトニアの一例	
2022-2-26～ 2022-2-27	大内田良真、岩佐和樹、長谷川雄一、他	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌による化膿性心膜炎と感染性大動脈瘤を早期診断し外科的介入で救命できた1例	第24回日本病院総合診療医学会学術総会
	吉野俊平	市中病院の医師の視点から	
	鶴木友都	若手部会企画5：重要トピックにキャッチアップ！最新論文10選	
2022-5-19～ 2022-5-22	井上三四郎	地方都市の急性期病院整形外科病棟における在院死亡～58例の検討	第95回日本整形外科学会学術総会
2022-6-11～ 2022-6-12	井上三四郎	運動器疾患との鑑別を要した神経疾患の検討：診断プロセス向上のために	第143回西日本整形・災害外科学会学術集会
2022-6-10～ 2022-6-12	柴田真志	多発性骨髄腫の腫瘍性胸椎圧迫骨折に対し緩和的放射線治療を実施し、自宅退院が可能となった1例	第13回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
	金 弘子	まるクルの活動報告～多彩なメンバーとともに作る多様な性のあり方を支持する医療機関の「実装支援ツール」	
		専攻医に優しい九州へ「KOPe：九州沖縄地区での定例オンラインポートフォリオ勉強会」の活動報告 第6報	
		多様なセクシュアリティの人が受診しやすく、働きやすい医療機関を目指して	
	渡邊航大	パパ専攻医／指導医4名の育児休業取得の実践とその考察	
	橋本彦太郎	A case of treatment for delirium after intensive care for self-imported drug overdose, eventually leading to outpatient psychiatric care	
	赤岩 喬	作業療法士・総合診療医を中心とした運動機能評価の実践	
	吉田 伸	社会的処方の実践：シンガポールと日本のコミュニティホスピタルでの経験を議論する（通訳あり）	
	提言書発表シンポジウム -ICTが可能にするプライマリ・ケアの未来-		
	オンライン診療 診断学ことはじめ-診察、コミュニケーション、対応を動画で解説-		
	Kick off the International Digital Kaizen Projects led by Young Family Doctors		
	レジェンドたちのポートフォリオ発表会～指導医の頭の中を紐解く～2		

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-6-10 ~ 2022-6-12	佐柳和博	血液透析患者の人生の最終段階における意思決定を支援した2症例	第13回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
	小杉俊介	【病棟教育事例検討会 ~病院総合医第7世代×医学教育エキスパート~】 【総合診療医のキャリアパス】	
	矢野恒太	膀胱瘻カテーテルの尿道への迷入による医原性の尿道損傷を起こした1例	
	小田浩之	病院総合診療	
	原田愛子	島根県におけるチーフレジデント活動報告	
2022-6-25 ~ 2022-6-26	鶴木友都	0 から始めよう！ M&M カンファレンス！	ACP（米国内科学会）日本支部年次総会
	清田雅智	日常診療で気づいた Sir William Osler の影響	
	小杉俊介	サインアウトでセーフティ：申し送りで進める患者安全と働き方改革（RFC 企画）	
2022-7-1 ~ 2022-7-2	小杉俊介	分野6：教育・啓発普及・研究方法・その他	第27回日本緩和医療学会学術大会
	工藤仁隆	各職種でみた緩和医療教育の現在の活動と未来（座長として）	
	工藤仁隆	緩和医療における感染症治療の位置づけ	
2022-7-18 ~ 2022-7-20	Kudou M	Residents of a single institution in Japan practiced critical appraisal of the RCT literature quickly(the Short Journal Club) once a month,and a year later were tested regarding a critical appraisal of RCT literature for 30 minutes.	EBM Live 2022
2022-7-23 ~ 2022-7-24	吉田 伸	在宅での24時間対応をどう考えるか？	第4回日本在宅医療連合学会大会
2022-8-5 ~ 2022-8-6	小杉俊介	学生や若手を学術大会に連れていきたいんですがどうすればいいんでしょうか？	第54回日本医学教育学会大会
2022-8-19 ~ 2022-8-20	原田愛子	内科・総合診療専門研修プログラムの本音若手同士で語ろう 専攻医と卒業生の視点より	第25回日本病院総合診療医学会学術集会
	鶴木友都	「Common diseases/急性期診療の専攻医・研修医への指導」（専攻医セミナー）	
	堤 圭右	鮮血尿の契機に緊急搬送され、最終的に大動脈十二指腸瘻の診断に至った一例	
	細川 旬	症例検討から学ぶ診断推論戦略 by JUGLER(Vol.5)	
	高井咲弥	症例検討から学ぶ診断推論戦略 by JUGLER(Vol.5)	
	大内田良真、岩佐和樹、長谷川雄一、他	コントロール不良糖尿病患者における Lactococcus lactis spp lactis 菌血症に合併した化膿性脊椎炎の1例	
	横井一樹	CT検査での全結腸の高度腸管浮腫像を契機に臨床的に診断した重症 Clostridioides difficile 感染症の一例	
	井上三四郎	飯塚病院式大腿骨近位部骨折手術翌日転科システムに関する整形外科医を対象としたアンケート調査	

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-9-2 ~ 2022-9-4	井上三四郎	骨吸収抑制薬投与前の歯科受診	第24回日本骨粗鬆症学会
2022-10-19 ~ 2022-10-21	薄竜太郎	末梢挿入型中心静脈カテーテル（PICC）挿入後遅発性合併症として静脈穿破をきたし保存的加療にて治癒が得られた一例	第50回日本救急医学会総会・学術集会
2022-11-11 ~ 2022-11-13	吉田 伸、大杉泰弘	プライマリ・ケアにおけるライフステージを通じた認知行動療法の適応	第22回日本認知療法・認知行動療法学会
2022-11-12 ~ 2022-11-13	井上三四郎	敗血症を合併した化膿性胸鎖関節炎の1例：患者協働の重要性 骨軟部転移を主訴とした初診時原発不明がんに対する原発巣検索：52例の検討 ダメージコントロール手術としての成人肘関節脱臼骨折に対する経皮的ピンニング 飯塚病院における大腿骨近位部骨折の内科的管理：総合診療科と整形外科の連携の実例	第144回西日本整形・災害外科学会学術集会
2022-11-27	村上奈央、清田雅智、喜安純一、他	円蓋部くも膜下出血を契機に診断した真性多血症の1例	第339回日本内科学会九州地方会
	中尾賢一、穴戸諒平、坂本純永、他	アルコール依存症の患者に発症した悪性カタトニアの1例	
2022-11-27	佐柳和博、中尾桂子、原田直之、他	新型コロナウイルス（COVID-19）ワクチン接種後に出現した頭痛、全身倦怠感を中心とした諸症状に漢方治療が奏効した症例	第47回日本東洋医学会九州支部学術総会
	安田雄一、中尾桂子、原田直之、他	偽性Gitelman症候群の誘因となった腹部膨満感に対し当帰芍薬散が奏効した1例	

連携医療・緩和ケア科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-2-5 ~ 2022-2-6	柏木秀行、田木聡一、松本翔子	終末期こそ複雑困難事例の宝庫！家庭医としてのレジリエンス爆上がり間違いなしの”終末期ケースのポートフォリオの書きかた、教えかた”	第17回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー
2022-3-24 ~ 2022-3-25	石上雄一郎	腹部疾患のエンドオブライフ	第58回日本腹部救急医学会総会
2022-6-11 ~ 2022-6-12	大森崇史	心不全緩和チームを立ち上げる！	第28回日本心臓リハビリテーション学会学術集会
2022-6-25 ~ 2022-6-26	石上雄一郎、桑野公輔、吉野俊平	救急×緩和ケア どこまで治療をするべきか？の考え型・患者家族への話し方	ACP（米国内科学会）日本支部年次総会
2022-7-1 ~ 2022-7-2	柏木秀行	診療現場で地道に取り組む緩和ケア啓発～無理をしない、でも諦めない～	第27回日本緩和医療学会学術大会
	柏木秀行	緩和医療に関する日米の教育の比較	
	石上雄一郎、柏木秀行	重症熱傷患者に対して救急外来から緩和ケアの介入を行った一例	
	石上雄一郎	HFNCは緩和ケアに適しているのか？	
	大森崇史	理想の救急・集中治療領域の緩和ケアとは？	
2022-8-6 ~ 2022-8-7	石上雄一郎	いかに家族を巻き込むか：シェアード・ディシジョンメイキングの実践	第44回日本呼吸療法医学会学術集会
2022-9-3	石上雄一郎	緩和ケア医が考える家族ケア	第40回福岡救急医学会

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-9-10 ~ 2022-9-11	石上雄一郎	信念はいらない。まず、命を救え	第6回日本在宅救急医学会総会・学術集会
2022-9-17 ~ 2022-9-18	柏木秀行	心不全患者が命を終えたいと言ったとき～心不全の多様性・特殊性を考える～	第27回日本臨床死生学会年次大会
2022-9-23 ~ 2022-9-25	柏木秀行	終末期医療を考える：アドバンス・ケア・プランニングの導入における現状と課題	第70回日本心臓病学会学術大会
2022-10-19 ~ 2022-10-21	石上雄一郎	高齢者にやさしい救急医療の実現に向けて	第50回日本救急医学会総会・学術集会
2022-11-26	西尾裕樹、中山隆弘	若手内科専攻医による緩和ケアチーム（身体症状担当医師）の経験と学び	第4回日本緩和医療学会九州支部学術大会
2022-11-26 ~ 2022-11-27	石上雄一郎	さまざまな医療の現場でのアドバンス・ケア・プランニング	第46回日本死の臨床研究会年次大会

循環器内科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-3-11 ~ 2022-3-13	川上将司、Tahara Y、Noguchi T et al.	The Association between Clinical Outcomes and Times to Extracorporeal Cardiopulmonary Resuscitation and Coronary Reperfusion in Out-of-Cardiac Arrest Patients	第86回日本循環器学会学術集会
	片迫 彩、川上将司、古賀秀信、他	The Association between Thoracic Injuries due to Chest Compression and Short-term Prognosis in Patients with Non-traumatic Out-of-hospital Cardiac Arrest	
2022-3-18 ~ 2022-3-20	川上将司	当院ICUが取り組む循環器集中治療の質のカイゼン	第49回日本集中治療医学会学術集会
	川上将司、小宮圭一郎、井上修二郎、他	Primary PCI後の虚血性僧帽弁閉鎖不全症に対してImpella CP補助下でも十分な改善が得られず手術に至った一例	
2022-3-31	川上将司	Ultimaster Nagomiを留置したPCI	Ultimaster Nagomi Technical Meeting
2022-4-21	川上将司	国循CCU流の循環管理で救命した心原性ショック合併急性心筋梗塞の一例	Optimal Revascularization Web Seminar
2022-4-23	本田修浩、山本優太、山川 礼、他	基本調律がSVC調律かつSVC firingから繰り返す心房細動に対して安全に治療がしく出来た1例	第2回日本不整脈心電学会九州・沖縄支部地方会
2022-5-13 ~ 2022-5-15	川上将司	坂の上の補助循環管理～ to the next stageを考える	第38回日本医工学治療学会学術大会
2022-5-15	川上将司	心原性ショックに挑む～ Impella時代の重症管理	第39回The Live Demonstration in KOKURA
2022-6-10 ~ 2022-6-12	川上将司	JPCA教育講演シリーズ病棟2「心不全」	第13回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
2022-6-25 ~ 2022-6-26	川上将司	肺動脈カテーテルを如何にして臨床に活かすか	第33回日本臨床モニター学会総会
2022-7-21 ~ 2022-7-23	山川 礼、川上将司、稲永慶太、他	Impella CP挿入部に血栓を形成し下肢虚血を生じた一例	第30回日本心血管インターベンション治療学会
	北原賢一、川上将司、井上修二郎、他	Pneumopericardium due to chest compression during PCI in an out-of-hospital cardiac arrest patient	
	溝上功明、川上将司、井上修二郎	A case of an occluded persistent sciatic artery with aneurysm in spite of optimal medical therapy without invasive strategies	

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-8-19 ~ 2022-8-20	川上将司	VA-ECMOの適応・管理・離脱	第34回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会
	桐原志保美	補助循環用ポンプカテーテル使用と集学的治療によって救命し得た心原性ショック合併急性心筋梗塞の一例	
2022-9-21	川上将司	Aperta NSEの使用経験	NIPRO 柴田ゼミ
2022-9-23 ~ 2022-9-25	川上将司、井上修二郎	ST上昇型心筋梗塞患者における病院到着時の呼吸数と短期予後の関係	第70回日本心臓病学会学術集会
	山川礼、川上将司、井上修二郎	経皮的心肺補助装置を含めた集学的治療により救命し得た脂肪塞栓症の1例	
	北原賢一、川上将司、井上修二郎	PCI中にショックとST上昇を呈した造影剤を原因とするKounis症候群の1例	
	川上将司、田原良雄、野口輝夫、他	経皮的心肺補助装置の迅速な導入とPCI・体温管理が神経学的予後改善に重要である—全国多施設共同院外心停止レジストリの検証	
2022-11-24 ~ 2022-11-26	本田修浩、山本優太、樗木祥子、他	心原性脳梗塞を合併したArgatroban使用下でのPafに対するABLを施行した1例	カテーテルアブレーション関連秋期大会2022
	溝上功明、川上将司、高原勇介、他	通常型心房粗動に擬似した十二誘導心電図波形を呈したRIPV-LAリエントリーの1例	
	石川智一、大賀泰寛、本田修浩、他	心房細動アブレーションが奏功した強心薬依存のsevere FMRを伴ったDCMの1例	
2022-12-3	眞柴貴久、石川智一、古川正一郎、他	特発性冠動脈解離による急性心筋梗塞に対してステント留置術を行い、良好な経過をたどった一例	第35回2022年12月3日 CVIT九州地方会

脳神経内科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-3-19	劉景晨、進村光規、篠田紘司、他	胸腺腫に合併した抗AMPA受容体抗体陽性自己免疫性辺縁系脳炎の一例	第235回日本神経学会九州地方会
2022-9-17	篠田紘司、倉沢亮、吉村基、他	特徴的な画像所見から診断に至ったWDR-45関連神経変性症の一例	第237回日本神経学会九州地方会
2022-9-20 ~ 2022-9-22	進村光規、倉沢亮、吉村基、他	当院における術中トラネキサム酸投与と心臓外科術後痙攣について	第55回日本てんかん学会学術集会

腎臓内科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-1-29	安達翔平、松本英展、佐々木彰、他	急性腎障害をきたし腎生検により診断に至った軽鎖円柱腎症の一例	第336回日本内科学会九州地方会
	八城弘憲、佐々木彰、土本晃裕、他	ネフローゼ症候群を発症し、腎生検によりimmunotactoid glomerulopathyと診断した一例	
2022-5-13 ~ 2022-5-15	藤崎毅一郎	急性血液浄化 Up to date	第38回日本医工学治療学会学術大会

腎臓内科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-7-1 ~ 2022-7-3	福満研人、安達翔平、坂本純永、他	慢性腎臓病患者でコルヒチン血中濃度が高値となった一例	第67回日本透析医学会学術集会・総会
	藤崎毅一郎、佐々木彰、中野敏昭、他	維持血液透析患者における血清Ca、P値とQTcの関係～日本透析医学会統計調査の横断研究～	
	藤崎毅一郎	透析関連低血圧とその対応	
2022-11-18 ~ 2022-11-20	八城弘憲、福満研人、松本英展、他	膜性腎症とMPO-ANCA陽性のANCA関連腎炎の合併例に対してリツマキシムブで治療した一例	第52回日本西部腎臓学会学術大会
2022-11-26 ~ 2022-11-27	福満研人	透析液隔壁開通忘れによる急性低Na血症を呈したAPDの症例	第28回日本腹膜透析医学会学術集会・総会

漢方診療科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-5-27 ~ 2022-5-29	田原英一	症例から学ぶ水毒の病態と治療	第72回日本東洋医学会学術総会
	井上博喜	古法入門、Restless Genital Syndromeが疑われた症例に当帰四逆加呉茱萸生姜湯が有効であった二例	
	矢野博美	コロナ禍における院内職員に対する漢方外来受診の勧めの試み	
	吉永 亮	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 罹患後の著名な全身倦怠感を中心とした諸症状に対して漢方治療を行い職場復帰できた1例	
	原田直之	腰椎圧迫骨折による慢性疼痛に温経湯が奏功した1例	
2022-9-25	中尾桂子	五苓散エキス剤では効果不十分であった頭痛、めまい感に自家製五苓散末が奏功した1例	第32回漢方治療研究会
	田原英一	現代のこころの乾きに四物湯	
	矢野博美	重症COPDのADLと呼吸困難感が八味地黄丸合半夏厚朴湯合葶藶大棗瀉肺湯で改善した一例	
2022-11-27	原田直之	起立性調節障害に伴う過眠症状に温補治療が奏功した一例	第47回日本東洋医学会九州支部学術総会
	井上博喜	進行性骨化性線維異形成症に漢方治療を行った一例	
	田原英一	COVID-19罹患後症状に対して漢方治療が奏効した1例	
	矢野博美	奔豚病の典型例と思われた1例	
	中尾桂子	うつ病に伴う睡眠障害、倦怠感に茯苓四逆湯と梔子剤の併用が有効であった一例	
	吉永 亮	下肢硬化性脂肪織炎に対して漢方治療が奏効した1例	

画像診療科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-1-14	三道幹大	突発性奇静脈瘤の一例	レントゲンアーベント
	永尾英毅	大脳基底核変性症	
2022-1-28	三浦亘智、鎌野宏礼、三道幹大	大網動脈からの出血に対する緊急IVR	第51回福岡IVRカンファレンス
2022-2-13	三道幹大、鎌野宏礼、鳥井芳邦、他	突発性奇静脈瘤の一例	第194回日本医学放射線学会九州地方会
2022-5-27	三浦亘智、永尾英毅、鎌野宏礼、他	シース挿入時に生じた大動脈穿孔	第52回福岡IVRカンファレンス

小児科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-4-15 ~ 2022-4-17	新居見真吾、木村拓郎、齊木玲央、他	日本人における出生後の足長 (foot length) から妊娠週数を明らかにする	第125回日本小児科学会学術集会
	大矢崇志、園田知子、田中祥一朗、他	神経発達症の初期診療を一般小児科医が抵抗なく行える診療体制の報告	
2022-4-21 ~ 2022-4-21	岡松由記、馬場晴久、肘井孝之	筑豊地域の小児医療について話し合おう～時間外診療の現状を把握して今後の課題を考えよう～	第335回筑豊小児科医会勉強会
2022-5-17	田中祥一朗	増え続ける虐待と減り続ける子どもたち～小児科医から見た命の現場～	子どもを地域で支える会・筑豊
2022-6-26	大矢崇志	心中事案の検証～小児科医にできることは？～	第6回九州・沖縄子ども虐待医学研究会
2022-9-15 ~ 2022-9-17	koga N,Tanaka Y,Sasaoka D et al.	Poor efficacy of growth hormone treatment in a patient with fetal alcohol syndrome	The 60th European Society for Paediatric Endocrinology
	Sasaoka D,Tanaka Y,Koga N et al.	Recurrent glycogenic hepatopathy in an 11-year-old boy with poor glycemic controlled type 1 diabetes mellitus	
2022-11-1 ~ 2022-11-3	児島加奈子、田中ゆかり、八ッ賀秀一	原因不明の高ACTH血症、高ADH血症、高レニン高アルドステロン血症の1例	第55回日本小児内分泌学会学術集会
2022-11-12 ~ 2022-11-13	岡松由記、北城恵史郎、堀川洋平、他	臍帯血移植治療後に一過性のIgE依存性卵アレルギーになった症例の報告	第59回日本小児アレルギー学会学術大会 APAPARI2022合同開催
2022-11-16	田中ゆかり	19歳まで内分泌非専門医でフォローされていたFGF関連低リン血症性くる病の男性例	福岡西南エリア小児内分泌研究会
2022-11-17	岡松由記	自然終息性小児てんかんの診断と治療	第341回筑豊小児科医会勉強会
2022-12-10 ~ 2022-12-11	田中祥一朗、立川 翠、中山和子、他	公民連携による虐待予防への新たな取り組み～低出生体重児に特化した乳幼児健診の活動報告～	日本子ども虐待防止学会第28回学術集会ふくおか大会

外科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-2-19	黒田陽介、萱島寛人、岩崎 恒、他	肝断端仮性動脈瘤破裂をきたした腹腔鏡補助下肝S7部分切除術の1例	第42回九州肝臓外科研究会学術集会
2022-3-5 ~ 2022-3-6	武谷憲二、岩崎 恒、松本匡永、他	ペグフィグラスチム投与による大動脈炎を発症した一例	第19回日本乳癌学会九州地方会
2022-4-14 ~ 2022-4-16	古賀 聡、岩崎 恒、松本匡永、他	当科で治療した直腸肛門管扁平上皮癌の検討	第122回日本外科学会定期学術集会
	萱島寛人、黒田陽介、岩崎 恒、他	肝細胞癌破裂症例に対する肝切除術の妥当性に関する検討	
	岩崎 恒、松本匡永、宮下 優、他	当科における原発性小腸癌手術症例の臨床病理学的検討	
	松本匡永、萱島寛人、黒田陽介、他	当院における急性胆嚢炎に対するドレナージ後の手術成績の検討	
	田尻裕匡、岩崎 恒、松本匡永、他	当院における直腸NETに対する治療成績	
	由茅隆文、岩崎 恒、松本匡永、他	壊死型虚血性大腸炎と非閉塞性腸間膜虚血症の臨床的検討	
2022-7-20 ~ 2022-7-22	田尻裕匡、岩崎 恒、松本匡永、他	進行胃癌に対するニボルマブの検討	第77回日本消化器外科学会総会
	由茅隆文、岩崎 恒、林碧、他	アメーバ赤痢による全結腸壊死の一例	
2022-7-30	春野覚史、古賀直道、由茅隆文、他	十二指腸穿孔による後腹膜膿瘍の1例	第259回福岡外科集談会
	南 祐、黒田陽介、川下知英、他	正中弓状靭帯症候群を伴う臍頭部癌に対して靭帯切開による血流改変後に2期的根治術を行った1例	
	古川恵瑞、田尻裕匡、新井貴大、他	PTPシート誤嚥後、CTでPTP異物の判別が困難であった1例	
2022-9-30 ~ 2022-10-1	由茅隆文、山下洋市	手術介入まで時間を要した食道穿孔・縦隔膿瘍膿胸の一救命例	第14回日本Acute Care Surgery学会学術集会
2022-11-24 ~ 2022-11-26	黒田陽介、古賀直道、田尻裕匡、他	胆嚢摘出術後の病理診断にて指摘された偶発胆嚢癌症例の検討	第84回日本臨床外科学会総会
2022-12-2 ~ 2022-12-3	南 祐	正中弓状靭帯症候群を伴う臍頭部癌に対して靭帯切開による血流改変後に2期的根治術を行った1例	第120回日本消化器病学会九州支部例会
2022-12-8 ~ 2022-12-10	由茅隆文、古賀直道、田尻裕匡、他	腹腔鏡下前方切除術を施行した慢性大動脈周囲炎合併直腸癌の一例	第35回日本内視鏡外科学会総会
	田尻裕匡、古賀直道、由茅隆文、他	正中弓状靭帯圧迫症候群に対して腹腔鏡手術を施行した1例	

呼吸器外科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-2-4 ~ 2022-2-5	安田 学、篠原伸二、近石泰弘、他	ダブルルーメンチューブ使用に伴う合併症軽減の取り組み	第45回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会
2022-3-4	篠原伸二、武 伸行、近石泰弘、他	当科におけるロボット支援手術の導入	第1回産業医科大学 Thoracic Surgical Conference
2022-7-28 ~ 2022-7-29	武 伸行、安田 学、篠原伸二、他	若年者カルチノイドに左下葉管状切除を施行した1例	第55回日本胸部外科学会九州地方会総会
2022-9-16	安田 学、武 伸行、篠原伸二、他	若手医師育成の現状 飯塚病院呼吸器外科 - まずは VATS bullectomy から -	第2回産業医科大学 Thoracic Surgical Conference

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-10-27	武 伸行、安田 学、篠原伸二、他	前縦隔多発結節に対し生検を施行した症例	第10回北部九州肺縦隔研究会
2022-11-5	安田 学、武 伸行、篠原伸二、他	ダブルルーメンチューブ使用に伴う気道損傷予防の取り組み	第10回福岡胸部外科疾患研究会
2022-12-8 ~ 2022-12-10	篠原伸二、安田 学	当科におけるロボット支援下手術の導入と術中の工夫について	第35回日本内視鏡外科学会総会

小児外科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-2-25 ~ 2022-2-26	鴨打 周、田口匠平	陰嚢水腫に対してLPEC法を施行したAbdominoscrotal hydroceleの2例	第58回九州小児外科学会
2022-7-26	小児外科当直医、上杉 達、竜田 恭介	腹部外傷後に空腸壁内血腫により腸閉塞を発症した1例	第51回九州小児外科研究会
2022-11-10	竜田 恭介	Vascular transformation of lymph node sinusesによる頸部腫瘍の一例	第138回九州大学小児外科合同症例検討会

産婦人科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-8-5 ~ 2022-8-6	安部直希、林宗太郎、小田美穂、他	重症妊娠悪阻として治療開始された脳腫瘍合併妊娠の1例	第74回日本産科婦人科学会
2022-9-8 ~ 2022-9-10	李 理華、林宗太郎、西山 哲、他	腹腔鏡下卵管間質部妊娠手術におけるBisectの使用経験	第62回日本産科婦人科内視鏡学会
	西山 哲、安部直希、吉良さちの、他	全腹腔鏡下子宮全摘出術で診断し得た、漿液性子宮内膜上皮内癌の症例	
	林宗太郎、西山 哲、安部直希、他	腹腔鏡手術にて診断に至った小腸に穿通した卵巣成熟嚢胞性奇形腫の1例	
2022-10-20 ~ 2022-10-22	西山 哲、李理華、安部直希、他	日和見的卵管切除の後に発生した、卵巣漿液性癌の症例	第60回日本癌治療学会学術講演会
2022-11-5 ~ 2022-11-6	西山 哲、大石善丈	子宮内膜細胞診でのみ術前に疑い得た、漿液性子宮内膜上皮内癌の症例	第61回日本臨床細胞学会秋期大会

整形外科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-1-20	原 俊彦	SPO (Spherical Periacetabular Osteotomy) 手術手技について	福島SPOカダバーセミナー
2022-5-19 ~ 2022-5-22	原 俊彦	Spherical Periacetabular Osteotomy 安全性と低侵襲を追求した術式	第95回日本整形外科学会
2022-6-11 ~ 2022-6-12	榊山寛光、原 俊彦、園田和彦、他	両側弾発股の1例	第143回西日本整形・災害外科学会
	原 俊彦、園田和彦、小宮山敬祐	人工股関節の軟部バランスに関する研究THA施行時のShuck testの肢位についての考察	
2022-10-21 ~ 2022-10-22	原 俊彦	Spherical Periacetabular Osteotomy (SPO) 手術手技詳細	SPO Cadaveric course in Bangkok
2022-10-27 ~ 2022-10-29	原 俊彦、園田和彦、小宮山敬祐	Spherical Periacetabular Osteotomy 利点・欠点・長期成績	第49回日本股関節学会

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-11-12 ~ 2022-11-13	原 俊彦、園田和彦、小宮山敬祐	SPO 術中骨折防止の試み 弯曲ノミ型腸骨外板穿孔ガイドの有用性について	第144回西日本整形・災害外科学会
2022-12-26	原 俊彦	SPO (Spherical Periacetabular Osteotomy) 手術手技について	SPO セミナー

リハビリテーション科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-6-23 ~ 2022-6-25	山下智弘	急性期病院における脳卒中患者に対するボツリヌス療法後の集中的リハビリテーションの取り組み	第59回日本リハビリテーション医学会学術集会
2022-11-4 ~ 2022-11-5	大里 航、小菌秀太、山下智弘	Wallenberg 症候群による重度嚥下障害に対しバルーン訓練が有効であった一例	第6回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会

脳神経外科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-2-4 ~ 2022-2-5	山田哲久、名取良弘、甲斐康稔、他	シンポジウム：新型コロナウイルス感染症流行による脳神経外科疾患の症例数の変化の検討	第27回日本脳神経外科救急学会
2022-2-23 ~ 2022-2-25	名取良弘	本邦での心停止後臓器提供を医療安全の面から考える	第55回日本臨床腎移植学会
2022-2-24 ~ 2022-2-26	山田哲久、名取良弘、甲斐康稔、他	新型コロナウイルス感染症流行による神経外傷および慢性硬膜下血腫の症例数の変化の検討	第45回日本脳神経外傷学会
2022-3-17 ~ 2022-3-20	雨宮健生	CEA 術中に ICA の急性閉塞をきたし機械的血栓回収術を施行した症例	第47回日本脳卒中学会
2022-5-12 ~ 2022-5-15	迎 伸孝	脳腫瘍てんかんのマネジメント	第42回日本脳神経外科コンgres
2022-5-23	迎 伸孝	グリオーマにおけるてんかんマネジメント	Brain Tumor Related Epilepsy in 北九州
2022-6-19	名取良弘	コロナ禍での臓器提供の意思確認と家族対応の問題点	第34回日本脳死・脳蘇生学会総会・学術集会
2022-6-25	要名本あゆみ、甲斐康稔、井上大輔、他	扁平上皮癌へと癌性転化した脳室内腫瘍の一例	第141回日本脳神経外科学会九州支部会
2022-6-25	山田哲久、名取良弘	脳出血発症から5年以上経過して脳動静脈奇形の根治術を行った二症例	第36回日本神経救急学会
2022-9-20 ~ 2022-9-22	迎 伸孝	テント上悪性神経膠腫に対する周術期のてんかん発作マネジメントプロトコル設定前後の発作発生頻度の比較	第51回日本てんかん学会学術集会
2022-9-28 ~ 2022-10-1	山田哲久、名取良弘、甲斐康稔、他	慢性硬膜下血腫穿頭術後の出血性合併症の検討	第81回日本脳神経外科学会総会
2022-10-18	迎 伸孝	神経疾患を学ぶ～痙縮と神経障害性疼痛の診療ポイント～痙縮に対する ITB 療法の実際	久留米医師会・第一三共株式会社共催セミナー
2022-11-8	山田哲久、名取良弘、甲斐康稔、他	脳神経外科領域での治打撲一方の投与の現状	第30回日本脳神経外科漢方医学会学術集会
2022-11-30	高原健太	当院におけるクラゾセンタンの使用経験	九州大学 SAH ネットワーク

心臓血管外科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-3-3 ~ 2022-3-5	内田孝之	SSIハイリスク症例に対する新しい予防対策としてのNPWT	第52回日本心臓血管外科学会総会
2022-3-4	塩野剛志	有症候性の冠動脈-肺動脈瘻を切除し症状の改善を認めた一例	第72回北九州循環器懇話会
2022-6-11 ~ 2022-6-12	内田孝之	周術期心リハの治療成績向上への貢献度の最大化～定期的他職種連携症例検討会を通じて	第28回日本心臓リハビリテーション学会学術集会
2022-7-16	内田孝之	SSI 予防のための周術期管理の現状	第27回日本 Advanced Heart & Vascular Surgery/OPCAB 学会
2022-7-16	酒井大樹	No-touch technique による Endoscopic Saphenous Vein Harvesting の初期導入	第27回日本 Advanced Heart & Vascular Surgery/OPCAB 学会
2022-9-10	酒井大樹、内田孝之、松元 崇、他	当院で経験した足背動脈真性瘤と仮性瘤の2例	第119回日本血管外科学会九州地方会
	橋野 朗、内田孝之、松元 崇、他	胸腹部大動脈瘤に対して腹部分枝バイパス術と血管内治療で根治し得た一例	
2022-11-8 ~ 2022-11-9	内田孝之	体外循環と全身免疫、感染症との関連	第35回日本外科感染症学会学術集会
		低体温の感染症に対する影響	
		当科における一次縫合創に対する NPWT 使用の経験	
2022-12-1 ~ 2022-12-2	内田孝之	当科における SSI 予防のための周術期管理の現状	第25回日本冠動脈外科学会学術大会
	酒井大樹	大伏在静脈グラフトの内視鏡的 No-touch pedicle harvesting の試みと早期評価	
2022-12-3	岡田 重	CABG 後の重症両心不全に対して IABP,EVMO,Impella を段階的に導入、離脱し救命し得た1例	第133回日本循環器学会九州地方会

血管外科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-6-15 ~ 2022-6-17	松元 崇、内田孝之、酒井大樹、他	大腿動脈血栓内膜摘除術後早期に再狭窄を来たした症例に対する再治療の経験	第47回日本外科系連合学会

皮膚科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-6-2 ~ 2022-6-5	王 黎亜、独孤 龍、濱崎友佳、他	新型コロナワクチン接種後に生じた扁平苔癬の一例	第121回日本皮膚科学会 総会
2022-7-7	井手豪俊	尋常性乾癬についてわかりやすく	第304回福岡県病院薬剤師会筑豊支部学術研修会
2022-9-3 ~ 2022-9-4	井手豪俊	進化する創傷の治療戦略	第37回日本皮膚外科学会総会・学術集会
2022-9-7	王 黎亜	症例講演 [3]	第23回皮膚科 七院会
	塩道泰子	症例講演	
	藤井晴香	症例講演 [2]	
2022-11-19 ~ 2022-11-20	藤井晴香、井手豪俊、塩道泰子、他	オトガイ唇溝に生じた単発性reticulohistiocytomaの1例	第86回日本皮膚科学会東京支部学術大会

泌尿器科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-7-23	福原悠一朗、宮嶋哲匡、入江慎一郎、他	飯塚病院泌尿器科における2021年の臨床統計	第310回日本泌尿器科学会福岡地方全

眼科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-2-19	中間崇仁、永田純也、七條絵美、他	シリコンオイルタンポナーデ下で自然閉鎖した黄斑円孔の1例	第179回九州大学眼科研究会
2022-5-14 ~ 2022-5-15	森賢一郎	近視性脈絡膜新生血管に対するラニビズマブ硝子体内注射の5年経過	第4回日本近視学会総会
2022-5-27 ~ 2022-5-29	中間崇仁、永田純也、七條絵美、他	シリコンオイルタンポナーデ下で自然閉鎖した黄斑円孔の1例	第92回九州眼科学会
2022-8-19	中間崇仁	眼科手術手技の効率的な獲得方法	第4回九大 Glaucoma Surgery Seminar

耳鼻咽喉科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-6-17 ~ 2022-6-18	三橋敏順、佐藤文彦	耳下腺領域の転移が診断契機となった頭皮原発血管肉腫の1例	第67回日本頭頸部癌学会

リエゾン精神科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-6-16 ~ 2022-6-18	猪狩圭介	有床総合病院精神科における研修医トレーニング 教育の場としてのリエゾンチーム	第118回日本精神神経学会学術総会
	光安博志、猪狩圭介	COVID-19は感染者の精神面にどのような影響を与えたか 総合病院におけるCOVID-19患者に対するリエゾン活動	
2022-8-5 ~ 2022-8-6	猪狩圭介、小田浩之	精神科研修グレードアップ! 有床総合病院精神科における研修医トレーニング リエゾンチームの活用	第54回日本医学教育学会大会
2022-10-28 ~ 2022-10-29	嘉陽宗臣、大坪駿介、中山立慈、他	自殺再発予防における有床総合病院精神科の役割～救急病院の転帰調査から考える～	第35回日本総合病院精神医学会

麻酔科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-9-17 ~ 2022-9-18	田平暢恵	Stanford A型急性大動脈解離の緊急手術で口腔内からの持続性出血の管理に難渋した症例	第27回日本心臓血管麻酔学会
	平本琢也	心筋梗塞後に頻回の経胸壁心エコーで指摘できなかった心室瘤を止血術中の経食道心エコーで指摘できた一例	
2022-11-11 ~ 2022-11-12	田平暢恵、尾崎実展	先天性中枢性低換気症候群患者の麻酔経験	第42回日本臨床麻酔学会

感染症科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-4-22 ~ 2022-4-23	土方貴道、沖中友秀、長谷川雄一、他	市中病院で遭遇する非移植-非HIV患者のCryptococcus属感染症の臨床像	第96回日本感染症学会総会・学術講演会
	長谷川雄一、沖中友秀、土方貴道、他	経口第3世代セファロスポリン系抗菌薬処方件数ゼロまでの取り組み	
2022-6-9	的野多加志	DDS副作用により治療中断を要したBL型ハンセン病の1例	ハンセン病症例検討会2022
2022-6-25 ~ 2022-6-26	Matono T, Yoshida M, Koga H et al.	Can quick SOFA score and biomarkers predict community-onset bacteremia in adults with suspected infection?	ACP (米国内科学会) 日本支部年次総会・講演会2022
2022-10-27 ~ 2022-10-30	的野多加志	福岡県における病床管理と広域調整	第30回日本消化器関連学会週間
2022-11-3 ~ 2022-11-5	長谷川雄一、沖中友秀、的野多加志	感染症ローテーターの抗菌薬意識調査	第92回感染症学会西日本地方会学術総会

歯科口腔外科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-4-23 ~ 2022-4-24	内田美貴	人工関節置換術患者に対する周術期口腔管理の有効性に関する臨床的検討	第19回日本口腔ケア学会
2022-7-2 ~ 2022-7-3	澁谷 南、石井広太郎、中松耕治、他	顎関節内視鏡により診断の一助を得た滑膜骨軟骨腫症の1例	第35回日本顎関節学会
2022-10-9	中松耕治	口腔顔面痛に役立つ神経解剖学	第27回日本口腔顔面痛学会総会

救急科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-1-29	片桐 欧、桑野公輔	急性期医療における緩和ケア『蘇生中止のエビデンス、治療目標の設定について』	第336回日本内科学会 九州地方会
2022-2-23 ~ 2022-2-25	山田哲久、名取良弘	心停止後腎提供症例のドナー管理の現状から問題点の検討	第55回日本臨床腎移植学会
2022-3-3 ~ 2022-3-5	山田哲久、名取良弘	新型コロナウイルス感染症流行による災害訓練代替措置としての災害レクチャー	第27回日本災害医学会総会・学術集会
2022-3-18 ~ 2022-3-20	山田哲久、名取良弘	シンポジウム：当院のドナー管理の現状と今後の対策	第49回日本集中治療医学会学術集会
2022-5-25 ~ 2022-5-27	山田哲久、橋本康平、大峯将幹、他	院内救急救命士の現状と課題	第25回日本臨床救急医学会総会・学術集会
2022-5-25 ~ 2022-5-27	鮎川勝彦	SY5-3 超高齢社会における筑豊地域における救急医療への取り組み	第49回日本臨床救急医学会総会・学術集会
2022-6-30 ~ 2022-7-1	山田哲久、鮎川勝彦、三股佳奈子	新型コロナウイルス感染症流行による外傷疾患の症例数の変化の検討	第36回日本外傷学会総会・学術集会
2022-9-3 ~ 2022-9-3	鮎川勝彦、小栗和美、田熊清治	S-2 予防救急が救急医療の需要を抑え、医師の働き方改革に貢献する！	第40回福岡救急医学会
2022-10-19 ~ 2022-10-21	石橋大樹、片桐 欧、有田雄紀、他	早期の集学的治療が奏功した薬剤関連顎骨壊死による顔面壊死性筋膜炎の1例	第50回日本救急医学会総会・学術集会
	山田哲久、香月洋紀、片桐 欧、他	安心して暮らせる地域救急医療の実践のためにー適切な搬送先選定の取り組みー	
2022-11-12 ~ 2022-11-13	山田哲久、名取良弘	新型コロナウイルス (COVID-19) 感染症流行によるスポーツ外傷の変化の検討	第33回日本臨床スポーツ医学会学術集会
2022-11-26 ~ 2022-11-27	山田哲久、香月洋紀、片桐 欧、他	シンポジウム：当院でのドクターカー医師養成に関してードクターカー医師の質の維持を目指してー	第17回日本病院前救急診療医学会総会・学術集会

集中治療科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-1-29	吉野俊平、片桐 欧、桑野公輔	急性期医療における緩和ケア「蘇生中止のエビデンス、治療目的の設定について」	第336回日本内科学会九州地方会
2022-2-26 ~ 2022-2-27	吉野俊平	市中病院の医師の視点から	第24回日本病院総合診療医学会学術総会
2022-3-18 ~ 2022-3-20	林 碧、桑野公輔、川上大裕、他	結腸融解壊死を呈した fulminant amoebic colitis の1例	第49回日本集中治療医学会学術集会
	吉野俊平	緊急血液透析を要した重度高マグネシウム血症に関する記述疫学的研究	
	桑野公輔	メトホルミン過量内服により発症した重篤な乳酸アシドーシスの一例	
2022-6-25 ~ 2022-6-26	桑野公輔、吉野俊平、石上雄一郎	救急×緩和ケアどこまで治療をするべきか？の考え方・患者家族への話し方	ACP (米国内科学会) 日本支部年次総会・講演会
	川上大裕、吉野俊平、佐々木彰、他	水マニア～集中治療・循環・腎臓の視点で考える急性期の水管理	
2022-7-23 ~ 2022-7-24	吉澤菜々、川上大裕、鈴木祥太郎、他	イレウス管による成人腸重積の一例	第6回日本集中治療医学会九州支部学術集会
	鈴木祥太郎、橋本匡彦、桑野公輔、他	播種性血管内凝固 (DIC) を契機にEBウイルス関連血球貪食性リンパ組織球症の診断に至った一例	
	山崎陽平、鈴木祥太郎、橋本匡彦、他	構音障害を主訴とし当初脳梗塞が疑われたが、その後筋固縮症状が顕著となり破傷風の診断に至った一例	

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-7-23 ~ 2022-7-24	川上大裕	集中治療医と薬剤師の連携	第6回日本集中治療医学会 九州支部学術集会
	平本琢也、橋本匡彦、鈴木祥太郎、 他	パラコート中毒として初期対応したものの 入院後にカルバメート中毒と診断した一例	
	野間口一輝、桑野公輔、鈴木祥太郎、 他	分節性動脈中膜融解症の合併が疑われた腓 十二指腸動脈瘤破裂の一例	
2022-8-6 ~ 2022-8-7	川上大裕	低酸素性肺血管攣縮 (HPV) から学ぶ呼吸循 環生理～ HPV は敵か味方か	第44回日本呼吸療法医学会学 術集会
	桑野公輔、川上大裕、安田 学、他	肺癌術後気管支断端瘻に伴う呼吸リークに対 し人工呼吸器 Trilogy にて管理を行った一例	

呼吸器腫瘍内科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-6-5	靄野広介	病理学的に器質化肺炎と診断され経過観察 されていた一例	第17回若手のためのびまん性 肺疾患勉強会

病理科

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-7-24	大石善丈	スライドカンファレンス症例5 肺腺癌子 宮転移の症例	第37回日本臨床細胞学会九州 連合会学会

中央検査部

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-1-28 ~ 2022-1-30	古野貴未、田代綾美、手島裕治、他	ERにおける FilmArray 呼吸器パネル2.1の有 用性	第33回日本臨床微生物学会総 会・学術集会
2022-5-21 ~ 2022-5-22	吉田健登、村上侑希、中島慶子、他	非結核性抗酸菌陽性液体培地を用いた抗酸 菌染色陽性対照作成	第71回日本医学検査学会
2022-6-10 ~ 2022-6-12	金谷直哉、川嶋大輔、吉田健登、他	腓 IPMN に類似した唾液腺粘液性腺癌の一 例	第63回日本臨床細胞学会 (春期大会)
2022-11-5 ~ 2022-11-6	金谷直哉、川嶋大輔、上原俊貴、他	唾液腺細胞診スライドカンファレンス	第61回日本臨床細胞学会秋期 大会
2022-11-26 ~ 2022-11-27	樋口雄哉、秋永理恵、長谷一憲、他	特性要因図を用いた力量評価システムの教 育成果	第17回医療の質・安全学会学 術集会
2022-12-4 ~ 2022-12-4	吉田健登、上原俊貴、金谷直哉、他	悪性リンパ腫との鑑別に苦慮した Histiocytic Sarcoma の1例	第37回第37回福岡県臨床細胞 学会学術集会

リハビリセンター

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-3-11 ~ 2022-3-13	中村裕輔、西村天利、横手 翼、他	包括的高度慢性下肢虚血症例に対する簡易器具を用いたリハビリテーションによる歩行能力の改善効果	第86回日本循環器学会学術集会
2022-5-31	白土健吾	肺癌患者における術前の悪液質が術後の身体機能に及ぼす影響	第37回日本臨床栄養代謝学会
2022-6-11 ~ 2022-6-12	縄田萌乃、石井 敦、大西悠太郎、他	外来心臓リハビリテーションにより再入院を予防できた末期心不全患者の一例	第28回日本心臓リハビリテーション学会学術集会
	大西悠太郎、横手 翼、西村 忍、他	大動脈解離 StanfordA 型術後患者に対して呼吸機能の改善を目指した症例	
	柴田亮太、横手 翼、大西悠太郎、他	心臓外科術後患者に対し、術後早期より運動療法に電気刺激療法を併用し運動耐容能が向上した一例	
	中村裕輔、屯 勇樹、原 拓也	包括的高度慢性下肢虚血患者の当院での取り組み	
	石井 敦、長谷川有香、横手 翼、他	心不全入院患者への塩分制限の違いが退院時の身体機能および再入院に及ぼす影響	
	大神汰一、草場久実、西村天利、他	急性心不全患者の早期歩行開始がADLに及ぼす影響	
2022-6-23 ~ 2022-6-25	白土健吾	肺癌患者における術前の悪液質が在院日数に及ぼす影響	第59回日本リハビリテーション医学会
2022-9-3 ~ 2022-9-6	白土健吾、川満謙太、奥野将太、他	Impact of pre-operative cachexia and sarcopenia on post-operative physical function and skeletal muscle mass in lung cancer patients.	第44回 ESPEN
2022-11-11 ~ 2022-11-12	白土健吾	肺癌術後患者におけるサルコペニア発症の実態と要因	第32回日本呼吸ケアリハビリテーション学会

中央放射線部

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-7-16 ~ 2022-7-16	井下田栄吉	爆速！！NON GATE 下肢MRA	フィリップスMRユーザーズミーティング全国大会 GYRO CUP 2022九州予選会
2022-8-6 ~ 2022-8-7	一ノ瀬沙世、太田黒大明、矢邊孝平、他	手技が煩雑な検査において多職種に共通認識を与える補助具の作成	第36回日本核医学技術学会九州地方会学術大会

臨床工学部

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-6-18	村崎由起、黒瀬 努、清水重光、他	開心術後呼吸循環不全に対してV-A ECMOからV-AV ECMOへconversionした経験	第47回日本体外循環技術医学会九州地方会大会
	平川琢也、小田和也、清水重光、他	当院における人工心肺装置～飯塚病院 MERA HAS III編～	
2022-7-1 ~ 2022-7-3	平川琢也、藤崎毅一郎、小田和也、他	医師からのタスクシフト	第67回日本透析医学会学術集会・総会
2022-7-30	横溝伸也、上村健斗、指原伶一、他	飯塚病院臨床工学部における高気圧酸素治療室の教育体制について	第22回九州高気圧環境医学会
2022-11-19	平井基貴	Roboto 支援手術でのCEの関わりとトラブル対応	福岡県臨床工学技士会 令和4年度 daVinci 教育セミナー
2022-11-19 ~ 2022-11-20	諸正知之、清水重光、黒瀬 努	泉工医科工業社製人工心肺装置 HAS III を導入して	第47回日本体外循環技術医学会大会
2022-12-11	藤元哲也、沖永一樹、東 昌宏、他	透析液水質管理に難渋した一例	第54回九州人工透析研究会総会

予防医学センター

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-6-10 ~ 2022-6-12	赤星和也、羽坂尚美（臨時D S）、赤星和明	COVID-19パンデミック下における当院予防医学センターの内視鏡を用いた胃癌検診の取り組み	第61回日本消化器がん検診学会総会
2022-9-2 ~ 2022-9-3	赤星和也、羽坂尚美（臨時D S）、田村慎一、他	直視型超音波内視鏡を用いた一期的膵癌胃癌検診の有用性－予備的臨床試験－	第63回日本人間ドック学会学術大会

医療安全推進室

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-11-26 ~ 2022-11-27	木村美香、新鹿深夏、福村文雄	インスリン投与に関するインシデント低減に向けた取り組み	第17回医療の質・安全学会学術集会

地域連携センター

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-11-18 ~ 2022-11-19	古賀 萌、小栗和美、幸野亜希子、他	退院前カンファレンスの準備から実施までの調整にかかる負担削減	第23回第23回フォーラム「医療の改善活動」全国大会 in 東京

看護部

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-2-26	木村美香、平田昌美	救命救急センターにおけるCOVID-19感染症を受け入れるためのカイゼン活動	第20回日本医療マネジメント学会 福岡支部学術集会
	山本百恵、久保園奈穂、佐野美和子	外科系女性病棟でのCOVID-19による環境変化への対応～セル看護提供方式の実践～	
	福村陽子、西村由布子、田中勇氣、他	With コロナの外来診療～看護師の動線に着目して～	
	渡辺恵里子、長田孝幸、濱田美智子	COVID-19の入院患者を受け入れるための体制づくり～フェーズに応じた看護師の人員配置～	
	貞平成美、山本百恵、佐野美和子、他	外科系女性病棟での緩和ケアスキルアップコース修了後の活動報告～がん性疼痛アセスメントからコミュニケーションスキルへ～	
2022-3-12	佐野美和子、山本百恵	がん患者への「一言日記帳」導入と活用時の看護ナビコンテンツ立案の仕組み作り	第6回日本臨床知識学会
2022-6-11 ~ 2022-6-12	永友博明、森弘太郎、長田孝幸	2年目看護師としてクリティカルケア領域での家族看護を考察する～新型コロナウイルス感染症患者家族の面会での関わりを通して～	第18回日本クリティカルケア看護学会学術集会
2022-7-26	岡 佳子	「高校生のあなたへメッセージ」～夢はかならず叶う～	福岡県看護協会主催「ふれあい看護体験」
2022-8-19 ~ 2022-8-20	久保佳子、森山由香、倉智恵美子、他	褥瘡予防に対するセル看護提供方式の影響～褥瘡管理者の認識調査～	第26回日本看護学会学術集会
	日置由季、佐藤香緒里、中山和子、他	急性期内科系個室差額病棟におけるセル看護提供方式の定着に向けた取り組み	
	荒巻美鈴	地域小児センターにおけるサポートファイル活用のための取り組みと効果	
2022-8-20 ~ 2022-8-21	下見美智子	壮年期の初発心不全患者の再入院予防に向けた療養支援～多職種協働により患者の価値観を尊重した支援～	第17回日本慢性看護学会学術集会
2022-9-1 ~ 2022-9-2	免井麗奈、大塚真由、長田孝幸、他	新型コロナウイルス感染症患者の家族へのグリーフケア～初めて看取りを経験した2年目救急病棟看護師の家族への関わりを通して～	第53回日本看護学会学術集会

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-9-3	藤田靖代、中尾亜矢子、内田晶穂、他	ICU看護師を対象とした手指消毒遵守率向上への取り組み	第40回福岡救急医学会
	渡野実乃里、藤岡智恵、桑田侑葵乃、他	集中治療室における家族ケアに対する意識改革の取り組み	
	藤嶋房美、平田昌美、平島直樹	想定外でCOVID-19感染症が確認されたときの物品管理に関するK A I Z E N活動	
	大塚真由、長田孝幸、長尾佳苗、他	新型コロナウイルス感染症患者の終末期における対面会導入の取り組み?救急病棟における家族へのグリーフケア充実に向けて?	
	千原敦子、松田聡美	救命救急センターで院内連携を重視した褥瘡アセスメントの質向上	
2022-9-17 ~ 2022-9-18	森加苗愛、岡 佳子、岩橋淑恵	糖尿病をもつ成人期男性のセクシュアリティの看護ケアの質評価基準の評価～糖尿病教室における看護ケアの取り組みから～	第27回日本糖尿病教育・看護学会
	岡 佳子、森加苗愛、藤原優子、他	COVID-19感染拡大による糖尿病患者への教育・看護に関する実態調査～看護師が捉えた療養生活の困難さと心理的苦痛～	
	餘目千史、佐藤栄子、岡 佳子、他	COVID-19感染拡大による糖尿病患者への教育・看護に関する実態調査－外来における教育・看護に焦点を当てて－	
	山崎優介、東めぐみ、岡 佳子、他	COVID-19感染拡大による糖尿病患者への教育・看護に関する実態調査～看護師が捉えた地域連携への影響～	
	山本裕子、高橋 慧、岡 佳子、他	COVID-19感染拡大による糖尿病患者への教育・看護に関する実態調査－病棟における教育・看護に焦点を当てて－	
2022-10-7 ~ 2022-10-8	岩橋淑恵、岡 佳子	A病院における糖尿病をもつ成人期男性のセクシュアリティの看護ケア～糖尿病教室での取り組み～	第60回日本糖尿病学会 九州地方会
2022-10-21 ~ 2022-10-22	梅津 歩、川口まどか、岡 佳子、他	「足病変への懸念」を手がかりにセルフケアにつなげた2型糖尿病患者への支援～ナラティブ・アプローチの実践を通して～	第37回日本糖尿病合併症学会 学術集会
2022-11-4 ~ 2022-11-5	山本百恵、佐野美和子	がん告知直後の急性期患者に一言日記帳を活用した一事例	第20回日本医療マネジメント学会 九州・山口連合大会
2022-11-8 ~ 2022-11-9	岡部 幸、上田紋子、岡 佳子、他	悪性リンパ腫患者の抗がん剤治療選択における新人看護師の意思決定支援	第53回日本看護学会学術集会
	藤瀬真奈、岡 佳子、上野理恵	通院中断を繰り返す2型糖尿病患者に糖尿病非専門病棟で行った継続支援	

臨床心理室

開催日	発表者名	表題名	学会名
2022-1-18	河合愛美	家族機能が脆弱で愛着の問題を抱えた子どもとの3年間の関わり－心の成長のために病院でできることとは－	子どもを地域で支える会・筑豊
2022-9-3	松尾純子	メディエーターセミナー「終末期の意思決定を支える家族ケア～チーム編～」	第40回福岡救急医学会
2022-10-28 ~ 2022-10-29	松尾純子	多職種によるメンタルヘルスの安心安全なシステムづくり～組織と現場をつなぐ触媒として	第35回日本総合病院精神医学会
2022-12-10 ~ 2022-12-11	西山織江	虐待による受傷で入院となった幼児Aとの2ヶ月間 ～遊びを介してところをつなぎ、多職種で支援をつなぐ～	第28回日本子ども虐待防止学会
2022-12-10 ~ 2022-12-11	河合愛美	家族機能が脆弱で愛着の問題を抱えた一例－心の成長に対してプレイセラピーが担った役割を振り返る－	第28回日本子ども虐待防止学会

3. 講演

肝臓内科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-3-2	長澤滋裕	リファキシミン投与症例の集計・解析	福岡肝疾患治療WEBフォーラム
2022-3-11	本村健太	現在の肝細胞癌治療について	豊前築上医師会学術講演会
2022-4-21～ 2022-4-23	矢田雅佳	ウイルス性肝炎制御下の発癌スクリーニングと新規患者の掘り起しの為の院内連携	第108回日本消化器病学会総会
2022-8-19	矢田雅佳	筑豊地区におけるHCV治療の現状と患者背景による問題点	第8回肝疾患EXPERT CONFERENCE

呼吸器内科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-3-16	飛野和則	COVID19重症例の治療と血栓症対策	第300回福岡県病院薬剤師会筑豊支部学術研修会
2022-3-25	飛野和則	喘息病態の多様性から見た理想の治療	テリルジー WEB 講演会
2022-4-20	飛野和則	重症喘息治療の最前線～主にMepolizumab導入について～	GSK Severe Asthma Expert Web Seminar
2022-5-25	飛野和則	喘息病態の多様性から見た理想の治療～Single Inhaler Triple Therapyを使いこなす～	テリルジー 1周年記念講演会 in 飯塚
2022-5-28	飛野和則	当院のクライオバイオプシーの現状	第42回九州臨床画像解析研究会
2022-6-21	吉峯晃平	当院のTTF-1染色の現状について	Lung Cancer Web Seminar
2022-6-29	飛野和則	喘息病態の多様性から見た理想の治療	熊本地区喘息Round Table
2022-6-30	飛野和則	重症喘息治療におけるMepolizumabの位置付け～これまでとこれから～	GSK Severe Asthma Expert Web Seminar
2022-8-6	大井隆之介	自然気胸に対する気漏・胸腔内圧測定の意義に関する検討	第2回気胸・のう胞性肺疾患フォーラム
2022-8-26	飛野和則	肺癌化学療法の実践	第305回福岡県病院薬剤師会筑豊支部学術研修会
2022-9-2	村上陽亮	当院における経皮的肺生検の実践	Millennium Lung Cancer Conference
2022-9-7	末安巧人	Benralizumabの使用経験と生物学的製剤導入のコツを考える	Severe Asthma Meeting
2022-9-29	飛野和則	喘息病態の多様性から見た理想の治療～Single Inhaler Triple Therapy を使いこなす～	テリルジー喘息適応追加2周年記念講演会 in 都城
2022-10-17	飛野和則	喘息の個別化診療を考える	喘息治療N-Seminar
2022-10-18	飛野和則	重症喘息治療におけるバイオ製剤の選択	GSK Severe Asthma Expert Web Seminar
2022-10-27	坂部光邦	喘息治療中に発熱、皮疹が出現した症例	第10回北部九州肺縦隔研究会及び北九州ブロック肺がん検診読影従事者講習会
2022-11-9	飛野和則	間質性肺炎診療における早期発見・早期診断に必要な多職種連携	Meet the Expert in Kyushu
2022-11-12	飛野和則	バイオ製剤の最近の話題（TSLPについて）	第43回九州臨床画像解析研究会
2022-11-16	飛野和則	呼吸器内科における重症喘息治療Topics～バイオ製剤の使い方～	GSK Biologics Expert Forum 2022
2022-11-21	飛野和則	非小細胞肺癌における患者背景を考慮した治療選択	Lung Cancer Advance Seminar In MIYAZAKI

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-11-22	吉峯晃平	当院における化学療法誘発性末梢神経障害の現状	疼痛トータルケア Web Seminar
2022-11-24	花香未奈子	多職種で取り組む飯塚病院でのアライズ導入	非結核性抗酸菌症セミナー in 福岡～肺MAC症治療の新展開～
2022-11-28	飛野和則	間質性肺炎診療における早期発見・早期診断に必要な多職種連携	直方鞍手医師会学術講演会
2022-11-30	飛野和則	「喘息治療の最前線！」～実臨床から紐解くSITTの有用性～	GSK Asthma Seminar in 下関
2022-12-7	飛野和則	間質性肺炎診療における早期発見・早期診断に必要な多職種連携	北摂呼吸器疾患フォーラム
2022-12-9	飛野和則	間質性肺疾患診療 Up to date ～当院における間質性肺炎診療の工夫～	-4th- Ryukyū Respiratory Conference
2022-12-14	飛野和則	地域で取り組む重症喘息治療～バイオ製剤の使い方～	GSK Severe Asthma Expert Forum in 筑豊
2022-12-17	飛野和則	間質性肺炎診療における早期発見・早期診断に必要な多職種連携	第6回間質性肺炎・肺線維症勉強会

内分泌・糖尿病内科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-11-18	伊藤 淳	1型糖尿病の診断と病態に合わせた治療	第23回実地医家のための糖尿病セミナー

消化器内科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-1-21～ 2022-1-22	小森圭司	内視鏡治療ESDについて	WEB SEMINAR INVITATION
2022-1-27	宜保淳也、野崎哲史	当科におけるオニバイト療法の使用状況	株式会社ヤクルト本社社外講師
2022-2-22	久保川 賢	最新のIBD領域の診断と治療について	ヤンセンファーマ株式会社社外講師
2022-3-11	小森圭司	当院での消化管出血に対するPPI使用の実際	Nexium Online Symposium
2022-3-15	久保川 賢	当院における抗血栓薬内服患者での内視鏡治療の現状	飯塚医師会学術講演会
2022-8-18	久保川 賢	潰瘍性大腸炎の治療	武田薬品工業株式会社社外講師
2022-9-8～ 2022-9-9	久保川 賢	異所性静脈瘤および特殊な病態下における静脈瘤の診断と治療	第29回日本門脈圧亢進症学会総会
2022-10-6	久保川 賢	潰瘍性大腸炎について	第308回福岡県病院薬剤師会筑豊支部学術研修会
2022-12-15	久保川 賢	食道胃静脈瘤に対する血行動態を考慮した内視鏡治療	TPORAwebセミナー 5

血液内科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-5-27	白土基明	当院におけるPola+BR療法の経験～副作用マネジメントを中心に	ポライビー発売1周年記念九州沖縄Webセミナー
2022-6-11	白土基明	骨髄異形成症候群・急性骨髄性白血病の分類と治療	第58回福岡県病院薬剤師会オンコロジー研修会

心療内科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-6-7	木附 康	うつ病について	アトル研修会～飯塚病院心療内科木附先生～

総合診療科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-1-15	金 弘子	颯田病院における小児在宅医療の取り組み	筑豊地域小児在宅医療定例研修会
2022-1-20	清田雅智	final destination:Dr.清田の診察室へようこそ～症例から学ぶ総合診療外来～	Kobe Master Class for GIM 2022 Winter
2022-1-22	清田雅智	「AKA: alcoholic ketoacidosisの全て」	白河総合診療アカデミーレクチャー
2022-1-24	清田雅智	Hyponatremia	第11回かかりつけ医のための実践道場in飯塚
2022-1-28	清田雅智	文献学 (Philology) : referenceの意義	福井大学図書館若手研究者向け論文執筆セミナー
2022-1-29	清田雅智	Cope' sappendicitis, phernic shoulder pain	諏訪中央病院教育回診
2022-2-4	清田雅智	Kohyama tenderness	産業医科大学講義
2022-2-5～ 2022-2-6	吉田 伸、桑原宏輔	知ってよかった！ボス・マネジメント。冬セミスペシャル～コミュニティホスピタルでコロナ病棟診療を始めるとき～	第17回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー
2022-2-23	清田雅智	Oslerは、私の診療にどう生きているか？	第5回臨床医のアカデミックキャリアの作り方
2022-3-2	清田雅智	副鼻腔炎に起こった難治性病変	第2回 GIM × Rheumatology Seminar
2022-3-29	清田雅智	nails	第12回かかりつけ医のための実践道場in飯塚
2022-4-18	清田雅智	Alkaline Phosphatase	亀田総合病院 リウマチ・膠原病・アレルギー内科 科内勉強会
2022-4-22	清田雅智	Primary Headache 一般外来における心得	Geriatric Clinical Forum 2022
2022-5-24	清田雅智	ALP GCA	第13回かかりつけ医のための実践道場in飯塚
2022-5-25	鶴木友都	メディカルスタッフとのコミュニケーションのコツ	Antaa Webinar
2022-5-26	清田雅智	ANCAの落とし穴～急激な神経障害へのアプローチ～	第7回 Medii 内科症例検討カンファレンス
2022-5-27	清田雅智	診療推論総論	産業医科大学講義
2022-6-17	清田雅智	Streptococcus	宮崎大学 微生物学講義
2022-6-19	清田雅智	症例から学ぶGeneral Medicine : Bronchoavleolar carcinoma	21世紀適々齋塾臨床推論セミナー
2022-6-22	清田雅智	ALPにもっと光を！	第9回熊本大学総合診療セミナー
2022-7-8	清田雅智	GIM新しい時代の担い手	横浜市立大学医学部医学科6年次生「総合診療医学」
2022-7-16	清田雅智	Ramsay Hunt 症候群／OCD	練馬光ヶ丘病院教育回診
2022-7-21	大西友紀	下肢痛から著明な低カリウム血症が判明した42歳女性	第57回九州総合診療セミナー

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-7-26	清田雅智	Lymphadenopathy	第14回かかりつけ医のための実践道場in飯塚
2022-7-29	清田雅智	Pleural effusion	産業医科大学講義
2022-8-5	清田雅智	Lymphadenopathy	板橋中央病院Meet the Expert
2022-8-6	清田雅智	Anemia in the elderly	清田雅智先生招聘caseカンファランス
2022-8-27	清田雅智	「胸水の解釈：Lightの贈り物」	白河総合診療アカデミーレクチャー
2022-9-2～ 2022-9-3	清田雅智	Cope's early diagnosis of acute abdomen:referred shoulder & scrotal pain	水戸協同病院教育セミナー
2022-9-4	清田雅智	古書企画スペシャル 症例1	Tokyo GIM Conference 特別編
2022-9-5	清田雅智	lead poisoning～腹痛の鑑別疾患に書いてあるがよく知らない病態～	第10回愛知GIMカンファレンス
2022-9-10	清田雅智	nails as systemic disease	第43回藤田医科大学 第43回 Primary Skill Seminar
2022-9-22	小杉俊介	ホスピタリストって何する医師？	北九州総合病院院内勉強会 (研修医レクチャー特別編)
	鶴木友都	80名で構成されたジェネラリストの働き方@飯塚病院	
2022-9-24～ 2022-9-25	丸山淳也	実践！ひとりから始めるLGBTQ sフレンドリーな医療機関	第19回秋季生涯教育セミナー
	吉田 伸	コミュニティホスピタルを動かす重要評価指標 (KPI) とは？	
	金 弘子	実践！ひとりから始めるLGBTQ sフレンドリーな医療機関	
2022-10-11	原田愛子	後期研修を終えた後のキャリア	第4回チーフレジデント活動におけるWebセミナー
2022-10-12	清田雅智	外来のcommon symptom 神経症性不眠と強迫観念	大同病院 病診連携研究会
2022-10-12	井上三四郎	大腿骨近位部骨折の主治医はどいつだ！	Antaa Webinar
2022-10-14	清田雅智	臨床推論 各論2～腹水：Bruce Runyonの貢献～	産業医科大学講義
2022-10-22	清田雅智	ケースカンファランス コメンテーター	第14回九州臨床感染症セミナー
2022-10-23	清田雅智	ケースカンファランス プレゼンテーター (campylobacter, PSReA)	JAMEP総合診療スキルアップセミナー
2022-10-26	清田雅智	Campylobacter	症例まみれカンファ (長崎大/久留米大/飯塚)
2022-11-17	清田雅智	意識障害 画像に頼らない	第15回かかりつけ医のための実践道場in飯塚
2022-11-18～ 2022-11-19	清田雅智	諏訪中央病院教育回診	諏訪中央病院教育回診
2022-11-21	清田雅智	『総合診療医』の歩き方	第8回久留米大学 地域医療講演会
2022-11-25	清田雅智	臨床推論 各論3～急性腎障害 (AKI) ～	産業医科大学講義
2022-11-30	清田雅智	Mycoplasma	症例まみれカンファ (長崎大/久留米大/飯塚)
2022-12-9～ 2022-12-9	中村権一	HIV感染症 -社会福祉施設で働くみなさんに知ってほしいこと-	第1回HIV出前研修 (オンライン形式)

膠原病リウマチ内科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-1-26	内野愛弓	高齢者における関節リウマチ治療	リウマチと合併症を考える会
2022-2-15	内野愛弓	当科におけるウパダシチニブ使用経験	第13回筑豊リウマチ研究会
2022-2-25	内野愛弓	高齢発症リウマチの現状と治療～エンブレルを中心に～	エンブレルクリックワイズ講演会
2022-3-3	東岡和彦	当院におけるゴリムマブの有用性の検討	Golimumab Meeting in Kokura
2022-4-1	内野愛弓	リウマチ診療におけるゴリムマブの活かし方～ライフスタイル・疾患活動性を考慮して～	SINPONI WEB セミナー
2022-6-25	内野愛弓	リウマチ診療におけるゴリムマブの活かし方～ライフスタイル・疾患活動性を考慮して～	第2回RA Web Meeting in Kagoshima
2022-7-9	東岡和彦	関節リウマチの病態と治療	飯塚病院 関節リウマチ診療検討会
2022-7-26	内野愛弓	SLEの診断と治療	サフネロー適正使用推進講演会 in 筑豊
2022-11-10	内野愛弓	高齢RAにおける治療	ファイザー インターネットライブセミナー 関節リウマチ治療の最適化
2022-11-11	内野愛弓	当院におけるRA診療の実際	筑豊リウマチ診療連携の会
2022-12-2	内野愛弓	SLE治療におけるベリムマブの役割	SLE Expert Web Seminar
2022-12-6	内野愛弓	膠原病合併間質性肺疾患～診療科連携/ICを中心に～	第3回北九州CTD-ILDセミナー
2022-12-21	山内雄介	当院の関節リウマチ治療におけるゴリムマブの位置づけ	Golimumab Meeting in 小倉

連携医療・緩和ケア科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-1-20	石上雄一郎	クリティカルケア領域の緩和ケア	第5回福岡県緩和ケアチーム研修会
2022-2-18	石上雄一郎	救急医が知っておきたい緩和ケアコミュニケーション	第1回救急合同緩和勉強会
2022-2-24	大森崇史	今からはじめる心不全緩和ケア	心不全緩和を考える 地域医療従事者のための緩和ケアカンファレンス
2022-3-2	柏木秀行	地域ACP概論	地域包括ケア合同医師部会
2022-3-10	柏木秀行、清水 研	遺族ケア ～大切な人を亡くした方に寄り添うために～	第75回飯塚緩和医療勉強会
2022-4-8	大森崇史	心臓リハビリに関わる皆様に知ってもらいたい 心不全緩和ケアのこれまでとこれから	第18回旭川心臓リハビリテーション勉強会
2022-4-15～ 2022-4-17	柏木秀行	「全人的医療」実践講演会 ～どのようにすれば「全人的医療」に近づけるのか!?～	第119回日本内科学会総会・講演会
2022-4-21	柏木秀行	非がん疾患の緩和ケアについて幅広く考える	Palliative Care Web Seminar
2022-5-23	大森崇史	地域における心不全緩和ケアの連携	心不全緩和診療Webセミナー

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-6-11～ 2022-6-12	石上雄一郎	ICUナースに知っていて欲しい緩和ケア	第18回日本クリティカルケア看護学会 学術集会
2022-6-20	柏木秀行	地域の人が過ごしたい場所で過ごせる環境づくり～飯塚病院連携医療・緩和ケア科の取り組み～	医療法人社団宇部興産中央病院講演会
2022-7-27	柏木秀行	日本一、プライマリ・ケアフレンドリーな緩和ケア研修を作ってみた	Let's Start IPP! ver.1.0 -Integration of Primary care and Palliative care-
2022-7-29	柏木秀行	緩和ケアのパラダイムシフト	医学部医学科3年生 総合診療科・総合外科コース特別講演
2022-8-22	柏木秀行、中山隆弘、山田博英	当院緩和ケアチームの診療における神経ブロックの役割	第76回飯塚緩和医療勉強会
2022-9-15	柏木秀行	過ごしたい場所で過ごせるように、筑豊地域で取り組んでみたこと	第172回岡山旭東病院 地域連携カンファレンス
2022-9-30	柏木秀行	我が国の緩和ケア、未来からの反射 ～米国視察の経験を通じて～	第10回緩和・疼痛管理研究会
2022-11-8	柏木秀行、大坂 巖	がん疼痛治療の秘訣	第77回飯塚緩和医療勉強会

循環器内科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-1-19	川上将司	ACS急性期治療の舞台はカテ室から地域へ～重症患者をいかに救命するか	飯塚循環器セミナー
2022-1-21	井上修二郎、稲永慶太、川上将司、他	当院における高齢患者の抗血栓療法について	Interventionist Network Meeting
2022-2-3	川上将司	スワンガンツ2022～失敗に届せず、失敗を償う工夫をこらすべし	第6回和歌山Heart Failure Conference
2022-2-28	川上将司	敬天愛人、IMPELLAで重症患者を救う！	MCS Conference in 鹿児島
2022-3-23	山川 礼、川上将司	DFR測定開始後に値の降下をきたした1例	Talking with an authority on cardiology
2022-5-18	井上修二郎、稲永慶太、川上将司、他	心不全の統合的治療戦略について	飯塚医師会学術講演会
2022-5-26	井上修二郎、稲永慶太、川上将司、他	不整脈診断とリスク評価ガイドライン	循環器UP TO DATE WEBセミナー
2022-5-28	山川 礼、川上将司	Delayed arrivalの急性心筋梗塞の治療戦略	第18回心不全梁山泊
2022-6-18	川上将司	補助循環管理を今一度洗濯する	第4回心不全学ぼうの会－四国若手循環器内科医の集い－
2022-6-24	井上修二郎、稲永慶太、川上将司、他	慢性心不全の標準治療2022 Update	田川地区 心不全セミナー
2022-11-11	井上修二郎、稲永慶太、川上将司、他	3D mappingについて	VHJセミナー
2022-12-12	川上将司	威宜(みなよろし)、Impellaを考える	MCS conference in 大分

脳神経内科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-2-21	篠田紘司	多発性硬化症の鑑別診断 症例提示ーこんな人が来たらどう評価します？ー	第3回MS Campus
2022-2-26	篠田紘司	大脳皮質病変と認知機能障害	MS Brain Health Conference
2022-4-22	篠田紘司	多発性硬化症における抗B細胞治療の作用機序とそのポジショニングー治療戦略のパラダイムシフトー	Novartis MS Symposium 2022
2022-5-17	篠田紘司	視神経脊髄炎関連疾患の診断と最新治療ー神経内科医の立場からー	Novartis MS Expert Meeting
2022-5-25	篠田紘司	多発性硬化症におけるB細胞治療の作用機序とそのポジショニング	Novartis MS Expert Meeting
2022-6-3	篠田紘司	視神経脊髄炎スペクトラム障害の病態と治療	中外製薬社内講演会
2022-6-14	篠田紘司	抗CD20抗体治療による多発性硬化症治療の革新ー本邦における最新の治療戦略ー	ケシンプタ発売1周年講演会
2022-6-14	高瀬敏一郎	脳卒中後てんかんの診断と治療	脳卒中の予後管理を考えるWebセミナー
2022-6-24	篠田紘司	β -propeller protein-associated neurodegeneration(BPAN) と若年性パーキンソン症	第2回ニューロネットワーク九州
2022-7-24	篠田紘司	抗CD20モノクローナル抗体の有効性と安全性ーALITHIOS試験における長期安全性データを踏まえてー	Ezpend possibilities for MS treatment in Osaka
2022-9-4	篠田紘司	多発性硬化症病態におけるB細胞の役割と抗CD20抗体の作用機序	Expand possibilities for MS treatment in Hokkaido
2022-9-16	篠田紘司	多発性硬化症における抗B細胞療法のパラダイムシフトーMS治療のパラダイムシフトー	Novartis Web Symposium
2022-10-6	高瀬敏一郎	パーキンソン病ー診断と治療ー	直方鞍手薬剤師会定例研修会
2022-12-7	篠田紘司	MS治療、薬剤提案における医師の伝え方とコツ	多発性硬化症 MS診察室〜これだけはおさえておきたい〜

腎臓内科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-1-21	藤崎毅一郎	Cardio-renal anemia syndromeとその現在地	心腎貧血連関を考える会
2022-2-24	藤崎毅一郎	Cardio-renal anemia syndrome と腎性貧血治療の現在	飯塚医師会学術講演会
2022-6-23	藤崎毅一郎	Cardio-renal anemia syndrome と腎性貧血治療の現在	CKD治療の未来を考える会
2022-8-29	藤崎毅一郎	CKDと心腎貧血症候群	直方鞍手医師会学術講演会
2022-10-25	藤崎毅一郎	CKD患者と薬剤	第309回福岡県病院薬剤師会筑豊支部学術研修会
2022-11-10	福満研人	透析液隔壁開通忘れによる急性低Na血症を呈した腹膜透析患者の一例	第4回CKD Clinical Conference
2022-12-8	藤崎毅一郎	CKD診療連携の現在と今後の取組みー当院での取組みを踏まえてー	飯塚医師会学術講演会
2022-12-20	藤崎毅一郎	Cardio-renal anemia syndrome と腎性貧血治療の現在	腎性貧血治療を考える会

漢方診療科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-1-14	田原英一	痛みの漢方治療	九州顔面痛セミナー
2022-1-19	田原英一	漢方の定石と次の一手 ～ストレス性疾患について～	第31回産業医科大学漢方医学 セミナー
2022-1-20	田原英一	『傷寒論演習』解説 43	第255回麻生飯塚漢方診療研究会
	原田直之、田原英一	症例から学ぶ漢方の実際	
2022-1-23	田原英一	漢方診療の副作用情報と医療安全	第3回日本東洋医学会 福岡県 部会
2022-1-30	吉永 亮	『海の漢方・山の漢方』『痛みの漢方治療』	明日から実践！漢方入門セミ ナー
2022-2-3	矢野博美	風で冷えてきつい -虚実編2-	第3回飯塚漢方入門カンファレ ンス
2022-2-6	吉永 亮	プライマリ・ケアにこそ漢方！何とかするば い！慢性疼痛-冷えと瘀血の視点から-	第17回日本プライマリ・ケア 連合学会 若手医師のための 家庭医療学冬季セミナー
2022-2-9	田原英一	高齢者の疾患に対する漢方的アプローチ	漢方寺子屋 九州
2022-2-10	牧 俊允	風邪、感染症	第274回筑豊漢方研究会
	吉永 亮	症例から学ぶ漢方の実際	
2022-2-16	井上博喜	精神疾患の漢方治療 ～コロナ禍の心の不調について～	第59回鹿児島漢方学術懇話会
2022-2-16	吉永 亮	地域医療と漢方 -海の漢方・山の漢方-	第56回自治医科大学東洋医学 研究会
2022-2-17	井上博喜、田原英一	症例から学ぶ漢方の実際	第256回麻生飯塚漢方診療研究会
	田原英一	『傷寒論演習』解説 44	
2022-2-26	田原英一	症例問題1	漢方学舎WEBフォローアップ セミナー
2022-3-3	井上博喜	手足の先が冷えて困ります～冷えの鑑別～	第4回飯塚漢方入門カンファレ ンス
2022-3-5	牧 俊允	漢方初学者が飯塚病院漢方診療科の研修で経 験したこと	第4回日本東洋医学会 福岡県 部会
2022-3-10	田原英一	耳鼻科領域	第275回筑豊漢方研究会
	原田直之	症例から学ぶ漢方の実際	
2022-3-12	吉永 亮	COVID-19罹患後症状（後遺症）への漢方ア プローチ	第3回バリ感@九州Webinar
2022-3-17	牧 俊允、田原英一	症例から学ぶ漢方の実際	第257回麻生飯塚漢方診療研究会
	田原英一	『傷寒論演習』解説 45	
2022-3-19	田原英一	不眠の漢方治療	福岡県東洋医会

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-3-26	吉永 亮	地域医療で学んだ漢方治療 －海の漢方・山の漢方－	宮崎県医師会東洋医学会学術講演会
2022-3-31	田原英一	痛みの漢方治療～困ったときの漢方薬～	糸魚川市医師会学術講演会
2022-3-31～ 2022-5-31	田原英一	漢方診の実際から	産業医科大学医学部 医学概論Ⅲ（医学部3年）
2022-4-7	吉永 亮	インフルエンザには麻黄湯～太陽病1～	第5回飯塚漢方入門カンファレンス
2022-4-13	田原英一	「漢方薬学概論」2022/漢方治療の概要	福岡大学 薬学部講義（医学部4年）
2022-4-13	吉永 亮	プライマリ・ケア漢方－地域医療に活かすコツ－	第1回総合診療ウェビナー島根漢方ベースキャンプ
2022-4-21	井上博喜、田原英一	症例から学ぶ漢方の実際	第258回麻生飯塚漢方診療研究会
	田原英一	『傷寒論演習』解説 46	
2022-4-23～ 2022-4-24	原田直之	漢方の診断法と処方運用Ⅰ（太陽病）	筑豊漢方基礎講座2022
2022-4-23～ 2022-4-24	井上博喜	漢方の診断法と処方運用Ⅳ（陰証①）、漢方の診断法と処方運用Ⅳ（陰証②）	筑豊漢方基礎講座2022
2022-4-23～ 2022-4-24	田原英一	漢方医学概論、腹診・質疑応答、漢方の診断法と処方運用Ⅴ（気）、症例検討・質疑応答	筑豊漢方基礎講座2022
2022-4-23～ 2022-4-24	矢野博美	漢方の診断法と処方運用Ⅱ（少陽病）、漢方の診断法と処方運用Ⅴ（血）	筑豊漢方基礎講座2022
2022-4-23～ 2022-4-24	吉永 亮	漢方の診断法と処方運用Ⅲ（陽明病）、漢方の診断法と処方運用Ⅴ（水）	筑豊漢方基礎講座2022
2022-5-11	吉永 亮	おなかに漢方	第2回総合診療ウェビナー島根漢方ベースキャンプ
2022-5-11	田原英一	のどが痛くて汗ばみます－太陽病2－	第6回飯塚漢方入門カンファレンス
2022-5-11	井上博喜	「漢方薬学概論」2022/六病位と漢方治療－陽証－	福岡大学 薬学部講義（医学部4年）
2022-5-19	吉永 亮	全身倦怠感に対する漢方アプローチ～コロナ後遺症を中心に～	第59回九州総合診療セミナー
2022-5-19	田原英一	『傷寒論演習』解説 47	第259回麻生飯塚漢方診療研究会
	原田直之、田原英一	症例から学ぶ漢方の実際	
2022-5-21	井上博喜	在宅・老人施設で役立つ漢方～フレイル・NST・感染症・BPSD～	高齢者疾患に使える漢方ステップアップセミナー
2022-5-25	井上博喜	「漢方薬学概論」2022/六病位と漢方治療－陰証－	福岡大学 薬学部講義（医学部4年）
2022-6-1	田原英一	総論	第1回福岡県立大学 東洋医学概論
2022-6-2	矢野博美	こじれた風邪には～太陽病2～	第7回飯塚漢方入門カンファレンス
2022-6-4	井上博喜	「泌尿器科医が知っておくと役立つ漢方の基本的な考え方」「漢方処方を決める診断方法を学ぶ－腹診実技実習－」	泌尿器科漢方初学者のための漢方入門セミナー

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-6-8	原田直之	六病位、太陽病	第2回福岡県立大学 東洋医学概論
2022-6-8	吉永 亮	風邪に対する漢方の考え方・使い方	第3回総合診療ウェビナー鳥根漢方ベースキャンプ
2022-6-9	田原英一	皮膚疾患（多汗症など）	第276回筑豊漢方研究会
2022-6-15	吉永 亮	全身倦怠感の鑑別から学ぶ漢方治療	第3回九州 Web漢方セミナー
2022-6-15	矢野博美	少陽病、陽明病	第3回福岡県立大学 東洋医学概論
2022-6-16	井上博喜、田原英一	症例から学ぶ漢方の実際	第260回麻生飯塚漢方診療研究会
	田原英一	『傷寒論演習』解説 48	
2022-6-22	井上博喜	陰証	第4回福岡県立大学 東洋医学概論
2022-6-29	吉永 亮	血の失調	第5回福岡県立大学 東洋医学概論
2022-7-3	田原英一	少陽病をめぐる謎	第1回日本東洋医学会 福岡・熊本・大分・宮崎・長崎 5県合同県部会
2022-7-6	吉永 亮	痛みの漢方治療	とちぎプライマリ・ケア講演会2022
2022-7-6	田原英一	「漢方薬学概論」2022/まとめ 方剤の運用と治療	福岡大学 薬学部講義（医学部4年）
2022-7-6	原田直之	水の失調	第6回福岡県立大学 東洋医学概論
2022-7-7	井上博喜	体が火照ってきついです～陽明病～	第8回飯塚漢方入門カンファレンス
2022-7-13	吉永 亮	痛みと瘀血 ～疎経活血湯と治打撲一方～	第4回総合診療ウェビナー鳥根漢方ベースキャンプ
2022-7-14	矢野博美	症例から学ぶ漢方の実際	第277回筑豊漢方研究会
	井上博喜	ストレス関連疾患	
2022-7-20	田原英一	診察と診断のまとめ	第8回福岡県立大学 東洋医学概論
2022-7-20	吉永 亮	小児・思春期の漢方治療	第338回筑豊小児科医会勉強会
2022-7-21	吉永 亮、田原英一	症例から学ぶ漢方の実際	第261回麻生飯塚漢方診療研究会
	田原英一	『傷寒論演習』解説49	
2022-7-24	田原英一	飯塚病院における臨床症例紹介	第3回実践東洋医学講座
2022-8-4	吉永 亮	繰り返す小児の腹痛～太陰病～	第9回飯塚漢方入門カンファレンス
2022-8-24	吉永 亮	症例から学ぶ漢方治療の実際	第5回総合診療ウェビナー鳥根漢方ベースキャンプ

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-8-26～ 2022-8-27	吉永 亮	総合診療における漢方治療の役割 総論・外 来診療の視点から	第1回漢方医学国際シンポジウ ム
2022-8-31	吉永 亮	明日から実践－痛みに対する漢方治療－	奈良臨床漢方医学セミナー
2022-9-1	田原英一	冷えて悪化する過敏性腸症候群－少陰病－	第10回飯塚漢方入門カンファ レンス
2022-9-3	井上博喜	「葛根湯医者はやぶ医者か？」～漢方の考え 方、使い方、効かせ方～	漢方研修会
2022-9-4	田原英一	高齢者疾患	第6回薬剤師研修センター 漢 方薬・生薬研修会
2022-9-6	吉永 亮	海の漢方・山の漢方	博多区医師会 学術講演会
2022-9-8	矢野博美	消化器（便通異常）	第278回筑豊漢方研究会
2022-9-10	吉永 亮	COVID-19罹患後症状（後遺症）に対するア プローチ	第17回感染症倶楽部 on WEB
2022-9-15	原田直之、田原英一	症例から学ぶ漢方の実際	第262回麻生飯塚漢方診療研究 会
	田原英一	『傷寒論演習』解説50	
2022-9-21	田原英一	漢方調剤における問題点とその解決への展望	第306回福岡県病院薬剤師会筑 豊支部学術研修会
2022-9-25	田原英一	漢方医の眼で観る病気の成り立ちと悪化要因 ～治らない理由と治し方	九州漢方研究会 例会
2022-9-26	吉永 亮	明日から実践！痛みの漢方治療	岐阜総合診療漢方セミナー
2022-9-27	田原英一	痛みの漢方治療～困ったときの漢方薬～	小倉内科医会実地医家シリー ズ講演会
2022-9-29	井上博喜	高齢者に役立つ漢方	荒尾漢方勉強会
2022-10-6	矢野博美	非常につらい倦怠感－厥陰病－	第11回飯塚漢方入門カンファ レンス
2022-10-13	中尾桂子	症例から学ぶ漢方治療の実際	第279回筑豊漢方研究会
	原田直之	かぜ症候群の漢方治療	
2022-10-16	田原英一	飯塚病院学会報告ベストセレクション～最近の 治験・知見・事件！？	第47回日本東洋医学会 北陸 支部例会
2022-10-20	田原英一	『傷寒論演習』解説51	第263回麻生飯塚漢方診療研究 会
	吉永 亮、田原英一	症例から学ぶ漢方の実際	
2022-10-26	吉永 亮	プライマリケアに役立つ漢方 『明日から実 践 冷えの漢方治療』	北松浦医師会学術講演会
2022-10-29	原田直之	当院で経験した興味深い2症例の報告（2021 年度）	第2回日本東洋医学会 福岡・ 熊本・大分・宮崎・長崎 5県 合同県部会
2022-10-29	田原英一	新型コロナウイルス治療と漢方薬について	薬学部市民公開講座

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-11-2	吉永 亮	起立性調節障害と診断された児童生徒の学校での対応について	第1回田川郡学校保健会 研修会
2022-11-9	井上博喜	月経困難の女性を診る－瘀血解説－	第12回飯塚漢方入門カンファレンス
2022-11-10	吉永 亮	痛みの漢方治療	第280回筑豊漢方研究会
2022-11-12	井上博喜	呼吸器疾患に役立つ漢方 ～風邪・咳嗽・COVID-19関連症状～	漢方ステップアップセミナー
2022-11-12	吉永 亮	メジャー漢方薬から学ぶ看護と漢方	実践漢方看護セミナー
2022-11-15	田原英一	痛みの漢方治療～困ったときの漢方薬～	十日町市中魚沼郡学術講演会
2022-11-16	吉永 亮	全身倦怠感に対する漢方アプローチ ～COVID-19罹患後症状も含めて～	第35回産業医科大学漢方医学セミナー
2022-11-17	矢野博美、田原英一	症例から学ぶ漢方の実際	第264回麻生飯塚漢方診療研究会
	田原英一	『傷寒論演習』解説52	
2022-11-23	田原英一	こころの危機の時代と四物湯の意義	日本東洋医学会関東甲信越支部群馬県部会
2022-11-25	田原英一	痛みの漢方治療～困ったときの漢方薬～	富山県臨床研修病院連絡協議会 初期研修医スキルアップセミナー
2022-11-29	田原英一	暮らしの不調 冷えと痛みに効く漢方	第1回暮らしの不調にクラシエ～夢中になれる漢方セミナー～
2022-12-1	吉永 亮	芍薬甘草湯の効かないこむら返り～血虚～	第13回飯塚漢方入門カンファレンス
2022-12-3	吉永 亮	冷えの漢方治療－common diseaseに活かす－	宮崎県医師会東洋医会 学術講演会
2022-12-5	田原英一	呼吸器疾患の漢方治療～最近の治験例～	第29回熊本漢方談話会
2022-12-19	吉永 亮	「からだの不調」と不登校～病気の理解、治療・対応のいま～子どもの不調に対する漢方カンファレンス	福岡県立大学 公開講座 I

小児科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-2-2	田中祥一郎	こどもの命を守る事業構想～多発する児童虐待、なぜ救えないのか～	事業構想事例研究
2022-2-24	岡松由記	気管喉頭分離術をうける子どもたちについてのお話	令和3年度 筑豊地域小児在宅医療定例研修会（2月）
2022-5-17	田中祥一郎	貧困が生む虐待の連鎖について考える～今、福岡で起きていること～	博多ロータリークラブ
2022-6-16	田中祥一郎	児童虐待の現状と地域に求められる役割	嘉麻市要保護児童対策地域協議会代表者会議 児童虐待防止学習会
2022-6-26	田中祥一郎	これからの時代に求められる性教育（包括的性教育）	かま男女共同参画推進ネットワーク 学習会
2022-6-27	岡松由記	食物アレルギーとアナフィラキシー、エピペンについて	直方市学校給食会2022年エピペン講習会

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-8-25	田中祥一郎	児童虐待の現状	飯塚市ファミリー・サポート・センター事業
2022-10-6	嘉村拓朗	食物アレルギー、アナフィラキシーおよびエビペンについて	福岡県立田川高等学校職員対象講演会 食物アレルギー及びエビペンに関する研修
2022-11-2	田中祥一郎	起立性調節障害と診断された児童生徒の学校での対応について	令和4年度 田川郡学校保健会第1回研修会（講演会）
2022-11-11	田中祥一郎	小児科医から見た命の現場	飯塚市立飯塚第一中学校 総合学習「キミまち」
2022-11-17	田中祥一郎	地域の児童虐待の現状について	嘉麻市要保護児童対策地域協議会実務者会議 学習会
2022-12-3	田中祥一郎	生命（いのち）の大切さを知ろう～地域・家庭の現状から～	飯塚市男女共同参画推進事業講演会
2022-12-3	岡松由記	食物アレルギーをもつ子どもたちの、安心安全な集団生活	令和4年度（第68回）福岡県小児保健研究会・母子保健関係者研修会
2022-12-5	田中祥一郎	筑豊地域における児童虐待の現状	筑豊ブロック福岡県地域保健師研究協議会

外科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-12-2	山下洋市	亜鉛と肝臓・肝癌	Hokkaido Zinc Seminar 2022

呼吸器外科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-9-28	安田 学、武 伸行、篠原伸二、他	肺がんの外科治療について	第307回福岡県病院薬剤師会筑豊支部学術研修会

小児外科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-10-20	竜田恭介	当科における日常疾患の治療成績と疑問点について	第340回筑豊小児科医会
2022-12-1	竜田恭介	胃瘻のいろんなトラブル	筑豊地域小児在宅医療研修会

産婦人科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-10-13	林宗太郎、辻岡 寛	LEPの製剤別特性～周期投与と連続投与を検証する～	北九州 Gynecology Seminar

整形外科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-4-10	原 俊彦	人工股関節の術前計画	第4回九大整形股関節教育セミナー
		外反骨切り術・Chiari骨盤骨切り術	
2022-4-13	原 俊彦	Spherical Periacetabular Osteotomy(SPO) 手術手技	SPO セミナー
2022-5-9	原 俊彦	Spherical Periacetabular Osteotomy(SPO) 手術手技	SPO セミナー
2022-6-30	浜崎晶彦	骨粗鬆症についての基礎知識共有 骨粗鬆症は果たして病気なのか？	第1回骨粗鬆症に対する知識の共有とFLS(骨折リエゾンサービス)の意義についての研修
2022-7-27	原 俊彦	SPO 手術手技について	SPO セミナー
2022-7-30	原 俊彦	Periacetabular Osteotomyの歴史と変遷	第2回THA Rhapsody MDM hip seminar
2022-9-21	原 俊彦	SPO (Spherical Periacetabular Osteotomy) 手術手技について	e-casebook
2022-9-26	浜崎晶彦	高齢者骨粗鬆症について	健康寿命延伸 Web Seminar
2022-11-1	原 俊彦	SPO (Spherical periacetabular osteotomy) 手術手技について	SPO セミナー
2022-11-15	原 俊彦	SPO & 杉岡式外反骨切り術	ショートレクチャー

リハビリテーション科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-11-11	山下智弘	上肢痙縮・下肢痙縮に対するボツリヌス治療の臨床課題と展望	ゼオメイン筋注用ハンズオンセミナー in 大分
2022-11-30	山下智弘	痙縮に対するボツリヌス療法～治療最適化に向けた取り組み～	GSK Spasticity Web Conference 2022

脳神経外科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-2-5	名取良弘	眼窩と上眼窩裂の解剖	微小脳神経外科解剖セミナー in 福岡
2022-2-23	名取良弘	本邦での心停止後臓器提供を医療安全面から考える(シンポジウム)	第55回日本臨床腎移植学会
2022-7-7～ 2022-7-8	名取良弘	眼窩・上眼窩裂の解剖	第34回日本頭蓋底外科学会
2022-8-6	迎 伸孝	てんかん外科の基礎	第33回臨床神経生理研究会(九州) 教育講演3
2022-9-3	名取良弘	重症患者初期支援充実加算保険収載までの道のり	第40回福岡救急医学会
2022-10-7	名取良弘	入院時重症患者対応メディエーター – その意義と活動状況 –	秋田県院内臓器移植Co・秋田県MSW協会会員合同研修会
2022-12-21	名取良弘	法的脳死判定と一般的脳死診断	大分県立病院法の脳死判定研修会

心臓血管外科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-11-30	内田孝之	TAVI の適応に関して	直方鞍手医師会学術講演会

血管外科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-2-17	松元 崇	下肢静脈瘤について～最新の治療法や術後深部静脈血栓症への対応～	第17回循環期 UP TO DATE WEB セミナー
2022-8-4	松元 崇	外科医が教えるポケット作成講座	JLL_Webinar
2022-8-4	松元 崇	動画で学ぶポケット作成Tips	CIEDs Meeting In Fukuoka
2022-11-10	松元 崇	デバイスポケットの作成について	Create devise pocket seminar Shimonoseki Kitakyushu
2022-11-11	松元 崇	EVAR後のlate openconversion	福岡心臓外科ナイトフォーラム

皮膚科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-3-17	幸田 太	乾癬	Dermatology Clinical Lecture
2022-7-28	井手豪俊	乾癬について	サンファーマ株式会社 社内研修会
2022-8-18	井手豪俊	社内講演会	ノバルティスファーマ株式会社 社内研修会
2022-9-16	井手豪俊	飯塚病院皮膚科の病診連携について	筑豊臨床皮膚研究会
2022-10-6	井手豪俊	スキルUPセミナー	アuzzi合同会社 社内研修会
2022-10-20	井手豪俊	飯塚病院におけるADの最新治療	AD病診連携講演会in 筑豊
2022-12-1	王 黎亜	皮膚疾患について	サンファーマ株式会社 社内研修会

眼科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-5-17	中間崇仁	視神経炎の診断と治療 -眼科医の立場から-	第302回福岡県病院薬剤師会筑豊支部 学術研修会
2022-10-20	中間崇仁	実臨床におけるAMD・DMEに対する抗VEGF治療の現状と問題	中外製薬株式会社 社内研修会
2022-11-18	中間崇仁	糖尿病網膜症 Update	第23回実地医家のための糖尿病セミナー

リエゾン精神科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-2-17	猪狩圭介	家庭医とうつ病診療	長崎医療センター総合診療コース

感染症科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-1-15	沖中友秀、的野多加志、大橋祐介、他	Mycobacterium immunogenum について	第7回Fukuoka ID Conference
2022-2-7	的野多加志	感染症診療の原則	第2回令和3年度 大牟田市立病院 診療部対象感染症対策研修会
2022-2-20	的野多加志	福岡県における新興感染症との闘い	福岡県病院薬剤師会 WEB 研修会2022 感染制御研修会
2022-3-1～ 2022-3-31	的野多加志	コロナ禍における避難所の感染対策	令和3年度 JMAT 研修基本編
2022-3-17	的野多加志	高齢者施設における COVID-19 治療	新型コロナウイルス感染症の治療に関する報告会
2022-3-20	的野多加志	感染症（新型コロナ）予防	ライオンズクラブ国際協会 337-A 地区 糖尿病予防・感染症（新型コロナ）予防セミナー
2022-4-19	的野多加志	感染対策の基本/COVID-19への対応	第1回令和4年度感染防止対策強化研修
2022-5-9	的野多加志	COVID-19 マネジメント	令和4年度 DMAT 隊員育成研修
2022-5-10	的野多加志	感染対策の基本/COVID-19への対応	第2回令和4年度感染防止対策強化研修
2022-5-26	的野多加志	感染症とは	第1回令和4年度感染管理リーダー育成研修
2022-5-27	的野多加志	感染症とは	第2回令和4年度感染管理リーダー育成研修
2022-6-4	沖中友秀	黄色ブドウ球菌菌血症の診療マネジメント	飯塚イズムで学ぶ！内科力を鍛える感染症レジデント勉強会
	長谷川雄一	グラム染色と微生物検査	
	的野多加志	感染症診療総論	
2022-6-22	長谷川雄一	本当に知りたかった「グラム染色」	第96回民間医局コネクトセミナー
2022-6-30	的野多加志	ワクチンの世界標準と当科での取り組み～HPV ワクチンを中心に～	第337回筑豊小児科医会勉強会 (HPV ワクチンセミナー in 筑豊)
2022-7-12	的野多加志	発熱、腰背部痛を訴える30歳男性	第4回症例まみれ検討会
2022-8-25	的野多加志	ハンセン病症例から学ぶ診断・治療・予防	多施設合同アドバンスカンファレンス
2022-8-27	的野多加志	国内新規ハンセン病症例から学ぶ診断と治療	第43回ハンセン病医学夏期大学講座
2022-8-30	的野多加志	循環器・血流感染症	国際医療福祉大学特定行為研修
2022-9-2	的野多加志	薬剤耐性菌と薬剤耐性対策	塩野義製薬 北九州営業所 社内研修会

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-9-6	的野多加志	中枢神経感染症	国際医療福祉大学特定行為研修
2022-9-9	的野多加志	新型コロナウイルス感染症の最新情報について	両筑・八女・南筑後ブロック保健師研究協議会
2022-9-10	的野多加志	医師と技師の Knowledge Gap	福岡県臨床衛生検査技師会微生物部門研修会
2022-9-13	的野多加志	新興再興・輸入感染症	国際医療福祉大学 認定看護師教育課程「感染管理」
2022-9-28	的野多加志	全ゲノムシーケンスの有効性と限界	第17回チャレンジ！感染症
2022-11-11	的野多加志	新型コロナウイルス感染症の最新知見	令和4年度福岡県宗像・遠賀保健福祉環境事務所 感染防止対策研修会
2022-11-12	的野多加志	薬剤師に必要なワクチン Knowledge	第36回新潟県薬剤師のための感染制御セミナー
2022-11-18	的野多加志	当院における抗菌薬適正使用支援	筑豊感染症セミナー
2022-11-22	的野多加志	新型コロナウイルス感染症に係るクラスター対応について	令和4年度感染症対策に係る研修会
2022-11-25	沖中友秀、的野多加志、長谷川雄一	侵襲性アスペルギルス症	第3回 ID フェローカンファレンス
2022-12-7	的野多加志	新型コロナウイルス感染症と子どもの健康	糟屋区学校保健会保健主事養護教諭合同研修会
2022-12-10	的野多加志	循環器感染症	IDATEN 感染症オンラインセミナー
2022-12-22	的野多加志	COVID-19との共存に向けた課題～インフルエンザ同時流行など～	第342回筑豊小児科医会勉強会

歯科口腔外科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-11-18	河野真由美	リハビリテーション医学	麻生リハビリテーション大学校講演

集中治療科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-1-22	川上大裕	集中治療医が考える急性期輸液の法則	Nephrology Education Inter League
2022-1-30	川上大裕	呼吸療法と PICS ～波形や数値だけでなく、患者を治すために必要なこと	第19回人工呼吸器安全管理セミナー
2022-3-6	吉野俊平	内科医による DVT の診断入門	POCUS Online Course 2022
2022-3-18～ 2022-3-20	川上大裕	明日のアクションが変わる！血行動態モニタリング活用術	第49回日本集中治療医学会学術集会
2022-5-14	吉野俊平	必修！内科医のためのベッドサイドエコー	第4回日本内科学会専門医部会ポイントオブケア超音波講習会
2022-5-26	川上大裕	肺にやさしい輸液管理のコツ	第19回若手・研修医向け呼吸器疾患セミナー

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-7-10	吉野俊平	内科医によるDVTの診断入門	POCUS Online Course 2022
2022-8-30	川上大裕	Manejo de fluidos en la UCI	SEMINARIO INTERREGIONAL EN LATINOAMERICA
2022-9-10	川上大裕	病院運営の中で集中治療医が果たす役割	第10回 Intensiveist セミナー
2022-10-29～ 2022-10-30	川上大裕	小児救命救急・ICUピックアップ INTENSIVIST コラボ企画「PICS」	第29回小児救急集中ワーク ショップ
2022-11-6	川上大裕	意思決定支援プロセスセミナー アドバンス コース	日本集中治療医学会 看護教育 委員会
2022-11-11～ 2022-11-12	川上大裕	PCPS・PICS総論	第32回日本呼吸ケア・リハビリ テーション学会学術集会
2022-11-26	吉野俊平	必修！内科医のためのベッドサイドエコー	第5回日本内科学会専門医部会 ポイントオブケア超音波講習会
2022-12-3	川上大裕	鎮静・鎮痛薬 使い方のリアル	第133回日本循環学会九州地方 会
2022-12-22	吉野俊平	Hospitalistのためのショック診療のTips	第38回総合診療セミナー in お 茶の水

放射線治療科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-6-25	佐々木智成	肺がんの放射線治療	2022年肺がん市民公開講座
2022-11-19～ 2022-11-20	佐々木智成	放射線診療とAI	第17回九州放射線医療技術学 術大会

呼吸器腫瘍内科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-2-2	靄野広介	当院におけるニボルマブ+イピリムマブ±ケ モ2サイクルの使用経験	筑豊地区がん免疫療法セミ ナー 2022
2022-6-15	靄野広介	当院における非小細胞肺癌の診療 FY2021	日本化薬 社員向け講演
2022-7-15	靄野広介	複合免疫療法の使用経験とirAEマネー ジメント・次治療について	NSCLCエリアWebカンファレ ンス
2022-7-22	靄野広介	間質性肺疾患	武田薬品工業(株)社員向け講 演
2022-8-8	靄野広介	N i v o + I p i ± C h e m o の使用経験 ～安先生を中心に～	NSCLC IO-WEB講演会
2022-9-28	靄野広介	肺癌周術期治療における補助療法について～ 呼吸器内科医の立場から～	第307回福岡県病院薬剤師会筑 豊支部学術研修会
2022-12-21	靄野広介	the 複合免疫療法 ～Nivo+Ipi ± Chemoの 使用経験を中心に～	中外製薬 社員向け講演

病理科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-6-4	大石善丈	子宮間葉系腫瘍における疾患概念の整理	第54回日本婦人科病理学会

中央検査部

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-11-5～ 2022-11-6	樋口雄哉	技師生活の第一コーナーを回って感じたこと	第56回日臨技九州支部医学検査学会

リハビリセンター

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-10-7	白土健吾	急性期におけるリハ栄養～栄養食品の活用法～	筑豊臨床栄養セミナー
2022-10-30	白土健吾	急性期のリハ栄養～医原性サルコペニア Zero をめざして～	リハビリテーション栄養フォーラム

薬剤科

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-1-25	進 健司	薬剤師外来を活かした多職種連携で取り組む睡眠薬の適正使用	不眠症診療セミナー
2022-11-9	進 健司	薬剤師が実践！ より安全な睡眠薬選択の支援	医療安全の視点から考える不眠症治療セミナー in 福岡

臨床工学部

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-2-14	田村慎一、金城依子、指原伶一、他	内視鏡センターにおける Covid-19対策の紹介	内視鏡関連業務委員会 教育セミナー
2022-5-22	田村慎一、金城依子、上村健斗、他	飯塚病院内視鏡センターにおける臨床工学技士の教育体制について	第29回福岡県臨床工学会
2022-10-1	松岡翔平	遠隔モニタリングの導入～管理まで	福岡県臨床工学技士会 不整脈治療セミナー

地域連携センター

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-9-3	堀内茅加	当院における入院時重症患者の家族支援について	第40回福岡救急医学会

看護部

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-6-14	岡 佳子	「糖尿病とともに生きる患者さんへのフットケア」～当院のフットケア外来の取り組み～	飯塚医師会学術講演会
2022-7-26	岡 佳子	ふれあい看護体験 高校生へのメッセージ 「夢はかならず叶う! -Dreams come true-」	福岡県看護協会
2022-8-20～ 2022-8-21	岡 佳子	政策セミナー “令和4年度 診療報酬改定の概要と改正に向けた看護のあり方”	第16回日本慢性看護学会学術集会
2022-8-21	岡 佳子	「卒業生によるメッセージ」	西南女学院大学看護学科 「オープンキャンパス」
2022-10-31	岡 佳子	「患者から学ぶ医療」～専門看護師10年目の今、改めて倫理を問う～	麻生看護大学校 看護科通信課程
2022-11-26	岡 佳子	糖尿病重症化予防(フットケア)研修 講義1: 糖尿病患者の療養を支えるフットケアの意義	第27回日本糖尿病教育・看護学会
2022-12-3～ 2022-12-4	岡 佳子	糖尿病重症化予防(フットケア)研修	第27回日本糖尿病教育・看護学会
2022-12-10	岡 佳子	事例研究入門セミナー 講演2「実践事例よりリサーチクエッションを見出すまでのプロセスとその体験」	第27回日本糖尿病教育・看護学会 研究推進委員会
2022-12-12～ 2023-2-13	久保佳子	看護実践報告～セル看護提供方式®について～	第22回福岡県看護学会

栄養部

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-7-26	田代千恵子	美味しく減塩できるコツ	第2回PDステップアップセミナー
	金森恵美	その人らしい生活を支える栄養指導	
2022-11-22	田代千恵子	急性期病院の栄養管理	九州女子大学
2022-12-23	田代千恵子	社会人基礎力について	九州女子大学

改善推進本部

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-6-23	立石奈々	飯塚病院の改善活動～改善活動と人材育成～	令和4年度医療政策・経営セミナー

地域包括ケア推進本部

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-7-10	小栗和美	排泄障害のある人への社会資源の活用	大分県社会福祉研修センター 主催コンチネンスセミナー

臨床心理室

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-2-22	松尾純子	臓器提供を含む終末期の意思決定を支える家族ケア	第2回やまぐち移植医療推進財団 令和3年度移植医療関係者研修会
2022-8-11	松尾純子	臓器提供を含む終末期の意思決定支援を支える家族ケアチーム編ー	第1回2022年度 臓器提供施設連携体制構築事業
2022-9-27	松尾純子	総合病院臨床心理室の仕事ーその豊かさややりがいー	第1回九州大学大学院人間環境学研究院
2022-11-16	松尾純子	総合病院臨床心理室の仕事ーその豊かさややりがいー	福岡県立大学人間形成学科
2022-11-26	松尾純子	移植にまつわるメンタルヘルス 患者×家族×医療者のこころ	厚生労働省 造血幹細胞移植推進拠点病院事業 拠点病院セミナー

内視鏡センター

開催日	発表者名	表題名	講演会名
2022-3-28	赤星和也	胃がん検診における胃粘膜下腫瘍の取り扱いと内視鏡検査時の COVID-19感染対策について	第4回筑豊放射線技師会学術研修会

〔V〕 院内研修会・勉強会

1. 院内臨床病理検討会（CPC）記録

開催日	年齢	性別	診療科	検討した診断
第204回 1月21日	70代	男	外科	大腸壊死
第205回 5月20日	70代	男	肝臓内科	自己免疫性肝炎
第206回 8月19日	80代	男	呼吸器内科	悪性胸膜中皮腫
第207回 9月16日	70代	男	総合診療科	敗血症性ショック、急性呼吸不全、多発肝腫瘍、DIC, 腎梗塞疑い
第208回 12月16日	70代	男	呼吸器内科	小細胞肺癌

2. 看護部

内 容	対 象	開催日	場 所
新人看護師研修 「リフレクション研修」	新人看護師	1月13日・1月27日	エネルギーセンター大会議室
プリセプターフォローアップ研修 2回目	2021年度 プリセプター	2～3月	各部署
プリセプター研修	2022年度 プリセプター	3月	各部署
2021年度 若葉ナース研修プログラム ～フォローアップ研修～	2021年度 新人看護師	4月8日・4月12日	エネルギーセンター大会議室 百年ホール
2022年度新規採用者研修	2022年度 新規採用者	4月11日・4月12日	エネルギーセンター大会議室 百年ホール
新人看護師研修「安全管理」	新人看護師	4月21日・4月22日	北棟4階多目的ホール
新人看護師研修「吸引研修」	新人看護師	5月～6月	各部署
新人看護師研修 「注射に関する一連のケア」 シミュレーション	新人看護師	5月2日・5月6日 5月9日・5月10日	百年ホール
2021年度 専門コース 第20回 「アセスメント力・スキルアップコース ～リカバリークラス～」	看護師経験3年以上	5月24日・6月28日	北棟4階多目的ホール
新人看護師研修 「インスリン投与中の患者のケア」 実践編	新人看護師	5月26日・6月3日	北棟4階多目的ホール エネルギーセンター大会議室
KYT研修	卒後2年目看護師	5月30日・6月8日 6月17日・6月24日 6月27日	北棟4階多目的ホール
新人看護師研修 「インスリン投与中の患者のケア」 シミュレーション	新人看護師	6月1日・6月8日 6月10日・6月15日 6月22日	ラーニングセンター
新人看護師研修 「呼吸器演習 ビギナーズコース」	新人看護師	6月2日・6月7日 6月9日・6月14日 6月16日・6月21日 6月23日・6月28日 6月30日・7月7日	ラーニングセンター
看護実践Ⅱ	卒後2年目看護師	6月6日・6月14日 6月20日	エネルギーセンター大会議室
新人看護師研修 「口腔アセスメントと口腔ケア」 講義	新人看護師	6月29日・7月5日	北棟4階多目的ホール

内 容	対 象	開 催 日	場 所
新人看護師研修 「摂食・嚥下障害をもつ患者の看護」 事例検討	新人看護師	6月29日・7月5日	北棟4階多目的ホール
新人看護師研修 「麻薬の取り扱い」	新人看護師	7月12日・7月19日	エネルギーセンター大会議室 百年ホール
2021年度 リーダーナースフォローアップ研修	卒後3年目看護師	7月13日・7月19日 7月21日	エネルギーセンター大会議室 北棟4階多目的ホール
2022年度 専門コース 第9回 「褥瘡ケアスキルアップコース」	看護師経験3年以上	7月13日・12月5日 12月14日	百年ホール ラーニングセンター
新人集合教育 「若葉ナース研修プログラム」	2022年度 新人看護師	7月22日・8月12日	百年ホール
倫理研修2	卒後5年目看護師	7月22日・12月5日	エネルギーセンター大会議室
新人看護師研修 「フィジカルアセスメント研修」	新人看護師	7月25日～7月29日 8月1日～8月5日 8月8日～8月9日 8月12日・8月16日 8月18日～8月19日 8月22日～8月26日 8月29日～8月31日 9月1日～9月2日 9月5日～9月9日 9月12日～9月16日 9月20日・9月22日 9月26日～9月30日 10月3日・10月7日	ICU E4救急・HCU E6救急
2022年度 専門コース 第5回 「緩和ケアスキルアップコース」	看護師経験3年以上	9月5日・9月30日 9月14日	北棟4階多目的ホール
新人看護師研修「褥瘡勉強会」	新人看護師	9月11日・9月21日	百年ホール
リーダーナース研修	卒後2年以上	9月20日・9月29日 10月20日	エネルギーセンター大会議室

内 容	対 象	開 催 日	場 所
新人看護師研修 「呼吸器演習 Aコース」	新人看護師	10月4日・10月6日 10月11日・10月20日 10月27日・11月1日 11月8日・11月15日 11月17日・11月22日	ラーニングセンター
新人看護師研修 「輸血の実践:シミュレーション」	新人看護師	10月17日・10月19日 10月21日・10月24日 10月26日・10月28日 11月2日	ラーニングセンター
セル看護提供方式®	卒後5年目看護師	10月18日・10月31日	エネルギーセンター大会議室 百年ホール
看護実践Ⅲ	卒後3年目看護師	10月24日～11月18日	各部署
倫理研修1	卒後2年目看護師	10月25日・11月1日	エネルギーセンター大会議室
プリセプターフォローアップ研修	2022年度 プリセプター	11月14日・11月21日	エネルギーセンター大会議室
看護補助者研修	ナースエイド ナースアシスタント メッセンジャー コンシェルジュ クラーク	11月15日・11月16日	エネルギーセンター大会議室
第62回院内看護研究発表会	全看護師	11月19日	エネルギーセンター大会議室
2022年度 専門コース 第3回 「糖尿病看護スキルアップコース」	看護師経験3年以上	11月24日・12月1日 12月5日	北棟4階多目的ホール 百年ホール

3. 医療安全研修

1. MRM研修一覧

開催日	タイトル	講師	参加数
5月26日	2021 年度活動報告会	新鹿深夏 (医療安全推進室) 吉田壮一郎 (医療安全推進室) 有働あゆみ (東4階病棟) 青柳一恵 (ICU)	57
5月30日	2年目 KYT 研修	木村美香 (医療安全推進室)	22
6月8日	2年目 KYT 研修	木村美香 (医療安全推進室)	24
6月10日	医療安全としての基本的なこと	福村文雄 (医療安全推進室)	86
6月17日	2年目 KYT 研修	辻 直美 (医療安全推進室)	26
6月24日	2年目 KYT 研修	木村美香 (医療安全推進室)	22
6月27日	2年目 KYT 研修	木村美香 (医療安全推進室)	21
7月5日	医療安全のための敗血症診療	中村権一 (総合診療科)	72
8月2日	医療安全としての基本的なこと (伝達講習)	福村文雄 (医療安全推進室)	10
10月3日	アナフィラキシー	小田浩之 (総合診療科)	69
11月7日	生命維持に不可欠なホルモン インスリンについて	落合弘貴 (内分泌・糖尿病内科) 岩橋淑恵 (糖尿病看護認定看護師)	71
11月15日	看護補助者研修	久保佳子 (看護部長室) 新鹿深夏 (医療安全推進室) 丸谷知実 (感染管理認定看護師)	61
11月16日	看護補助者研修	久保佳子 (看護部長室) 新鹿深夏 (医療安全推進室) 丸谷知実 (感染管理認定看護師)	60
12月5日	重大な医療事故に際して知っておきたいポイント	福村文雄 (医療安全推進室)	33
12月7日	アナフィラキシー (伝達講習)	小田浩之 (総合診療科)	7

2. 教育

開催月	開催回数	タイトル	参加数
11/4 11/28 11/30	3回	人事制度分析研修 (2等級以上対象)	73
4月～7月	4回	KYT エキスパート研修	11
9月～12月	4回	不具合分析エキスパート研修	12

4. 改善勉強会

No.	内 容	対 象	【開催回数】開催日	受講者 総数
1	改善基礎1	新入社員	【1回】4月8日（新入社員研修）	119名
2	改善基礎2 E K (Everyday Kaizen) をやってみよう！	1等級相当 以上	【12回】 1月12日、2月10日、5月13日、 6月9日、6月22日、7月11日、 8月10日、8月22日、9月12日、 10月12日、11月11日、12月12日	261名
3	Kaizen ワークショップ1・2	3等級相当 以上	【6回】 2月22日、5月23日、7月22日、 9月22日、11月22日、12月22日	79名
4	EK指導者研修	4等級相当 以上	【3回】 5月9日、7月6日、10月24日	37名

5. 学会を除く学術研修会・勉強会

主催部署 または院内窓口	カンファレンス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
肝臓内科	肝臓と代謝談話会			19日									
	研究論文抄読会	毎月2回 水曜日開催											
呼吸器内科	筑豊呼吸器疾患研究会	コロナウイルス感染症予防の為中止											
	北九州呼吸器懇話会						2日				6日		
	九州臨床画像解析研究会					28日						12日	
	筑豊地区肺癌診療連携の会		2日						5日				20日
	筑豊呼吸器 RENKEI の会	コロナウイルス感染症予防の為中止											
	呼吸器カンファレンス・抄読会	毎週金曜日											
呼吸器腫瘍内科	オンコロジーナース研修会	コロナウイルス感染症予防の為中止											
	免疫チェックポイント阻害薬勉強会	コロナウイルス感染症予防の為中止											
	がんチーム医療推進勉強会	13日			14日	12日	9日	14日			13日	10日	8日
	北部九州肺縦隔研究会			18日							27日		
	筑豊地区肺癌診療連携の会		2日					5日					20日
	外来化学療法室合同カンファレンス	31日			11日			1日			コロナウイルス感染症予防の為中止		
	肺がんカンサナーボード(多職種)	コロナウイルス感染症予防の為中止											
	肺がんカンサナーボード (呼吸器内科・腫瘍内科)	毎週火曜日(祝日は除く)											
内分泌・ 糖尿病内科	実地医家のための糖尿病セミナー											18日	
	病棟カンファレンス	毎週水曜日											
	甲状腺画像検討会	毎週水曜日											
消化器内科	Gut Clinical Conference		25日			27日			2日				9日
	消化管がん Cancer Board	毎週水曜日											
	勉強会	毎週金曜日											
血液内科	中外 e セミナー on Hematology	コロナウイルス感染症予防の為中止											
	抄読会	毎週火曜日											
総合診療科	レジデントデー			11日	22日	27日	24日	22日	26日	22日	28日	25日	23日
	家庭医レジデントデー(額田病院にて)	15日	19日	19日	16日	21日	18日	16日	20日	17日	15日	19日	17日
	M&M カンファレンス				7日			7日	17日		5日	10日	28日
	九州総合診療セミナー	20日			17日			21日		15日		17日	
	EBM カンファレンス				12日 14日	24日 26日		12日 14日	16日 18日		4日6日	8日9日	22日 27日
	シニアカンファレンス	隔週木曜日											
	家庭医家族会議	第1・3木曜日											
	ジャーナルクラブ	第3木曜日											
	清田 Dr. モーニングレクチャー	毎週金曜日											
	鶴木塾	隔週火曜日											
	清田レクチャー	隔週火曜日											

主催部署 または院内窓口	カンファレンス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
膠原病・リウマチ内科	筑豊リウマチ研究会		15日										
	病棟講義	第3火曜日											
	病棟カンファレンス	毎週月・木曜日											
	抄読会	毎週木曜日											
心療内科	14Aスキルアップミーティング	20日									20日		
循環器内科	筑豊循環器懇談会	コロナウイルス感染症予防の為中止											
	循環器UPTODATE WEBセミナー	毎月1回											
小児科	筑豊小児科医会勉強会		17日	17日	21日		16日 30日	20日		29日	20日	17日	22日
	筑豊感染症懇話会												22日
	筑豊地域小児在宅医療研修会		24日						22日				1日
	筑豊子ども虐待防止講演会		22日										
	勉強会	毎週月・金曜日											
産婦人科	手術症例カンファレンス	毎週月曜日											
	放射線治療カンファレンス	毎週月曜日											
	抄読会	毎週火曜日											
	モーニングセミナー	コロナウイルス感染症予防の為中止											
	勉強会	コロナウイルス感染症予防の為中止											
腎臓内科	腎病理勉強会 (WEB)				26日	26日			24日		12日		9日
	DW カンファレンス	毎月第2水曜日											
	PD カンファレンス	毎月第3水曜日											
	抄読会	毎週火曜日											
漢方診療科	麻生飯塚漢方診療研究会	20日	17日	17日	21日	19日	16日	21日		15日	20日	17日	
	麻生飯塚生薬研究会	27日	24日	24日	28日	26日	23日	28日		22日	27日	24日	
	筑豊漢方研究会		10日	10日			9日	14日		8日	13日	10日	
	院内医師向け漢方勉強会		8日	8日			14日	12日		13日	11日	8日	13日
	皇漢医学輪読会		3日	3日	7日	12日		7日		1日	6日	10日	
	筑豊漢方基礎講座				23日 24日								
	勉強会	月～金曜日											
	漢方基礎勉強会	毎週火曜日											
泌尿器科	筑豊地区泌尿器科医抄読会	コロナウイルス感染症予防の為中止											
画像診療科	筑豊地区脳神経画像診断研究会	コロナウイルス感染症予防の為中止											
	筑豊画像研究会											30日	
病理科	病理診断室内勉強会	不定期											

主催部署 または院内窓口	カンファレンス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
外科	外科手技セミナー(縫合トレーニング)			17日									
	筑豊肝胆膵研究会										6日		
	4科合同カンファレンス	毎月 第一・第三水曜日											
	筑豊地区がん診療連携講演会	コロナウイルス感染症予防の為中止											
	筑豊乳腺懇話会	コロナウイルス感染症予防の為中止											
	消化管術後カンファレンス	8日	5日	5日	2日	7日	4日	2日	6日	3日	1日	5日	3日
	内視鏡手術勉強会	不定期											
	消化管がん Cancer Board	毎週 水曜日											
呼吸器外科	筑豊肺癌キャンサーボード	コロナウイルス感染症予防の為中止											
	筑豊呼吸器疾患研究会	コロナウイルス感染症予防の為中止											
	呼吸器画像病理カンファレンス	コロナウイルス感染症予防の為中止											
脳神経内科	筑豊脳疾患研究会				20日								
	抄読会	毎週木曜日											
歯科口腔外科	新人看護師研修						29日	5日					
	外来スタッフ勉強会	月1回 火曜日											
	外来症例検討会	隔週火曜日											
	手術検討会	毎週金曜日											
心臓血管外科 血管外科	循環器 UPTODATE WEB セミナー	毎月1回											
	抄読会	毎週木曜日											
	勉強会	毎週金曜日											
整形外科	第4回 SPO 研究会(金沢)												10日
	SPO セミナー				13日	9日	19日	27日					1日
	SPO&Valgus ショートレクチャー(鳥根)												15日
	第4回股関節教育セミナー				10日								
	SPO カダバーセミナー										21日		
	Hip Rapprody							30日					
	骨粗鬆症講演会(院内 Web)						30日						
	院内スタッフ勉強会	コロナウイルス感染症予防の為中止											
	抄読会	毎週月曜日											
皮膚科	筑豊臨床皮膚研究会		4日 [中止]							16日			
	Dermatology Clinical Lecture			17日									
	皮膚科七院会									7日			
	AD 病診連携講演会 in 筑豊										20日		
	Psoriasis web seminar											9日	
	皮膚科カンファレンス	毎週水曜日											

主催部署 または院内窓口	カンファレンス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
リエゾン精神科	リエゾンチーム研修会	コロナウイルス感染症予防の為中止											
	患者行動制限最小化勉強会		開催		開催								
	医師連絡会 カンファレンス	毎週(月)											
	リエゾン新患カンファレンス	毎週(月・火・水・木)											
	リエゾンチーム・ケースカンファレンス	毎週水曜日午後→10月より木曜日に変更											
麻酔科	麻酔科 AAN 懇話会			6日			1日				5日		
	POPS 定期 カンファレンス	21日			20日	18日	9日	7日			12日		14日
	麻酔科安全カンファレンス	26日		23日	27日	25日	22日	27日	24日	28日	26日		28日
	SSJEC 神経ブロックセミナー					14日							
	麻酔科ミーティング	5日 12日 19日	2日 16日	2日 9日 16日 30日	6日	11日 18日	1日 8日 15日 29日	6日 13日	3日 10日 17日 31日	7日 14日 21日	5日 12日 19日	2日 11日 16日 28日	7日 14日 21日
	勉強会	毎週月曜日、火曜日、木曜日、金曜日											
救急科	筑豊地域救命救急研究会	21日		23日	21日	31日	28日	26日	29日	26日	24日	22日	27日
	外傷カンファレンス						6日						
	中毒カンファレンス	21日	18日	18日	15日	20日	17日	15日	19日	30日		18日	14日
	JointER コアレクチャー					23日	27日	25日	22日	26日	24日	28日	26日
	症例振り返りカンファレンス	毎日(各勤務時間内)											
	救急科スタッフ会議	第1木曜日											
	レジデント Day	第2土曜日											
	多職種合同カンファレンス	第3月曜日											
	ドクターカーカンファレンス	第3火曜日											
	全体会議	第4木曜日											
	ICU カンファレンス	偶数月第4月曜日											
	呼吸器内科とのカンファレンス	奇数月第3水曜日											
集中治療科	集中治療科勉強会	24日	22日 24日 28日	1日	28日	25日	1日	29日	18日				22日 29日
	救急科合同勉強会	31日	28日	28日			27日		22日		31日		26日
	ICU 看護師対象勉強会	24日		14日			13日					28日	22日 29日
	倫理カンファレンス	毎週木曜日											
感染症科	筑豊感染症懇話会												22日
	ID Fellow Conference			2日			10日		31日			25日	
	多施設合同アドバンスカンファ	27日	24日	24日	28日	26日	23日	28日	25日			24日	22日
	症例まみれ検討会					25日	22日	12日	24日	28日	26日	30日	
	Clinical Microbiology Round					27日		29日			7日		23日
	抄読会・輪読会	隔週金曜日											

主催部署 または院内窓口	カンファレンス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
リハビリテーション科・部	ボトックスカンファレンス	毎週水曜日												
	嚥下カンファレンス	毎週月曜日												
	多職種嚥下カンファレンス	毎週火曜日												
	臨床研究カンファレンス	第2, 4水曜日												
	心臓リハビリカンファレンス	毎週水曜日												
	整形術前カンファレンス	毎週木曜日												
薬剤部	福岡県病院薬剤師会 筑豊支部 学術研修会		24日	16日	21日	17日	14日	7日	26日	21日 28日	6日 25日	10日	7日 16日	
	筑豊地区薬剤師抄読会								17日			11日		
	福岡県病院薬剤師会 筑豊支部中小病院研修会			25日			16日			8日				
	勉強会	毎週月曜日												
中央検査部	検査部新人発表会				27日									
	メッセージ教育										18日 27日			
	急変時トレーニング				11日						25日			
	検査技師会 臨床生理部門勉強会												13日	
	検査技師会 病理細胞部門勉強会		4日								18日			
	検査技師会 臨床一般部門勉強会	コロナウイルス感染症予防の為中止												
	検査技師会 臨床血液部門勉強会	コロナウイルス感染症予防の為中止												
	検査技師会 臨床微生物部門勉強会								21日					
	検査技師会 輸血細胞治療部門勉強会	コロナウイルス感染症予防の為中止												
	QMS 勉強会								1日 7日 11日					
	学会参加 伝達講習会	不定期												
	臨床工学部	人工呼吸器安全使用講習会	9回	4回	3回			4回	4日		5回		6回	3回
人工心肺安全研修						16日								
PCPS 安全研修							3回		12日	1日 13日			13日	
IABP 安全研修							8回		29日					
Impella e-ラーニング					21日 ~	18日 ~			1日~ 8日~				30日 ~	
Impella Smart Assist 安全研修							3回							
高気圧酸素治療講演会 in 筑豊													30日	
高気圧酸素治療安全研修		26日 28日						28日	25日	17日				
宅直カンファレンス	毎週火曜日													

主催部署 または院内窓口	カンファレンス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
臨床心理室	初期研修医 メンタルサポートプログラム							23日						
	スキルアップ勉強会 (SV)	コロナウイルス感染症予防の為に中止												
	小児科 Dr- 心理カンファレンス (隔月)				22日						21日	18日		
	新患カンファレンス	毎週火・木・金曜日												
栄養部	ケースカンファレンス	毎月第4木曜日												
中央放射線部	症例報告会			24日				22日		22日	27日	22日		
	放射線安全講習会 (e-learning : Safety Plus)	2021年度 (~ 3月21日)										2023年度 (10月17日~)		
	MRI 検査の安全利用のための研修 (e-learning : Safety Plus)	2021年度 (~ 3月22日)										2023年度 (10月18日~)		

〔VI〕 委員会活動報告

1. 医療ガス安全管理委員会

委員長 内藤智孝

副委員長 村上輝之

目 的：

医療ガス（医療に用いる酸素、医療用圧縮空気、窒素、二酸化炭素、各種麻酔ガス、吸引）設備の安全管理をはかり、患者および医療従事者の安全を確保する。

活 動 内 容：

1. 医療ガス保全点検

厚生労働省による医療ガス保全点検指針に基づく日常点検、定期点検の実施及び、監督

2. 医療ガス使用状況の把握

3. 必要に応じて室内ガスの濃度測定、及び試験

4. 医療ガス取り扱いの安全講習会の主催

5. 年4回の定期会議及び報告

①委員交代：施設環境サービス課山田氏の退職にともない藤川氏に交代。資材課勝木氏の異動にともない上田氏に交代。

②医療ガス安全講習会：2021年度よりeラーニング受講を開始。定期周知により受講率向上。さらなる受講率向上のため必須講習にあげるよう調整、2023年度から実施する。

③COVID-19対応：重症患者増加時の医療ガスの安全性、信頼性については、2021年度ピーク時ある程度実証された。また、外部業者に委託している設備点検が立ち入り制限でできない場合に備え、院内職員が実施できるよう資格、機器等を整備した。

④BCPへの取り組み：エフエスユニが保守点検を行っている院内医療ガス設備について、説明・見学会を実施した。酸素・圧縮空気・炭酸ガスの供給設備などを委員が実際に見て把握することで、問題点や、課題を抽出し、今後の改善活動につなげることができた。また、2019年策定された当院BCPの医療ガス関連項目をチェックし、実施計画未達の部分の促進をはかった。

⑤病棟の医療ガス取扱いに関する現状把握：病棟の医療ガス取扱い状況を把握するため、ラウンドを実施した。病棟毎に対応がまちまちであり、院内統一ルールが必要であり、今後策定していく予定である。

次年に向けて：

1. 全職員向けのSafety Plusを利用した医療ガス取扱安全講習会受講の促進を継続する。

2. BCPへの取り組みを2022年度に引き続き、継続していく。

3. 委員会メンバーの情報共有、知識拡充を目的に、院内医療ガス設備の視察、保守点検のレクチャー、学会参加、関連施設見学等を適宜実施していく。

4. 医療ガス安全管理ラウンドを定期的に行い、適時、問題点の抽出と解決を行っていく。活動を通じ病院全体としての、医療ガス安全に対する啓蒙をはかる。

2. 放射線安全委員会・特定放射性同位元素防護委員会

委員長 佐々木智成

目 的：

本委員会は、「放射性同位元素等の規制に関する法律」に基づいて、当院における放射性同位元素および放射線発生装置の取扱いや管理に関する事項を定め、放射線障害の発生を防止し、あわせて公共の安全を確保することを目的としています。また、特定放射性同位元素の防護のために必要な措置を講じることで、特定放射性同位元素の盗取の防止を図っています。

活動内容：

放射線安全委員会の活動においては、放射線発生装置や放射性同位元素の安全な取り扱い、被ばく低減についての講習会（初期教育や再教育）および放射線管理区域内で勤務される職員の個人被ばく線量管理を行っています。また産業医の協力のもと、法令に則った健康診断や過剰被ばく者への対応なども実施しています。

新型コロナウイルス感染症の影響により、2021年に引き続いて2022年も、従来の講習会は開催せず、e-learning(Safety Plus)での教育訓練を行いました。

放射線管理区域内で勤務する職員の個人被ばく線量管理は、個人被ばく線量計（ガラスバッジ）で管理しています。毎月、測定会社より貸与されたガラスバッジを各部署対象職員に配布・回収し、測定会社に測定を依頼しています。後日、測定会社より送付された個人被ばく線量データを確認し、被ばく線量の多い職員に対しては注意を促しています。昨年度より電離放射線障害防止規則が改正され、眼の水晶体の被ばく限度の見直しが行われました。それに伴い放射線から適切に身体を防護するために、防護板の増設や眼の水晶体を防護するために防護メガネの使用を推進しています。眼の水晶体の被ばく線量を精確に計測するために、一部診療科の医師を対象に水晶体専用の個人被ばく線量計の導入も開始しています。

特定放射性同位元素防護委員会の活動においては、9月の故安部晋三氏の国葬期間における要人來訪のための警備強化を行いました。また、2022年度に原子力規制庁による立入検査が予定されているので、対応を行っていきます。

次年に向けて：

放射線を用いた診療や治療の件数が増加するなか、当委員会活動によって放射線業務従事者が職業被ばくや医療被ばくを再認識し、且つ最新の情報を得ることにより無駄な被ばくや医療事故を無くすように努めてもらえればと考えています。院内で被ばく線量の比較的高い職員に対しては、所属先・関連診療科との協力を図りながら当該職員の被ばく状況に留意し、被ばく防護の指導や必要に応じた対応を遅滞なく行い、各診療科からの被ばく防護に関する問い合わせなどにも対応いたします。さらに院内全体の放射線に対する理解を深めるため、被ばく防護の指導をさらに強化していきます。

3. 感染管理委員会

委員長 増本陽秀
副委員長 的野多加志

目 的：

この組織は科学的根拠に基づいた病院感染対策を推進し、MRSA、VRE などの薬剤耐性菌や HIV などのウイルスによる感染症から患者及び医療従事者を守ることを目的とする。

活 動 内 容：

○院内外職員教育

ICT メンバーによる週1回の病棟回診を継続し、リンクメンバーおよび全職員対象の勉強会を以下のように実施した。

[テーマ・講師名・参加者数]

6月24日「手指衛生」	37名（伝達講習 825名）
9月29日「肺結核」 呼吸器内科 前田医師	67名（伝達講習1,004名）
10月28日「抗菌薬適正使用」 感染症科 長谷川医師	43名（伝達講習 131名）
12月 8日「HIV感染症の現状と血液暴露対策」 総合診療科 中村医師	33名（伝達講習259名）

○病棟回診

週1回の ICT による環境ラウンドを全病棟は月 1 回、非侵襲性処置実施部署は 2 ヶ月毎、その他部署は 3 ヶ月毎に実施し 2 週間以内に各現場へ結果を報告した。

○手指衛生使用量モニタリング(アルコール消毒薬)

手指消毒剤の実使用量と病棟別・部門別手指消毒剤使用量を定期的に感染管理委員会で報告した。2021年全国中央値12.5以上の達成率は10月では86.8%（24/29部署）だった。

○抗菌薬適正使用支援チーム（AST）活動

メロペネム、ピペラシリン/タゾバクタム、セフェピム、静注キノロン系薬開始時のカルテ記載（スタンプ押印）ならびに 7 日以上継続例に対する感染症科医による支援を継続した。6 月よりクリニカルパス抗菌薬適正使用確認依頼書 4 件を AST で審議し抗菌薬の種類と投与期間を決定した。

○感染管理地域ネットワーク施設間会議

- ・ 3月29日 飯塚市立病院主催連携カンファレンス「飯塚市立病院の手指衛生の現状と今後の課題」 15施設63名
- ・ 7月28日「各施設での手指消毒薬使用量報告」（WEB会議） 23施設68名
- ・ 9月29日「各施設での COVID-19対策」（WEB会議） 46施設95名
- ・ 11月22日「個人防護服着脱について」（対面、WEB） 51施設148名

[相互ラウンド]

3月16日、田川市立病院への訪問が困難だったため文書回答とした。

3月30日、済生会飯塚嘉穂病院ICTが当院来院し回診を行った。

○ HIV 対策室

他院より4名の紹介あり。36名が外来通院中であり23名が抗 HIV 薬治療中である。

次年に向けて：

全国中央値と比較し手指消毒剤使用量の少ない部署に介入を行い、目標（全国中央値以上）達成を目指す。また、カルバペネム使用量削減に向けて職種間のタスクシフト・シェアを行い、抗菌薬適正使用支援活動を継続していく。

4. 労働安全衛生委員会

委員長 増本陽秀

目的：

[基本方針]

- 安全管理 労働災害防止体制の確立
- 健康管理 職員の心身にわたる健康管理を積極的に推進する
- 環境衛生管理 院内感染等を防ぎ、安全教育が行き届いた清潔で働きやすい職場環境をつくる
- 緊急時対応措置 訓練と教育の継続的实施と強化

活動内容：

(1) 安全管理

労働災害を防止するため、発生した事例と対策を毎月検討している。発生件数の多い針刺し・切創及び粘膜暴露事例については防止対策に重点を置き討議している。業務上災害件数は2021年と比較し30件減少（うち針刺し事例が22件減少）した。

委員会終了後、業務上災害報告事例への対策をワンポイントアドバイスとして全職員向けに配信し、注意を喚起している。

(2) 健康管理

健康診断は昨年と同様に外部委託し完全予約制で実施した。ストレスチェックを実施規程に基づき適切に実施できた。医師による面談を希望した高ストレス者は14名全員産業医面談を行った。また、集団分析結果の説明および聞き取り調査を、高ストレス部署を対象に実施している。復職支援を行っているが、復職支援実施要領を現在の職場復帰支援プログラムにより実態に合ったプログラムとなるよう、見直しを実施している。

(3) 環境衛生管理

職場におけるリスクを発見し、労働災害や健康障害を未然に防ぐための対策として、新型コロナウイルス感染に配慮し巡視を実施した。労災防止上の問題や整頓の不備なども指摘し、労働安全衛生委員会を通じて改善を勧告している。2022年は新型コロナウイルス感染拡大を考慮し、2～4月と8月以降は巡視を中止している。

(4) 緊急時対応措置

防火訓練として、2022年は3月30日に元消防士による防火講習を書面開催し、病院における火災発生時の対応や職員から寄せられた質問の回答などを行った。4月2日には2022年度の全新入社員を対象として、消火栓やエアーマットの使用方法などの実習を行い初期消火や患者さんの避難方法に関する教育を実施した。11月18日には西病棟において避難訓練を実施し、通報訓練や避難状況の確認などの訓練を行った。

次年に向けて：

2023年も引き続き職場の安全衛生に関する情報周知を強化し、危機意識や対策等を共有できるよう努めたい。針刺し損傷に加え粘膜曝露が多発しているため、実態に合った対策を講じて、発生件数を減少させ発生ゼロを目指したい。健康管理体制を拡充し、よりよいものにしたい。

5. 医師の負担軽減・処遇改善委員会

委員長 増本陽秀

目 的：

医師の負担軽減・処遇改善委員会は、飯塚病院に勤務する医師の業務上の負担軽減および処遇の改善を目的として活動する。

活 動 内 容：

科別の平均超過労働時間、時間外労働80時間および100時間超過者数、100時間超過者と80時間超過者を対象とした過重労働面談実施状況の調査・報告を行った。診療科の平均超過労働時間は6月（46.5時間）をピークに減少し9月は35.6時間となり、その後増加し12月は42.0時間となった。時間外労働80時間超過者数についても同様の傾向がみられた。2019年度より年次有給休暇の5日間取得が義務化され、さらに医師の働き方改革により、2024年度に向け超過勤務時間を960時間（または1,860時間）以内に抑えることが必要である。2022年は、4月以降12月現在までの超過勤務時間が医師一人あたり月平均31.7時間となっており、昨年と比較し月1.5時間増加している。年休取得は医師一人あたり平均7.3日であり、昨年と比較し2.4日増加している。100時間超過者については、面談の中で疲労状況などを評価し、勤務継続の可否を確認している。また、面談の際にいただいた意見から問題を抽出している。具体的には、仮眠場所の確保の要望があり、検討の結果、新規の仮眠室確保には至らなかったが、初期研修医更衣室に寝具を常備することにした。80時間超過者に対し疲労度の確認等を実施し、必要に応じて面談を実施している。

次年に向けて：

働き方改革の実現が急務である中、医師の過重労働低減をさらに推進する。そのため、特に100時間を超えて長時間労働を行っている医師につき、面談等による勤務実態調査を継続し、負担軽減対策を講じる必要がある。

今後、当委員会では過重労働に関する調査・報告のみでなく、傾向分析を実施し対策を講じる。超過勤務時間削減のため労働安全衛生委員会とも連携し、医師の負担軽減・処遇改善に資する提言を積極的に行う方針である。

6. 薬事委員会

委員長 増本陽秀
副委員長 梅田勇一

目 的：

薬事委員会は、医薬品の適正使用推進のため、医薬品の採用、削除、管理、その他薬事に関する事項について審議すること等を目的としています。

活動内容：

院長（委員長）、副院長、経営管理部長、医局長、看護部長、資材課長、薬剤長（副委員長）から構成され2ヶ月に1回（偶数月）開催しています。

2022年は6回の委員会にて、新規採用62品目、採用に伴う削除37品目、また例年12月に事務局（薬剤部DI室）主導で実施している使用頻度が低い薬品の採用削除の検討にて16品目の削除を決定しました。12月現在の常用医薬品数は1,900品目です。一増一減の原則の基、採用審議を行っていますが、免疫チェックポイント阻害剤などの新薬の登場で採用品目数は徐々に増加傾向です。

また、後発医薬品への切り替えに関しては、計15品目の切り替えが承認され、12月末現在で10品目の切り替えが終了しています。

2022年度の診療報酬改定において、後発医薬品使用体制加算は、後発品置換率の高い医療機関に重点を置いた評価となり、最低でも75%の置換率が必要となりました。しかし、2021年から続く後発医薬品の供給不安の影響で、採用薬を先発医薬品に戻さざるを得ない状況もあり、75%を維持していた後発医薬品置換率は約70%まで落ち込み、6月には後発医薬品使用体制加算の施設基準を辞退することになりました。

次年に向けて：

2020年末より断続的に発覚した各製薬会社の製造上の問題や不正、また、国内物流倉庫の大規模火災などの影響による後発医薬品の出荷調整や出荷停止などの問題は現在も継続中です。他にもCOVID-19の流行で、漢方薬も急激に需要が増加したことで供給不足が発生しています。よって、2022年は後発医薬品への積極的な切替えは控えていましたが、次年は各製薬会社の供給状況などを確認しつつ、後発医薬品置換率を上げるため徐々に後発医薬品への切替えを進めていきます。また、VHJ 関連病院として、薬剤部会等の推奨（共同購入）薬について各診療科の協力を仰ぎ採用を検討していきます。

7. 資材委員会

委員長 増本陽秀

目 的：

院内で使用する保険医療材料、設備投資等の病院資材について採用等の審議を行い、安全性の維持、医療の質の向上、経済的適正配置を実現する。

活 動 内 容：

1. 新規保険医療材料

試用22件の届出を受領し、仮採用7件、本採用8件を承認した。

2. 医療機器・備品を購入する設備投資の配分

2022年度予算として申請された204件（定価6,183百万円）の申請の中から、各申請部署の意見を踏まえて92件の購入について認可。また予算外購入として71件（2022年12月末現在）の購入を認可した。

3. 運用・審議方法

① 高額医療機器購入の申請および審議方法

定価50百万円以上の機器については、申請者が資材委員会でその必要性を説明する。また、投資額100百万円以上の新規又は増設申請については、経営会議において審議を行う。

② 保険医療材料の採用申請方法

試用、仮採用、本採用の3段階による申請を行う。

③ 保険医療材料の採用審議方法

仮採用申請は、申請者が資材委員会にてその必要性を説明し、本採用申請は仮採用期間中（6ヶ月間）の使用評価を報告する。また、事務局は仮採用、本採用共にコストもしくは差益について説明する。

次年に向けて：

1. VHJ共同購入品目の拡大

VHJ共同購入に関する12の部会及び委員会（医療材料部会、薬剤部会、ME部会、循環器部会 不整脈部門、循環器部会 カテーテル治療部門、整形部会、透析部会、放射線部会、放射線部技術委員会、検査部会、透析部会小委員会、薬剤評価委員会）の事業支援を継続して行い、臨床における質の向上を維持しながら医療機材を調達し、安全面及びコスト面において多くのメリットが得られるように活動を推進する。

2. 新型コロナウイルス感染拡大に伴う設備投資や資材調達を、迅速かつ適正に行う。

3. 新規診療材料の採用に関する審議、医療機器の評価、調査を随時行う。

4. 医療機器の適切配置、新規医療機器購入時の機器選定を行う。

5. 医療安全・コスト削減、効率化に適合した医療材料物品の選定を行う。

8. ISO 委員会

委員長 名取良弘

副委員長 中嶋弘之

目的：

ISO9001の認証取得・更新を継続し、全病院的なQMS（品質マネジメントシステム）を構築し、内部監査員と共に医療の質の向上と安全な病院を実現すること。

活動内容：

①内部監査について

■ 内部監査員養成講座の実施

- ▶ 3密回避のため動画配信とし、テストにて理解度を測り、満点を受講済み要件とした（28人受講）。また、新型コロナウイルス感染症の流行にかかわらず、動画配信を基本とすることを決定した。

■ 内部監査 説明資料（「飯塚病院 内部監査 まるっとわかるガイドブック」）の作成

- ▶ 内部監査関係者が共通して使用できる冊子を作成し、使用を開始した。

■ 内部監査の実施

- ▶ 事前打合せおよび監査は、感染対策として、前年同様以下の点に取り組んだ。
 - ・感染拡大が予想される冬期を避け、8月より開始
 - ・時間短縮のため被監査側から事前回答をもらい、事前打合せにて監査当日の確認事項を選定
- ▶ 監査目的は前年同様とし、監査側と被監査側を入れ替え、各科（課）所属長やISO委員で編成されるチームで監査を実施した。

【内部監査結果】

監査目的	部署特有の役割を果たすために必要な技術や知識（以下：テクニカルスキル）を習得・向上させるための仕組みを確認する。		
被監査数	33 チーム（診療科・看護部：18、医療技術部門・経営管理部門・本部機能：15）		
重点改善事項	1 件	改善推奨事項	23 件
評価	S: A かつ 目標に達していないスタッフをフォローする仕組みがあり、実施されている。	18 チーム	
	A: B かつ 部署特有のテクニカルスキルについて、習得対象者の現状把握ができており、記録がある。	6 チーム	
	B: 部署特有のテクニカルスキルを習得・向上させるための教育・訓練計画が文書化されており、計画通り実施されている。【標準】	7 チーム	
	C: 部署特有のテクニカルスキルを習得・向上させるための教育・訓練計画が文書化されているが、実施されていない。	2 チーム	

②マネジメントレビュー（2022年3月10日実施）について

- 前年のマネジメントレビューでの指示への対応状況および2021年内部監査の結果報告を行った。
- インプットに対する指示が明確になるよう、専用の用紙を作成し使用した。

③文書管理について

- 3月に全職員に対し文書の見直しを周知した。
- 広報課と協同でイントラネット掲載中である「マニュアル」の整理に着手し、TQM活動発表大会にて成果報告を行った。また、今回の活動で得た声を元に「文書管理・検索システム」の登録マニュアルの見直しを行い、全職員に配信した。

次年に向けて：

1. [内部監査] 新型コロナウイルス感染症の動向を注視し、状況に応じた方法を検討・実施
2. [文書管理] 「文書管理・検索システム」に常設委員会メンバー情報自動更新のシステム構築

9. TQM 活動推進委員会

委員長 中島雄一

副委員長 山下卓士

※TQM活動：サークルによるQC手法等を使用した改善活動

目 的：

TQM活動推進委員会は、TQM活動を病院全体の活動へ展開し、職員全員の問題解決能力を高め、快適で安全な環境で業務を行うための思考を養い、病院全体の医療の質向上を実現させ、患者サービスに貢献することを目的とする。

活動内容：

- 1月17日～25日 TQM活動オリエンテーション 実施（TQM活動推進事務局）
- 1月21日 エントリー締め切り 21サークルがエントリー
- 1月21日・26日 レビュー者研修会 実施（TQM活動推進事務局）
- 1月26日 勉強会/背景と指標 実施（TQM活動推進事務局）
- 2月 2日 勉強会/現状把握 実施（TQM活動推進分科会）
- 3月 2日 勉強会/要因分析 実施（TQM活動推進分科会）
- 3月30日 勉強会/対策立案・対策実施 実施（TQM活動推進分科会）
- 4月25日 第30回TQM活動キックオフ大会 開催
- 4月26日 勉強会/効果の確認 実施（TQM活動推進分科会）
- 5月30日 勉強会/標準化と管理の定着 実施（TQM活動推進分科会）
- 9月15日 勉強会/講評の仕方 実施（TQM活動推進委員 古賀秀信さん）
- 10月15日 第30回TQM活動発表大会 開催（のがみプレジデントホテル）
- 11月18日・19日 第23回フォーラム医療の改善活動全国大会 in 東京 参加〔職員8名〕

次年に向けて：

TQM活動をよりよくすることを目指し、新レビュー者の参加、組織の改革、活動ナビの運用等を行ってきた。2022年は新型コロナの影響を受けながらも、3年ぶりとなる対面形式での発表大会が開催出来た。活動としては3密を避ける対策、活動時間の短縮・勤務時間内の会合開催の為、新たに「1000分スケジュール」を企画し、実行している。今後は、これらの結果を分析し、更に取り組みやすいTQM活動を目指し、ギアチェンジ8年目を迎えたいと考えている、またデミング賞の受賞の土台の一つとなれたことから、今後もこの活動を継続し更なるリーダー育成活動として進めていきたいと考えている。

※2022年TQM活動内容は『改善活動報告』の通り

10. クリニカルパス委員会

委員長 辻岡 寛

副委員長 梶原優子

目 的：

医療の質の維持・向上を図るために、クリニカルパス作成・見直し及びパス使用を促進すること。

活 動 内 容：

2020年10月より3パスにおいて電子パスのモデル運用を開始し、2021年は電子パスの運用課題への対応と同時に、電子パス作成ツールの開発を行った。2022年は作成ツールを使って電子パスを各部署で作成するために、看護師長やパス担当者を対象に「電子パス作成説明会」を開催し、使用頻度の高い既存の書式パスの電子化を開始している。

2022年 主な活動

- 1) 委員会開催；10回
- 2) パスレビュー実施；新規パス（3件：うち電子パス1件）、改訂パス（10件）
- 3) クリニカルパス点検実施；2回（3月、9月）点検総数（1,013件）
- 4) パス担当者連絡会議開催；6月30日、7月8日、参加者（73名）
- 5) 電子パス作成説明会開催（計9回）
対 象 者；病棟師長、外来所属長、パス担当者
開催時期；7月（3回）、8月（3回）、9月（2回）、10月（1回）
参加総数；103名
- 6) パス登録状況
登録総数；146パス（うち、電子パス：4）
書式新規登録；2パス，書式改訂登録；23パス，電子パス登録；1パス
- 7) 2022年入院患者パス使用率（パス使用患者数/退院数）；39.2%（2021年 39.9%）

次年に向けて：

1. 電子パスシステムおよび、電子パス作成システムの課題について対応方法を検討し、現場が使いやすいシステムを構築する。
2. 複数の診療科において、既存パスの電子化を推進し、電子パス運用を開始する。
3. 電子パス運用後の抽出データを検討し、パスの改善、改定の推進について検討する。

11. QI 委員会

委員長 的野多加志

副委員長 名取良弘

目 的：

医療の質は一般的に構造（ストラクチャー）、過程（プロセス）とアウトカム（結果・転帰）で規定される。QI 委員会では、これら臨床や医療の質に関する指標（Quality Indicator、以下 QI）の測定、報告および活用を基本とし、当院における医療の質を継続的に向上させ、Patient first や患者サービスに貢献することを目的とする。

活 動 内 容：

開催回数：3回（6月、9月、12月）

主な活動内容：

- ・病院指標の設定に向け、委員会、部門、ブロック等で計測している指標の収集および整理
- ・ISO 委員会と連携し、ISO 内部監査の場で「QI の数値を維持・改善する PDCA サイクルの具体例を教えてください。」の確認を実施

次年に向けて：

2023 年は、以下の活動を行う予定

- ・病院指標の選定および維持改善を行う体制の検討・整備
- ・各部署での QI 設定・測定・質の維持改善に関するサポート
- ・ISO 内部監査による QI の状況確認の継続

12. 患者経験価値向上委員会

委員長 中島雄一
副委員長 柏木秀行

目 的：

患者経験価値向上委員会（以下、PX向上委員会）は、Patient eXperience（患者経験価値）（以下、PX）サーベイ等を用いて組織全体を客観的に見直し、課題の抽出と改善を行いながら、飯塚病院の継続的な医療の質向上の実現と患者サービスに貢献することを目的とする。

活 動 内 容：

月1回定例会議を開催した。

2022年の主な活動：

1. 幹部会の承認を得て、CS・ES委員会のCSを受け継ぎ2022年4月28日よりPX向上委員会として正式発足した。
2. CS・ES委員会の業務を引き継ぎ、ご意見箱・ホームページからのご意見をPX向上委員会でまとめて、患者さん・ご家族からのご意見やクレームに対し事実確認を行い現場にフィードバックした。
3. PXサーベイ知識向上の目的で、代表者3名が一般社団法人日本ペイシェントエクスペリエンス研究会（以下、日本PX研究会）主催のPXE養成講座を受講し、PXEとして認定を受けた。
4. 2022年度のPXサーベイ郵送、回収、分析は専門知識を持った株式会社トッパン・フォームズに委託した。
5. 日本PX研究会のPXサーベイを元に、看護部・リハビリテーション部の設問を追加した飯塚病院PXサーベイを作成した。
6. 対象期間を1週間として5回実施する計画で、18歳以上で自宅退院の患者さんを対象に11月よりPXサーベイを開始した。
7. PXサーベイの実施に伴い、12月よりCS・ES委員会が実施していた『入院患者さんへのアンケート調査』を停止した。

次年に向けて：

1. PXサーベイ2022の分析を元に、患者経験価値向上につながる活動を提案する。
2. PXサーベイ結果やご意見に対する対策実施状況について、広報の手段を検討する。
3. PXサーベイ2023の実施計画を立てる。

13. 急変対応委員会

委員長 小田浩之

副委員長 山田哲久

目 的：

院内において予期せぬ患者状態の危機的増悪（急変）発生の削減および発生時の影響緩和を目的とする。

活 動 内 容：

審議および決定事項（毎月1回の定例会議）

（ア）分析（2022年）

1. 院内死亡 1130件（来院時心肺停止または蘇生後 225件、看取り入院 0件、終末期＜悪性腫瘍315件、脳神経103件、心臓85件、肺炎呼吸器163件、感染107件、肝不全11件、腎不全14件、心不全 0件、他106件＞、その他1件）
2. ハリーコール：57件（病棟43件、その他14件）
3. Rapid Response System（以下、RRSと省略）稼働：2件
4. 病棟からの入室 228件（ICU107件、H2救急117件、E4救急4件）

（イ）主な決定事項

1. 救急カートに赤スピッツ（BNP、トロポニン*i*用）を追加する。
2. DNARシステムに関して、連携医療・緩和ケア科に限り、救急科で入力したDNARの指示がそのまま残るようにシステム変更を行う。
3. DATチェックリストを、AIH-net医療安全HPのマニュアルに部署限定を明記し入れる。
4. 急変対応委員会の下部組織として「夜間急変教育チーム」を加える。
5. RRS全体運用に向けてワーキンググループを立ち上げ体制を整えていく。
6. ハリー・レッドハリー時のリーダーの目印を、ピンクキャップから白のリーダーシールに変更することとし、7月1日からトライアル開始する。
7. 救急カート内のアンギオキャス16Gを外して、ハリーバックに18Gサーフロー針を入れる。
8. 委員会規約の下部組織に、DAM運営チーム、RRS運営チーム、夜間急変教育チームを追加し、ACLSをACLS教育チームに変更する。

次年に向けて：

- （ア）院内の急変事例を監視・測定・改善していく。
- （イ）改善計画に則って、教育・啓発を行う。
- （ウ）特にコロナ禍の急変対策に取り組む。

14. MRM 委員会

委員長 福村文雄

目 的：

飯塚病院で発生する不具合および院内外の情報をもとに、患者安全にかかわるシステムを監視・測定・改善していくことで、より安全な組織としていくことを目的とする。

活 動 内 容：

(ア) 審議事項（毎月1回の定例会議）

①主な決定事項

1. リストバンドおよび2点チェック運用マニュアル改訂案を承認する。
2. 貴重品紛失対応フロー（修正案）を承認し、Safety Letterおよび全職員宛メールの配信、医療安全ホームページのマニュアル類に登録する。
3. 中止薬説明書を電子カルテに書式追加することを決定する。
4. 配置薬使用後の内服薬済入力をクラークが行うことを承認する。
5. アミオダロン塩酸塩静注・ニトプロ持続静注液 一般病棟での使用制限について承認する。
6. 自殺企図（死亡、あるいは死亡が予測される場合）の対応マニュアルの改訂を承認する。
7. オートプシーイメージング（Ai）についての運用（案）を承認する。
8. 術前休薬薬剤一覧表の内容および薬剤部ホームページへの掲載を承認する。
9. 周術期の休薬薬剤一覧表を承認する。
10. 自殺企図（死亡、あるいは死亡が推測される場合）の対応 修正案を承認する。

②即時報告集計報告

1. 全件3,859件（医師 246件、看護師 2,813件、薬剤師 170件、放射線技師80件、検査技師 69件、療法士 38件、他の技師 247件、事務173件、その他 23件）
2. 警鐘事例 19件（診療・診断・合併症5件、薬剤4件、検査4件、手術・麻酔2件、ルート・ドレーン・チューブ2件、処置0件、食事0件、その他2件）、転倒転落骨折 6件

③Patient First Prize（不具合早期発見）選出・表彰

60名を表彰（医師 7、看護師 41、薬剤師 2、検査技師 2、放射線技師 2、臨床工学技士2、その他 4）

(イ) MRM研修（医療安全研修参照）

次年に向けて：

- (ア) 即時報告から院内の患者安全状況をモニターし、警鐘事例への再発防止対策をフォローしていく。
- (イ) 医療安全研修を計画、実施していく。

15. 透析機器安全管理委員会

委員長 藤崎毅一郎
副委員長 沖永一樹

目 的：

透析関連機器の保守管理に関する計画を策定し、それを適切に実施することにより、安全で質の高い透析治療を提供する。

活 動 内 容：

<委員会における活動>

- 透析機器および水処理装置の管理計画立案と実施。
- 透析用水・透析液の水質管理（生菌数検査・エンドトキシン活性値検査の実施）。
- その他、本委員会の目的を達成するために必要と認める活動。

<活動実績>

1. 透析センターの透析装置44台（透析装置41台・個人用透析装置3台）、RO装置1台、透析液供給装置2台、透析剤溶解装置4台に対し、定期点検、定期部品交換を実施した。
2. 病棟透析室の透析装置12台（透析用監視装置10台・個人用透析装置2台）、RO装置1台、透析液供給装置1台、透析剤溶解装置2台に対し、定期点検、定期部品交換を実施した。
3. 保守点検と同様に関連装置全台でエンドトキシン活性値の測定及び生菌数検査を行い、清浄化の確認を行った。透析用水・透析液ともに日本透析医学会が提言する「2016年度版透析液水質基準」が定める基準値内で管理することができた。
4. 透析関連機器の安全使用のための研修を14回（延べ68名）実施した。
5. 透析センターと病棟透析室の透析装置の入れ替えを行った。これにより病棟透析室全ベッドでオンラインHDFが実施可能となった。
6. 個人用RO装置を1台追加設置し、ハイケア2階病棟にてより多くのCOVID-19患者に対して透析を実施できるようになった。
7. PTA患者の術前シャントフローボリューム測定を、昨年毎週火曜日に加えて、金曜日と日勤帯の急患PTAにも臨床工学技士が実施することとし、医師の業務量軽減を図った。

次年に向けて：

- 透析センターおよび病棟透析室の透析関連装置の保守管理と、透析用水・透析液の清浄化に務める。
- 従事者に対する透析関連機器の安全使用のための研修を継続していく。

16. 病院食サービス委員会

委員長 井上智彰
副委員長 大西崇平

目 的：

- 1) 入院患者さんへ適正な栄養管理を行うことを目的に、治療中のさまざまな病態に応じた多食種の食事を提供する。
- 2) 病院食自体が患者さんの治療やQOL向上に効果を認めるため、治療に貢献できる質の高い食事提供や、また入院生活の精神的サポート（楽しみ）になることである。
- 3) 当委員会は、飯塚病院の食事療法全般について、医師・看護師等を含む会議において定期的検討を行うものである。

活動内容：

- 1) 毎月1回の委員会開催。定期会議の中で継続的に問題提議を行い、解決を行う。
- 2) 入院患者さんへのアンケートの実施（2回/年）
11月のアンケートの結果より食事の満足度は、満足～やや満足が41%であり前回の33%と比較し上昇していた。魚、肉の下処理を前日に行うことで臭味がなく冷めてもやわらかく仕上がる調理法へ変更、料理の味付けについては調合調味料を使用したレシピを開発し味むらなく調理できた事が満足度改善の要因と思われる。
- 3) 栄養部の人員不足に対しての業務改善
 - ① 仕込みの作業を早出から日勤帯へ変更し子育て中のスタッフが担える業務を作る事で交代勤務者の負担軽減を図った。
 - ② 選択メニューB食（パン食）で塩分6g未満の方はスープの代わりに果物を提供していたがスープ半量へ変更する事で朝6時出勤のスタッフを1名日勤へ変更した。
 - ③ 朝食の盛り付け作業の持ち場を見直す事で早出スタッフ11名を10名に削減でき日勤または遅出勤務へ変更した。
- 4) 給食部門ではシダックスフードサービスにコンサルトに入ってもらい少ない人員で効率よく業務を行う為に、クックチル導入に向けての業務改善を行っている。
- 5) 透析後の取り置き食のオーダーを自動化した。

次年に向けて：

安心・安全で、且つ満足していただけるような食事提供を可能にするために病院食のKAIZENを継続的に行う。

【現在検討中の案件】

- ・人員不足に対する業務内容の見直し及び効率化の検討
- ・クックチル導入に向けた献立の見直し
- ・コスト削減に向けた献立の見直し

17. 情報システム委員会

委員長 清田雅智

副委員長 田原英一

目 的：

本委員会は、情報システムを通じ、医療の質の向上、患者サービスの向上、業務の効率化、コストの削減等を図ることを目的として、活動しています。

活 動 内 容：

本委員会は、毎月開催し、情報システム・情報セキュリティに関する協議・検討や決定・承認を実施しています。

2022年の主な案件は、以下の通りです。

●システム開発・導入関連

- ・入院透析患者管理システム [1月]
- ・コミュニケーションツール Dr2GO [4月]
- ・検査オーダー 検査依頼カテゴリ等変更 [4月]
- ・地域連携医療情報共有システム こまめる [6月]
- ・検査オーダー PET-CT自費診療機能追加 [7月]
- ・病院貸与iPhoneで撮影した画像を電子カルテに取り込む機能 [9月]
- ・処方オーダー 処方履歴拡大 [12月]

●サーバ、パソコン導入関連

- ・Internet Explorerサポート終了に伴うEdge切替 [3月、6月、7月、8月]
- ・電子カルテ・看護支援システム ディスク増設及びサーバ更新 [3月、6月、10月]
- ・ランサムウェア対策 サーバの外部バックアップ [4月]
- ・スパムメール対策ツール更新 [8月]

●情報セキュリティ関連

- ・セキュリティ対策（アンチウイルスソフト、ファイアウォール等）実績報告 [1月、3月、5月、11月]
- ・部門システム用アンチウイルスソフトの運用支援 [3月]
- ・部門システム セキュリティ対策 [10月]
- ・ランサムウェア対策 [12月]
- ・クラウドサービス利用申請
 - formrun：ホームページ投稿フォーム [3月]
 - Charlotte POST：給与明細 [4月]
 - Google Workspace：認定理学療法士のオンライン講座 [5月]
 - LOOKREC：CT画像共有 [6月]
 - セキュアMX:スパムメール対策ツール [8月]
 - Googleフォーム：新型コロナ陽性者接触状況調査 [9月]
 - Dropbox：手術計画 [11月]

次年に向けて：

電子カルテ・オーダーリングシステム等の強化（電子パス、患者重要基本情報照会システム、持参薬オーダーシステム機能、電子処方箋等）、地域医療情報連携システム、スマートフォンへの新システム導入、医療DX関連、AI関連、情報セキュリティ関連（セキュリティ対策の定例報告、ランサムウェア等の脅威への対策等）の検討・審議を行います。

18. 診療情報管理委員会

委員長 福村文雄

目的：

診療録等の適切な管理・運用を行うと共に、診療支援・医学研究および教育・病院の運営など各種業務の円滑な遂行を図ることを目的とする。また、DPCコーディング委員会としてDPCコーディングに関する運用・管理を行う。

活動内容：

新規書式の申請（3件承認）

- ・ DAT経過記録
- ・ 下肢切断後の診断書
- ・ 紙運用中の「検薬依頼書」の電子カルテ登録

その他審議事項（4件承認）

- ・ 外来診療記録類の取り扱い（承認）
- ・ 外来カルテに集中治療科のフォルダーを新設（承認）
- ・ 心臓血管外科の入院に「水分出納表」のフォルダー作成（承認）
- ・ 診療記録開示のデジタル化請求に伴うマニュアル変更（承認）
- ・ 量的点検のフィードバック
- ・ 包括同意

報告事項（3件）

- ・ 保存カルテ、紹介状の廃棄
- ・ 量的点検結果
- ・ 2021年度実績

DPCコーディング委員会

- ・ 部位不明・詳細不明コードについて説明
- ・ 基本ルールについて説明
- ・ 傷病名選択の注意点
- ・ 7日以内の再入院の場合は、診断群分類（DPC）の点数が下がる

次年に向けて：

法律や診療報酬制度において求められる記録を点検していく。さらに記録遵守の向上を目指して、記録を容易にするために電子カルテシステムの改定を考えていきたい。

19. 研修管理委員会

委員長 井村 洋

目 的：

飯塚病院における初期及び新専門医制度・後期研修制度の実施に関する統括管理を行う

活 動 内 容：

奇数月に定例開催

【決定事項】

- 医科初期研修医 第32期17名および専攻医16名の研修修了の承認
- 歯科初期研修医 第3期1名の研修修了の承認
- 初期研修医の麻酔科ローテーション中、当面の間、平日の院内待機に入らないことを承認
- 後期研修・専門研修部会の規約改定を承認
 - ▶後期研修・専門研修部会と各プログラム管理委員会の役割をすみ分け

【2023年度採用状況】

●初期研修医

医科：マッチング18名（定員18名）

（採用面接受験者数：51名、中間公表1位希望人数：22名、全国病院ランキング：55位）

歯科：マッチング1名（定員1名）（採用面接受験者数：4名）

●専攻医

内科プログラム ： 一次登録 14名（定員16名）

総合診療プログラム ： 一次登録 6名（定員6名）

外科プログラム ： 一次登録 2名（定員5名）

救急科プログラム ： 一次登録 3名（定員4名）

産婦人科プログラム ： 一次登録 2名（定員4名）

麻酔科プログラム ： 一次登録 1名（定員1名）

20. 図書委員会

委員長 藤崎毅一郎
副委員長 小野清恒

目 的：

医学・医療の進展に伴う医療情報の増大に対して効率的な情報収集の支援を行うこと。電子情報化時代に即した蔵書管理、情報収集ツールを採用し、効率化、迅速化を進めること。

活 動 内 容：

- ・ 書面会議を含め毎月1回委員会を開催しています。
- ・ 2022年度文献複写依頼の費用負担を公費としました。
- ・ 図書委員会規約を改定しました。委員を選出する部署を見直し、委員数を部門毎に決めました。委員長、副委員長（総務課長）、医師部門代表1名、看護部門代表1名、医療技術部門代表3名、図書室職員2名。任期の最長を3年と決めました。目的を改定しました。
- ・ 雑誌3年分の製本を実施しました。
- ・ 購読雑誌のアンケートを実施しました。
- ・ 契約電子リソース：「医中誌WEB」「Up To Date」「Dynamed」
「MEDLINE Complete」「メディカルオンライン」
「メディカルオンラインイーブックス」「医書.jpオールアクセス」
「Ovid Clinical & Hospital LWW Essential Collection」「Full Text Finder」
- ・ 購読雑誌：国内雑誌タイトル数46/外国雑誌タイトル数40（うちオンライン28）
新規購読：「重症集中ケア」
購読中止：「Journal of Urology」「眼科手術」「看護実践の科学」
「ソーシャルワーク研究」
- ・ 購入書籍：45冊
- ・ 文献複写依頼：158件

次 年 に 向 け て：

医学研究・最新医療の提供のためには、膨大な医療情報の中から、迅速で適切な情報抽出が必要となっています。特に文献情報は、電子媒体が中心となり、インターネット検索で得られる事が当たり前となっています。近年書籍・文献も冊子体から電子媒体へと変化が進み、ユーザーにとって、検索の効率化が図れる一方、出版社側は情報の一元的管理を進め、ユーザーに対しより優位な地位を得る結果となっております。最近は、複数書籍を閲覧できるパッケージなどが導入されてきたこと、コロナ禍にあり図書室の密な利用が厳しくなったこと等もあり、さらに電子書籍への移行を図るように推進しております。また、これまで進めてきました使用頻度の低い書籍の購入の中止、電子媒体への変更も、電子書籍への移行によって様変わりしてきています。今後もこのデジタル化への潮流は一層持続すると考えます。職員の皆様の学術活動の支援となりますよう活動をしていきたいと考えています。

21. クレデンシャル委員会

委員長 名取良弘

目 的：

クレデンシャル委員会は教育・研修ブロックの常設委員会として、飯塚病院勤務医師の能力向上を通じて、飯塚病院で提供される医療の水準と患者の安全を向上させることを目的に活動を実施しています。

活動としては次のように、医師の技量評価に関する検討と資格認定が主な業務です。

【プリヴィレッジ】各医師の診療行為の範囲を定める

【クレデンシャル】プリヴィレッジを定めるにあたって資格を判断する過程

活動内容：

具体的な委員会活動としましては、毎月一回、部長会後に委員会を開催しております。

開催概要としましては、

◆開催日時：毎月1回、部長会議終了後

◆委員：各科管理部長（または部長代行）

◆実行委員：委員長1名、副委員長1名、事務局（人事課）

◆定例の活動：各診療科、医師ごとに作成されたプリヴィレッジリストの検討として、定期的の見直し、修正、項目の追加、新任医師の登録などの承認を実施しています。

次年に向けて：

2022年はプリヴィレッジリスト登録の目的や意義の周知を図り、リストの自己評価から実際の技量評価・リスト登録までの流れを説明し、早期の登録や内容の見直しを図ってきました。

さらに、専攻医1年目の評価についてもアンケート調査を実施して、評価の方法について協議を行いました。

2023年も引き続き力量評価表のさらなるブラッシュアップを実施し、新任医師についても情報の早期登録を行います。

当院でも特定行為看護師の育成を進めており、麻酔科領域を皮切りに自院での研修もスタートしています。ここで作成されるマニュアルと各科の医師の医療行為に関するマニュアルの内容との整合を取る必要がありますので、今後この内容の検討も進めていきます。

また、各医師に対してReviewを行いPrivilegingし、本委員会でCredentialingすることで、各医師のPrivilegingを決定、見える化を行い、将来的に医師全体の評価方法の見直し、評価システムの再考や諸規程の整備につなげていきたいと考えています。

22. 手術室業務改善委員会

委員長 尾崎実展
副委員長 花村裕美

目 的：

手術室勤務者の業務拡大と資質の向上ならびに手術室運営の効率化を進める。

委員会設立の経緯：

2005年にヨーロッパ静脈経腸栄養学会(ESPEN)で公表された術後強化回復プログラム(Enhanced Recovery after Surgery:ERAS)が普及し、術後回復促進の考え方が激変した。これを受け、当院でも手術前・手術中・手術後を区切る事無く周術期として一つの単位と考え、周術期管理チームで管理する発想が生まれた。麻酔補助看護師(AAN)・手術室エイド(ORA)・手術室テクニシャン(ORT)等の認証制度を立ち上げ、効率的運用に寄与するべく本委員会が創設され、2015年から研修ブロック管轄下に院内安全ブロックから移行した。

活動内容：

1. 麻酔補助看護師(Anesthesia Assistant Nurse:AAN)制度：麻酔科医の業務の一部である麻酔維持管理を補助する資質を有する看護師をAANと呼ぶ。麻酔維持管理について学んだ後に、実地指導と試験合格を経て院長より認証される。麻酔科医の指示のもとで麻酔維持管理を行い、麻酔業務を補助する。
2. 手術室エイド(Operating Room Aide:ORA)制度：手術器械準備業務を看護師に代わってORAが行う。
3. 手術室テクニシャン(Operating Room Technician:ORT)制度：手術器械出し業務を看護師に代わってORTが行う。ステップアップ研修を受け、外科医より評価を受け認証される。
4. 2022年の主な活動
 - a) AAN認定者13名(手術室勤務12名、ER勤務1名)に変わりなし。うち1名(成松看護師)が他院で術中麻酔管理領域における特定行為研修を終了し、より高度な麻酔補助業務を開始した。術中麻酔管理領域における特定行為研修が当院でも開始され4名(AAN認定者3名、手術室一般看護師1名)が研修中である。研修修了者の後の活動、待遇に関しては「手術室業務改善委員会」と「看護部」とで具体的にまとめた資料を作成し、「賞与」によるインセンティブを経営管理部に要望する。
 - b) ORT 2名に変わりなし。ORAは1名が退職し1名となった。ORA・ORTの人員確保が必要と思われ募集中であるが応募のない現状である。
 - c) 山下外科統括部長、井野形成外科部長、深堀耳鼻科部長、黒瀬臨床工学技士主任の4名が委員会メンバーとなり辞令を交付した。

次年に向けて：

ORA・ORTの人員確保につとめる。

AANの院内認証に代えて術中麻酔管理領域における特定行為研修を継続する。

23. 地域医療支援病院研修委員会

委員長 岩佐紀輝

目的：

地域医療支援病院として地域医療レベルを向上させるために必要な研修会の設立・運営・管理・活動支援を行う。

活動内容：

1. 地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実施状況の把握
2. 研修会の案内、運営、参加者の把握などの実務管理

2022年に飯塚病院が主体となって開催された研修会は以下の通り。

- 総開催回数・・・48回（前年47回）
- 延べ参加者数・・・1,997名（前年1,575名）
- 院外からの参加者数・・・1,260名（前年791名）

	研修項目	実施回数	参加者数		
			院内	院外	合計
診療部門	循環器 UP TO DATE WEB セミナー	4	45	30	75
	麻生飯塚漢方診療研究会	5	46	152	198
	筑豊救命救急研究会	10	26	88	114
	飯塚病院連携施設間会議	2	15	208	223
	筑豊小児科医会勉強会	10	159	352	511
	筑豊子ども虐待防止講演階	1	22	59	81
	筑豊地域小児在宅医療定例研修会	2	53	67	120
看護部門	福岡県看護協会 12 地区支部集会	1	46	39	85
医療技術部門	地域連携バス研究会	1	33	55	88
	筑豊支部病院薬剤師会	12	292	210	502
延べ総数		48 回	737 名	1,260 名	1,997 名

前年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の観点から、地域医療支援病院報告会など医療者が大勢集う研修会は見送った。2022年の研修は39回がオンラインで開催された。オンライン開催は不要な接触機会を減らすことで感染防止としても有効であり、また受講者の移動にかかる時間や交通費の負担軽減等のメリットがある。しかし、従来の集合研修のように受講者同士の関係構築には不向きである。オンライン研修と集合研修、双方の良さを活かした運営に今後も取り組んでいく。

24. 倫理委員会

委員長 名取良弘

目的：

「患者の権利に関するリスボン宣言」及び「ヘルシンキ宣言」の趣旨と、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」、その他倫理審査委員会の設置について規定する法律及び関係法規・指針に基づき、飯塚病院における患者さんの人権の擁護を目的として、以下の事項を行う。

- 1) 医療をめぐる患者さんの権利や生命倫理に関する事項についての審査
- 2) 飯塚病院にて行う研究の実施の可否
- 3) 飯塚病院にて行う新規医療行為の実施・継続の可否
- 4) 研究倫理に関する院内教育

活動内容：

原則的に、毎月第3月曜日に開催されている。2022年の当委員会申請総数は145件(対前年比+2%)、臨床研究103件、学会発表25件、適応外使用3件、TQM 4件、情報提供3件、その他7件

部署名	申請数	部署名	申請数	部署名	申請数
呼吸器内科	16	救急科	3	連携医療・緩和ケア科	1
看護部	15	医療安全推進室	3	眼科	1
外科	12	心臓血管外科	3	歯科口腔外科	1
循環器内科	11	看護部長室	3	放射線科	1
リハビリテーション部	9	集中治療科	2	麻酔科	1
消化器内科	7	薬剤部	2	人事課医務室	1
整形外科	7	診療情報管理室	2	中央放射線部	1
肝臓内科	5	脳神経外科	1	中央検査部	1
血液内科	5	脳神経内科	1	臨床工学部	1
感染症科	5	呼吸器外科	1	栄養部	1
総合診療科	5	漢方診療科	1	地域連携センター	1
腎臓内科	4	産婦人科	1	広報課	1
膠原病・リウマチ内科	3	耳鼻咽喉科	1	院外	1
リエゾン精神科	3	小児科	1	総計	145

審査結果の内訳は承認121件、不承認1件、修正の上承認10件、条件付承認13件である。申請部署と申請数は先述の表の通りである。また、研究に係る職員に対し、研究指針等の遵守を目的に臨床研究における倫理的事項に関する研修（臨床研究管理委員会と共同開催）については、共通講習計8回141名、SafetyPlus（9月～12月）440名が受講した。

次年に向けて：

引き続き飯塚病院における患者さんの人権の擁護を目的とし活動を行っていく

- 1、倫理委員会の開催
 - ・月1回定例に倫理委員会を開催する
 - ・案件に応じ適宜に臨時の倫理委員会を開催する
- 2、教育活動
 - ・研究に係る職員に対し研究倫理指針等の遵守を目的に研修会を行う

25. 臨床研究管理委員会

委員長 白土基明

目 的：

- 飯塚病院におけるすべての臨床研究の適切な運営管理
- 臨床研究に関する教育活動

活動内容：

- 臨床研究の適切な運営管理を行った。

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針に沿って適切に行われるよう、実施状況、実施計画書の変更、同意説明文書・同意書の変更、有害事象及び不具合の発生事例、関係書類の保管状況などについて審査を行った。また定期的な監査を実施した。

1. 委員会の開催

2022年 7月28日 審議内容：2022年上期 迅速審査及び監査結果の報告及び審議

2022年12月20日 審議内容：2022年下期 迅速審査及び監査結果の報告及び審議

2. 迅速審査の実施

実施状況の審査：継続155件、終了59件、

実施計画（研究計画書、同意説明文書、ホームページ掲載文書、研究責任者交代、研究分担者追加・削除、研究期間延長、対象期間延長、目標症例数）の変更の審査：199件

3. 監査の実施

監査対象の選出：介入研究または侵襲ありの研究を全研究から無作為に抽出した。一昨年以前に行った部署とは違う部署を選出することを原則としている。

上期：漢方診療科（2022年8月3日）：A問題なし

下期：リハビリテーション部（2022年12月14日）：A問題なし

4. 重篤な有害事象に関する報告13件、安全性情報に関する報告4件について研究継続審査の実施

- 臨床研究に関する教育活動を行った。

臨床研究の倫理に関する研修（共催：倫理委員会）

研修の対象者：研究に係る職員

共通講習 : 141名(2022年1月～2022年12月 8回)

Safety Plus : 440名(2022年9月～2022年12月の合計)

次年に向けて：

飯塚病院におけるすべての臨床研究において、倫理指針に沿って適切に行われるよう、実施状況、実施計画書の変更、同意説明文書・同意書の変更、有害事象及び不具合の発生事例、関係書類の保管状況などについて審査を行う。また定期的な監査を実施する。

- 通常審査：年2回定期的に委員会を開催し審査及び臨床研究に関する事項についての検討を行う。
また、期間に行った迅速審査及び監査の報告を受ける。
重要な案件が発生した場合には臨時で委員会を開催する。
- 迅速審査：研究計画の変更等の審査を随時行う。また実施状況について年に1回審査を行う。
- 監査 : 年2回、臨床研究の監査を実施する。
- 教育活動：研究者に、年1回の倫理研修の受講が徹底されるよう啓蒙活動を行う。

26. 治験審査委員会

委員長 原俊彦

副委員長 鶴野広介

目 的：

審査依頼のあった治験及び製造販売後臨床試験に関し、主に患者利益を保護する観点から倫理的・科学的に妥当な計画・方法であるかを審査し、実施の可否を判断する。又、進行中の治験及び製造販売後臨床試験において、重篤な有害事象、実施計画の変更、内外から報告される有害事象についての安全性、年間の実施状況、逸脱事項等について審査し、その継続の可否を判断、承認を行う。

活動内容：

2022年は、治験の新規審査を10件行った。2021年の9件より1件の増であった。又、当院で発生した重篤な有害事象について12件（前年比+3）、実施計画の変更について120件（前年比-8）（この内、迅速審査38件）、安全性に関する報告について262件（前年比-115）、継続（実施状況）について17件（前年比-4）の審査を行った。2018年7月より始めた審査資料の電子化・iPadを用いての審査を継続した結果、環境負荷の低減（紙資源廃棄ゼロ）・作業時間の短縮ができており効率的な運営ができた。

また新規審査10件以外に、新規治験1件を外部治験審査委員会（杉浦医院）にて審査、承認された。その後も当該その他計2件の治験は外部審査委員会にて審査を行っているが、治験実施に問題はない。

次年に向けて：

1. 法令（GCP）の規制下にある委員会であるため、今後も違反のないように運営にあたる。
2. 患者の権利保護の視点を徹底し、倫理的・科学的に妥当な審査が行われるよう審査の質のより一層の向上を目指す。
3. 2.の項目のために配付資料等をより分かり易いものとしていく。

27. 脳死判定委員会

委員長 高瀬敬一郎

副委員長 岡松由記

目 的：

臓器の移植に関する法律に基づき、臓器提供施設である当院において発生した「脳死とされうる状態」に該当する患者さんに対して適正な脳死判定を行うこと。ひいては、円滑な臓器提供に資すること。

活 動 内 容：

院内臓器提供コーディネーターの主催により行われている臓器提供勉強会では、医師、コーディネーター、臨床検査技師、看護師らと密接に連携をとり、積極的に参加するとともに必要に応じて講演や情報提供を行っている。この勉強会にて脳死下臓器提供机上シミュレーションを行っている。また年に1回脳死判定委員会を開催し、情報の共有に務めている。

次 年 に 向 け て：

今後も勉強会、脳死下臓器提供机上シミュレーションや、脳死患者対応セミナーなどを通じて全員が情報を常に新しく保つよう努力し、実際に「脳死とされうる状態」に該当する患者さんが発生したときに滞りなく作業が進むように環境を整えていくよう努力する。

28. 小児虐待防止委員会

委員長 田中祥一郎

背景：

当委員会は2006年2月に発足し、同年11月に常設委員会としての活動を認可された。2013年6月に福岡県児童虐待防止医療ネットワーク事業の児童虐待防止の拠点病院となり、院内の虐待対応に加え地域医療機関に向けての啓発活動や相談に応じている。

目的：

- 院内の児童虐待事例を早期発見し、部門横断的に評価や治療を行う。
- 関係機関（自治体・児童相談所・警察など）へ報告を含め、早期対応に努める。
- 院内や地域関係機関と連携し、児童虐待防止の意識啓発を行う。
- 児童虐待防止拠点病院として、虐待対応に関する相談への助言、地域の体制整備を行う。
- 地域の要保護児童対策地域協議会へ参画し、地域との連携協力をすすめる。
- 18歳未満の臓器移植に関して、臓器提供コーディネーターと連携して虐待判定を行う。

活動報告：

- 児童虐待の疑い症例について早期発見・早期対応に努めた。
- 虐待症例のデータベース管理システムを刷新し、5月より運用を開始した。業務の効率化・省力化を図り、連携・支援のさらなる充実を目指している。
- 救命救急センター内の診療において、児童虐待トリアージを継続している。トリアージされた症例はデータベース管理システムへ自動登録され、効果的な情報共有を行っている。
- 7月に筑豊地区要保護児童対策地域協議会自治体間ネットワークを立ち上げ、筑豊地区15自治体、田川市立病院、田川児童相談所と共に、課題解決へ向けた取り組みを行っている。
- 児童相談所の依頼を受けて、対応（診察・診断書作成など）したケースが9件、一時保護委託の入院が2件あった。
- 虐待報告受理件数は、のべ447件（2022年1月～12月）。詳細は下記の通り。

◆内訳（重複有り）

ネグレクト	287
身体的虐待	36
心理的虐待	41
性的虐待（性被害）	2（4）
要支援（特定妊婦を含む）	68
除外・その他（死亡など）	76
計	510

◆報告した連携機関（重複あり）

市区町村	421
児童相談所	32
警察	8
学校	4
かかりつけ医	2
保育園・幼稚園	1

※市区町村の集計方法に変更あり（母子保健担当課と虐待対応担当課の庁内連携が進んでいるため）。

次年に向けて：

- 多職種協働・地域連携を推進し、相談しやすい体制づくりに努める。
- 自治体などと協力し、児童虐待の教育研修を企画し、地域全体の虐待防止対応能力向上を図る。
- 地域の関係機関と連携を深め、児童虐待防止に向けた官民連携を推進する。

29. 患者行動制限最小化委員会

委員長 猪狩圭介

目 的：

精神科病棟入院中の患者で、行動制限を受けている者に対して審議し、患者の人権擁護を目的とする。

活 動 内 容：

■定期的な委員会の開催

毎月第2金曜日、精神保健指定医であるリエゾン精神科部長を委員長として開催。下記事項について審議し、適正かつ最小限の行動制限に改善を図る。

1. 妥当性について倫理的、法的側面と臨床的現実性とを照合しつつ検討
2. 制限範囲の縮小
3. 早期解除
4. 処遇改善
5. 年2回の研修を計画・開催
6. 委員長は審議された事項を、院長に答申

■2022年の新規活動内容：

行動制限下にある患者の現時点（直近一週間）における精神状態、自傷・他害のおそれ、身体合併症、アドヒアランス、認知機能について、当院独自の状態評価スケールを用いて多職種で情報共有するようにしている。この評価指標を用いることにより、多面的かつ客観的にリスク評価および行動制限の妥当性を検討している。

次年に向けて：

精神科病棟での行動制限は精神保健福祉法に基づき、精神障害者に対して精神保健指定医の判断のもとで行われる。行動制限は、患者の人権、意思を尊重しながらも、患者の医療、安全および保護の必要性を考慮の上で慎重に行わなければいけない。今後も、過剰な行動制限が実施されていないかという点を常に評価、検討を続けながら、適切で必要最小限の行動制限を目指す。

30. 個人情報保護委員会

委員長 福村文雄

目 的：

飯塚病院における、診療等に係る個人情報の取得、保有、管理等の厳正な取扱いを図ることを目的とする。

活 動 内 容：

原則的に、月1回開催。下記事項について審議し規定に基づき対応を行う。

1. 個人情報保護法改定に伴う個人情報保護規定の改定
2. 個人情報保護に関する審議依頼への対応
3. 不具合発生に対する再発防止対策
4. 従業者の個人情報取扱いに関する教育

2022年は、主に下記の案件について審議を行った。

【主な審議・報告件数】：審議件数 6件

1)審議

- ・入院患者のZoom面会
- ・【仮名加工情報】個人情報保護規程、プライバシーポリシー改定
- ・院内撮影禁止
- ・従業員の個人情報に関する教育
- ・仮名加工情報の利用目的の追加に伴うプライバシーポリシー変更
- ・南2A病棟透析室のモニター設置による患者の情報投影について

2)その他確認事項 1件

- ・仮名加工情報の規程および、作成手順等

【個人情報に関する即時報告】

- ・検査部即時報告
 - ・USBメモリー紛失（個人情報無し）
 - ・診療情報提供書の誤った送付
- 即時報告件数 16件（書類送付ミスなど軽微なもの）

離任：2022年6月まで

治験管理センター 吉柳富治郎

着任：2022年9月から

臨床研究支援室 古賀秀信

次年に向けて：

1. 関連部署との連携を図り、院内における個人情報の取得、保有、管理を適切に行う。
2. 従業員の個人情報取扱いに関する教育内容を計画・実施する。

31. 呼吸管理委員会

委員長 飛野和則

副委員長 野見山由美子

目 的：

当委員会の目的は、「人工呼吸を使用する患者さんの安全確保と治療の質の向上」である。具体的にはRST（Respiratory Support Team）活動が円滑に行われるよう院内の環境整備を行うほか、RST活動が適切に行われているか、また、人工呼吸管理や合併症の発生率、合併症発生に伴う入院期間延長などについて調査する。その他、人工呼吸器治療の質向上と標準化を目指し、医師や看護師へ教育を行っている。加えて、コスト管理についても見直し、医療事故をなくすために安全な方法や器具を取り入れるよう努めている。

活 動 内 容：

1. RSTラウンド

2006年より、“気軽に相談できる体制作り”を目的として、RST看護師と臨床工学技士が月1回のRST回診を行ってきた。2010年からは、医師、理学療法士を加えた多職種のメンバーで、週1回のRST回診を行った。電子カルテ化に伴い、回診記録の確実性・簡素化を徹底し、治療計画書作成を回診時に行えるよう調整している。2022年は救急病床や在宅人工呼吸器装着の患者さんの回診、不具合報告のあった症例や病棟から回診依頼のあった2症例の回診を行った。

2. 院内向け研修会

2022年実施実績なし

3. 院内看護師研修

6月より新人看護師を対象にビギナーズコース、10月より新人及び中途採用看護師を対象にAコースの研修を行った。

次年に向けて：

在宅人工呼吸器を携帯した患者さんの緊急入院やレスパイト目的の入院も増加が予想され、院内だけの呼吸管理には限界がある。2023年も引き続き、地域ネットワーク作りを着実に進めて行きたい。また、今後も呼吸管理に関わる新しい機器が発売される見込みであるため、知識のアップデートを継続して行う。

32. 褥瘡管理委員会

委員長 井手豪俊
副委員長 井野 康
加治屋晶子

目 的：

1. 褥瘡発生および医療関連機器圧迫創傷発生の要因分析を追求し、より効果的なケアと褥瘡予防対策に結びつけ、発生率の低減と重症事例を出さない取り組みを行う。
2. 褥瘡対策チームと連携し、褥瘡管理に関連した院内システムの再検討を行う。
3. 褥瘡管理に関する質向上のために、褥瘡研修会に参加できないスタッフも含め、総合的に教育計画を策定していく。

活 動 内 容：

1. 褥瘡管理委員会・各病棟の褥瘡リンクメンバーによるミーティングの開催
 - 褥瘡管理委員会開催日
1月27日、3月24日、4月28日、5月26日、6月23日、9月22日、10月27日、11月24日
 - 褥瘡リンクミーティング開催日
1月19日、4月20日、5月18日、6月15日、7月20日、9月21日、10月19日、11月16日
 - 院内で起きた事例についてディスカッションを行い、予防と対策の周知をした。
 - 褥瘡管理委員会の中で、多職種を交えて事例検討に取り組んだ。
2. 院内外の関係者に対する研修会の開催
 - COVID-19の感染拡大を鑑みて集合教育は開催しなかった。
 - 褥瘡予防に効果的なセル看護につなげることを目的とした、ポジショニングについてのマニュアルの見直しを実施。今年度中に完成予定。
 - 「褥瘡リンクメンバー活動報告」を例年1月～3月に対面で実施していたが、昨年度より対面での発表は行わず、各病棟から提出された活動報告資料を委員会ホームページへ掲載し、情報共有を行う様式へ変更した。
3. 褥瘡回診の開催
 - 褥瘡管理依頼書が提出された事例に対し、医師・看護師・栄養士・薬剤師・理学療法士の多職種チームで褥瘡回診を行った。
4. 褥瘡予防具の管理
 - 褥瘡予防具のカウントを年2回から4回へ変更し、実施。（4・12月→6・9・12・3月）
 - エアマットレンタル申請フローの改定を行った。（申請書・申請窓口の変更）
5. 院内褥瘡患者（院外発生・院内発生）に関する動態把握（統計）
 - 毎月、院内褥瘡発生分析・医療関連機器圧迫創傷発生分析を行い、当月の重点ポイントを全病棟管理者と褥瘡リンクメンバーへ配信した。
 - WOCN・病棟褥瘡委員やコメディカルなど多職種で協働しながら予防的ケアを実施し、褥瘡発生率および重症化を更に低減させ、治癒率のアップに努めた。
 - 2011年2月以降、目標とする院内褥瘡発生率1%未満を継続中である。

次年に向けて：

1. 褥瘡発生および医療関連機器圧迫創傷発生の要因分析を追求し、より効果的なケアと褥瘡予防対策に結びつけ、発生率の低減と重症事例を出さないための活動を継続する。
2. 褥瘡ケアの質向上のため、感染対策を意識しながら教育計画を褥瘡リンクメンバーとともに策定していく。
3. 褥瘡管理委員会ホームページを更新予定。

33. 栄養管理委員会

委員長 松永 論

目 的：

1. 栄養評価・栄養管理の側面から治療をサポートする。
2. 栄養に関する薬剤・食品の選択、デバイスの新規採用や更新に関して、現状を把握するとともに問題点があれば改善に努める。
3. 病院常設委員会として、飯塚病院における栄養管理に関する事項について検討、適正化を図り、院内を指導するほか、下部組織であるNST（栄養サポートチーム）活動が円滑に行えるよう環境整備を行う。適切な活動が行えるようバックアップすることで、最終的には褥瘡・重症感染症・院内感染などのリスクを減少させ、在院日数の短縮、薬剤・材料費用の適正化、入院経済効率改善を達成する。

活動内容：

1. 多様な疾患・病態に対応できるよう、輸液製剤や栄養剤、関連機材の新たな選択や絞込みを行った。
2. これまでの「NST回診」を充実させ、週1回のNSTカンファレンスと回診を行い、個々の症例に対して個別に作成した栄養治療実施計画書に基づいた治療を実施し、栄養治療実施報告書を作成した。
3. 栄養管理委員会を定期的に開催し、上記活動内容の報告・検討を行った。
4. 栄養スクリーニングシステムの構築を行い、2022年7月より西2階病棟にてプレ運用を開始し、順次対象病棟を拡大している。
5. 定期的に全職員へ「NST通信」の配信を行った。

次年に向けて：

1. 院内スタッフのNST教育に努め、栄養管理の質向上をはかる。
2. NSTリンクナースの役割を明確にし、病棟スタッフへの情報発信や教育方法を確立する。
3. 地域NSTの更なる連携を目指して、筑豊臨床栄養研究会の開催・内容の見直しを行う。
4. 学会発表を奨励・推進し、外部施設からの講演依頼や投稿依頼を積極的に引き受ける。
5. 栄養スクリーニングシステムの運用を、看護部等の関係する部署と協力して行う。

34. 輸血療法委員会

委員長 喜安純一

副委員長 濱井優輔

目 的：

適正かつ安全な輸血療法の推進を目的とします。

活 動 内 容：

【年6回の委員会の開催】

- 血液製剤及びアルブミン製剤の科別使用状況の報告
1ヶ月毎の血液製剤及びアルブミン製剤の使用量を診療科別に報告しました。また、使用量が特に多かった患者は病名や経過についても報告しました。
- 輸血管理料について
血液製剤適正使用の要件を満たした施設に輸血管理料の算定が認められ、当院は輸血管理料Ⅰの認定施設です。また、FFPの使用量をRBCの使用量で除した値(FFP/RBC)が0.54未滿かつアルブミン製剤の使用量をRBCの使用量で除した値(ALB/RBC)が2.00未滿であれば輸血適正使用加算が取得できます。2021年ではFFP/RBCが0.56と基準を超えており、FFPの使用量が増加している部署がありました。対象部署には現状を報告すると共に適正使用の協力を依頼したところ、2022年ではFFP/RBCが0.44、ALB/RBCが1.10と管理加算内に改善しました。
- 血漿分画製剤の使用状況の報告
1ヶ月毎の血漿分画製剤の使用量を製剤毎に報告しました。
- 血液製剤、血漿分画製剤の査定状況の報告
血液製剤、血漿分画製剤の査定理由を患者毎に報告しました。
- 輸血関連即時報告
輸血に関連する即時報告の内容・原因・対策について報告しました。
- 製剤の破損報告
2022年の破損金額は1,401,834円でした。防ぎうる破損については定期的に啓蒙していますが、患者状態変化による未使用や製剤の取扱い不備による破損がありました。
- その他
 - 自己血採血時の患者急変に関して
関係部署と協議し急変時の連絡手順やリスク患者の対応について協力体制を確認しました。また気分不良患者への生食投与について、緊急時は口頭指示により対応することで決定しました。

次年に向けて：

より安全で迅速な輸血療法の実施を目指して活動します。今後も血液製剤の使用・破損状況の把握や輸血に関する諸問題の討議・解決策を実行し適正かつ安全な輸血療法の推進に努めます。コロナ禍の状況が続いており献血者数が減少している状況にありますので、より一層の適切な製剤使用や破損減少に取り組みたいと思います。

35. 診療報酬適正管理委員会

委員長 清田雅智
副委員長 楠元正道
梶原優子

目 的：

診療報酬請求業務を総括し、適正な請求を目指すことにより病院経営に貢献する。

活 動 内 容：

- * 診療報酬適正管理委員会
月に1回開催し、以下の事項について協議を施行
 - ① 減点金額の集計及び報告
 - ② 減点内容及びその傾向や対応策の検討
 - ③ 各減点内容に関する再審査請求の決定、申請書類の検討
 - ④ 高額な請求に関して主治医を交えて症状詳記やデータ等の内容検討
 - ⑤ オレンジレポートの指定、検証
 - ⑥ ブルーレポートの指定、検証報告（解決済みの案件）
- * 部長会議での報告（月1回）
- * 部長会でのワンポイントアドバイス（月1回）
- * 医師への保険診療に対する指導・提案（随時）
- * クラークへの査定報告と査定対応策等の指導（月1回）
- * 診療報酬に関する研修の企画や実施

【各レポートの対応内容】

○オレンジレポート

（過剰な医療行為や、解釈の誤解等に基づく査定に対する、対象者個人への案件）

回収件数：5件

対象項目の内訳（処置：1件、注射：1件、投薬：1件、検査：1件、在宅1件）

具体例：病名不備、医学的に不適當、処方月の検査（採血）の未実施

○ブルーレポート

（運用面に関係している査定問題で、システム的な解決を必要とする案件）

解決件数：0件

次年に向けて：

- ・2022年度PET-CTオーダー時に保険適応範囲を誘導する運用決めとシステム開発を、情報システム委員会と共同で行った。2023年度より導入開始予定である。
- ・過去当院の減点で最高額だった入院料の査定が、2022年3月より激減した。査定側でのコロナ流行に伴う査定基準の変化か、当院側でのレセプト時の救命救急加算の必要性の記載の精度の変化の判断が難しいため、2023年度以降の動向をモニターする。
- ・外来検査での過剰査定の対策を進める予定。過去に行った腫瘍マーカー対策の再立案を行うが、分析するための情報収集方法を改良する。2023年度は腫瘍マーカーに加えてF T 4・T S H等に拡充予定。
- ・高額医薬品の投薬の過剰処方に対する減量査定の対策立案。検査結果を確認し処方量を増減する薬剤の場合、処方時に検査値が表示される等、システム的なサポートを検討
- ・手術項目での術式の選択誤りによる査定の分析、査定対策立案（手術・麻酔伝票の手書き問題）

36. 臨床検査適正化委員会

委員長 大石善丈
副委員長 秋永理恵

目 的：

検体管理加算（IV）に関する施設基準の一部を満たすために設立された委員会である。院内における臨床検査を適正に運営、監視する。具体的には、各診療科が求める臨床検査を整備し、検査内容が正確かつ迅速、確実に報告される環境を整える。また他部門からの要求を協議し、ムリ・ムダ・ムラを生じさせず、検査の妥当性を確認する。

活動内容：

委員会は月1回（第3木曜日16:30～約1時間）開催した。中央検査部内の各部署から提出された要望（検査依頼方法変更、新規導入検査、検査法の変更、報告内容の整備など）について審議し、適切な変更、導入を行った。飯塚病院の各委員会、診療科の臨床医から提出された要望（院内検査導入、新規指数表示項目の導入、検査依頼セット化など）についても適正であるかを審議し、導入すべきかを協議した。2022年は新型コロナウイルス感染症に関連する行動規範により、適正化委員会の開催を見送る月も少なからずあった。

以下、主な活動内容を報告する。

- 1月：新型コロナウイルス感染症に関連する行動規範により、安静時採血の対象項目、条件についてメール審議。
- 2月：現行の試薬が製造停止により、ラピッドID32ストレップアピ導入について承認。
尿培養菌量報告について医師の解釈に誤りが生じる可能性もあるため却下
安静時採血の対象項目、安静時条件について内分泌科医師のご意見を伺う事により継続審議。
循環器以外の心臓エコーの飛び入り枠の作成について承認。
- 3月：企画管理課、手術フィールド会議事務局より術前検査必須項目のセット化について承認。
- 4月：医診伝心結果照会の血液ガスにおける異常値の表示について異常値の解釈が分析しないと安易に結果に色をつけることはよくない。却下。
安静時採血について対象項目および条件について承認。
- 5月：腹部エコー検査のパニック値の設定について、偶然に見つかった腫瘍や動脈瘤について承認。
- 6月：血清蛋白、アルブミン、APTTに試薬変更について承認。
蛋白分画測定装置（minicap）の変更によるTATの大幅短縮承認。
- 7月：新型コロナウイルス感染状況により中止
- 8月：かずさ遺伝子検査報告書の修正お詫び報告。赤痢アメーバ抗原検査キットの導入について承認。
新型コロナウイルス感染症抗原定量検査新規導入について9月7日から運用開始承認。
- 9月：新型コロナウイルス感染状況により中止
- 10月：ICG K値測定ICGクリアランスメーター導入。FilmArray 髄膜炎・脳炎パネル導入。
好酸球絶対値の表示については継続審議。
- 11月：小児用ALPの基準範囲の設定について承認。好酸球絶対値の表示、ARR自動計算について承認。
- 12月：飯塚病院行動規範により中止。

次年に向けて：

引き続き、新規検査・機器導入、基準範囲・測定方法の変更などの適正化を図ると共に、不適切な検査依頼方法や無駄な検査依頼を洗い出し、業務改善に繋げていく。また、委員メンバーの参加率を上げ、多くの意見をいただけるように運営を工夫する。

37. がん診療連携委員会

委員長 本村健太

目的：

「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針（厚生労働省）」に基づき、地域がん診療連携拠点病院としての体制整備の推進および飯塚病院における「がん診療」に関わる環境整備を推進する。

活動内容：

【活動①】福岡県がん診療連携協議会および専門部会への参加

会議名	開催回数	2022年開催月
がん診療連携協議会	2回	2月、9月
緩和ケア専門部会	2回	1月、8月
研修・教育専門部会	2回	2月、7月
地域連携・情報専門部会	2回	1月、7月
がん登録専門部会	2回	2月、7月

※新型コロナウイルス感染症の関係で『Web会議』での開催

【活動②】委員会の開催：2回（2022年2月・9月・12月）

○主な検討・確認事項

- ・福岡県がん診療連携協議会および各専門部会の報告
- ・地域がん診療連携拠点病院要件における確認・情報共有

【活動③】地域がん診療連携拠点病院の体制整備

○2022年10月

『地域がん診療連携拠点病院』指定更新推薦書を提出

※2020年3月27日付け 地域がん診療連携拠点病院として指定。

（指定期間 2020年4月1日～2023年3月31日）

【その他】

○メンバー離任 2022年4月より

甲斐 正徳（臨床腫瘍科）

海老 規之（呼吸器腫瘍内科）

○メンバー着任 2022年4月より

古賀 聡（外科）

靄野 広介（呼吸器腫瘍内科）

38. がん集学治療委員会

委員長 古賀 聡
副委員長 白土基明

目 的：

- (1) 地域がん診療連携拠点病院としての体制整備の推進
- (2) 飯塚病院のがん集学治療の構築
- (3) 飯塚病院のがん診療の向上のための方策を提言

活 動 内 容：

- ①化学療法レジメン審査
2022年 27件

- ②2022年化学療法実績 ※2022年は11月迄の実績

	入院化学療法件数 (ハイケア 3F 入院件数)	外来化学療法件数	
		総数	加算症例のみ
2021 年	2,858	8,387	7,402
2022 年	2,659	8,421	7,091

- ③化学療法に関する診療の問題点の検討や改善策の実施

- ・ de novo B 型肝炎発生対策のための HBV マーカー実施状況のモニター
- ・ プロトコルオーダーリングシステムの見直し
- ・ 免疫チェックポイント阻害薬使用における検査項目の共通セット化の承認
- ・ 免疫関連有害事象 (irAE) 対策チームの立ち上げに向け、ワーキンググループ設立
- ・ がんチーム医療推進勉強会開催：8回 総参加者 275名

次 年 に 向 け て：

- ・ HBV マーカー実施状況のモニター継続
- ・ プロトコルオーダーリングシステムの再構築
- ・ 外来化学療法室の円滑な運用方法の検討・提言
- ・ 免疫関連有害事象 (irAE) 対策チームの運用開始

39. 緩和ケア委員会

委員長 柏木秀行
副委員長 中山隆弘
宮崎万友子

目 的：

1. 飯塚病院の緩和ケアの向上のための方策につき提言する。
2. 地域がん診療連携拠点病院としての緩和ケア体制の整備を推進する。
3. 緩和ケアセンター体制の促進。

活 動 内 容：

- ・委員会開催：4回（3月・6月・9月・12月 第1火曜日）
- ・メンバーが、各々の部門での活動目標を明確にし、取り組みを実施した。
- ・緩和ケアに関する院内マニュアル改訂・新規作成を行った。
- ・緩和ケアチーム研修会 2022年1月20日（木）開催
- ・医師に対する「緩和ケア研修会」開催
 - ◆第15回 2022年1月29日（土）※2021年9月4日（土）の代替
 - ◆第16回 2022年9月3日（土）に開催を予定していたが、新型コロナウイルスに関する行動規範により2023年1月28日（土）に延期するも中止となった。

その他

- メンバー交代
 - ・2022年4月より
 - 【副委員長】石上雄一郎（連携医療・緩和ケア科）→ 中山隆弘（連携医療・緩和ケア科）
 - 【委員】皆元文恵（薬剤部）→ 上西真理子（薬剤部）
- メンバー離任
 - ・2022年4月
 - 【委員】山口瑞生（地域包括ケア推進本部）
 - ・2022年9月
 - 【委員】光安博志（リエゾン精神科）

次年に向けて：

- 2023年も引き続き、下記について活動する予定である。
1. 緩和ケアセンター設立準備
 2. 緩和ケア研修会の実施（2023年9月開催予定）
 3. がん診療連携拠点病院として緩和ケア体制の整備の促進

〔VII〕院 内 報 告

1. 飯塚病院住民医療協議会活動報告

事務局 広報課

飯塚病院住民医療協議会（以下、協議会）は、飯塚病院の提供するサービスや役割などについて地域を代表する方々と意見交換を行うことを目的として、2005年4月から半年に1度開催しています。2022年は6月に「第33回協議会」を対面にて実施し、12月の「第34回協議会」は新型コロナウイルス感染症の感染状況により、書面で開催しました。

対面開催した「第33回協議会」では「泌尿器科におけるロボット手術の役割」（泌尿器科 中島 雄一）講演テーマに活発な議論が行われ、書面開催した「第34回協議会」も書面でのご意見をいただきました。

今後も地域一丸となって安心・安全の医療環境を守り続けていけるよう努めてまいります。誌面をお借りして委員の皆さまに感謝を申し上げますとともに、今後ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

● 2022年7月1日「第33回協議会」対面開催

【講演】飯塚病院 泌尿器科 部長 中島 雄一 先生

テーマ：泌尿器科におけるロボット手術の役割

【出席者】外部11名（委員10名、オブザーバー1名）、院内8名

● 2022年12月「第34回協議会」書面開催

【講演】飯塚病院 歯科口腔外科 部長 石井 広太郎 先生

テーマ：顎関節症

【2023年 飯塚病院住民医療協議会委員】（五十音順、敬称略）

氏名	団体等
浅野 洋	飯塚市自治会連合会
梶嶋陽子	筑豊助産師ネット
香月法彦	飯塚商工会議所
金子加代	ぼれぼれの会
小嶋秀幹	福岡県立大学
田熊清治	飯塚地区消防本部
竹下茂木	飯塚片島まちづくり協議会
武田祐子	学校法人 嶋田学園 愛宕幼稚園
田中憲司	飯塚市老人クラブ連合会
永井潤子	飯塚商工会議所 女性会
中村 寛	筑豊地域医療プラチナサポーター

【オブザーバー】（敬称略）

浜田直文（第33回にご出席）	西日本新聞社 筑豊総局
----------------	-------------

（2022年12月時点）

2. 飯塚病院地域医療支援病院運営委員会活動報告

事務局 地域連携センター

目的：飯塚病院が地域の医療機関の要請に適切に対応し、地域全体の医療機能の向上と効率に必要な支援を行っているかを審議する。

活動内容：今年は4回の地域医療支援病院運営委員会を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大時と重なった2回は書面会議で開催した。紹介率や共同利用、救急医療の提供実績など、地域医療支援病院の基本的な要件となる活動報告、ダビンチやサイバーナイフなど飯塚病院が導入した新たな機能について話題提供をおこなった。

委員より「紹介時の電話対応」や「選定療養費の対応」などのご意見をいただき改善に繋がった。また、新型コロナウイルス感染拡大防止に取り組みつつ、粛々と診療に当たる姿に多くの敬意や労いの言葉をいただいた。

委員会での話題提供（トピックス）

	開催月	発表者	タイトル
第55回 (書面開催)	2月	入江慎一郎 泌尿器科	ロボット手術とは？ -ダビンチについて-
第56回	5月	①福村文雄 副院長 ②篠崎太望 飯塚地区消防本部 消防長	院内クラスター発生と対応 救急隊の対応について
第57回 (書面会議)	8月	内野愛弓 膠原病リウマチ内科部長	当科における外来関節リウマチ診療の現状 ～逆紹介推進のお願い～
第58回	11月	佐々木智成 放射線科統括部長 兼放射線治療科主任部長	サイバーナイフによる放射線治療

飯塚病院地域医療支援病院運営委員会委員（23名）

（2022年12月時点）

委員長	増本陽秀	飯塚病院 院長
副委員長	西園久徳	飯塚医師会 会長
	岩佐紀輝	飯塚病院 特任副院長兼医療連携本部長
保健福祉行政関係者	渡部淳二	飯塚市福祉部 部長
	川原明子	嘉穂・鞍手保健福祉環境事務所 保健監
	堀田 晶	嘉麻市 健康課長
	篠崎太望	飯塚地区消防本部 消防長
医療関係者	岩見元照	飯塚医師会 副会長
	肘井孝之	飯塚医師会 専務理事
	兒嶋良太	飯塚医師会 地域医療・地域包括ケア副担当事務
	山口 章	飯塚歯科医師会 会長
学識経験者	高山幸蔵	飯塚薬剤師会 会長
	山崎重一郎	近畿大学産業理工学部情報学科長 教授
	伊藤高廣	九州工業大学大学院情報工学研究院 教授
市民代表	井上節子	飯塚市婦人会 会長
	高田和彦	飯塚ロータリークラブ 会長
飯塚病院職員	井村 洋	飯塚病院 特任副院長
	名取良弘	飯塚病院 特任副院長
	福村文雄	飯塚病院 特任副院長
	本村健太	飯塚病院 副院長
	中島雄一	飯塚病院 副院長
	金澤康範	飯塚病院 副院長
	森山由香	飯塚病院 副院長

3. VHJ (Voluntary Hospitals of Japan) 活動報告

企画管理課 倉重貴彰

VHJ機構は、医療の質の向上を図るため、自主的な研究活動を全国的に展開するとともに、データベースの構築・情報の提供、啓発活動を通じて保健・医療・福祉向上に寄与することを目的とする特定非営利活動法人（NPO法人）であり、41施設が加盟しています。

また、VHJ研究会は、医療の質や病院経営の質の向上を目指して研究活動を展開するとともに、会員相互の研鑽、親睦を図ることを目的とした組織で、事務局はVHJ機構に委託されています。

■ VHJ機構の事業

- DPCデータ活用事業
- 経営情報活用事業
- 臨床研修推進事業
- その他（意見交換会、セミナー開催等）

今年は、加盟する医療機関が持ち回りで主管する「VHJ職員交流研修会」が3年ぶりに現地開催で行われました。（コロナ禍の影響により2020年は中止、2021年はweb開催）さらに今年にはVHJ設立30周年記念として記念講演が行われました。

■ 第32回 VHJ研究会職員交流研修会

- ・日時：2022年11月25日（金）～26日（土）
- ・幹事病院：社会医療法人石川記念会 HITO病院（愛媛県）
- ・会場：しこちゅ～ホール、リーガロイヤルホテル新居浜
- ・内容：1）VHJ設立30周年記念講演
 - 基調講演Ⅰ「Apple in Healthcare」
Mr.Afshad mistri（AppleHealthcare World Wide Healthcare Marketing）
 - 基調講演Ⅱ「デザイン経営について」
永井一史氏（HAKUHODO DESIGN代表取締役社長）
- 2）分科会（各座長：HITO病院）
 - 分科会① 看護部 管理者育成
参加者：和田麻美（看護部）
 - 分科会② 医療・介護の連携 外来機能のあり方
参加者：梶原優子、宮西博子（看護部）、吉見泰紀（企画管理課）
 - 分科会③ 働き方改革
参加者：池 賢二郎（経営管理部長）、松岡英道（人事課）
 - 分科会④ 病院DX（DX推進課CCTO 篠原直樹、CTO 佐伯 潤）
参加者：上川重昭（看護部）、大淵孝一、下原陽子（情報システム室）、
倉重貴彰、宮口理衣（企画管理課）
 - 分科会⑤ 人材確保と人材育成 外国人雇用・多様な働き方
参加者：古谷秀文（人事課）

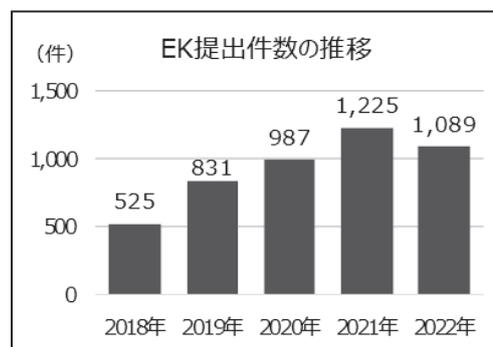
4. 改善活動報告

改善推進本部

1) Everyday Kaizen (EK) 活動

EK活動は、「身の回りの問題に気づき、改善できるようになる」ことを目的に、原則一人で一ヶ月以内に行う改善活動です。

2022年は1,089件のEK活動報告が提出され、そのうちの661件が、「成果の見える化」をテーマに掲げて実施したEK活動推進キャンペーン期間中（8月1日～10月31日）に提出されました。



2) Total Quality Management (TQM) 活動

TQM活動では2022年、“選ばれる「まごころ病院」を、飯塚の地に実現しよう”をメインテーマに、『ムダの削減』をTQM活動推進委員会推奨テーマに掲げ、2月～10月まで改善活動に取り組みました。

2022年のTQM活動発表大会は、新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、来場者数の制限などを設け、3年ぶりに院外参加者も含めた、のがみプレジデントホテルでの対面形式の開催となりました。以下の通り報告します。

(1) サークル発表数：21（口頭発表20、フォローアップ報告1）

(2) 表彰サークル（部署・サークル名）

	部署名	サークル名	テーマ	受賞状況
第1会場	中央検査部	そこまでいってみて委員会 part2 -耳鼻科穿刺プログラム-	耳鼻科領域の穿刺吸引細胞診における 不要な穿刺の削減	最優秀賞
	リハビリテーション部	もっと、も～っと、 リハもっと～♪ リハしてちょう～だい♪	患者さんの有効なりハビリ介入時間を 増やしたい	優秀賞 ・ お客様賞
	栄養部	TIME 研究所	栄養部働き方改革！ ～患者さんと調理スタッフの笑顔のために～	審査員 特別賞
第2会場	救命救急センター・ H2 救急	安心して下さい、 空いてますよ！！ (大処置ブース)	ER 大処置ブース待機時間の短縮 および大処置ブースの確保	最優秀賞 ・ お客様賞
	薬剤部	業務の鉄人	薬剤ピッキング時における 取り間違い防止策の強化	優秀賞
	北第五病棟・医療福祉室・ 小児科・NICU	iCARE（イケア） (良いケア・医療的ケア児)	医療的ケア児の地域連携推進 ～サポートファイルの有効的な活用～	審査員 特別賞

(3) 参加者数：385名（会場285名、Web視聴約100名）

※TQM活動発表大会の詳細は、要旨集に記載しています。

3) Kaizen ワークショップ (KW) 活動

KW活動は課題達成・リーダー育成を目的として、通常業務を離れて2日間集中的に改善を行う活動です。

部署	KW 日程	テーマ	内容
中央手術室	9月6日 13日	物品管理の時間短縮 ～シンプルに 無駄をなくして 楽しく物品管理～	◆棚卸し時間短縮を目的とした 物品管理プロセスの見直し ◆物品使用から処置入力のプロセス 再構築
14 B : 内視鏡センター	12月13日 15日	内視鏡センターにおける 薬剤管理の改善。 目指すは廃棄0!!	◆期限切れ防止と時間短縮に向けた 薬剤管理プロセスの見直し ◆動作や在庫のムダを防ぐ3定の 決定と可視化

4) 改善ベルト制度

改善ベルト制度は、当院の改善活動をリードする職員を増やし、活動をより活発にすること、そして継続的に改善活動の指導者が育成される仕組みを作ることを目的として、2011年より開始した制度です。

2022年は、7名の方がKAIZENシルバーベルト、2名の方がKAIZEN ゴールドベルトを取得され、8月9日に表彰式を行いました。現在のKAIZENベルト保持者は、シルバーベルト93名、ゴールドベルト29名で、改善活動の指導者としての役割を担っていただいております。

5) 改善発表大会

3月15日 参加者数：40名

活動部署	テーマ	発表者
ICU	ICU の物品適正配置	中尾亜矢子
看護部	2020 年度 看護部 物品管理 Kaizen ワークショップ活動報告	久保佳子
13 A	効率的な外来運用のための取り組み	加治屋晶子
施設・環境サービス課	施設・環境サービス課の改善活動	兼実孝志
リハビリテーション部	外来予約プロセスの再構築	宮本隆寿

5. ISO9001 品質マネジメントシステム (QMS) 活動報告

改善推進本部 高嶋麗子・米満香奈枝

2022年1月18日～20日に外部審査（更新審査）を受審し、引き続きISO9001の認証を得る事ができました。また、新任部長に対してISO活動の個別説明を実施し、内部監査では主任監査員としての役割を担っていただきました。

以下、本年の活動内容をご報告いたします。

【活動内容】

1月18日～20日	ISO 外部審査 受審【資料1】
6月～7月	新任部長へ ISO 活動について個別説明実施【資料2】
12月1日～	全職員へ ISO 外部審査（2023年分）実施について周知 ISO 外部審査説明 動画配信

【資料1：ISO9001外部審査報告】

審査期間	2022年1月18日～20日				
審査対象部署 / 委員会	35 審査（74 部署 / 委員会）				
評価出来る事項	43 件	観察事項	36 件	不適合	0 件

【資料2：ISO活動個別説明】

実施日	2022年6月3日～7月26日	対象人数	新任部長8名
説明者	ISO管理責任者	説明内容	ISO概要及び活動内容（内部監査や外部審査等）等

6. イノベーション活動報告

イノベーション推進本部 井桁洋貴／増本陽秀

イノベーション推進本部（IPO）はPatient Firstの原点に立ち、「まごころ医療」の実践を目指して、医療の質向上のための医療イノベーションの推進を目的として活動している。2022年の活動およびその実績を以下に報告する。

（1）「飯塚メディコラボ」の推進

「飯塚メディコラボ」は、医療機器等の開発を目指すメーカー等の団体に医療現場の観察機会を提供し、現場ニーズに基づく開発につなげる企画として2016年10月に開始した。2022年は、参加意向を示されている企業が数社あるものの、新型コロナウイルス感染症の影響もあって新規の参加はなく、2021年から継続参加の1社のみの利用であった。

（2）医療デバイス開発取組みの推進

① メーカーとの共同開発等

院内スタッフから計19件のニーズおよびアイデアを抽出し、詳細ヒアリング、アイデア検討、既存品調査、製品開発への展開検討などを行った。また院内スタッフから抽出されたアイデアに基づき試作品作製を4件実施した。その他15案件につき企業との間で製品化を目指し意見交換を実施し、内10件の開発が進行中である。

② 院外での活動

9月2日に飯塚市にて開催された「医工連携フォーラム・ビジネスマッチング会 in 飯塚」にてニーズ発表を行い、10月12日には発表ニーズについて提案等をいただいた企業とのマッチング会にも参加し、意見交換を行った。また、10月27日～28日に福島県郡山市にて開催された「メディカルクリエーションふくしま」では、出展企業を訪問するブースツアーでコメンテーターを務めた他、医療機器開発を行う企業からの相談に応えるイベントにおいてもパネリストを務めた。

（3）上記以外のイノベーション推進活動

① 院外組織との連携

イノベーション推進本部は、医療機器開発を通じた産業の活性化を目指す行政機関および他医療機関との連携強化にも取り組んでおり、飯塚市、九州工業大学、飯塚研究開発機構とともに飯塚医療イノベーション推進会議を組織し、毎月定例会議を開催し医工連携に関する意見交換を行っている。また、同会議には、九州経済産業局、福岡県、福岡県済生会飯塚嘉穂病院、飯塚市立病院、九州大学先端医療オープンイノベーションセンターもオブザーバー参加されており、行政機関や地域の医療機関とも協力しながら医工連携を推進している。

また、九州大学が採択された国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の令和4年度「橋渡し研究プログラム（異分野融合型研究開発推進支援事業）」補助事業の事業分担者として登録いただき、協力を行っている。

② 応談と製品評価

企業や筑豊地域医療・福祉関連支援委員会などの公的機関などからの依頼で、イノベーション推進本部の取り組みや協働について協議等を実施しており、2021年は34組織と意見交換等を行った。また、企業等において企画中、開発中の製品の評価を5件受託した。

③ 海外医療機関との交流

イノベーション推進本部では、イノベーション活動の推進と医療の質向上を目的として海外医療機関との交流を実施している。新型コロナウイルス感染症の影響により直接交流が難しい状況が続いていたが、2022年はイノベーション推進本部開設以来交流のある米国シリコンバレーのFogarty Innovation（旧 Fogarty Institute for Innovation）およびEl Camino Hospitalを訪問し、意見交換を実施した。

7. 地域包括ケア推進本部活動報告

地域包括ケア推進本部 小栗和美

地域包括ケア推進本部は、主に医師会や行政が行う地域包括ケア推進(在宅医療・介護連携)に関する事業へ支援を行う「地域包括ケア事業業務」と、介護保険に関する相談・支援を行う「介護保険支援業務」を行っており、2022年の活動およびその実績を報告する。

【地域包括ケア事業業務】

(1) 医師会との連携・事業における協働推進

当部署では飯塚医師会地域包括ケア推進センターに職員を派遣している。医師会内では行政からの委託を含む様々な地域包括ケア事業を実施し、飯塚医療圏の地域包括ケアシステムの構築に貢献した。行政委託の事業は以下などがある。

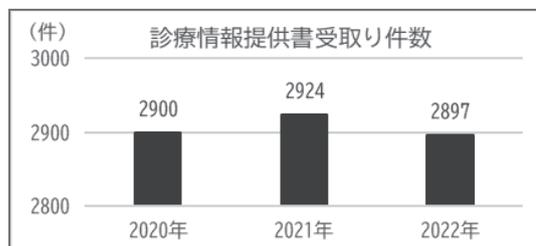
- ・飯塚市、嘉麻市、桂川町 在宅医療介護連携推進事業
- ・福岡県在宅医療機能強化整備事業 等

(2) 行政との連携・事業における協働推進

- ・飯塚市、嘉麻市、桂川町の介護保険地域支援事業への協力
- ・飯塚市社会福祉協議会地域権利擁護事業運営審議会
- ・地域ケア会議 等

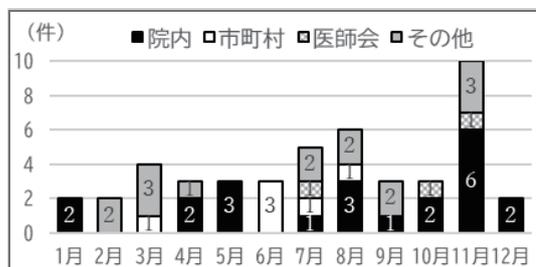
(3) 在宅療養後方支援病院としての業務

在宅療養後方支援病院として、周辺地域の在宅療養支援病院および診療所(現在6医療機関)からの情報提供書の受取りを行い、在宅患者緊急入院診療加算の算定を推進している。また、在宅復帰率の算定、各種届け出などの事務業務を実施している。



(4) 院内外からの業務依頼

上記(1)～(3)の通り当部は医師会や周辺地域、行政との結びつきが強い。そのため院内の各部署や外部機関から連携や調整の依頼を受けている。2022年には46件の依頼に対応した。依頼の内訳は右記の通りである。(2021年：60件)



(5) 住民への医療への関心向上を目的とした普及啓発

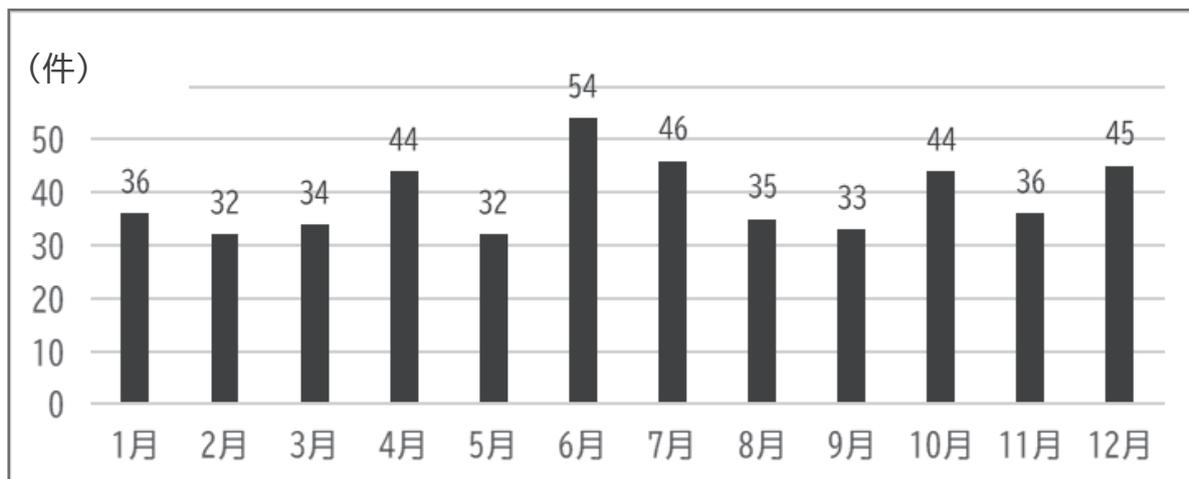
住民がACP(アドバンス・ケア・プランニング)に関心を持ち、自ら今後の生き方について考えてもらうきっかけ作りとして、2022年7月、8月に「人生会議(ACP)」に関する講座を計2回開催した。講座受講前アンケートでは、およそ90%の受講者が人生会議について(よく)知らなかったが、受講後は受講者全員が人生会議に対する理解が深まったと回答した。

【介護保険支援業務】

(1) 介護保険に関わる相談、申請支援

介護保険への申請作業や加入後に受けられるサービスの内容は複雑な構造となっており、患者やその家族への負担が大きい。そのため、介護保険に関する相談や申請の支援を実施している。2022年は471件の申請支援を行った。(2021年：467件)

〈2022年の申請支援件数〉

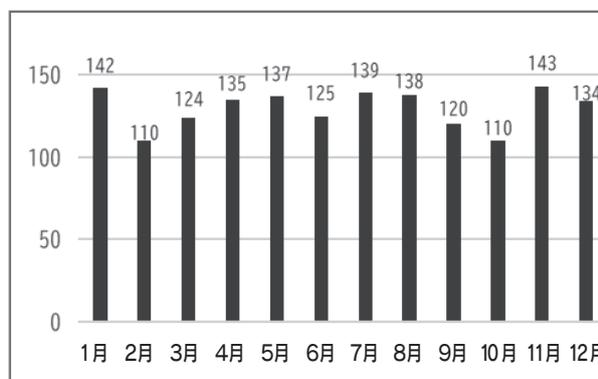


(2) ケアプラン作成

2022年は110回ケアプランを作成した。(2021年：148回)

(3) 介護保険主治医意見書のチェックおよび管理

「主治医意見書」は介護保険申請や更新に必要な書類で、被保険者の主治医によって作成される。当部では当院で作成されたすべての主治医意見書の不備のチェックと受け渡しを行っている。2022年にチェックを実施した主治医意見書の件数は1,557件だった。(2021年：1,513件)



(4) 筑豊地区介護予防センター業務（福岡県委託）

当院は福岡県からの指定で筑豊地区の介護予防支援センター業務を委託している。リハビリテーション部と共同で、以下の事業を行っている。

- ・市町村や介護従事者を対象とした研修の実施
- ・フレイル予防事業（フレイルチェックの実施、各機関への講演、普及啓発イベントの実施）

8. 医学研究推進本部活動報告

本部長 赤星和也
事務局 安永佳代子

目 的：

当院の全職員に対し、自主的な臨床研究の啓蒙と支援を行う事により、当院の臨床研究活動を活発化させ、その臨床研究成果を社会に還元し医療界の進歩に貢献すること。

活動内容：

1. 全職員に対する医学研究論文作成の啓蒙活動とその環境整備
2. 医学研究に対する経済的支援としての当院助成金（臨床研究助成金）の認定・授与
3. 当院で作成し掲載された全ての医学論文の審査や評価及び、その作成に貢献した執筆者と指導者の認定とその功績に対する褒賞（学術奨励賞）
4. 企業等外部からの研究委託ならびに研究寄附金等の審査と受け入れ
5. 2020年11月認定の文部科学省科学研究費補助金対象研究機関としての活動

2022年度活動内容

- 1) 月に1回、当本部メンバー構成員9名（医師4名、看護師1名、薬剤師1名、臨床検査技師1名、事務職1名、事務局員1名）による定例ミーティングを開き、当院臨床研究助成金の認定・授与のための審査、学術奨励賞対象医学論文の認定・褒章のための審査、及びさらなる医学研究推進に向けた規約の改定やホームページの更新など環境整備を行った。
- 2) 2022年度の当院学術奨励賞対象となった医学論文の総数は27編（12月末時点）で、その内訳は表1のとおりであった。国際的な医学論文の質の指標の一つである、インパクトファクター値の総和は81.7であった（グラフ1）。
- 3) 2022年度は8件の臨床研究テーマに対し臨床研究助成金が認可・授与された。

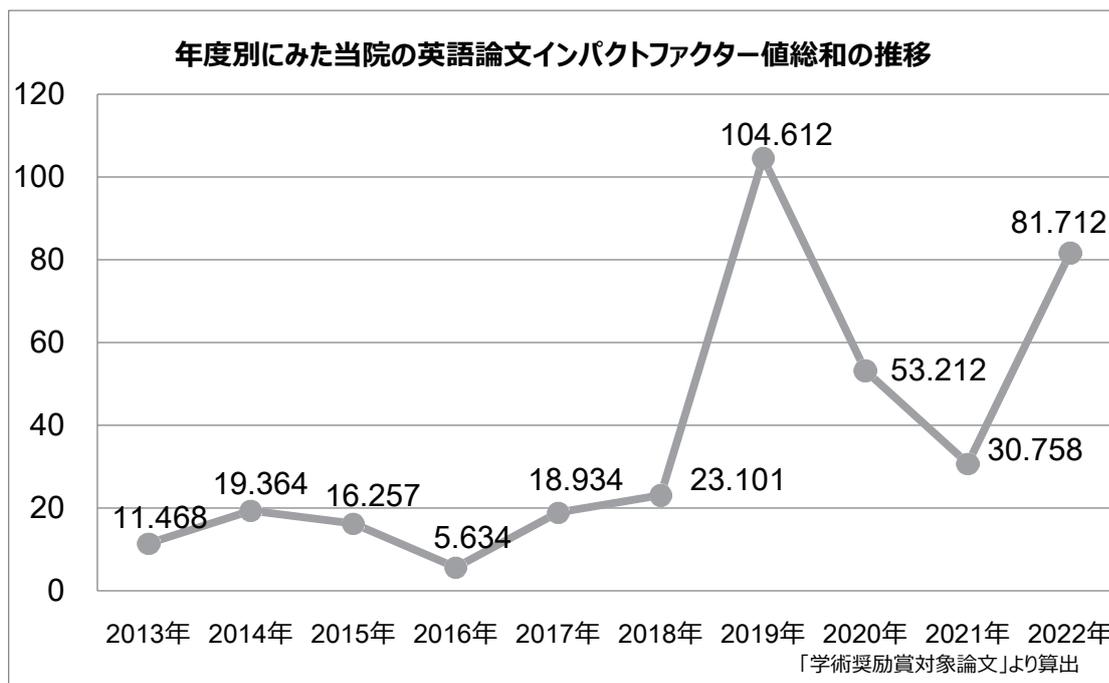
次年度に向けて：

1. 上記1)の継続
2. 医学論文数の増加、高いインパクトファクターを有する英語論文の増加を目指し、積極的に全職員に対し、医学論文作成の啓蒙活動を行っていく。

表1 2022年度 学術奨励賞対象医学論文の内訳

医学論文総数 27 編	論文の種類	論文数
英文 16 編	原著	6
	短報・症例報告	10
和文 11 編	原著	6
	短報・症例報告	5

グラフ 1



9. 治験推進本部活動報告

本部長 井村 洋
治験管理室 荒木哲也
臨床研究支援室 古賀秀信

病気の治療法が進歩するためには、より安全で効果の高い新薬の開発が必要であったり、臨床現場において様々な研究が行われることがとても重要です。治験推進本部は治験実施の支援、管理及び臨床研究の支援について積極的に取り組んでいます。

<治験管理室>

- (1) 治験ごとに治験コーディネーターを配置し治験を実施する医師の支援や患者さんへの説明、検査や来院の管理を行っています。
- (2) 治験使用薬を鍵のかかる保管庫に保管し、保管環境の維持(保管温度チェック)、治験使用薬の調剤を行っています。
- (3) 治験に関する記録や治験審査委員会の承認書等を保管管理しています。
- (4) 治験の実施可能性について製薬会社より依頼された調査票の作成を行っています。
- (5) 発売後の薬剤の有効性・安全性の調査についての契約窓口となっています。

●2022年の新規治験受託実績

実施診療科	目標症例数	対象疾患名	開発相	二重盲検
血液内科	2	慢性特発性血小板減少性紫斑病	III	
集中治療科	5	敗血症性急性腎障害	III	●
消化器内科	1	クローン病	III	●
産婦人科	5	子宮内膜症	II b	●
呼吸器内科	1	COPD	III	●
膠原病リウマチ	5	関節リウマチ	III	●
肝臓内科	1	B型D型肝炎	II	●
呼吸器内科	3	特発性肺線維症	III	●
呼吸器内科	3	間質性肺疾患	III	●
肝臓内科	5	B型肝炎	III	●
膠原病リウマチ	4	関節リウマチ	III	●

●2022年の治験実施可能性調査

101件

●2022年の製造販売後調査受託実績

特定使用成績調査10件 使用成績調査6件 副作用調査6件

＜臨床研究支援室＞

1) 科研費等の公的研究及び奨学寄附金事業 関連

＜研究機関・相談窓口 業務＞ 科研費既獲得者の異動に伴って本格的に科研費の運用を開始するとともに、当院初となる科研費へ応募の支援を行いました。

- ・03/28 経営会議報告
- ・04/27 令和5(2023)年度 科研費 公募要領 に関する院内周知 (部長会)
- ・05/11 機関指定後の概況票 提出 (文部科学省 研究振興局学術研究推進課)
- ・06/16 第1回 不正防止計画推進部署 公的研究に関する会議
- ・07/02 研究活動における不正行為への対応に関するガイドラインに基づく取組状況に係るチェックリスト 提出 (文部科学省 競争的研究費調整室)
- ・10/11 第1回 内部監査
- ・11/03 体制整備自己評価チェックリスト 提出 (文部科学省 研究公正推進室)
- ・11/22 第2回 不正防止計画推進部署 公的研究に関する会議

＜奨学寄附金＞ 奨学寄附金の獲得に向けて支援と並行して運用体制を確立(飯塚病院 奨学寄附金取扱規程)させるとともに、実際の運用を開始しました(計2件)。

＜運用体制の整備＞ 科研費のみならず、厚労科研(厚生労働省)やAMED(日本医療研究開発機構)の運用を、従来の部署単位から機関管理(一元化)へと改め、体制を一新しました(飯塚病院 公的研究費の使用に関する規程)。

2) 研究支援関連

a) **研究支援**：実務支援132件、系統支援 2件(看護研究)でした(2022年1月～12月)。

部門	相談等	倫理審査関連	統計解析関連	発表支援、他	合計
医師部門	8	11	40	12	71
看護部門	2	3	5	10	20
医療技術部門	2	9	4	7	22
事務部門、その他	1	1	5	12	19
合計	13	24	54	41	132

b) **臨床研究支援による学術論文**：今年(2022年1月～12月)の臨床研究支援室による支援が関与した学術論文は計7編です(「PubMed」「医中誌」で検索)。

- ①Diagnostic accuracy of quick SOFA score and inflammatory biomarkers for predicting community-onset bacteremia. Matono T, Yoshida M, Koga H, Akinaga R. Sci Rep. 2022 Jul 1;12(1):11121.
- ②Prognostic factors in patients treated with extracorporeal membrane oxygenation and continuous renal replacement therapy. Hiramatsu T, Shimizu S, Koga H. Perfusion. 2022 Sep;37(6):570-574.
- ③The association between time to extracorporeal cardiopulmonary resuscitation and outcome in patients with out-of-hospital cardiac arrest. Kawakami S, Tahara Y, Koga H, Noguchi T, Inoue S, Yasuda S. Eur Heart J Acute Cardiovasc Care. 2022 Jun 7;11(4):279-289.
- ④The Association Between the Duration of Chest Compression and Thoracic Injuries

in Patients With Non-Traumatic Out-of-Hospital Cardiac Arrest. Katasako A, Kawakami S, Koga H, Kitahara K, Komiya K, Mizokami K, Yamada T, Miura N, Inoue S. *Circ J.* 2022 Sep 22;86(10):1572-1578.

- ⑤Epidemiologic and genomic investigations of an unusual increase in *Salmonella enterica* serovar Paratyphi A infection among travelers returning from Myanmar in 2015. Matono T, Izumiya H, Koga H, Kaku M, Ohnishi M, Morita M. *Int J Infect Dis.* 2022 Oct 29;125:170-176.
- ⑥Candida血症におけるC.glabrataとnon-C.glabrataの血液培養ボトル発育特性の検討, 手島裕治, 的野多加志, 古野貴未, 古賀秀信, 秋永理恵, 日本臨床微生物学会雑誌 (2434-866X)32巻4号 Page234-237(2022.09)
- ⑦高齢者における入院時アルブミンと転倒転落インシデントの関連, 山中宏晃, 古賀秀信, 伊藤悠介, 秋永理恵, 日本臨床検査医学会誌(2436-2727)70巻3号 Page195-199(2022.03)

c) **倫理委員会関連**：今年のQIは下表の通りです。また、仮名加工情報の活用に向けた体制の原案(規程・手順書等)を作成し、個人情報保護委員会に引き渡すとともに、利益相反(COI)管理についても当院の基準を作成しました。

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
審査件数(計)	8	15	13	18	8	22	2	14	8	10	11	18
うち依頼数	1	2	1	5	2	3	0	0	0	0	3	4
通過数	1	2	1	5	1	3	-	-	-	-	2	4
通過割合*(%)	100	100	100	100	50.0	100	-	-	-	-	66.7	100

d) **教育関連**：2022年3月に改正された倫理指針に対応した研究倫理及びコンプライアンスに関する学習教材を作成しSafetyPlusに公開しました。 *聴講者数は2022年12月29日現在

教材名	公開日 (2022年)	聴講者数合計(名)				
			医師	看護師	医療技術	事務 他
「研究倫理」について	9/7	456	61	207	147	41
研究の不正について①_研究費	9/20	221	21	107	83	10
研究の不正について②_研究不正	9/20	227	22	112	83	10

e) **その他**：臨床研究支援室が主体となって行った研究が、2022年10月16日、日本転倒予防学会から表彰されました(優秀論文賞)。

「入院時口腔ケア介助の必要性と入院中の転倒との関連～過去起点コホート研究～」

(日本転倒予防学会誌 第8巻 第1号 2021年8月 掲載)

10. 当院における分離菌と薬剤感受性

中央検査部 微生物検査室

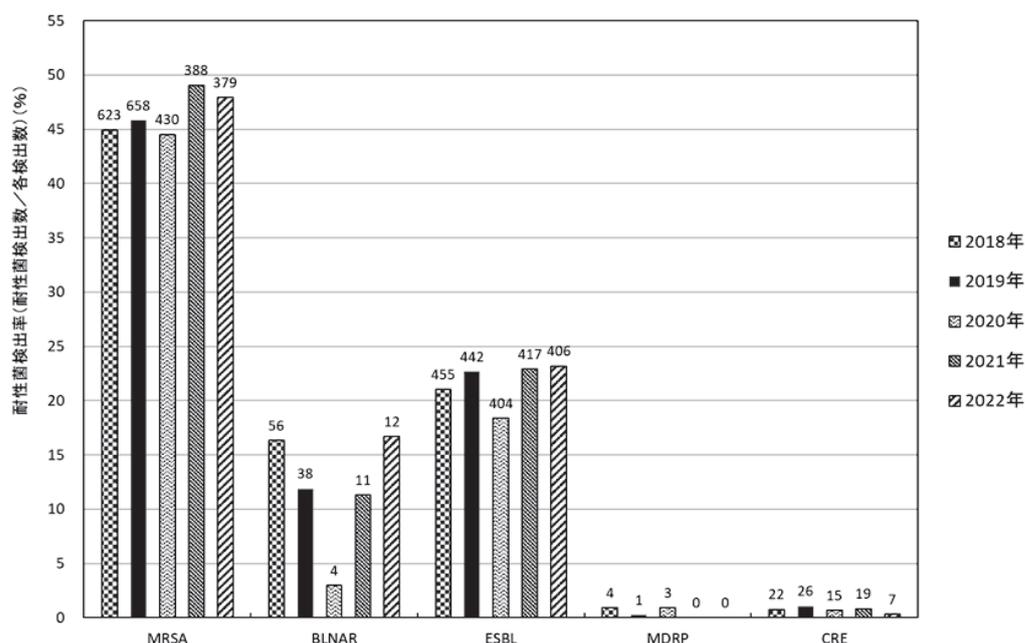
Withコロナの2022年は飲食や行動の制限緩和により、人々の交流が増加したことで、全国的に新型コロナウイルス検査の実施件数は増加傾向となり、当検査室は2021年と同様にPCR検査が中心の一年となりました。世界各国ではデルタ株からオミクロン株への置き変わりがみられ、日本にもその波が押し寄せてきました。オミクロン株はデルタ株に比べ、高齢者の重症化リスクは変わらないものの、若年層の重症化リスクは低いことから、療養期間や保健所への届け出対象の見直しが行われました。ワクチン接種においては接種可能年齢が『18歳以上』から『12歳以上』に引き下げられ、家庭内感染や若年層の感染拡大防止に繋がったと思われれます。

当検査室では新規感染者と既感染者が入り混じる中、区別する判断材料としてCt値の報告に努め、臨床側からの意見も取り入れつつチーム医療の一員として尽力してきました。

新型コロナウイルス感染症の検査機器においてはコバスe411・コバス5800（共にロシュ・ダイアグノスティックス株式会社）を導入致しました。新型コロナウイルス感染症の既感染者増加に伴い、新規感染者との区別が困難になったため、当院新型コロナウイルス感染症対策本部の要望を受け、8月より抗原定量検査を開始しました。抗原定量検査の試薬検討から僅か2週間足らずで妥当性確認を実施し、運用を開始できたことは、当検査室の力量の高さを証明できたのではないかと思います。また、10月にはコバスe411を救急外来に移設し、24時間体制の検査に加え、検査技師の常駐と鼻咽頭の検体採取も担うこととなりました。12月には全自動遺伝子検査装置コバス5800を導入したことで、今まで以上に性能よく新型コロナウイルスの遺伝子を検出することができるようになり、さらにインフルエンザウイルスとの同時流行に備えることができたと考えております。今年導入した2台の検査機器を含め、新型コロナウイルス感染症対応機種8台を稼働する当検査室は、今後も“進化する検査室”であり続けるとともに、院内のみならず可能な限り外部の検査受託を実施し、地域全体の感染防止に貢献していきたいと考えております。

● 分離菌情報

A) 耐性菌検出率：耐性菌検出数（グラフ上部数値）／各検出数



MRSA：methicillin resistant *Staphylococcus aureus*

BLNAR： β -lactamase negative ampicillin resistant *Haemophilus influenzae*

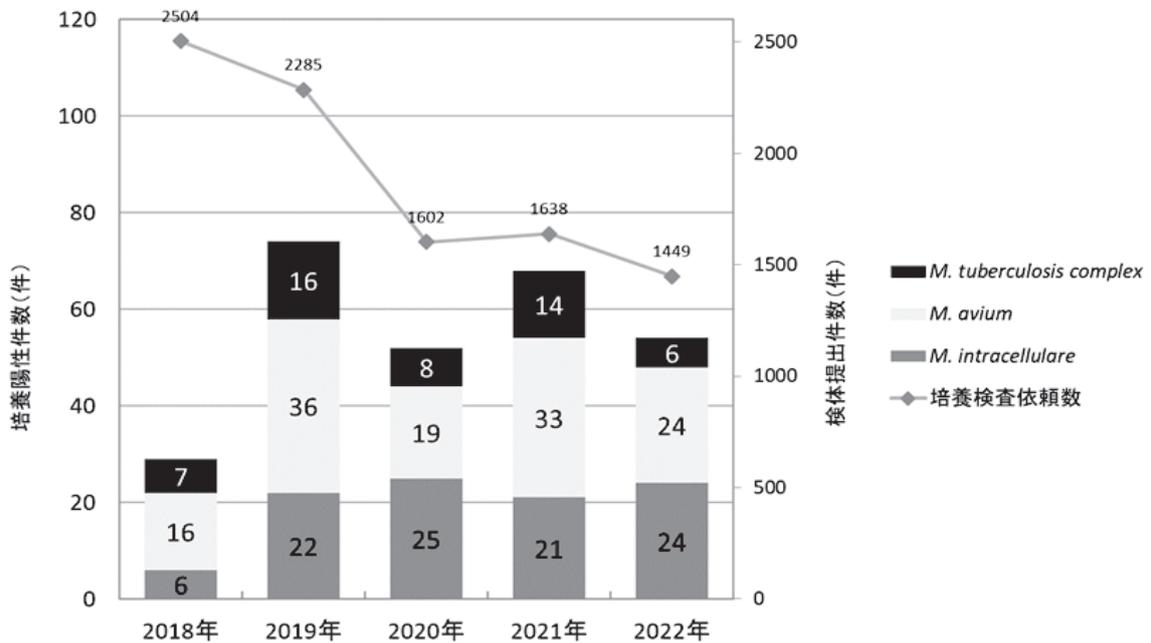
ESBL：extended spectrum β -lactamase

MDRP：multi drug resistant *Pseudomonas aeruginosa*

CRE：carbapenem resistant *Enterobacteriaceae*

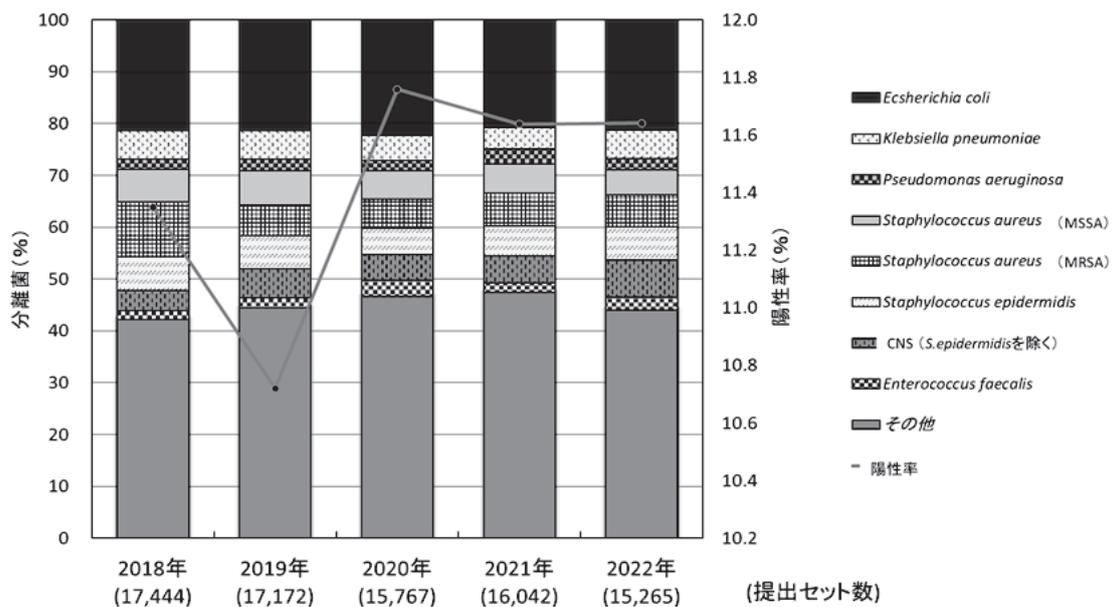
全 *Staphylococcus aureus* における MRSA の割合は横ばいでした。また、近年増加が懸念されている CRE（カルバペネム耐性腸内細菌目）の検出数および検出率は横ばいから減少傾向であり、MDRP（多剤耐性緑膿菌）に関しては2年連続して検出されておりました。今後もしっかりとした薬剤耐性菌の検出および感染対策体制を継続していく必要があります。

B) 抗酸菌動向 (*Mycobacterium tuberculosis complex*, *M. avium*, *M. intracellulare*)



※培養方法の変遷 ~ 2019年4月：固形培養（小川培地）
 2019年5月～：液体培養（Mycobacteria Growth Indicator Tube：MGIT）

C) 血液培養陽性率（陽性セット数／提出セット数）と検出菌の内訳（検出菌数／血液培養検出菌総数）



● 薬剤感受性

A) 成人 グラム陽性球菌

菌名	株数	MIPPC	S/A	QEZ	GMZ	IPM/CS	GM	EM	CLDM	MINO	LVFX	TEC	VCM	LZD	ST	RFP
<i>Staphylococcus aureus</i> (MSSA)	360	100	100	100	100	100	74	74	75	99	80	100	100	100	100	99
<i>Staphylococcus aureus</i> (MRSA)	326	-	-	-	-	-	46	15	17	83	10	100	100	100	99	99
<i>Staphylococcus epidermidis</i>	176	45	45	45	45	45	64	61	74	98	48	97	100	100	89	98

菌名	株数	PCG	ABPC	CTX	CTRX	CFPM	MEPM	EM	NZM	CLDM	LVFX	VCM	CP
<i>Streptococcus pyogenes</i>	4	100	100	100	100	100	100	75	75	NR	100	100	100
<i>Streptococcus agalactiae</i>	113	100	100	100	100	100	100	77	77	NR	62	100	94
<i>Streptococcus dysgalactiae</i>	51	100	100	100	100	100	100	71	71	NR	100	100	100

菌名	株数	PCG	ABPC	CTX	CTRX	CFPM	MEPM	EM	NZM	CLDM	LVFX	VCM	CP
<i>Streptococcus viridans group</i>	67	91	93	100	100	100	100	54	57	99	87	100	100

菌名	株数	PCG	PCGm	PCGnm	C/A	CTXm	CTXnm	CTXxm	CTXxnm	CFPMm	MEPM	EM	NZM	CLDM	LVFX	VCM	ST	CP	RFP
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	24	72	72	96	100	88	100	92	100	96	80	16	20	NR	96	100	72	88	100

菌名	株数	PCG	ABPC	EM	MINO	TEC	VCM	LVFX	LZD	RFP
<i>Enterococcus faecalis</i>	344	99	100	40	34	100	100	91	100	46
<i>Enterococcus faecium</i>	140	24	24	14	35	100	100	16	100	39

B) 成人 グラム陰性桿菌

菌名	株数	ABPC	S/A	C/A	P/T	QEZ	COL	GMZ	gPX-P	CTX	CNZ	CFPM	IPM/CS	MEPM	AZI	GM	AMK	MINO	OPFX	LVFX	ST
<i>Escherichia coli</i> (全体)	1110	51	67	88	98	60	65	99	66	68	68	69	99	99	68	94	99	95	53	56	84
<i>Escherichia coli</i> (CTX耐性)	407	0	33	75	97	0	0	98	0	0	0	2	99	99	1	88	98	93	8	10	71
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	339	R	81	90	97	85	86	99	87	88	88	88	99	99	88	96	100	88	82	92	86
<i>Klebsiella oxytoca</i>	129	R	74	87	87	11	88	99	91	89	93	93	99	99	89	100	100	100	97	95	98
<i>Proteus mirabilis</i>	98	92	96	99	100	75	98	100	99	99	100	100	NR	100	99	94	100	0	71	72	88
<i>Enterobacter cloacae</i> complex	180	R	R	R	80	R	R	R	35	54	59	96	98	98	60	100	100	100	94	83	87
<i>Enterobacter aerogenes</i>	73	R	R	R	84	R	R	R	59	68	72	100	100	100	83	100	100	96	98	98	100
<i>Citrobacter freundii</i> complex	87	R	R	R	94	R	R	R	32	72	72	98	99	99	74	99	100	95	88	94	92
<i>Citrobacter koseri</i>	60	R	75	83	92	72	77	88	74	77	80	78	100	100	75	97	100	92	71	71	95
<i>Serratia marcescens</i>	43	R	R	R	64	R	R	R	18	NR	59	98	NR	100	68	100	100	89	66	70	100

菌名	株数	S/A	C/A	P/T	QEZ	CTX	CNZ	CFPM	AZI	GM	AMK	OPFX	LVFX	ST
<i>Aeromonas</i> sp	50	40	28	94	0	89	96	98	98	96	98	94	98	92

菌名	株数	ABPC	P/T	S/A	GMZ	CFPM	AZI	IPM/CS	MEPM	DRPM	GM	AMK	OPFX	TOB	MINO	CFPX	LVFX	ST
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	350	90	93	-	92	92	84	84	90	95	85	98	99	-	88	86	-	-
<i>Acinetobacter baumannii</i> complex	12	92	NR	100	83	92	-	100	100	100	100	92	100	100	92	92	92	92
<i>Stenotrophomonas maltophilia</i>	54	-	-	-	35	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-	96	98

菌名	株数	ABPC	C/A	S/A	COL	CFPM	CTX	CTX	GM	OPFX	LVFX	MEPM	RFP	MINO	ST	CP
<i>Haemophilus influenzae</i>	45	64	89	78	82	100	100	100	84	100	100	100	NR	98	64	98

菌名	株数	ABPC	S/A	GMZ	CTX	IPM/CS	MEPM	CLDM
<i>Bacteroides fragilis</i> group	28	0	93	67	33	100	100	37

C) 小児

菌名	株数	MIP/C	S/A	QZ	QNZ	IPM/OS	GM	EM	CLDM	MINO	LVFX	TEIC	VGM	LZD	ST	RFP
<i>Staphylococcus aureus</i> (MSSA)	30	100	100	100	100	100	83	53	53	100	90	100	100	100	100	100
<i>Staphylococcus aureus</i> (MRSA)	18	-	-	-	-	-	67	6	6	94	22	100	100	100	100	94
<i>Staphylococcus epidermidis</i>	8	38	38	38	38	38	50	50	88	100	50	100	100	100	100	100

菌名	株数	PCO	ABPC	CTX	CTXN	CFPM	MEMM	EM	AZM	CLDM	LVFX	VGM	CP
<i>Streptococcus pyogenes</i>	1	100	100	100	100	100	100	100	100	NR	100	100	100
<i>Streptococcus agalactiae</i>	2	100	100	100	100	100	100	50	50	NR	50	100	100

菌名	株数	PCO	PCOM	PCOMm	C/A	CTXm	CTXmm	CTXN	CTXmm	CFPMm	MEMM	EM	AZM	CLDM	LVFX	VGM	ST	CP	RFP
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	31	55	55	100	100	69	93	72	90	86	71	6	6	NR	94	100	84	100	100

菌名	株数	ABPC	S/A	C/A	P/T	QZ	COL	QNZ	GPX-P	CTX	CNZ	CFPM	IPM/OS	MEMM	AZT	GM	ANK	MINO	OPX	LVFX	ST
<i>Escherichia coli</i> (全体)	30	83	77	83	100	80	77	100	83	83	83	83	100	100	100	83	100	93	73	77	77

菌名	株数	PCP	P/T	S/A	QNZ	CFPM	AZT	IPM/OS	MEMM	DFPM	GM	ANK	TOI	MINO	OPX	LVFX	ST
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	6	83	100	-	100	100	100	100	100	100	83	100	100	-	83	100	-

菌名	株数	ABPC	C/A	S/A	COL	CFPM	CTX	CTXN	GM	OPX	LVFX	MEMM	RFP	MINO	ST	CP
<i>Haemophilus influenzae</i>	23	78	87	83	83	100	100	100	100	100	100	100	NR	100	91	100

【備考】

- 2022年1月1日～2022年12月31日の期間に提出された検体を集計対象とした。但し、同一患者から検出された同一菌は、初回の分離株のみを集計対象とした。また、監視培養検体より検出した菌は除外した。
- 表の数値は、対象菌株のうち「S」（感受性）を示した菌株の割合（%）を示している。
- ブレイクポイントの判定は、CLSI M100-S30 に準拠して行った。
ただし、*Aeromonas sp.* はメーカー独自の基準、*Bacteroides fragilis* group は検査委託先の判定結果を使用した。
- *Streptococcus viridans* group は無菌検体より検出した菌株のみを対象とした。
- 成人の *Escherichia coli* は、「全体」と「第3世代セフェム系抗菌薬（CTX）耐性」とで識別して記載した。
- それぞれの結果で、90%以上の感受性を認める項目の背景を で表している。
- 表記が「NR」の項目は、当検査室で実施している検査方法では報告することのできない菌と薬剤の組み合わせである。
- 「R」は、その菌種の自然耐性により必ず耐性の結果が報告される薬剤である。
- 菌株数が30に満たない菌種については、参考値とする。
- 次の菌種において、カッコ内の薬剤は尿路分離株で結果を報告していないため、計算対象から除外している。

MSSA、MRSA、*S. epidermidis* (EM、CLDM、MINO)

S. agalactiae (EM、AZM、CLDM、CP) *E. faecalis*、*E. faecium* (EM)

- *Streptococcus pneumoniae* については、髄膜炎以外では「nm：non meningitis」、髄膜炎では「m：meningitis」を参照のこと。

11. 研修スケジュール (2022年度)

初期研修医1年次

2022年12月9日現在

ローテーション開始日	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
氏名	28	4	15	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27
秋葉 美里	総合診療科	小児科	産婦人科											
浅田 諒子	総合診療科	小児科	産婦人科											
飯藤 依里子	総合診療科	小児科	産婦人科											
石原 健人	外科	産婦人科												
内田 壮平	麻酔科													
宇野 大樹	ER													
太田 宜宏	総合診療科	産婦人科												
木原 沙也加	小児科	産婦人科												
菅本 晃	呼吸器内科													
佐藤 ひかる	小児科	産婦人科												
柴山 道登	産婦人科													
末次 駿一	産婦人科													
竹井 雅人	麻酔科													
谷川 裕美	外科	産婦人科												
田村 知佳子	呼吸器内科													
星合 亮尚	ER													
和田 くる実	脳神経外科													
南部 孝樹	産婦人科													

産科口腔外科

初期研修医2年次

ローテーション開始日	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
氏名	28	4	11	18	25	1	8	15	22	29	5	12	19	26
石井 数也	地域	循環器内科												
魏 碩昊	地域	循環器内科												
大神 響子	腎臓内科													
大薄 直也	精神													
神矢 真由	消化器内科													
木塚 真梨子	DM													
若口 啓樹	ER													
徳永 奈穂	循環器内科													
佐野 友香	皮膚科													
武 真輝	循環器内科													
中川 雄介	腎臓内科													
中西 令	産婦人科													
初田 萌子	麻酔科													
増本 陽介	ER													
藤村 遼	呼吸器内科													
八木 光生	産婦人科													
山下 大裕	麻酔科													

12. 研修医募集の記録

2022年

大学名	受験者数	採用者数	クリニカルクラークシップ		見学	
			受入(実人数)	うち採用者数	受入(延べ人数)	うち採用者数
北海道大学	1	0	0	0	1	0
旭川医科大学	0	0	0	0	2	0
山形大学	0	0	0	0	1	0
東北大学	0	0	0	0	3	0
東北医科薬科大学	1	0	0	0	5	0
新潟大学	0	0	0	0	2	0
金沢大学	0	0	1	0	0	0
金沢医科大学	0	0	0	0	1	0
群馬大学	1	1	0	0	3	1
獨協医科大学	1	1	0	0	2	1
自治医科大学	0	0	0	0	2	0
国際医療福祉大学	0	0	0	0	6	0
杏林大学	0	0	0	0	1	0
慶應義塾大学	0	0	0	0	4	0
北里大学	1	0	0	0	3	0
日本医科大学	1	0	0	0	1	0
順天堂大学	0	0	0	0	1	0
東京医科歯科大学	0	0	0	0	1	0
東京大学	0	0	0	0	1	0
東邦大学	0	0	0	0	1	0
名古屋大学	0	0	0	0	1	0
藤田医科大学	0	0	1	0	2	0
山梨大学	1	0	0	0	1	0
岐阜大学	1	0	0	0	3	0
三重大学	0	0	0	0	1	0
滋賀医科大学	0	0	0	0	1	0
京都府立医科大学	0	0	0	0	1	0
京都大学	0	0	0	0	1	0
奈良県立医科大学	1	0	0	0	4	0
大阪大学	0	0	3	0	0	0
近畿大学	0	0	0	0	1	0
鳥取大学	1	0	0	0	2	0

大 学 名	受験者数	採用者数	クリニカルクラークシップ		見学	
			受入(実人数)	うち採用者数	受入(延べ人数)	うち採用者数
島根大学	0	0	0	0	4	0
岡山大学	1	0	0	0	2	0
川崎医科大学	1	0	0	0	2	0
広島大学	2	1	0	0	6	1
山口大学	1	0	0	0	11	0
徳島大学	1	1	0	0	2	1
愛媛大学	1	0	0	0	1	0
高知大学	1	1	0	0	3	1
九州大学	10	4	12	2	28	4
福岡大学	3	1	0	0	10	1
久留米大学	2	1	0	0	10	1
産業医科大学	1	0	2	0	5	0
大分大学	2	1	5	0	7	1
佐賀大学	2	0	0	0	5	0
熊本大学	5	3	0	0	28	3
長崎大学	3	1	0	0	15	1
宮崎大学	1	0	2	0	5	0
鹿児島大学	2	1	0	0	11	1
琉球大学	1	1	0	0	5	1
北京大学	0	0	1	0	1	0
ハンガリー国立 センメルweis大学	0	0	0	0	1	0
ハンガリー国立 デブレツェン大学	1	0	0	0	2	0
合計	51	18	27	2	223	18

13. ファシリティ本部活動報告

本部長 名取良弘
事務局 倉重貴彰

■**発足の経緯**：「Patient Firstを追求し、選ばれる高度急性期・急性期病院」を念頭に、施設・設備の将来に向けての計画を立案・推進する部門として2020年4月に発足。

■**目的**：施設・設備の将来に向けての計画を立案・推進

■**2022年活動内容**：

1. 新棟の機能、既存棟に残す機能に関する必要なスペースやファンクションの整理
2. 新棟における増収機能の検討
3. 将来的なエネルギー供給方式の検討

■**2023年の活動**：

1. 新棟建設における投資回収計画の検討
2. 関係部署においての設計要件の検討
3. 基本設計時期の検討

以上

〔Ⅷ〕 医師部門および主要職員名簿

1. 医師名簿

(2022年12月31日現在)

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
	増本陽秀	九州大学	S55	1980	院長 兼イノベーション改善運営会議議長 兼イノベーション推進本部長 兼地域包括ケア推進会議議長 兼卒後教育評議会議長 兼救命救急評議会議長 兼デミング賞準備会議議長 兼高気圧酸素治療室長 兼手術評議会議員
	井村 洋	藤田学園保健衛生大学 (大学院)	S56 (S63)	1981 (1988)	特任副院長 兼総合診療科部長 兼教育推進本部長 兼地域包括ケア推進会議副議長 兼地域包括ケア推進本部長 兼統括事業本部治験推進本部長 兼臨床研究支援室室長 兼外来フィールド長 兼卒後教育評議会副議長 兼救命救急評議会議員 兼デミング賞準備室会議議員 並北第八病棟医長
	名取良弘	九州大学	S60	1985	特任副院長 兼脳神経外科部長 兼救命救急フィールド長 兼救命救急センター長 兼予防医学本部長補佐 兼経営戦略本部長 兼ファシリティ本部長 兼救命救急評議会副議長 兼東第六病棟医長 兼デミング賞準備会議議員 兼手術評議会議員
	福村文雄	九州大学	S60	1985	特任副院長 兼医療安全推進本部長 兼医療安全推進室長 兼改善推進本部顧問 兼情報本部長 兼診療情報管理室長 兼デミング賞準備室室長 兼診療支援フィールド長 兼日本一のまごころ病院実現諮問会議議長 兼イノベーション改善運営会議議員

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
	中島雄一	福岡大学	H1	1989	副院長 兼泌尿器科部長 兼結石破砕室長 兼東第五病棟医長 兼改善推進本部長 兼手術フィールド長 兼外科入院フィールド長 兼手術評議会議長 兼救命救急評議会議員 兼イノベーション改善運営会議議員 兼デミング賞準備会議議員
	本村健太	九州大学(大学院)	H3 (H11)	1991 (1999)	副院長 兼肝臓内科部長 兼内科入院フィールド長 兼予防医学本部長 兼デミング賞準備会議議員 兼救命救急評議会議員
	田中二郎	鹿児島大学	S44	1969	名誉院長(顧問) 兼救命救急センター特別顧問 兼卒後教育評議会議員
	中島 格	九州大学	S48	1973	顧問
	大田俊行	山口大学	S49	1974	顧問 兼膠原病センター長 兼中央検査部技術・教育・研究指導室長
	安藤廣美	九州大学	S52	1977	特任副院長(国際交流担当)
	山本英彦	熊本大学(大学院)	S53 (S57)	1978 (1982)	特任副院長(渉外担当) 兼予防医学本部予防医学センター顧問
	鮎川勝彦	九州大学	S56	1981	特任副院長集中治療科担当 (地域医療サポーター養成講座・救急 病床適用判定医・救急救命士育成担当)
	江口冬樹	福岡大学(大学院)	S58 (H4)	1983 (1992)	特任副院長(渉外担当)
	赤星和也	鹿児島大学	S61	1986	特任副院長 兼予防医学本部予防医学センター顧問 (内視鏡担当) 兼医学研究推進本部長
肝臓内科 (5名)	本村健太	九州大学(大学院)	H3 (H11)	1991 (1999)	副院長 兼肝臓内科部長 兼内科入院フィールド長 兼予防医学本部長 兼デミング賞準備会議議員 兼救命救急評議会議員
	矢田雅佳	九州大学(大学院)	H11 (H15)	1999 (2003)	肝臓内科診療部長 兼南3A病棟医長
	田中紘介	産業医科大学 (九大大学院)	H16 (H27)	2004 (2015)	診療部長
	栗野哲史	山口大学 (九大大学院)	H20 (R2)	2008 (2020)	医長
	黒坂一輝	大分大学	R2	2020	専攻医

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
消化器内科 (16名)	久保川 賢	九州大学	H6	1994	消化器内科部長 兼内視鏡センター長 兼東第四病棟医長
	宜保淳也	九州大学	H11	1999	診療部長
	淀江賢太郎	九州大学	H15	2003	診療部長
	小副川 敬	北里大学	H17	2005	診療部長
	小森圭司	熊本大学 (九大大学院)	H18 (R1)	2006 (2019)	診療部長
	長田繁樹	和歌山県立医科大学	H19	2007	診療部長
	兼子容子	滋賀医科大学	H22	2010	医長
	野崎哲史	福岡大学	H23	2011	医長
	松林江里子	広島大学	H25	2013	医長代理
	濱崎慎平	久留米大学	H28	2016	医長代理
	竹島 翼	九州大学	H28	2016	医長代理
	大崎智絵	久留米大学	H28	2016	医長代理
	内之倉弘和	大分大学	H29	2017	医長代理
	末永顕彦	熊本大学	H30	2018	専攻医
	吉武千香子	大分大学	H30	2018	専攻医
金城留嘉	琉球大学	H30	2018	専攻医	
呼吸器腫瘍内科 (1名)	靄野広介	佐賀大学	H19	2007	呼吸器腫瘍内科部長 兼外来化学療法室長
呼吸器内科 (10名)	飛野和則	熊本大学 (順天堂大学大学院)	H13 (H23)	2001 (2011)	呼吸器内科部長 兼呼吸器病センター長 兼がん集学治療センター副センター長 兼南 3B 病棟医長
	花香未奈子	産業医科大学	H17	2005	医師
	井手ひろみ	帝京大学	H19	2007	診療部長
	神 幸希	東北大学	H23	2011	医長
	西澤早織	熊本大学	H24	2012	医長
	吉峯晃平	近畿大学	H24	2012	医長
	前田顕子	熊本大学	H24	2012	医長
	大井隆之介	長崎大学	H26	2014	医長代理
	山元隆太	宮崎大学	H26	2014	医長代理
坂部光邦	三重大学	H29	2017	医長代理	
内分泌・糖尿病内科 (5名)	井上智彰	産業医科大学 (九大大学院)	H17 (H25)	2005 (2013)	内分泌・糖尿病内科部長
	嶋田伸吾	山口大学	H20	2008	医長
	伊藤 淳	九州大学(大学院)	H20 (R2)	2008 (2020)	医長
	梅澤智史	新潟大学	H26	2014	医長代理
	落合弘貴	九州大学	R2	2020	専攻医
血液内科 (6名)	白土基明	九州大学	H5	1993	血液内科部長 兼がん集学治療センター長
	油布祐二	九州大学	S59	1984	血液内科特任顧問
	喜安純一	九州大学	H14	2002	診療部長
	藤岡絵里子	九州大学(大学院)	H15 (H23)	2003 (2011)	医師
	帆足公佑	久留米大学	H26	2014	医長代理
	大山 真	山口大学	H27	2015	医長代理
心療内科 (1名)	木附 康	九州大学	H15	2003	心療内科部長代行

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
総合診療科 (37名)	井村 洋	藤田学園保健衛生大学 (大学院)	S56 (S63)	1981 (1988)	特任副院長 兼総合診療科部長 兼教育推進本部長 兼地域包括ケア推進会議副議長 兼地域包括ケア推進本部長 兼統括事業本部治験推進本部長 兼臨床研究支援室室長 兼外来フィールド長 兼卒後教育評議会副議長 兼救命救急評議会議員 兼デミング賞準備室会議議員 並北第八病棟医長
	中村権一	熊本大学	H3	1991	総合診療科特任診療部長
	清田雅智	長崎大学	H7	1995	診療部長
	小田浩之	鹿児島大学	H8	1996	総合診療科診療部長 兼医療安全推進室リスクマネージャー 兼教育推進本部ラーニングセンター長 兼西二階病棟医長
	吉野俊平	長崎大学	H11	1999	集中治療科部長 兼救命救急センター副センター長 兼総合診療科主幹 兼ICU室長 兼救命救急評議会議員
	井上三四郎	鹿児島大学	H11	1999	診療部長
	松永 諭	琉球大学	H15	2003	診療部長
	赤岩 喬	大分大学	H16	2004	診療部長
	江本 賢	金沢大学	H18	2006	集中治療科診療部長 兼総合診療科診療部長
	吉田 伸	名古屋市立大学	H18	2006	診療部長
	中安一夫	自治医科大学	H20	2008	医長
	桑野公輔	東海大学	H22	2010	集中治療科医長 兼総合診療科医長
	工藤仁隆	福岡大学	H24	2012	医長
	小杉俊介	熊本大学	H24	2012	総合診療科医長 兼東第五病棟副医長 兼E5準救急室長
	山口裕崇	九州大学	H24	2012	総合診療科医長 兼E4救急・HCU副室長
	丸山淳也	長崎大学	H24	2012	医長
	鷓木友都	大阪大学	H25	2013	医長代理
	安田雄一	鳥取大学	H26	2014	医長代理
	山口瑠美	山口大学	H26	2014	医師
	北野峻介	長崎大学	H27	2015	医長代理
	川合喬之	愛媛大学	H27	2015	医長代理
	薄 竜太郎	福島県立医科大学	H27	2015	医長代理
	坂本純永	旭川医科大学	H28	2016	医長代理
	岩佐和樹	大分大学	H28	2016	医長代理
	宍戸諒平	札幌医科大学	H28	2016	医長代理
	小野正詩	香川大学	H28	2016	医長代理

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
総合診療科 (37名)	大西崇平	島根大学	H28	2016	医長代理
	黒川智美	福岡大学	H28	2016	医長代理
	桑原宏輔	久留米大学	H28	2016	医長代理
	細川 旬	福岡大学	H29	2017	医長代理
	柴田真志	広島大学	H29	2017	専攻医
	村上奈央	熊本大学	H29	2017	専攻医
	宮本翔太	山口大学	H29	2017	後期研修医
	大西友紀	岡山大学	R2	2020	後期研修医
	加藤勇冴	和歌山県立医科大学	R2	2020	後期研修医
	東 将希	佐賀大学	R2	2020	後期研修医
	大関佳奈	福島県立医科大学	R2	2020	後期研修医
感染症科 (3名)	的野多加志	長崎大学 (東北大学大学院)	H19 (H30)	2007 (2018)	感染症科部長 兼感染管理センター長 兼医学研究推進本部
	長谷川雄一	旭川医科大学	H27	2015	医長代理
	沖中友秀	熊本大学	H27	2015	医長代理
膠原病・リウマチ内科 (4名)	内野愛弓	長崎大学	H13	2001	膠原病・リウマチ内科部長
	山内雄介	九州大学	H26	2014	医長代理
	才木智尋	九州大学	H30	2018	専攻医
	神川壮太	九州大学	R2	2020	専攻医
連携医療・緩和ケア科 (10名)	柏木秀行	筑波大学	H19	2007	連携医療・緩和ケア科部長 兼地域包括ケア推進本部副本部長 兼中央第六病棟医長
	松本弥一郎	近畿大学	H23	2011	医長代理
	古川龍太郎	北海道大学 (大学院)	H23 (R4)	2011 (2022)	医長
	石上雄一郎	滋賀医科大学	H24	2012	医長
	中山隆弘	山梨大学	H26	2014	医長代理
	田木聡一	旭川医科大学	H26	2014	医長代理
	高橋佑輔	新潟大学	H28	2016	医長代理
	瀧崎蓉史	旭川医科大学	H29	2017	医長代理
	松本 学	長崎大学	H29	2017	医長代理
	小笠原法真	広島大学	R2	2020	後期研修医
循環器内科 (11名)	井上修二郎	九州大学	H9	1997	循環器内科部長 兼心不全ケア科部長 兼中央第四病棟医長 兼 C4HCU 室長
	稲永慶太	九州大学	H14	2002	循環器内科診療部長 兼 E4 救急・HCU 室長
	川上将司	大分大学 (熊大大学院)	H18 (H29)	2006 (2017)	診療部長
	高原勇介	九州大学	H19	2007	診療部長
	本田修浩	久留米大学 (九大大学院)	H19 (H26)	2007 (2014)	診療部長
	大賀泰寛	長崎大学 (九大大学院)	H20 (H28)	2008 (2016)	医長
	石川智一	九州大学(大学院)	H23 (R2)	2011 (2020)	医長
	古川正一郎	群馬大学	H24	2012	循環器内科医長 兼心不全ケア科医長

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
循環器内科 (11名)	児島啓介	九州大学	H28	2016	医長代理
	眞柴貴久	久留米大学	H29	2017	医長代理
	山本優太	九州大学	H31	2019	専攻医
心不全ケア科 (2名)	井上修二郎	九州大学	H9	1997	循環器内科部長 兼心不全ケア科部長 兼中央第四病棟医長 兼 C4HCU 医長
	古川正一郎	群馬大学	H24	2012	循環器内科医長代理 兼心不全ケア科医長代理
心臓血管外科 (4名)	内田孝之	九州大学	H1	1989	心臓血管外科部長 兼循環器病センター長 兼ハイブリッド手術センター長 兼臨床工学部長 兼中央第五病棟医長 兼 C5HCU 室長 兼医学研究推進本部 兼手術評議会議員
	酒井大樹	佐賀大学	H27	2015	医長代理
	橋野 朗	九州大学	H28	2016	医長代理
	岡田 重	産業医科大学	R2	2020	専攻医
血管外科 (1名)	松元 崇	九州大学	H6	1994	血管外科部長
泌尿器科 (5名)	中島雄一	福岡大学	H1	1989	副院長 兼泌尿器科部長 兼結石破碎室長 兼東第五病棟医長 兼改善推進本部長 兼手術フィールド長 兼外科入院フィールド長 兼手術評議会議員 兼救命救急評議会議員 兼イノベーション改善運営会議議員 兼デミング賞準備会議議員
	入江慎一郎	福岡大学(大学院)	H6 (H13)	1994 (2001)	診療部長
	宮嶋哲匡	福岡大学(大学院)	H8 (H15)	1996 (2003)	診療部長
	富永光将	鹿児島大学	H27	2015	医長代理
	福原悠一朗	福岡大学	H28	2016	医長代理
外科 (9名)	山下洋市	九州大学(大学院)	H8 (H14)	1996 (2002)	外科統括部長 兼東第七病棟医長 兼東第八病棟医長 兼 E7HCU 室長 兼医学研究推進本部(学術研究員)
	黒田陽介	九州大学(大学院)	H13 (H19)	2001 (2007)	診療部長
	由茅隆文	筑波大学 (九大大学院)	H16 (H27)	2004 (2015)	診療部長
	工藤健介	九州大学(大学院)	H20 (H29)	2008 (2017)	医長
	田尻裕匡	九州大学(大学院)	H22 (H29)	2010 (2017)	医長
	古賀直道	九州大学	H27	2015	医長代理

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
外科 (9名)	春野覚史	大分大学	H31	2019	専攻医
	南 祐	北海道大学	H31	2019	専攻医
	権藤雄三	山口大学	R2	2020	専攻医
消化管・内視鏡外科 (1名)	古賀 聡	佐賀医科大学	H8	1996	消化管・内視鏡外科部長
乳腺外科 (1名)	岡本正博	九州大学(大学院)	H8 (H14)	1996 (2002)	乳腺外科部長
呼吸器外科 (3名)	安田 学	産業医科大学 (大学院)	H7 (H14)	1995 (2002)	呼吸器外科部長
	篠原伸二	産業医科大学	H21	2009	医長
	武 伸行	産業医科大学	H31	2019	専攻医
呼吸器腫瘍外科 (1名)	近石泰弘	産業医科大学	H16	2004	呼吸器腫瘍外科部長
小児外科 (1名)	竜田恭介	長崎大学	H13	2001	小児外科部長
腎臓内科 (7名)	藤崎毅一郎	鳥取大学	H11	1999	腎臓内科部長 兼腎センター長 兼血液浄化センター長 兼南2A病棟医長 兼入院透析室長
	中下さつき	福岡大学	H16	2004	診療部長
	牟田隆則	久留米大学	H24	2012	医長
	中俣悠亮	久留米大学	H26	2014	医長代理
	福満研人	川崎医科大学	H26	2014	医長代理
	竹内実芳	九州大学	H28	2016	医長代理
	松本英展	熊本大学	H29	2017	医長代理
小児科 (12名)	岡松由記	福岡大学	H12	2000	小児科部長兼 北第五病棟医長
	神田 洋	久留米大学	H8	1996	小児科診療部長 兼総合周産期母子医療センター長 兼総合周産期母子医療センター 新生児部門管理部長 並新生児室長
	大矢崇志	大分医科大学	H10	1998	診療部長
	坂口万里江	山口大学	H2	1990	診療部長
	田中祥一朗	久留米大学	H16	2004	診療部長
	田中ゆかり	久留米大学	H21	2009	医師
	齊木玲央	千葉大学	H21	2009	医長代理
	嘉村拓朗	徳島大学	H26	2014	医長代理
	清松光貴	久留米大学	H27	2015	医長代理
	南里大樹	長崎大学	H30	2018	専攻医
	山下哲矢	福岡大学	H30	2018	専攻医
	小竹 由	久留米大学	H31	2019	専攻医
耳鼻咽喉科 (3名)	深堀光緒子	福岡大学	H18	2006	耳鼻咽喉科部長
	黒岩大海	川崎医科大学	H28	2016	医長代理
	岡 恒宏	山梨大学	H31	2019	専攻医

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
眼科 (5名)	中間崇仁	九州大学(大学院)	H20 (H28)	2008 (2016)	眼科部長代行
	森賢一郎	愛媛大学 (九大大学院)	H26 (R4)	2014 (2022)	医長代理
	永田純也	九州大学	H30	2018	専攻医
	奥平景子	産業医科大学	H31	2019	専攻医
	神川文音	山口大学	R2	2020	専攻医
整形外科 (10名)	原俊彦	熊本大学	H3	1991	整形外科部長 兼中央第三病棟医長
	浜崎晶彦	長崎大学	H5	1993	診療部長
	美浦辰彦	九州大学	H13	2001	診療部長
	藤村謙次郎	山形大学 (九大大学院)	H16 (H25)	2004 (2013)	診療部長
	園田和彦	九州大学(大学院)	H20 (H29)	2008 (2017)	医長
	小宮山敬祐	長崎大学 (九大大学院)	H20 (H31)	2008 (2019)	医長
	久保祐介	九州大学(大学院)	H20 (H30)	2008 (2018)	医長
	白崎圭伍	大分大学	H29	2017	医長代理
	古谷武大	愛媛大学	H31	2019	専攻医
	松本洋太	山口大学	R2	2020	専攻医
麻酔科 (5名)	尾崎実展	宮崎医科大学	H1	1989	麻酔科部長兼手術センター長 兼中央手術室・中央材料室医長 並手術評議会議員
	田平暢恵	九州大学	H12	2000	診療部長
	内藤智孝	九州大学	H16	2004	診療部長
	瀨井優輔	京都大学	H23	2011	医長
	添田浩史	佐賀大学	R2	2020	後期研修医
脳神経外科 (6名)	名取良弘	九州大学	S60	1985	特任副院長 兼脳神経外科部長 兼救命救急フィールド長 兼救命救急センター長 兼予防医学本部長補佐 兼経営戦略本部長 兼ファシリティ本部長 兼救命救急評議会副議長 兼東第六病棟医長 兼E6救急室長兼 兼デミング賞準備会議議員 兼手術評議会議員
	甲斐康稔	広島大学 (九州大学大学院)	H11 (H19)	1999 (2007)	診療部長
	井上大輔	九州大学(大学院)	H15 (H25)	2003 (2013)	診療部長
	迎伸孝	九州大学(大学院)	H18 (H29)	2006 (2017)	診療部長
	高原健太	九州大学	H25	2013	医長代理
	要名本あゆみ	九州大学	H31	2019	専攻医

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
脳神経内科 (6名)	高瀬敬一郎	長崎大学 (九大大学院)	H10 (H20)	1998 (2008)	神経内科部長 兼脳卒中センター長 並南1A病棟医長
	園田啓太	九州大学	H17	2005	診療部長
	篠田紘司	九州大学(大学院)	H19 (H27)	2007 (2015)	診療部長
	進村光規	熊本大学	H20	2008	医長
	吉村基	鹿児島大学 (九大大学院)	H24 (R4)	2012 (2022)	医長
	倉沢亮	九州大学	H31	2019	専攻医
病理科 (4名)	大石善丈	九州大学(大学院)	H9 (H16)	1997 (2004)	病理科部長 兼検査部長
	平木由佳	九州大学	H20	2008	医長
	立石悠基	九州大学	H20	2008	医長
	宮崎佳子	九州大学	H30	2018	専攻医
皮膚科 (4名)	井手豪俊	熊本大学	H24	2012	皮膚科部長代行
	藤井晴香	福岡大学	H28	2016	医長代理
	塩道泰子	熊本大学	H28	2016	医長代理
	王黎亜	産業医科大学	H31	2019	専攻医
形成外科 (2名)	井野康	久留米大学	H11	1999	形成外科部長
	中村薫乃	鹿児島大学	H28	2016	医長代理
リエゾン精神科 (5名)	猪狩圭介	長崎大学 (九大大学院)	H16 (H29)	2004 (2017)	リエゾン精神科部長代行 兼心身合併症センター長 兼デイケアセンター長 兼西一階病棟医長 兼西三階病棟医長
	白玉桜	群馬大学	H29	2017	医長代理
	嘉陽宗臣	九州大学	H29	2017	医長代理
	大坪駿介	北海道大学	H31	2019	専攻医
	中山立慈	千葉大学	R2	2020	専攻医
産婦人科 (9名)	辻岡寛	福岡大学(大学院)	H4 (H11)	1992 (1999)	産婦人科部長 兼北第七病棟医長
	後藤麻木	福岡大学(大学院)	H10 (H26)	1998 (2014)	産婦人科診療部長 兼総合周産期母子医療センター 産科部門管理部長 並北第六病棟医長
	西山哲	自治医科大学	H16	2004	診療部長
	藤庸子	長崎大学	H17	2005	診療部長
	李理華	山口大学(大学院)	H17 (H24)	2005 (2012)	診療部長
	小田美穂	久留米大学	H26	2014	医師
	林宗太郎	北里大学	H28	2016	医長代理
	吉良さちの	三重大学	H29	2017	医長代理
	松野真莉子	産業医科大学	H30	2018	専攻医
放射線科 (1名)	佐々木智成	九州大学(大学院)	H4 (H12)	1992 (2000)	放射線科統括部長 兼放射線治療科主任部長

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
画像診療科 (6名)	三浦亘智	宮崎医科大学	H6	1994	画像診療科部長 兼 PET センター長
	鳥井芳邦	九州大学	S57	1982	診療部長
	永尾英毅	九州大学	H14	2002	診療部長
	鎌野宏礼	山口大学 (九大大学院)	H15 (H25)	2003 (2013)	診療部長
	三道幹大	九州大学	H28	2016	医長代理
	菊野亮栄	九州大学	H28	2016	医長代理
放射線治療科 (1名)	佐々木智成	九州大学(大学院)	H4 (H12)	1992 (2000)	放射線科統括部長 兼放射線治療科主任部長
歯科口腔外科 (5名)	中松耕治	九州大学(大学院)	S60 (H1)	1985 (1989)	歯科口腔外科特任顧問
	石井広太郎	九州大学(大学院)	H15 (H19)	2003 (2007)	歯科口腔外科部長
	木附智子	九州歯科大学 (九州大学大学院)	H22 (H28)	2010 (2016)	医長
	桃谷勇太郎	九州大学	R2	2020	後期研修医
	南部孝樹	九州大学	R4	2022	研修医
漢方診療科 (6名)	田原英一	富山医科薬科大学	H3	1991	漢方診療科部長
	矢野博美	佐賀医科大学	H6	1994	漢方診療科診療部長 兼予防医学本部予防医学センター長
	井上博喜	鹿児島大学 (富山大学大学院)	H13 (H23)	2001 (2011)	診療部長
	吉永 亮	自治医科大学	H16	2004	漢方診療科診療部長 兼医学研究推進本部詰
	中尾桂子	愛媛大学	H20	2008	医長
	原田直之	群馬大学	H21	2009	医長
救急科 (4名)	山田哲久	広島大学	H15	2003	救急科部長代行 兼救命救急センター副センター長 兼 H2 救急室長 兼救命救急評議会議員
	香月洋紀	長崎大学	H26	2014	医長代理
	片桐 欧	帝京大学	H26	2014	医長代理
	有吉 慧	信州大学	H29	2017	医長代理
集中治療科 (8名)	吉野俊平	長崎大学	H11	1999	集中治療科部長 兼救命救急センター副センター長 兼総合診療科主幹 兼 ICU 室長 兼救命救急評議会議員
	平松俊紀	鳥取大学(大学院)	H14 (H18)	2002 (2006)	診療部長
	江本 賢	金沢大学	H18	2006	集中治療科診療部長 兼総合診療科診療部長
	川上大裕	大分大学	H21	2009	医長
	桑野公輔	東海大学	H22	2010	集中治療科医長 兼総合診療科医長
	橋本匡彦	大阪医科大学	H26	2014	医長代理
	鈴木祥太郎	愛知医科大学	H26	2014	医長代理
	大塚哲也	熊本大学	H26	2014	医長代理
リハビリテーション科 (1名)	山下智弘	産業医科大学	H6	1994	リハビリテーション科部長代行

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
予防医学センター (1名)	矢野博美	佐賀医科大学	H6	1994	漢方診療科診療部長 兼予防医学本部予防医学センター長
内科(呼吸器内科)コース (2名)	平松由莉	九州大学	H30	2018	専攻医
	大田裕晃	山口大学	H30	2018	専攻医
内科(消化器内科)コース (1名)	若杉晃伸	宮崎大学	H30	2018	専攻医
内科(連携医療・緩和ケア)コース (4名)	西尾裕樹	久留米大学	H31	2019	専攻医
	廣橋航	久留米大学	H30	2018	専攻医
	藤田晋也	宮崎大学	R2	2020	専攻医
	原大知	東京医科大学	H31	2019	専攻医
内科(総合診療科)コース (16名)	原田愛子	島根大学	H29	2017	専攻医
	池田政勝	川崎医科大学	H29	2017	専攻医
	能美康彦	琉球大学	H30	2018	専攻医
	稲田宥治	順天堂大学	H30	2018	専攻医
	浅田紘輔	大阪大学	H31	2019	専攻医
	藤田泰裕	鹿児島大学	H31	2019	専攻医
	福田雄太	長崎大学	H31	2019	専攻医
	光廣直貴	鹿児島大学	H31	2019	専攻医
	中尾賢一	岐阜大学	R2	2020	専攻医
	高井咲弥	九州大学	R2	2020	専攻医
	堤圭右	京都府立医科大学	H29	2017	専攻医
	横井一樹	山口大学	R2	2020	専攻医
	有馬直樹	高知大学	R2	2020	専攻医
	加藤夕貴	岐阜大学	R2	2020	専攻医
	八木一成	埼玉医科大学	H30	2018	専攻医
	松本貴文	福岡大学	H31	2019	専攻医
内科(循環器内科)コース (6名)	山川礼	宮崎大学	H30	2018	専攻医
	櫻井佑	琉球大学	H30	2018	専攻医
	桐原志保美	長崎大学	R2	2020	専攻医
	溝上功明	九州大学	H30	2018	専攻医
	樗木祥子	大分大学	H30	2018	専攻医
	吉澤佑樹	三重大学	R2	2020	専攻医
内科(血液内科)コース (1名)	澤邊太郎	神戸大学	R2	2020	専攻医
内科(腎臓内科)コース (2名)	八城弘憲	金沢医科大学	H30	2018	専攻医
	岡村のぞみ	九州大学	R2	2020	専攻医
外科コース (3名)	新井貴大	東邦大学	H31	2019	専攻医
	古川恵瑞	熊本大学	H29	2017	専攻医
	川下知英	名古屋大学	R2	2020	専攻医
麻酔科コース (1名)	添田亜友	佐賀大学	R2	2020	専攻医
救急科コース (8名)	岡崎太祐	東北大学	H30	2018	専攻医
	有田雄紀	大分大学	H31	2019	専攻医
	山崎陽平	九州大学	H31	2019	専攻医
	小高聡子	東京大学	H31	2019	専攻医
	梶原秀太	産業医科大学	R2	2020	専攻医
	舘祐香里	富山大学	R2	2020	専攻医
	齋藤紫	岩手医科大学	H31	2019	後期研修医
栗澤圭輔	旭川医科大学	R2	2020	専攻医	

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
産婦人科コース (1名)	安部直希	琉球大学	H31	2019	専攻医
総合診療コース (17名)	大坪寛央	熊本大学	H27	2015	専攻医
	井上友美	長崎大学	H28	2016	専攻医
	橋本彦太郎	長崎大学	H28	2016	専攻医
	光山由祐	久留米大学	H29	2017	専攻医
	佐柳和博	久留米大学	H30	2018	専攻医
	寺司佳代	大分大学	H30	2018	専攻医
	渡邊航大	九州大学	H30	2018	専攻医
	関口大樹	山梨大学	H30	2018	専攻医
	後藤 慎	聖マリアンナ医科大学	H30	2018	専攻医
	矢野恒太	久留米大学	H31	2019	専攻医
	高橋啓悟	岩手医科大学	H31	2019	専攻医
	新谷あん	香川大学	H31	2019	専攻医
	藤村和弥	福岡大学	H31	2019	専攻医
	溝口朋実	熊本大学	H31	2019	専攻医
	西泊翔太	福岡大学	H31	2019	専攻医
	佐藤清哉	東海大学	H31	2019	専攻医
	川口湧水	熊本大学	R2	2020	専攻医
研修医 (34名)	石井数也	九州大学	R3	2021	研修医
	魏 碩俣	河北医科大学 (河北医科大学大学院) (長崎大学大学院)	H25 (H27) (R3)	2013 (2015) (2021)	研修医
	大神響子	佐賀大学	R3	2021	研修医
	大薄直也	鹿児島大学	R3	2021	研修医
	神矢真由	福岡大学	R3	2021	研修医
	木塚真梨子	筑波大学	R3	2021	研修医
	苔口啓樹	杏林大学	R3	2021	研修医
	笹野奈穂	長崎大学	R3	2021	研修医
	佐野友香	九州大学	R3	2021	研修医
	武 貞輝	久留米大学	R3	2021	研修医
	中川雄介	徳島大学	R3	2021	研修医
	中西 令	京都大学	R3	2021	研修医
	初田萌子	自治医科大学	R3	2021	研修医
	増本陽介	九州大学	R3	2021	研修医
	村橋 遼	福岡大学	R3	2021	研修医
	八木光生	長崎大学	R3	2021	研修医
	山下大裕	山口大学	R3	2021	研修医
	秋葉美里	鹿児島大学	R4	2022	研修医
	浅田諒子	大阪医科薬科大学	R4	2022	研修医
	石原健人	福岡大学	R4	2022	研修医
	内田壮平	自治医科大学	R4	2022	研修医
	宇野大樹	山形大学	R4	2022	研修医
	太田宜宏	九州大学	R4	2022	研修医
飯藤依里子	久留米大学	R4	2022	研修医	
木原沙也加	近畿大学	R4	2022	研修医	

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
研修医 (34名)	笹本 晃	帝京大学	R4	2022	研修医
	佐藤ひかる	長崎大学	R4	2022	研修医
	柴山道登	三重大学	R4	2022	研修医
	末次駿一	岡山大学	R4	2022	研修医
	竹井雅人	長崎大学	R4	2022	研修医
	谷川裕美	山口大学	R4	2022	研修医
	田村知佳子	大分大学	R4	2022	研修医
	星合亮尚	慶應義塾大学	R4	2022	研修医
	和田くる実	福岡大学	R4	2022	研修医
産業医	大久保直紀	産業医科大学 (大学院)	H24 (R4)	2012 (2022)	産業医

2. 看護師長・主任名簿

所 属		職 名	氏 名	所 属		職 名	氏 名	
看護部		副院長兼看護部長	森山由香	南病棟	南 3A 病棟	看護師長	姫野美佐子	
		看護管理師長	倉智恵美子			看護主任	吉田千絵	
		看護管理師長	久保佳子		南 3B 病棟		看護管理師長 兼病棟看護師長	和田麻美
		看護主任	福原美保子				看護主任	片岡賀美
		看護主任	月俣千鶴				看護主任	川上真希子
北病棟	北第八病棟	看護師長	日置由季	南 2A 病棟	看護師長	小松加寿子		
		看護主任	濱田美智子			看護主任	浦田 遥	
	北第七病棟	看護師長	佐野美和子	南 1A 病棟	看護師長	小原智恵子		
		看護主任	長崎佳代			看護師長	秀島陽子	
	北第六病棟	看護師長	中山和子	西三階病棟	看護主任	満園真紀子		
		看護主任	藤田起代美		西二階病棟	看護師長	仲 祐司	
	北第五病棟	看護師長	竹中久美			看護主任	吉田佳代	
		看護主任	中尾里美	西一階病棟	看護師長	溝田智美		
	北第五病棟 (NICU・GCU)	看護師長	立川 翠		人工透析室	看護師長	乗次瑞穂	
	東病棟	東第八病棟	看護師長	加治屋晶子	がん集学治療センター	看護師長	佐藤香緒里	
看護主任			田中美香			看護主任	木森由紀子	
東第七病棟		看護師長	石飛一枝	外来化学療法室	看護師長(兼)	佐藤香緒里		
		看護主任	白土加代			看護師長	長田孝幸	
		看護主任	浦田吉広	H2 救急	看護主任	大塚真由		
東第六病棟		看護管理師長 兼病棟看護師長	梶原優子		救命救急センター	救急統括マネージャー	渡邊恵里子	
		看護主任	藤井美保			看護師長	木村美香	
		看護主任	新垣晴佳			看護主任	山寄量博	
東第五病棟		看護師長	西本美香	14A・14B・13A・13B	フロアマネージャー	緒方博美		
		看護主任	松岡知美		14A	看護主任	福村陽子	
東第四病棟		看護師長	梅野陽香	14B	看護師長	中島久美子		
		看護主任代行	有働あゆみ			看護主任	吉田嘉子	
E4 救急・HCU		看護師長	小畑亜紀子	13A	看護主任	飯島紀子		
		看護主任	高木理恵		13B	看護主任	高口則子	
中央手術室		看護師長	花村裕美			看護主任	中村百合子	
		看護主任	矢野知代	12A・12B・11A・11B	フロアマネージャー	渡辺由香利		
		看護主任	成松慧		12A	看護師長	森田理真子	
ICU		看護師長	坂本雅美			看護主任	打田かおり	
	看護主任	藤岡智恵	12B	看護主任	金森恵美			
	看護主任	石垣あい		11B	看護主任	宮西博子		
中央病棟	中央第六病棟	看護師長	細川智美	画像診療科	看護師長	野島薫		
		看護主任	舩田能生子	放射線治療科	マネージャー(兼)	渡邊恵里子		
		看護主任	宮崎万友子			看護主任	松山純子	
	中央第五病棟	看護師長	野見山由美子	漢方診療科	看護主任	辻 直美		
		看護主任	重藤綾子	リエゾン精神科	看護主任	吉村麻紀子		
		看護主任	日野久美子	小児科	看護主任	荒巻美鈴		
	中央第四病棟	看護師長	田中あづさ	眼科	看護主任	中原梨恵		
		看護主任	花田千穂	耳鼻咽喉科	看護主任	谷川由佳		
		看護主任	堤 瑞穂		看護部特定行為研修 推進担当	マネージャー	百瀬栄美子	
	中央第三病棟	看護師長	小島 薫			サブマネージャー	樋口圭子	
		看護主任	長谷川千絵			看護師長	許斐綾子	
				DX 推進担当	看護師長	上川重昭		

3. 医療技術部門役職者名簿

所 属	職 名	氏 名	
副院長		金澤康範	
薬剤部	薬剤長	梅田勇一	
	副薬剤長 (颯田病院出向)	林 勝次	
	副薬剤長	進 健司	
	副薬剤長	神野貴子	
	主任	中嶋弘之	
	主任	秋吉菜穂	
	主任	富永麻衣子	
	主任	秀島里沙	
	主任	松永尚子	
	主任	小田怜史	
	主任	小田有紀	
	中央検査部	技師長	秋永理恵
副技師長		長谷一憲	
副技師長		犬丸絵美	
主任		井上佳奈子	
主任		森 俊明	
主任		藤上祐子	
主任		川野和彦	
主任		浦園真司	
主任		川嶋大輔	
中央放射線部	技師長	宮原信一郎	
	副技師長	萩尾清文	
	副技師長	満園耕治	
	主任	西谷芳徳	
	主任	梶嶋哲雄	
	主任	白石 隆	
	主任	上田憲司	
	主任	井下田栄吉	
	主任	太田黒大明	
	主任	鳥江功二	
	リハビリテーション部	技師長	井本俊之
		副技師長	兵道哲彦
副技師長		山崎哲弘	
副技師長		宮本隆寿	
副技師長		甲斐田幸輝	
主任		阿比留はるか	
主任		石川清美	
主任		井上智博	
主任		西村天利	
主任		安藤幸助	
主任		津嶋裕美	
主任		田中雅也	
主任		井上浩子	
主任		栗田芳宏	
臨床工学部		技師長	小田和也
	副技師長 (京都病院出向)	小峠博樹	
	副技師長	村上輝之	
	副技師長(兼)	井桁洋貴	
	主任	清水重光	
	主任	沖永一樹	
	主任	金城依子	
	主任	黒瀬 努	
	主任	松岡翔平	
	主任	伊藤明広	
	栄養部	マネージャー(兼)	小野清恒
		技師長	重松由美
副技師長		田代千恵子	
主任		岸川美貴子	
主任		高田圭子	
主任		椿 さとみ	
医療福祉室	副技師長 (兼地域連携 センター副 センター長 兼がん相談支 援センター長)	浦川雅広	
	主任	樋口愛紀子	
	主任	住吉まゆみ	
	主任	原田恵実	
	主任	松尾純子	
	主任	河野真由美	
臨床心理室	主任	松尾純子	
歯科衛生室	副技師長	本田智恵子	
	主任代行	河野真由美	

4. 経営管理部門等役職者名簿

所 属	職 名	氏 名
特任副院長（兼医療連携本部長）		岩佐紀輝
	経営管理部長	池 賢二郎
	経営管理副部長	藤野泰典
経営管理副部長（兼）		木下了丞
経営管理部マネージャー		皆川栄治
経営管理部サブマネージャー		大井恵子
企画管理課	課長	倉重貴彰
	課長代理	仲吉 翔
広報課	課長	都留和宏
	課長代理	内田静香
医事課	課長	楠元正道
	課長代理	吉田孝一
	課長代理	原田智史
	主任	竹下直美
	主任	今津好美
	主任	中尾麻美
	主任	細川留理子
	主任	小栗沙織
	主任	石松孝子
	主任	勝木奈穂
	主任	吉田香代
人事課	課長	古谷秀文
	マネージャー	松岡英道
	課長代理	中村良江
	課長代理(医務室担当)	桑岡 勲
総務課	救命救急センター事務長	木下了丞
	課長（兼）	小野清恒
	課長代理	田原和幸
	ER-Aide 主任代行	大峯将幹
経理課	課長	吉武成美
資材課	課長（兼）	藤野泰典
	課長代理	細川忠行
診療支援課	課長	阿部弘子
	係長（DS室）	松井美保
	主任	辻口大輔
情報システム室	室長	城野政博
診療情報管理室	室長（兼）	福村文雄
	サブマネージャー	光武和寿
	主任	松田加奈子
施設環境サービス課	課長	兼実孝志
	サブマネージャー	荒木哲也
治験管理室	室長（兼）	井村 洋
	副室長	古賀秀信
改善推進本部	マネージャー	立石奈々
	サブマネージャー	山下卓士
	サブマネージャー	寺岡理恵子
医療連携本部 地域連携センター	センター長	田村美恵
	師長（兼）	長岡由起
	主任	財津恵美
	主任	山中良子
	主任	藤瀬芳子
予防医学センター	主任	西岡順子
	サブマネージャー	羽坂尚美
	主任	草本君子
	主任	川畑浩子
地域包括ケア推進本部	マネージャー	小栗和美
	主任	幸野亜希子
	師長	中島広美
イノベーション推進本部	マネージャー(兼)	井桁洋貴
工房・知財管理室	室長（兼）	井桁洋貴
デミング賞準備室	室長（兼）	福村文雄
教育推進本部	マネージャー	日高幸彦
	主任	江里口杏平
中央材料室	室長	小田和也

5. 主要委員会

①常設委員会

ブロック名称	ブロック長	委員会名称	委員長	副委員長	委員数*
業務安全	増本陽秀	医療ガス安全管理委員会	内藤智孝	村上輝之	5名
		放射線安全委員会・特定放射線同位元素防護委員会	佐々木智成	宮原信一郎	9名
		感染管理委員会	増本陽秀	的野多加志	13名
		労働安全衛生委員会	増本陽秀	—	38名
		医師の負担軽減・処遇改善委員会	増本陽秀	—	38名
物品購入	増本陽秀	薬事委員会	増本陽秀	梅田勇一	7名
		資材委員会	増本陽秀	—	11名
医療の質のモニター	中島雄一	ISO委員会	名取良弘	中嶋弘之	26名
		TQM活動推進委員会	中島雄一	山下卓士	15名
		クリニカルパス委員会	辻岡 寛	梶原優子	19名
		QI委員会	的野多加志	名取良弘	9名
		患者経験価値向上委員会	中島雄一	柏木秀行	10名
医療の安全管理	福村文雄	急変対応委員会	小田浩之	山田哲久	15名
		MRM委員会	福村文雄	—	18名
		透析機器安全管理委員会	藤毅一郎	沖永一樹	5名
		病院食サービス委員会	井上智彰	大西崇平	5名
情報管理	福村文雄	情報システム委員会	清田雅智	田原英一	14名
		診療情報管理委員会	福村文雄	—	14名
教育・研修	井村 洋	研修管理委員会	井村 洋	—	36名
		図書委員会	藤崎毅一郎	小野清恒	8名
		クレデンシャル委員会	名取良弘	—	42名
		手術室業務改善委員会	尾崎実展	花村裕美	13名
		地域医療支援研修委員会	岩佐紀輝	—	5名
倫理	名取良弘	倫理委員会	名取良弘	—	17名
		臨床研究管理委員会	白土基明	—	13名
		治験審査委員会	原 俊彦	靄野広介	12名
		脳死判定委員会	高瀬敬一郎	岡松由記	8名
		小児虐待防止委員会	田中祥一朗	—	23名
		患者行動制限最小化委員会	猪狩圭介	—	3名
		個人情報保護委員会	福村文雄	—	8名
診療の適正化	本村健太	呼吸管理委員会	飛野和則	野見山由美子	23名
		褥瘡管理委員会	井手豪俊	井野 康 加治屋晶子	13名
		栄養管理委員会	松永 諭	—	12名
		輸血療法委員会	喜安純一	濱井優輔	10名
		診療報酬適正管理委員会	清田雅智	楠元正道 梶原優子	10名
		臨床検査適正化委員会	大石善丈	秋永理恵	12名
がん診療	本村健太	がん診療連携委員会	本村健太	—	12名
		がん集学治療委員会	古賀 聡	白土基明	14名
		緩和ケア委員会	柏木秀行	中山隆弘 宮崎万友子	10名

※委員数：委員長、副委員長を除く数（事務局含む）

②看護部常設委員会

委員会名称	委員長	所属	委員数
業務改善委員会 (セル看護委員会)	小松加寿子	南 2A 病棟看護師長	30 名
看護手順・基準委員会	立川 翠	北第五病棟 (NICU・GCU) 看護師長	19 名
教育委員会	乗次瑞穂	人工透析室看護師長	31 名
臨床指導者委員会	姫野美佐子	南 3A 病棟看護師長	34 名
看護研究委員会	田中あづさ	中央第四病棟看護師長	9 名
看護記録委員会	梶原優子	看護管理師長兼東第六病棟 看護師長	12 名

2022年12月31日現在

③医局会 (医局会役員)

新型コロナウイルス感染症の蔓延により活動継続が困難であることと、今後施行される医師の働き方改革に対応するには新たな組織が必要であることから、医局会は長年の役割を終えたと判断いたしました。

医局員にアンケートを行い、その結果をもって2022年3月31日に医局会は解散いたしました。

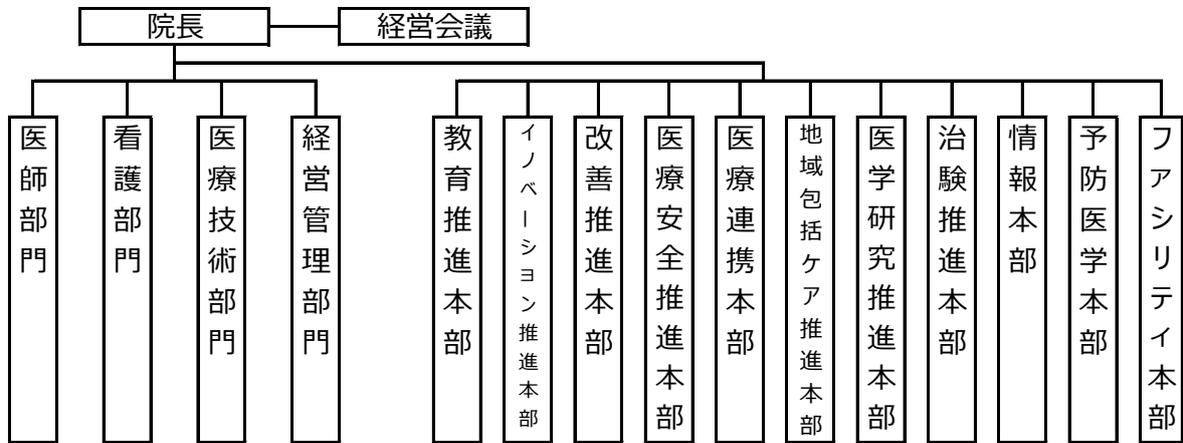
(医局長 飛野和則)

〔Ⅸ〕 飯塚病院概況 他

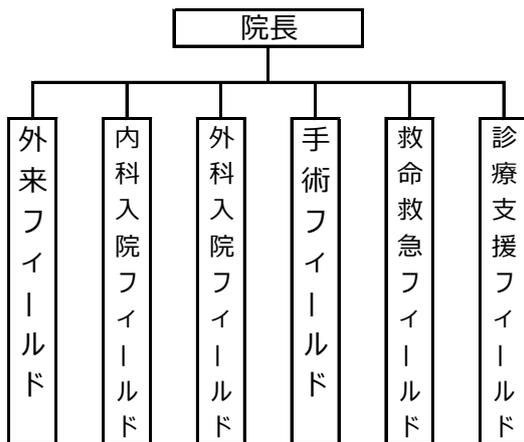
1. 飯塚病院組織図

飯塚病院 組織図

部門・本部



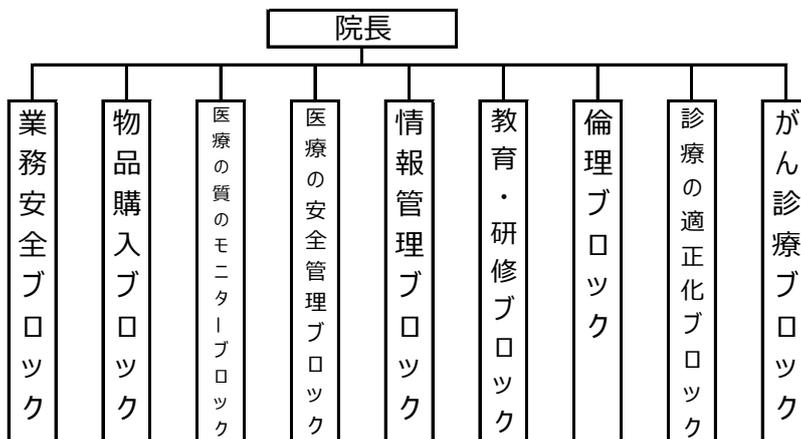
診療フィールド



院長直轄の会議体

住民医療協議会
地域医療支援病院運営委員会
幹部会
日本一のまごころ病院実現諮問会議
経営戦略会議
フィールド長会議
卒後教育評議会
救命救急評議会
手術評議会
イノベーション改善運営会議
地域包括ケア推進会議
デミング賞準備会議
医療事故対策会議

常設委員会



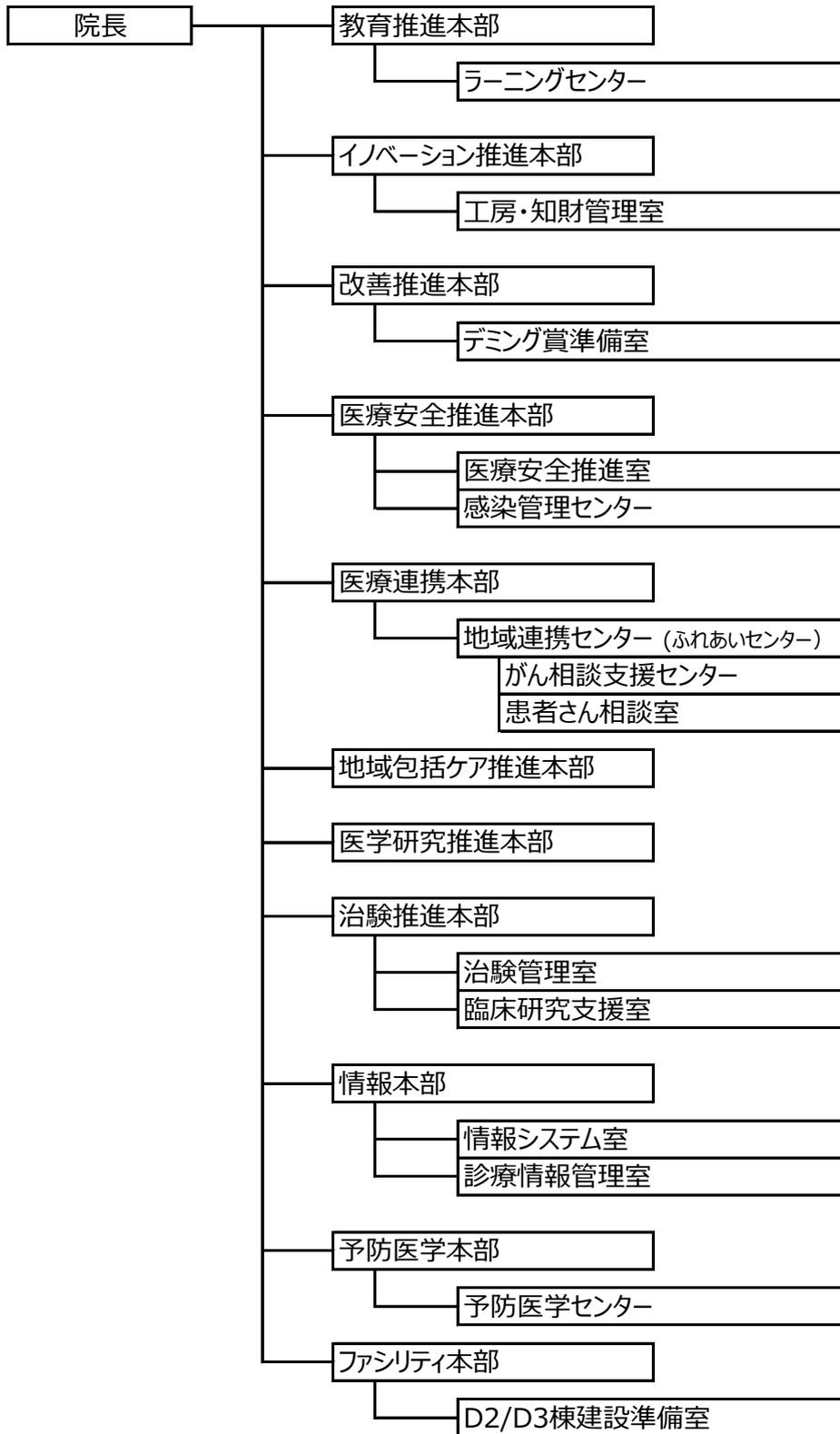
部門

診療現場の生産性、診療の質を担保する上で必要な人材やその他の資源を管理し、将来の方向性、指針などをとりまとめ実行する組織体



本部

院長特命の課題・分野において方針をとりまとめ、部門横断的に
マネジメントを行う部署



診療フィールド

診療現場において適正な医療が提供できるよう各診療科・現場内でコミュニケーションを密にとり、現場内の問題を解決していく場

外来フィールド

11A	総合受付 (トリアージセンター)		
11B	総合診療科 感染症科		
11D	会計		
11E	PET・核医学センター		
12A	肝臓内科 膠原病・リウマチ内科 (膠原病・リウマチセンター)		
	内分泌・糖尿病内科		
	血液内科		
	整形外科		
12B	腎臓内科		
13A	産婦人科 泌尿器科 皮膚科 形成外科		
	13B	脳神経内科 外科 呼吸器外科 脳神経外科 麻酔科 連携医療・緩和ケア科	
		14A	循環器内科 呼吸器内科 消化器内科 心療内科 心臓血管外科 血管外科
14B			内視鏡センター
31			放射線治療科
34			血液浄化センター
50	リハビリテーション科		
51C	画像診療科		
52A	眼科		
52B	耳鼻咽喉科		
52D	小児科 小児外科		
	52E	歯科口腔外科	
52F	漢方診療科 (東洋医学センター)		
61	デイケアセンター		
71	リエゾン精神科		

内科入院フィールド

中央第六病棟
中央第四病棟
C4HCU
南3A病棟
南3B病棟
南2A病棟
入院透析室
南1A病棟
東第四病棟
H3F (がん集学治療センター)
外来化学療法室
西三階病棟 (心身合併症センター)
西二階病棟
西一階病棟
北第八病棟
北第五病棟
NICU・GCU

外科入院フィールド

中央第五病棟
C5HCU
中央第三病棟
東第八病棟
東第七病棟
E7HCU
東第六病棟
東第五病棟
北第七病棟
北第六病棟・MFICU

手術フィールド

手術センター
外来手術センター
ハイブリッド手術センター
中央手術室
中央材料室
病理科

救命救急フィールド

救命救急センター
救急外来
ICU
H2救急
E4救急
E5準救急
E6救急
E4HCU
高気圧酸素治療室

診療支援フィールド

薬剤部
中央検査部
中央放射線部
栄養部
リハビリテーション部
臨床工学部
医療福祉室
歯科衛生室
臨床心理室

● 機能的センター群

総合周産期母子医療センター
循環器病センター
呼吸器病センター
脳卒中センター
腎センター

常設委員会

法的及び社会的責任を果たすために設置され、病院経営や運営に直結し、期限を定めず定期的な開催を行う会議体

業務安全ブロック	<ul style="list-style-type: none"> 医療ガス安全管理委員会 放射線安全委員会・特定放射性同位元素防護委員会 感染管理委員会 労働安全衛生委員会 医師の負担軽減・処遇改善委員会
物品購入ブロック	<ul style="list-style-type: none"> 薬事委員会 資材委員会
医療の質のモニターブロック	<ul style="list-style-type: none"> ISO委員会 TQM活動推進委員会 クリニカルパス委員会 QI委員会 患者経験価値向上委員会
医療の安全管理ブロック	<ul style="list-style-type: none"> 急変対応委員会 MRM委員会 透析機器安全管理委員会 病院食サービス委員会
情報管理ブロック	<ul style="list-style-type: none"> 情報システム委員会 診療情報管理委員会
教育・研修ブロック	<ul style="list-style-type: none"> 研修管理委員会 図書委員会 クレデンシャル委員会 手術室業務改善委員会 地域医療支援病院研修委員会
倫理ブロック	<ul style="list-style-type: none"> 倫理委員会 臨床研究管理委員会 治験審査委員会 脳死判定委員会 小児虐待防止委員会 患者行動制限最小化委員会 個人情報保護委員会
診療の適正化ブロック	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸管理委員会 褥瘡管理委員会 栄養管理委員会 輸血療法委員会 診療報酬適正管理委員会 臨床検査適正化委員会
がん診療ブロック	<ul style="list-style-type: none"> がん診療連携委員会 がん集学治療委員会 緩和ケア委員会

2. 概 要

(2022年12月現在)

名 称：飯塚病院
開 設：大正7年(1918年)8月
開 設 者：株式会社麻生 代表取締役社長 麻生 巖
所 在 地：福岡県飯塚市芳雄町3番83号
病 院 区 分：地域医療支援病院
院 長：増本陽秀
名 誉 院 長：田中二郎
副 院 長：本村健太、中島雄一、森山由香、金澤康範
特 任 副 院 長：安藤廣美、山本英彦、鮎川勝彦、井村 洋、江口冬樹、赤星和也、名取良弘、
福村文雄、岩佐紀輝

許可病床数：1,048床(一般978床、精神70床)

敷地面積：46,272.26㎡

延床面積：71,429.87㎡

職 員 数：

医 師	351名
看 護 師	1,073名
医療技術者	574名
事務その他	442名
計	2,440名

病 棟 数：北棟7病棟、東棟10病棟、ハイケア棟2病棟、中央棟6病棟、南棟4病棟、
西棟3病棟、計32病棟

診 療 科 目：43科

肝臓内科 消化器内科 呼吸器内科 呼吸器腫瘍内科 内分泌・糖尿病内科
血液内科 心療内科 総合診療科 膠原病・リウマチ内科 連携医療・緩和ケア科
循環器内科 心不全ケア科 心臓血管外科 血管外科 泌尿器科 外科
消化管・内視鏡外科 乳腺外科 呼吸器外科 呼吸器腫瘍外科 小児外科
腎臓内科 小児科 耳鼻咽喉科 眼科 整形外科 麻酔科 脳神経外科
脳神経内科 病理科 皮膚科 形成外科 リエゾン精神科 産婦人科 画像診療科
放射線科 放射線治療科 歯科口腔外科 漢方診療科 感染症科 救急科
集中治療科 リハビリテーション科

施設基準届出状況

1) 基本診療料

地域歯科診療支援病院歯科初診料
歯科外来診療環境体制加算
歯科診療特別対応連携加算
一般病棟入院基本料（急性期一般入院料1）
精神病棟入院基本料（15対1）
重度認知症加算（精神入院）
障害者施設等入院基本料（10対1）
看護補助加算（障害入院）
夜間看護体制加算（障害入院）
総合入院体制加算1
救急医療管理加算
超急性期脳卒中加算
診療録管理体制加算1
医師事務作業補助体制加算1（15対1）
急性期看護補助体制加算（25対1）
看護補助者5割以上
看護職員夜間配置加算（12対1）
特殊疾患入院施設管理加算
看護配置加算
看護補助加算1
療養環境加算
重症者等療養環境特別加算
無菌治療室管理加算2
緩和ケア診療加算
精神科身体合併症管理加算
精神科リエゾンチーム加算
栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算1
医療安全対策地域連携加算
感染対策向上加算1
指導強化加算
抗菌薬適正使用支援加算
患者サポート体制充実加算
重症患者初期支援充実加算
報告書管理体制加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
ハイリスク妊娠管理加算
ハイリスク分娩管理加算
呼吸ケアチーム加算
病棟薬剤業務実施加算1
データ提出加算2
入退院支援加算1及び加算3
地域連携診療計画加算
入院時支援加算
総合機能評価加算
認知症ケア加算1
せん妄ハイリスク患者ケア加算
精神疾患診療体制加算
地域医療体制確保加算
地域歯科診療支援病院入院加算
救命救急入院料1
精神疾患診断治療初回加算
救急体制充実加算2
小児加算
特定集中治療室管理料2
算定日数上限に関する施設基準

早期離床・リハビリテーション加算
小児加算
ハイケアユニット入院医療管理料1
新生児特定集中治療室管理料2
新生児治療回復室入院医療管理料
小児入院医療管理料2
緩和ケア病棟入院料1
短期滞在手術等基本料1
短期滞在手術等基本料2
看護職員処遇改善評価料60

2) 特掲診療料

歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
ウイルス疾患指導料
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料イ
がん患者指導管理料ロ
がん患者指導管理料ハ
がん患者指導管理料ニ
外来緩和ケア管理料
糖尿病透析予防指導管理料
乳腺炎重症化予防・ケア指導料
婦人科特定疾患治療管理料
腎代替療法指導管理料
二次性骨折予防継続管理料1
二次性骨折予防継続管理料3
下肢創傷処置管理料
地域連携小児夜間・休日診療料2
地域連携夜間・休日診療料
院内トリアージ実施料
外来放射線照射診療料
外来腫瘍化学療法診療料1
開放型病院共同指導料
がん治療連携計画策定料
ハイリスク妊産婦連携指導料1
ハイリスク妊産婦連携指導料2
肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料1
医療機器安全管理料2
医療機器安全管理料（歯科）
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
在宅療養後方支援病院
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）及び皮下連続式グルコース測定
持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）
遺伝学的検査
骨髓微小残存病変量測定
B R C A 1 / 2 遺伝子検査
先天性代謝異常症検査

HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
検体検査管理加算 (IV)
国際標準検査管理加算
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
胎児心エコー法
ヘッドアップティルト試験
長期継続頭蓋内脳波検査
脳波検査判断料 1
神経学的検査
ロービジョン検査判断料
コンタクトレンズ検査料 1
小児食物アレルギー負荷試験
CT 透視下気管支鏡検査加算
経気管支凍結生検法
精密触覚機能検査
画像診断管理加算 2
ポジトロン断層撮影
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
CT 撮影及び MRI 撮影
冠動脈 CT 撮影加算
血流予備量比コンピューター断層撮影
外傷全身 CT 加算
心臓 MRI 撮影加算
乳房 MRI 撮影加算
全身 MRI 撮影加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算 1
無菌製剤処理料
心大血管疾患リハビリテーション料 (I)
脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)
運動器リハビリテーション料 (I)
呼吸器リハビリテーション料 (I)
がん患者リハビリテーション料
歯科口腔リハビリテーション料 2
救急患者精神科継続支援料
認知療法・認知行動療法 1
精神科作業療法
精神科ショート・ケア「小規模なもの」
精神科デイ・ケア「小規模なもの」
抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る)
医療保護入院等診療料
処置の休日加算 1 (医科点数表第 2 章第 9 部処置の通則の 5 に規定する処置の休日加算 1)
処置の時間外加算 1 (医科点数表第 2 章第 9 部処置の通則の 5 に規定する処置の時間外加算 1)
処置の深夜加算 1 (医科点数表第 2 章第 9 部処置の通則の 5 に規定する処置の深夜加算 1)
処置の休日加算 1 (歯科点数表第 2 章第 8 部処置の通則の 6 に規定する処置の休日加算 1)
処置の時間外加算 1 (歯科点数表第 2 章第 8 部処置の通則の 6 に規定する処置の時間外加算 1)
処置の深夜加算 1 (歯科点数表第 2 章第 8 部処置の通則の 6 に規定する処置の深夜加算 1)
硬膜外自家血注入
人工腎臓

導入期加算 2 及び腎代替療法実績加算
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
下肢末梢動脈疾患指導管理加算
難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対する LDL アフェレシス療法
手術用顕微鏡加算 (根管内異物除去)
CAD/CAM 冠
皮膚移植術 (死体)
組織拡張器による再建手術 (乳房 (再建手術) の場合に限る)
緊急整復固定加算及び緊急挿入加算
骨移植術 (軟骨移植術を含む) (自家培養軟骨移植術に限る)
内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術
脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
緑内障手術 (緑内障治療用インプラント挿入術 (プレートのあるもの))
緑内障手術 (水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
緑内障手術流出路再建術 (眼内法)
緑内障手術濾過胞再建術 (needle 法)
網膜付着組織を含む硝子体切除術 (眼内内視鏡を用いるもの)
網膜再建術
経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
顎関節人工関節全置換術 (歯科)
乳がんセンチネルリンパ節加算 1 及びセンチネルリンパ節生検 (併用) (乳がんセンチネルリンパ節加算 1)
乳がんセンチネルリンパ節加算 2 及びセンチネルリンパ節生検 (単独) (乳がんセンチネルリンパ節加算 2)
乳がんセンチネルリンパ節加算 2 及びセンチネルリンパ節生検 (単独) (センチネルリンパ節生検 (単独))
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術 (乳房切除後)
胸腔鏡下拡大胸腺摘出術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 (区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 (肺葉切除又は 1 肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術気管支形成を伴う肺切除
食道縫合術 (穿孔、損傷) (内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)、腎 (腎盂) 瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)
経皮的冠動脈形成術 (特殊カテーテルによるもの)
胸腔鏡下弁形成術
胸腔鏡下弁置換術
経カテーテル大動脈弁置換術
経皮的僧帽弁クリップ術
不整脈手術 左心耳閉鎖術胸腔鏡下によるもの
経皮的中隔心筋焼灼術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 (リードレスペースメーカー)

両心室ペースメーカー移植術（心筋電極の場合）及び両心室ペースメーカー交換術（心筋電極の場合）
両心室ペースメーカー移植術（経静脈電極の場合）及び両心室ペースメーカー交換術（経静脈電極の場合）
植込型除細動器移植術（心筋リードを用いるもの）及び植込型除細動器交換術（心筋リードを用いるもの）
植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの）、植込型除細動器交換術（その他のもの）及び経静脈電極除去術
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（心筋電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（心筋電極の場合）
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）
大動脈バルーンポンピング法（IABP法）
経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）
経皮的大動脈遮断術
腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方）
ダメージコントロール手術
腹腔鏡下胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））
腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））
腹腔鏡下噴門側胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））
腹腔鏡下噴門側胃切除術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））
腹腔鏡下胃全摘術（単純全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））
腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））
腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢床切除を伴うもの）
胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
体外衝撃波胆石破碎術
腹腔鏡下肝切除術
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
内視鏡的小腸ポリープ切除術
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
陰嚢水腫手術（鼠径部切開によるもの）
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る）
腹腔鏡下子宮癒痕部修復術
体外式膜型人工肺管理料
手術の休日加算1（医科点数表第2章第10部手術の通則の12に規定する手術の休日加算1）
手術の時間外加算1（医科点数表第2章第10部手術の通則の12に規定する手術の時間外加算1）
手術の深夜加算1（医科点数表第2章第10部手術の通則の12に規定する手術の深夜加算1）
手術の休日加算1（歯科点数表第2章第9部手術の通則の9に規定する手術の休日加算1）

手術の時間外加算1（歯科点数表第2章第9部手術の通則の9に規定する手術の時間外加算1）
手術の深夜加算1（歯科点数表第2章第9部手術の通則の9に規定する手術の深夜加算1）
胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）（医科点数表第2章第10部手術の通則の16に規定する手術）
周術期栄養管理実施加算
輸血管理料I
自己生体組織接着剤作成術
自己クリオプレシテート作製術（用手法）
人工肛門・人工膀胱造設前処置加算
胃瘻造設時嚥下機能評価加算
歯周組織再生誘導手術
広範囲顎骨支持型装置埋入手術
歯根端切除手術 注3 （歯科用3次元エックス線断層撮影装置及び手術用顕微鏡を用いた場合）
麻酔管理料（I）
麻酔管理料（II）
放射線治療専任加算
外来放射線治療加算
高エネルギー放射線治療
1回線量増加加算
画像誘導放射線治療加算（IGRT）
体外照射呼吸性移動対策加算
定位放射線治療
定位放射線治療呼吸性移動対策加算
保険医療機関間の連携による病理診断
病理診断管理加算2
悪性腫瘍病理組織標本加算
クラウン・ブリッジ維持管理料

3) 入院時食事療養

入院時食事療養（I）

3. 各学会の認定状況一覧

日本小児科学会 研修施設	日本心血管インターベンション治療学会 研修施設
日本皮膚科学会 研修施設	日本不整脈学会・日本心電図学会認定
日本精神神経学会 研修施設	不整脈専門医研修施設
日本外科学会 修練施設	浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会
日本整形外科学会 研修施設	実施施設
日本産科婦人科学会 指導施設	日本消化器内視鏡学会 指導施設
日本眼科学会 研修施設	日本消化管学会 胃腸科指導施設
日本耳鼻咽喉科学会 研修施設	日本カプセル内視鏡学会 指導施設
日本泌尿器学会 教育施設	日本脳卒中学会 研修教育病院
日本脳神経外科学会 連携施設	経カテーテル的大動脈弁置換術関連学会協議会
日本医学放射線学会 総合修練機関	実施施設
日本麻酔科学会 認定病院	日本脈管学会 研修指定施設
日本病理学会 研修認定施設 B	関連 10 学会構成日本ステントグラフト実施基準
日本形成外科学会 認定施設	管理委員会
飯塚・穎田家庭医療プログラム (ver.2.0)	腹部ステントグラフト実施施設
日本消化器病学会 認定施設	下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の
日本循環器学会 研修施設	実施基準による実施施設
日本呼吸器学会 認定施設	日本低侵襲心臓手術学会
日本血液学会 専門研修認定施設	日本透析医学会 認定施設
日本神経学会 教育施設	日本臨床細胞学会 認定施設
日本腎臓学会 研修施設	日本臨床細胞学会 教育研修施設
日本肝臓学会 認定施設	心臓血管麻酔麻酔学会 基幹施設
日本糖尿病学会 認定教育施設	日本総合病院精神医学会
日本内分泌学会 内分泌代謝科認定教育施設	一般病院連携精神医学専門医特定研修施設認定証
日本リウマチ学会 教育施設	日本総合病院精神医学会
日本アレルギー学会 研修施設	一般病院連携精神医学専門医研修施設認定証
日本感染症学会 認定研修施設	日本口腔外科学会 准研修施設
日本消化器外科学会 修練施設	日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構 基幹施設	日本膵臓学会認定指導施設
日本小児外科学会 教育関連施設	日本病院総合診療医学会 認証施設認定
呼吸器外科専門医合同委員会 専門研修基幹施設	日本放射線腫瘍学会
日本周産期・新生児医学会 基幹研修施設 (新生児)	インペラ補助循環用ポンプカテーテル実施施設認定
日本周産期・新生児医学会 暫定認定施設 (母体・胎児)	関連 10 学会構成日本ステントグラフト実施基準
日本婦人科腫瘍学会 指定修練施設	管理委員会
日本集中治療医学会 研修施設	胸部ステントグラフト実施施設
日本臨床腫瘍学会 研修施設	トランスサイレチン型アミロイドーシスに対する
日本 IVR 学会 修練施設	ベンダケル導入施設
日本東洋医学会 研修施設	生殖医療専門医制度研修連携施設
日本緩和医療学会 認定研修施設	日本門脈圧亢進学会技術認定教育施設
日本外傷学会 研修施設	日本脳卒中学会 一次脳卒中センター認定
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会	日本核医学会専門医教育病院
エキスパンダー実施施設	日本顎関節学会研修機関施設
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会	日本小児科学会 研修支援施設
インプラント実施施設	日本女性医学会専門医制度認定研修施設
日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医修練施設 A	日本医学放射線学会 画像診断管理認証施設
日本乳癌学会 認定施設	日本循環器学会 経皮的僧帽弁接合不全修復
日本がん治療医認定医機構 認定研修施設	システム実施施設
日本腹部救急医学会 認定施設	日本急性血液浄化学会 認定施設
日本呼吸器内視鏡学会 認定施設	日本口腔外科学会 認定研修施設
日本呼吸療法医学会 専門医研修施設	
日本産科婦人科内視鏡学会 認定研修施設	

4. 私たちの理念・方針

「麻生グループ」詳細は「ASO GROUP VISION BOOK」を参照

Vision（未来像）	安心をカタチに生きがいをデザインする ASO グループ
Mission（使命）	社会システムの変革に貢献する
医療事業拡大の方針	麻生グループが病院経営の事業を拡大する方針について（略）

「飯塚病院」

開設の精神	郡民のために良医を招き、治療投薬の万全を図らんとする
経営理念	WE DELIVER THE BEST ～まごころ医療、まごころサービス それが私たちの目標です～
目指す病院像	日本一のまごころ病院
院長基本方針 (2015.02)	<ul style="list-style-type: none"> ○社会人としての良識に従い各自の責任を全うすること ○患者中心で質の高い最適医療を実践すること ○医の倫理と良心に従い患者の権利の擁護とプライバシーの保護に努めること ○医療の質の向上と安全管理に努めること ○進取の気に溢れるチーム医療を実践すること ○臨床研修病院として国際水準の教育指導を行うこと ○地域基幹病院として救急医療および先進医療に力を注ぐこと ○保健・医療・福祉・介護機関との緊密な連携を図ること ○地域と地球の環境に配慮すること ○健全経営を基盤とすること
2018-2025 年度 飯塚病院 中長期計画	<p>【病院の 2025 年度ビジョン（あるべき姿）】 Patient First を追求し、選ばれる高度急性期・急性期病院</p> <p>【視点ごとの 2025 年度ビジョン（あるべき姿）】</p> <ul style="list-style-type: none"> A) 救急外来体制：命を救う要（かなめ）として、筑豊に最も進んだ救急医療を提供する病院 B) 専門医療：トップレベルの専門医療により、筑豊の高度急性期・急性期医療を担う病院 C) 質と安全：全職員が医療の質と安全の向上・改善に取り組み続ける病院 D) 地域連携：地域の医療機関から信頼され、ともに発展する病院 E) 人材力：志のあるスタッフが集い、やりがいを持って成長でき、「ここで働きたい、働けて良かった」と思える病院 F) 患者経験価値：患者・家族が、全てのプロセスにおいて、「ここに来て良かった」と思える病院 G) 健全経営：全職員が厳しくなる外部環境への危機感を共有し、経営に参画する病院

編集後記

今年の編集では、p.87の[IV] 学術業績の掲載ルールを策定した。これにより、別々であった論文発表、学会発表、講演、の掲載方法の統一を図った。この背景には当院の業績入力システム自体に問題があることが判明したが、当面は広報課による運用でカバーできそうであることも確認している。話題のDX (digital transformation) が必要な案件かもしれない。

ところで、飯塚病院は元々6月1日が創立記念日として独自に祭日の扱いになっていた。世間が日常で動いている中での正規の休暇であり、独特のリフレッシュ感が嘗てのこの日にはあり、普段行くことができないところに遠出をしたことも思い出される。年報を紐解いても記載がないため調べると、2016年より6月1日が祭日となくなかった。医療の現場を顧みると、近隣の医療機関にとっては不便であることはその通りであり、地域の基幹病院としての立場からは必要な措置であったと思われる。

しかしながら、今年の2022年6月1日は飯塚病院にとって重要な日であった。麻生グループの創立150周年の記念日だったからである。1872年のこの日に、麻生太吉翁が目尾（しゃかのお）御用山で炭鉱事業を開設したことに由来しているが、院長のメールがあったものの、コロナ禍の業務に追われていた飯塚病院の職員にとっては、それどころではなかったかもしれない。しかし、11月4日に麻生巖社長より、全職員に対し少額とはいえお祝い金が一律支給されたことは、驚きと共に感慨深いものを感じたのは私だけではないだろう。

ちなみに、飯塚病院は2018年に100周年を迎えており、2022年は104年目にあたる。株式会社麻生は、1975年に「麻生百年史」を、今回は2023年2月に「麻生百五十年史」を編纂している。この本は992頁あるが、飯塚病院の記述はp. 244-412 (169頁)、p. 478-520(43頁)と約20%の分量を占めている。飯塚病院も麻生の歴史の中で重要な位置を占めてきたことが伺える。これを読むと、「西のオンボロ病院の横綱」と呼ばれた飯塚病院がいかに質を向上させてきたか、その経緯が書かれているが、ハーバード大学との提携が一つの起点となっている。TQM活動を通じ病院は変化し、本誌p. 2にあるデミング賞受賞は、医療界の中で世界初の受賞という快挙であり、飯塚病院の改善文化が認められた証である。

東郷平八郎の言葉で有名となった「古人曰く、勝って甲（かぶと）の緒を締めよ」というのは、北条氏綱が1541年に書いた「五箇条の御書置」に由来し、デミング賞をとった飯塚病院もまた同じ状況であろう。麻生家の家訓も同じことを言っている。太吉翁が鶴次郎という幼名時の体験に由来し、父親である賀郎さんから引き継いだ強い教訓として現代に至っている。節目にあたり、古人に学ぶべしと考えここに記す。

「程度大切 油断大敵」

清田雅智

飯塚病院年報 第35号

2023年7月発行

編集発行：飯塚病院

〒820-8505 福岡県飯塚市芳雄町3番83号

TEL (0948) 22-3800 (代表)

FAX (0948) 29-5744 (代表)

印刷：フジキ印刷株式会社

〒820-0053 福岡県飯塚市伊岐須490-15

TEL (0948) 29-3177

FAX (0948) 24-5234